武蔵国分寺跡発掘調査概報

（多喜窪遺跡の調査）

28

－国分寺アパート建設に伴う調査－
－加瀬マンション建設に伴う調査－
－大内ビル建設に伴う調査－
－付編 クリーン建工(株)マンション建設に伴う調査－

2003年3月

国分寺市遺跡調査会

1．武蔵国分寺跡航空写真　（平成７年10月撮影）

2．多喜窪遺跡出土　勝坂式土器一括（国指定重要文化財　国分寺所蔵）

1．縄文時代出土土器 集合写真

2．SK916J出土土器　正面

3．同 背面

4．同 右側面

5．同 左側面

序

昭和61年３月から翌年の１月にかけて、第251・252次と第264次の調査を西元町二丁目において実施した。この地域は、武蔵国分僧寺の北方地域にあたり、縄文時代の多喜窪遺跡（Ａ地点）に該当している。とくに、多喜窪遺跡のＡ地点は、国の重要文化財に指定されている縄文時代の中期土器群が出土した地として著名である。この中期土器群は、日本の縄文土器を代表する遺物として、世界各地で開催された日本考古展の目玉となって海を渡り、国分寺市の市名ともども多喜窪遺跡の名を広く騰貴せしめたモノとして知られている。

第251次調査は二丁目2,550－40、第252次調査は二丁目2,548－64、第264次調査は二丁目2,550－２外が、それぞれ調査対象地番であったが、この３地点は至近の空間内に位置し、かつ遺跡も同一内容を有する地域であったため、一括して報告書の作成がなされた。

調査以前から埋蔵が予想されていた奈良～平安時代の遺跡、そして縄文時代の遺跡は、発掘調査の結果、奈良～平安時代の掘立柱建物２、竪穴住居４、土坑２のほか柱穴列１、溝１などが検出され、また、縄文時代中期の竪穴住居８、屋外埋甕２、土坑84などの存在が明らかにされた。中期の土器は、五領ヶ台・猪沢・阿玉台・勝坂・加曽利Ｅ・曽利式など、南関東地域に密に分布する土器のほか中部山岳地帯などに見られる土器も出土し、交流の実態を示すものとして注目される。さらに、早期（撚糸文・押型文・条痕文系）、前期（諸磯）、後期（称名寺・堀之内・加曽利Ｂ）の土器も出土した。このように縄文時代の各時期にわたる遺物が出土したことは、東北方の丘陵上、野川の源流域に集中して存在している中期の大集落群（恋ヶ窪・恋ヶ窪東遺跡など）と軌を一にし、また、本遺跡の西に接する武蔵台東遺跡のあり方ともども注目されよう。他方、この度の調査で検出された多くの土坑中から石匙（皮剥）が見いだされ、それらの土坑が明らかに埋め戻されている事実が認められたことは土坑の性格認定に重要な資料を提出したものであり、縄文土坑の研究にあたり看過することの出来ない事例として今後とも注目されるであろう。多喜窪遺跡（Ａ地点）は、縄文時代の中期に形成された集落とそれに伴う遺構であり、至近地の武蔵台東遺跡と密接な関係を有していたことが想定されたが、出土土器の観察から多喜窪（Ａ地点）の形成途中に武蔵台東が分立された可能性もあり、この地域における中期集落の形成と発展と衰退の具体的様相の把握が今後とも深められる資料が検出されたと言えよう。

奈良～平安時代にあっては、国分僧寺の造営と密接に関係するであろう人々の生活の一拠点として注意される資料が検出されたことは貴重であった。

末尾ではあるが、調査にご協力下さった各位に対して感謝の意を要する次第である。

平成15年３月31日

国分寺市遺跡調査会会長

坂 誥 秀 一

例　　言

1．本書は、東京都国分寺市　西元町二丁目・四丁目　地内に所在する多喜窪遺跡において昭和61年度以来実施されている調査の内、以下の調査の成果をまとめたものである。調査に係る費用は、下記の各原因者が負担した。

調査年度	調査次数	目　　的	調　査　地　番	土地所有者	調査期間	調査面積(㎡)	担当調査員
60－61	251次	国分寺アパート建設に伴う調査	西元町2丁目2,550-40	加藤　千一	61.3.17～61.9.19	682	福田　信夫
61	252次	加瀬マンション建設に伴う調査	西元町2丁目2,548-64	加瀬　昭一	61.4.7～61.8.12	178.1	福田　信夫
61	264次	大内ビル建設に伴う調査	西元町2丁目2,550-2外	大内　勝美	61.10.1～62.1.22	614.18	福田　信夫
(付編) 87	140次	クリーン造工(株)マンション建設に伴う調査	西元町2丁目2,550-4	(宗)国分寺	57.4.6～57.9.6	725	髙口喜重子

第1表　調査地一覧

2．調査は、昭和61年3月17日から昭和62年1月22日まで行った。報告書作成作業は発掘調査終了後速やかに着手し、体裁を整えて清算行為を行った。しかしながら、本調査報告の主要な時代となる縄文時代の遺構・遺物研究の進展が著しく、特に土器の型式名称について、当初報告書記載の名称と研究の進展に伴って新たに設定された名称との間で、混乱や齟齬を引き起こす可能性が指摘された。そのため、本報告書はそれらの齟齬を修正し、近年の調査成果を盛り込んで、正式な報告書として平成15年3月31日の刊行とした。

なお、多喜窪遺跡は既往の調査成果からA～D地点に区分されており、本調査区は多喜窪遺跡A地点北に位置する。よって本文中では「多喜窪遺跡A地点」として記述した。

3．本書の執筆・編集は吉田　格・永峯光一(平成14年7月8日退任)・大川　清・坂詰秀一の監修のもとに、福田信夫・上敷領　久が担当し、有吉重蔵・上村昌男・木下さおりがこれを助けた。

4．本書のトレース・版下作成・写真撮影作業は主に、岩崎　洋・雨宮　毅・大元進太郎・和田光弘・豊島威信・山崎　一・小林幸江・山口啓子・大羽正子・大下ゆみ・若林雅子・鳴田圭吾がこれにあたった。

5．縄文土器の実測は、株式会社パスコに委託した。

6．縄文土器の分類については吉田　格　調査団長の指導のもとに行い、府中市教育委員会　中山真治氏の助言を得た。なお、小結における「2．多喜窪遺跡A地点出土の縄文時代中期の土器について」は中山氏に論考をお願いした。

7．なお、多喜窪遺跡内で昭和57年4月6日から昭和57年9月6日まで調査を実施したクリー

ン建工(株)は第251次調査地に北隣し、遺構の連続性など内容的には同一範囲として認識される。よって、その調査成果を付編として巻末において報告した。

8．発掘調査及び整理作業に参加、協力いただいた方は以下のとおりである。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

発掘作業

青木耕治・青木建・秋池勝利・雨宮毅・池田篤美・石黒剛・井島久志・井島陽一・伊藤繁男・伊藤文夫・岩崎洋・江幡尚人・大石泰三・大塚顕・大塚一英・大塚宏明・大橋昭宏・大橋利光・大元進太郎・小川涼・桂弘美・神生修・川島寿則・木田裕芳・桑原基士・桑原豊・小宮山都夫・佐々木剛一・茂木俊之・杉山忠弘・鈴木俊雄・鈴木宏明・鈴木靖彦・高瀬博規・田中敬郎・田部井英幸・土屋千年・当麻忠義・豊島威信・長島且典・中村誠・中村善之・瀧波明・西見宗剛・馬場明弘・馬場正守・寿盛勝則・平野岳・比留間清・藤崎努・古谷芳貴・星野照夫・松沢英明・松田薫・安田和敏・山崎一・山田耕司・山田真一・横山雅晴・和田光弘・渡辺一美・渡辺義顕

整理作業

石田美恵子・岩崎正枝・大下ゆみ・大羽正子・岡ミサオ・小川輝子・倉田陽子・栗原直子・桑名俊子・小林幸江・小峰ミヨ子・坂田貴代・宍戸和子・鳴田圭吾・鈴木フミエ・鈴木雪江・鈴木洋子・高橋より子・千葉則子・永澤昭子・樋岡ゆう子・野中節子・東清子・深瀬恵津子・福田雅子・松田浩子・八高昭枝・山口啓子・若林雅子

凡　　例

共通

1．遺構は遺跡をとおしてほぼ発見順に連続番号を付し下記の遺構記号を冠して表示する。先土器時代の遺構については末尾にPを付け、縄文時代の遺構については末尾にJを付けた。
また、本文中においては「SI131住居」「SK904J土坑」「SS40P集石」のように記述した。

SB	柱穴・掘立柱建物	SI	住居	SK	土坑	P	小穴
SA	柱穴列	SI J	住居（縄文）	SK J	土坑（縄文）	PJ	小穴（縄文）
SD	溝	SU	屋外埋甕	SS P	集石（先土器）		

2．遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

先土器時代

石器類

FA　ナイフ形石器

縄文時代

土器類	土製品類	石器類
JB　早期前半	DA　ミニチュア土器	AA　尖頭器
JC　早期後半	DB　耳栓	AB　石鏃
JE　中期前半	DD　器台	AC　石錐
JF　中期後半	DE　土製円板	AD　掻器
JG　後期	DF　土偶	AG　打製石斧
		AS　石匙
		AT　剥片

歴史時代

土器類	瓦・塼類	土製品類	金属製品類
PH　土師器	KA　鐙瓦	TK　フイゴ（羽口）	MH　刀子鉄製品
PK　須恵器	KC　男瓦		MM　釘鉄製品
PL　土師質土器	KD　女瓦		
PN　灰釉陶器	KE　熨斗瓦		
PP　緑釉陶器	KH　塼		

3．遺物の記述については全て一覧表とした。

(1) 表は調査次数、遺構、種別毎にまとめてあり、原則として遺物番号順に列記してある。

(2) 表中の計測値の内、括弧のないものは完数値、( ) は残存数値、《 》は復元数値、—は計測不可を表す。また、単位は特に表記しないものは全てcmである。

(3) 遺物の分類については「武蔵国分寺跡発掘調査概報XⅣ」に拠った。

図面・図版

1．遺構

(1) 遺構配置図表示(グリット)の数字は発掘基準線中心点からの距離を表す。発掘基準中心点と僧寺金堂中心点の位置関係は前者の南北基準線上中心点南26.276mに後者がある。また、僧寺中軸線の方位は発掘南北基準線と一致し、真北から6° 34′ 46″、磁北から0° 4′ 46″ それぞれ西偏する。

(2) 断面図表示の数字は水糸レベルで海抜高を示す。

(3) 遺構のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

Ⅲb層　Ⅲc層　Ⅳ・Ⅴ層　粘土　縄文土器出土位置

柱痕跡　焼土面　硬質面　縄文石器出土位置

遺構図面（歴史時代）遺物分布図・接合図における記号

土師器　▲ 坏・埦　△ 甕　◬ 器形不明

須恵器　● 坏・埦　○ 甕　◉ 蓋　◎ 器形不明　⊡ その他（瓶・壺）

土師質土器　◬ 坏・埦　◬ 器形不明

施釉陶器　■ 碗　□ 瓦・塼類　★ 鉄製品　☆ 石製品

○ 縄文土器・礫・不明（歴史時代）

(4) 住居平面図において三点破線は床面の堅固な範囲を示す。

(5) 図面の縮尺は次のとおりに統一したが、一部異なるものがある。

遺構配置図　1／125・1／150・1／200・1／250・1／400

住居・溝・土坑・屋外埋甕　1／50　住居カマド1／25　集石　1／20

2．遺物

(1) 遺物のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

縄文時代遺物

縄文土器破損部　打製石斧（明瞭な磨耗範囲）

歴史時代遺物

土師器・須恵器　土師質土器　灰釉陶器（施釉部分）　緑釉陶器（断面・施釉部分）

朱墨書　灰釉陶器（断面）　墨書

（2）遺物図面中の数字は、図面番号・遺構名・遺物番号・図版番号の順とした。但し、遺物図面中の遺構が全て同一の場合は、遺構名は省いた。

（3）遺物図版中の数字は、図面番号・遺構名・遺物番号の順とした。

（4）遺物の縮尺は次のとおりに統一したが、一部異なるものがある。

［図面］

先土器時代	石器類	2／3		
縄文時代	土器類（破片）	1／3	尖頭器・石鏃・石錐	2／3
	土器類（復元・完形）	1／6	掻器・打製石斧・剥片	1／3
	土偶	1／2	石匙	1／3・2／3
	土製品類（土偶を除く）	1／3		
歴史時代	土器類	1／3	土製品類	1／2
	瓦・塼類	1／4	金属製品類	1／2

［図版］

先土器時代	石器類	1／1		
縄文時代	土器類（破片）	1／3・1／4・1／6		
	土器類（復元・完形）	1／6		
	土製品類	1／1・1／6		
	石器類（石鏃・石錐・石匙一部を除く）			1／3
	石鏃・石錐・石匙一部			1／1
歴史時代	土器類	1／2・1／3	金属製品類	1／1
	瓦・塼類	1／4	文字資料	1／1

目　次

序 …… 1
例言 …… 2
凡例 …… 4
Ⅰ　調査に至る経緯 ……18
　1.　第251次調査区 ……18
　2.　第252次調査区 ……19
　3.　第264次調査区 ……19
　4.　3地区をまとめた報告書に変更 ……20
Ⅱ　発掘経過 ……23
Ⅲ　調査地区の概観 ……29
　1.　調査地区の位置・立地・環境 ……29
　2.　層序 ……31
Ⅳ　検出遺構 ……33
　1.　第251次調査　①　先土器時代検出遺構 ……33
　　②　縄文時代検出遺構 ……33
　　③　歴史時代検出遺構 ……45
　2.　第252次調査　①　先土器時代検出遺構 ……48
　　②　縄文時代検出遺構 ……48
　　③　歴史時代検出遺構 ……51
　3.　第264次調査　①　縄文時代検出遺構 ……52
　　②　歴史時代検出遺構 ……55
Ⅴ　出土遺物 ……56
　1.　先土器時代 ……56
　2.　縄文土器の分類 ……56
　3.　土製品類 ……62
　4.　石器の分類 ……62
Ⅵ　小結 ……106
　1.　多喜窪遺跡A地点の概要 ……106
　2.　多喜窪遺跡A地点出土の縄文時代中期の土器について ……106
Ⅶ　総括 ……114
参考文献 ……115
付編　クリーン建工(株)マンション建設に伴う調査 ……116
国分寺市遺跡調査会組織 ……120
報告書抄録 ……121

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置
第２図　調査地区の位置
第３図　第251・252・264次調査　発掘深度図（1/400）
第４図　地形面分布図（上）・国分寺市の地形模式図（下）
第５図　調査地区の立地（昭和28年 ✱ 湧水地点）
第６図　標準層序（第251次　DF106区　先土器時代深掘り部分西壁）
第７図　第251次調査　先土器時代出土　ナイフ形石器実測図（2/3）
第８図　国分寺市内の先史時代遺跡
第９図　多喜窪遺跡Ａ地点　全体図（昭和28年作成　東京1：3000地形図に修正加筆）
第10図　多喜窪遺跡　第１号竪穴住居址
第11図　多喜窪遺跡　第１号竪穴住居址　出土土器（国分寺所蔵）

表 目 次

第１表　　調査地一覧
第２表　　土層標高表
第３～５表　第251・252・264次調査　調査工程表
第６～８表　第251・252・264次調査　縄文時代出土土器・土製品一覧表
第９～11表　第251・252・264次調査　縄文時代出土石器一覧表
第12～14表　第251・252・264次調査　先土器時代・縄文時代出土礫一覧表
第15～17表　第251・252・264次調査　歴史時代出土遺物一覧表
第18～24表　第251次調査　先土器時代・縄文時代出土遺物一覧（１）～（７）
第25～32表　第251次調査　歴史時代出土遺物一覧（１）～（８）
第33～36表　第252次調査　縄文時代出土遺物一覧（１）～（４）
第37～38表　第252次調査　歴史時代出土遺物一覧（１）～（２）
第39～49表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（１）～（11）
第50～51表　第264次調査　歴史時代出土遺物一覧（１）～（２）

図 面 目 次

図面１　第140・251・252・264次調査　縄文時代遺構配置図（1/300）
図面２　第140・251・252・264次調査　歴史時代遺構配置図（1/400）
図面３　第251次調査　縄文時代遺構配置図（1/150）
図面４　第251次調査　SI362J住居実測図
図面５　第251次調査　SK916J～928J土坑実測図
図面６　第251次調査　SK929J～933J・938J～949J土坑実測図

図面7　第251次調査　SK950J～963J土坑実測図
図面8　第251次調査　SK964J～981J土坑実測図
図面9　第251次調査　SI362J住居・SK916J・927J・931J・947J・956J・975J土坑出土遺物
図面10　第251次調査　SI362J住居・SK974J・975J・980J土坑・PJ－149小穴・Ⅲb層出土遺物
図面11　第251次調査　SI362J住居・SK919J・921J・926J・929J・930J・939J土坑・Ⅲb層・遺構外出土遺物
図面12　第251次調査　SK931J・933J・939J・944J・948J・968J・978J土坑・Ⅲb・Ⅲc層・遺構外出土遺物
図面13　第251次調査　歴史時代遺構配置図（1/200）
図面14　第251次調査　SB71掘立柱建物・SK896土坑実測図
図面15　第251次調査　SB89掘立柱建物・SA11柱穴列・SK894土坑実測図
図面16　第251次調査　SI131住居実測図
図面17　第251次調査　SI131住居カマド実測図（上）・遺物接合図（下）
図面18　第251次調査　SI355住居実測図
図面19　第251次調査　SI355住居実測図（上）・遺物接合図（下）
図面20　第251次調査　SI356住居実測図
図面21　第251次調査　SI356住居カマド実測図
図面22　第251次調査　SI356住居遺物接合図
図面23　第251次調査　SI131住居出土遺物（1）
図面24　第251次調査　SI131住居出土遺物（2）
図面25　第251次調査　SI131住居出土遺物（3）
図面26　第251次調査　SI131住居出土遺物（4）
図面27　第251次調査　SI131住居出土遺物（5）
図面28　第251次調査　SI355住居出土遺物（1）
図面29　第251次調査　SI355住居出土遺物（2）
図面30　第251次調査　SI356住居出土遺物（1）
図面31　第251次調査　SI356住居出土遺物（2）
図面32　第251次調査　SI356住居・遺構外出土遺物（3）
図面33　第252次調査　先土器時代遺物分布図（1/20）
図面34　第252次調査　縄文時代遺構配置図（1/125）
図面35　第252次調査　SK904J～915J土坑・SU5・6屋外埋甕実測図
図面36　第252次調査　SU5・6屋外埋甕・SK904J・907J・915J土坑・PJ－46・51・58・69～71小穴・Ⅲb・Ⅲc層・遺構外出土遺物
図面37　第252次調査　SK904J・908J土坑・Ⅲb層出土遺物
図面38　第252次調査　歴史時代遺構配置図（1/125）
図面39　第252次調査　SI357住居実測図（上）・遺物接合図（下）
図面40　第252次調査　SI357（A期・B期）住居出土遺物（1）
図面41　第252次調査　SI357（A期・B期）住居出土遺物（2）
図面42　第264次調査　縄文時代遺構配置図（1/200）
図面43　第264次調査　SI365J～367J住居実測図
図面44　第264次調査　SI366J・367J・370J住居・SK988J・989J土坑実測図（1）

図面45　第264次調査　SI366J・367J・370J住居・SK988J・989J土坑実測図（2）
図面46　第264次調査　SI366J住居遺物接合図
図面47　第264次調査　迷弧文土器接合図
図面48　第264次調査　SI371J・372J住居実測図
図面49　第264次調査　SI373J住居・SK990J・991J土坑・SD205溝実測図
図面50　第264次調査　SI365J・366J住居出土遺物（1）
図面51　第264次調査　SI366J住居出土遺物（2）
図面52　第264次調査　SI366J住居出土遺物（3）
図面53　第264次調査　SI366J住居出土遺物（4）
図面54　第264次調査　SI366J住居出土遺物（5）
図面55　第264次調査　SI365J・366J住居出土遺物（6）
図面56　第264次調査　SI366J・367J・371J住居・Ⅲb層・遺構外・SD205溝出土遺物
図面57　第264次調査　歴史時代遺構配置図（1/200）
図面58　第264次調査　SD205溝・遺構外出土遺物
図面59　第140次調査　SS22・23集石・SK646J・649J～654J・666J・667J土坑実測図
図面60　第140次調査　SK668J～676J土坑実測図
図面61　第140次調査　SK677J～680J・682J・686J土坑・PJ－47・189小穴実測図
図面62　第140次調査　SK666J・670J・680J土坑・遺構外出土遺物
図面63　第140次調査　SS23集石・SK649J・678J土坑出土遺物
図面64　第140次調査　SB42・70掘立柱建物実測図

図版目次

巻頭図版1　1．武蔵国分寺跡航空写真（平成7年10月撮影）
　　2．多喜窪遺跡出土 勝坂式土器一括（国指定重要文化財 国分寺所蔵）
巻頭図版2　1．縄文時代出土土器 集合写真
　　2．SK916J出土土器 正面
　　3．同 背面
　　4．同 右側面
　　5．同 左側面
図版1　第251次調査　先土器時代検出遺構・出土遺物
　　1．調査区全景（北から）
　　2．南壁土層断面（北から）
　　3．ナイフ形石器出土状況（東から）
　　4．ナイフ形石器
図版2　第251次調査　縄文時代検出遺構（1）
　　調査区全景
図版3　第251次調査　縄文時代検出遺構（2）
　　1．調査区遠景（大内ビル建築予定地より）（西から）

2．DK97・98区北壁土層断面（南から）

3．縄文時代遺構調査状況（SK975J）（南から）

4．発掘状況（西から）

図版4　第251次調査　縄文時代検出遺構（3）

1．SI362J全景（北から）

2．SI362J Pit掘り上げ後全景（東から）

3．SI362J P－2上遺物出土状況（東から）

4．SI362J炉部分（北から）

5．SI362J埋甕炉（西から）

図版5　第251次調査　縄文時代検出遺構（4）

1．SK916J東西土層断面（南から）

2．SK916J遺物出土状況（東から）

3．SK917J東西土層断面（北から）

4．SK919J全景（北から）

5．SK920J・PJ－11・SK918J全景（北から）

6．SK921J遺物出土状況（北から）

7．SK922J・921J全景（東から）

8．SK923J全景（東から）

図版6　第251次調査　縄文時代検出遺構（5）

1．SK924J南北土層断面（西から）

2．SK925J東西土層断面（北から）

3．SK926J南北土層断面（西から）

4．SK926J遺物出土状況（北から）

5．SK927J全景（東から）

6．SK928J全景（南から）

7．SK929J全景（東から）

8．SK930J全景（西から）

図版7　第251次調査　縄文時代検出遺構（6）

1．左上よりSK931J・932J・PJ－62・61、左下よりSK933J・941J全景（東から）

2．SK931J遺物出土状況（西から）

3．SK942J・943J・944J・938J全景（東から）

4．SK939J・940J全景（東から）

5．SK945J全景（北から）

図版8　第251次調査　縄文時代検出遺構（7）

1．左上よりSK946J・947J、左下よりSK929J・980J・945J・948J・949J全景（東から）

2．SK947J全景（東から）

3．SK950J全景（東から）

4．SK950J東西土層断面（北から）

5．SK951J遺物出土状況（北から）

6．SK952J全景（北から）

7．下よりSK953J・954J・955J全景（東から）

図版9　第251次調査　縄文時代検出遺構（8）

1．SK956J全景（南から）

2．SK956J東西土層断面（南から）

3．SK957J全景（南から）

4．SK958J全景（南から）

5．SK959J・960J全景（東から）

6．SK961J全景（東から）

7．SK962J・963J全景（南から）

8．SK964J全景（西から）

図版10　第251次調査　縄文時代検出遺構（9）

1．PJ－148・SK965J全景（南から）

2．SK966J全景（南から）

3．SK967J全景（南から）

4．SK969J・968J・981J全景（南から）

5．SK971J・970J全景（東から）

6．SK972J・973J・974J全景（北東から）

図版11　第251次調査　縄文時代検出遺構（10）

1．SK975J遺物出土状況（東から）

2．SK975J東西土層断面（北から）

3．SK975J全景（北から）

4．SK976J全景（南から）

5．SK977J全景（東から）

6．SK979J・978J全景（南から）

7．SK980J全景（南から）

図版12　第251次調査　縄文時代出土遺物（1）

図版13　第251次調査　縄文時代出土遺物（2）

図版14　第251次調査　縄文時代出土遺物（3）

図版15　第251次調査　歴史時代検出遺構（1）

1．SK896・SB71・SK894全景（南から）

2．SB71 1－1柱穴土層断面（南から）

3．SB71 1－2柱穴土層断面（南西から）

4．SB71 2－1柱穴土層断面（南から）

5．SK894全景（東から）

6．SK896全景（南から）

図版16　第251次調査　歴史時代検出遺構（2）

1．SB89・SA11全景（西から）

2．SB89 2－1柱穴土層断面（南西から）

3．SB89 2－3柱穴土層断面（東から）
4．SB89 3－3柱穴土層断面（東から）
5．SB89・SA11全景（北から）
図版17　第251次調査　歴史時代検出遺構（3）
1．SI131全景（東から）
2．SI131構築時全景（東から）
3．SI131遺物出土状況（南から）
4．SI131東西土層断面（南から）
5．SI131カマド遺物出土状況（南から）
図版18　第251次調査　歴史時代検出遺構（4）
1．SI355全景（北から）
2．SI355構築時全景（北から）
3．SI355遺物出土状況（北から）
4．SI355南北土層断面（東から）
5．SI355カマド全景（西から）
図版19　第251次調査　歴史時代検出遺構（5）
1．SI356全景（南から）
2．SI356構築時全景（南から）
3．SI356遺物出土状況（南から）
4．SI356東カマド全景（西から）
5．SI356北カマド全景（南から）
図版20　第251次調査　歴史時代出土遺物（1）
図版21　第251次調査　歴史時代出土遺物（2）
図版22　第251次調査　歴史時代出土遺物（3）
図版23　第251次調査　歴史時代出土遺物（4）
図版24　第252次調査　先土器時代検出遺構
1．調査区全景（南から）
2．東壁土層断面（西から）
3．SS40P全景（東から）
図版25　第252次調査　縄文時代検出遺構（1）
1．調査区東半部全景（西から）
2．調査区東半部遺物出土状況（西から）
3．調査区西半部全景（東から）
4．調査区西半部遺物出土状況（北から）
5．調査区西半部延長区全景（北から）
6．SU5遺物出土状況（北から）
7．SU5・6遺物出土状況（北から）
8．SU5東西土層断面（北から）
図版26　第252次調査　縄文時代検出遺構（2）

1．SK904J東西土層断面（南から）
2．SK904J遺物出土状況（東から）
3．SK904J全景（南から）
4．SK905J東西土層断面（北から）
5．SK906J全景（東から）
6．SK907J遺物出土状況（北から）
7．SK908J遺物出土状況（東から）
8．SK909J全景（東から）

図版27　第252次調査　縄文時代検出遺構（3）
1．SK910J南北土層断面（北東から）
2．SK914J東壁（西から）
3．SK911J東西土層断面（南から）
4．SK913J・912J全景（東から）
5．SK913J・912J東西土層断面（南から）
6．SK913J遺物出土状況（東から）
7．SK915J南北土層断面（東から）
8．SK915J遺物出土状況（東から）

図版28　第252次調査　縄文時代出土遺物（1）

図版29　第252次調査　縄文時代出土遺物（2）

図版30　第252次調査　歴史時代検出遺構
1．SI357B期全景（南から）
2．SI357A期全景（南から）
3．SI357構築時全景（南から）
4．SI357B期遺物出土状況（南から）
5．SI357B期カマド全景（西から）

図版31　第252次調査　歴史時代出土遺物

図版32　第264次調査　縄文時代検出遺構（1）
調査区全景

図版33　第264次調査　先土器時代検出遺構・縄文時代検出遺構（2）
1．調査区北半部遺構確認状況（西から）
2．発掘状況（南東から）
3．調査区北半部遺構検出状況（北から）
4．先土器時代調査区発掘状況（北から）
5．SK990J・PJ－14全景（北東から）
6．SK990J東西土層断面（南西から）
7．SK991J全景（西から）
8．SK991J南北土層断面（西から）

図版34　第264次調査　縄文時代検出遺構（3）
1．SI365J全景（南から）

2．SI365J Pit掘り上げ後全景（南から）

3．SI365J遺物出土状況（西から）

4．SI365J東西土層断面（南から）

5．SI365J P－1南北土層断面（東から）

図版35　第264次調査　縄文時代検出遺構（4）

1．SI366J・367J・370J Pit掘り上げ前全景（西から）

2．SI366J・367J・370J 1期Pit掘り上げ後全景（西から）

3．SI366J・367J・370J 2期Pit掘り上げ後全景（西から）

4．SK988J・989J南北土層断面（東から）

5．P－3南北土層断面（東から）

6．P－18b・18c・21・22a南北土層断面（北西から）

7．P－36～38南北土層断面（東から）

8．P－8～11南北土層断面（北西から）

9．P－45・84～87南北土層断面（東から）

10．P－9～15全景（東から）

11．P－18a～18c・20～24全景（北から）

12．P－2・43・44全景（南から）

13．P－40・41・45全景（東から）

14．P－36～39全景（南から）

15．P－95～98東西土層断面（北から）

16．P－93～98東西土層断面（南から）

17．住居南側部分Pit全景（北から）

18．住居南側部分Pit全景（西から）

図版36　第264次調査　縄文時代検出遺構（5）

1．SI366J・367J・370J覆土上層遺物出土状況（北から）

2．SI366J・367J・370J覆土中層遺物出土状況（北から）

3．SI366J・367J・370J覆土下層遺物出土状況（北から）

4．DQ118区遺物出土状況（東から）

5．DF01出土状況（南から）

6．DF02出土状況（東から）

7．DQ118区連弧文土器出土状況（北東から）

8．DP117区遺物出土状況（南東から）

9．JF18出土状況（西から）

10．DP117・118区覆土2層遺物出土状況（南から）

図版37　第264次調査　縄文時代検出遺構（6）

1．SI366J 炉全景（東から）

2．SI366J 石囲炉（埋甕）全景（北から）

3．SI366J 炉東西土層断面（北から）

4．SI367J・366J A－A′ 東西土層断面（北から）

5．SI370J・366J B－B′ 南北土層断面（東から）
6．SI367J・366J・370J C－C′ 南北土層断面（西から）

図版38　第264次調査　縄文時代検出遺構（7）
1．SI371J Pit掘り上げ前全景（東から）
2．SI371J Pit掘り上げ後全景（北から）
3．SI371J P－1東西土層断面（北から）
4．SI373J全景（北から）
5．SI372J Pit掘り上げ前全景（南から）
6．SI372J Pit掘り上げ後全景（南から）

図版39　第264次調査　縄文時代出土遺物（1）

図版40　第264次調査　縄文時代出土遺物（2）

図版41　第264次調査　縄文時代出土遺物（3）

図版42　第264次調査　縄文時代出土遺物（4）

図版43　第264次調査　縄文時代出土遺物（5）

図版44　第264次調査　縄文時代出土遺物（6）

図版45　第264次調査　歴史時代検出遺構
1．SD205南半部全景（北から）
2．SD205北半部全景（南から）
3．SD205全景（北から）
4．SD205東西土層断面（南から）
5．P－1全景（東から）
6．P－5～7検出状況（北から）
7．P－5検出状況（西から）
8．P－6南北土層断面（東から）

図版46　第264次調査　歴史時代出土遺物

図版47　第140次調査　縄文時代検出遺構（1）
1．調査区全景（南から）
2．調査区全景（東から）

図版48　第140次調査　縄文時代検出遺構（2）
1．SS23全景（東から）
2．SS23東西土層断面（南から）
3．SS23掘り方全景（東から）
4．SK646J全景（西から）
5．SK649J全景（南から）
6．SK649J東西土層断面（南東から）

図版49　第140次調査　縄文時代検出遺構（3）
1．SK650J全景（北から）
2．SK651J南北土層断面（東から）
3．SK652J全景（北西から）

4．SK653J全景（北から）
5．SK654J東西土層断面（北から）
図版50　第140次調査　縄文時代検出遺構（4）
1．SK666J全景（西から）
2．SK667J南北土層断面（東から）
3．SK667J一括土器 南北土層断面（東から）
4．SK668J全景（西から）
図版51　第140次調査　縄文時代検出遺構（5）
1．SK668J南北土層断面（西から）
2．SK669J全景（南東から）
3．SK670J全景（南から）
4．SK670J遺物出土状況（北から）
図版52　第140次調査　縄文時代検出遺構（6）
1．SK671J全景（南から）
2．SK672J全景（西から）
3．SK673J全景（北から）
4．SK674J全景（北から）
5．SK674J南北土層断面（東から）
図版53　第140次調査　縄文時代検出遺構（7）
1．SK675J全景（北から）
2．SK676J全景（南から）
3．SK677J全景（東から）
4．SK678J全景（北東から）
5．SK680J全景（東から）
6．SK680J南北土層断面（東から）
図版54　第140次調査　縄文時代・歴史時代検出遺構（8）
1．SK682J全景（南西から）
2．DN99区 堰塞出土状況 側面（南から）
3．DN99区 堰塞出土状況 真上（南から）
4．歴史時代 SB70 2－1柱穴全景（西から）
図版55　第140次調査　縄文時代出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

1．第251次調査区

西元町二丁目2,550－40の土地に集合住宅を建設したい旨、文化財保護法による周知の遺跡内における文化庁長官宛土木工事の届出が加藤千一氏より市教育委員会に提出されたのは昭和60年８月９日であった。府中街道による切り通しを挟んで法面上に木造住宅が建ち並んでいた一画で、道路面まで切り下げて鉄筋コンクリート造りの集合住宅を建設する計画であった。周辺の公共下水道面整備工事に伴う事前調査で、武蔵国分寺跡の遺構と下層に縄文時代多喜窪遺跡の遺構が確認されていた地域である。周辺における既往の調査等から、本地区内に歴史時代竪穴住居跡３軒（１軒は確実に存在）と掘立柱建物跡３棟（１棟は確実に存在）、土坑４基、小穴30個など、縄文時代遺物包含層（厚くやや多い）・遺構（竪穴住居の分布域を外れ、土坑等若干）、並びに先土器時代文化層若干を予測した上で、敷地面積985㎡の内、建物本体と周囲に埋設する給排水設備等の掘削範囲及び影響範囲周囲0.5ｍを加えた682㎡を調査範囲として、諸条件を詰め、調査計画を作成し、提示した。①発掘深度は東西に長い敷地の内、西（府中街道）側の413㎡をGL－3.5ｍ±0.5ｍ、東側の269㎡をGL－1.6ｍ±0.1ｍとする②仮設工事、残土搬出工事、土留工事、建物位置出し測量は届出人が行う③調査終了後に埋め戻しは行わない、などを前提条件として、現地調査期間100日間（6.25ヶ月）、整理・報告書作成期間225日間（11.25ヶ月）、委託経費11,988,000円（第１回提示）であった。

基本的事項は２～３回の協議で合意に達したが、実施時期については、建設工事に関して近隣住民との調整（騒音、日影等）が難航していたので、市教育委員会としては、宅地開発等に関する指導要綱に基付く事業計画適合通知が、市長より事業主へ出されてから調査に着手し、トラブルの発生を未然に防止したいとの立場を届出人に伝えた。翌昭和61年２月４日に至って、近隣との話し合いがほぼ合意に達し、これを受けて市の適合通知も出る見込みと認定され、調査着手に向けて、諸準備が進められた。開始時期は当初予定より遅れたので、他調査現場との兼ね合いが発生しており、３月中旬と変更された。かくして、昭和61年３月７日付で、届出人と武蔵国分寺遺跡調査会会長星野亮勝との間で埋蔵文化財発掘調査委託が締結された。期間は昭和61年３月17日から昭和62年８月31日まで（但し、現地調査は昭和61年９月19日まで）で、委託経費は概算額12,323,000円とした。

現地調査は歴史時代遺構がほぼ予測どおりで、竪穴住居跡３軒、掘立柱建物跡２棟、柱穴列１条などで、ほぼ順調に進捗したが、縄文時代の遺構確認に至って総数62基に及ぶ土坑群と府中街道側で竪穴住居跡１軒が検出され、調査工程に影響を及ぼすこととなった。そこで、賃

金を委託費にまわしてケーブル写真測量委託を外注にして平面図の図化を行い、工期内終了を図ることとした。先土器時代調査では、ナイフ形石器１点を検出するにとどまり、予定通り９月19日に現地調査を終了し、届出人に引き渡しを行った。

なお、写真測量業者の施工体制に不備があり、遺構表現の現地調整が不充分に終わり、図化作業が遅延したことは遺憾である。写真測量の外注の経験が浅いこともあり、充分監理仕切れなかった発注側にも原因があった。

２．第252次調査区

前後して昭和60年10月20日に、南側隣接の西元町二丁目2,548－64の土地に集合住宅を建設したい旨、文化財保護法による周知の遺跡内における文化庁長官宛土木工事の届出が加瀬昭一氏より市教育委員会に提出された。敷地面積は318㎡で、第251次調査区とほぼ同様の集合住宅建設計画であった。北側隣地に比べ規模は小さいが、同じ条件であるので、歴史時代竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡１棟、土坑２基、小穴20個の他、縄文時代・先土器時代についても同様の予測とした。建物本体と設備等を含む影響範囲を入れて178㎡を調査範囲とし、発掘深度については東西に長い敷地の内、西（府中街道）側をGL－3.5m±0.5m、東側をGL－1.0m±0.1mとして、その他は第251次調査区と同じ条件として調査計画を作成した。現地調査期間60日間（3.75ヶ月）、整理・報告書作成期間118日間（5.9ヶ月）、委託経費5,819,000円（第１回提示）であった。

基本的事項は２回ほどの協議で合意に達したが、実施時期については、第251次調査区の現地調査との調整が図られ、昭和61年３月28日付で、届出人と武蔵国分寺遺跡調査会会長星野亮勝との間で埋蔵文化財発掘調査委託が締結された。期間は昭和61年４月７日から昭和62年１月31日まで（但し、現地調査は昭和61年７月31日まで）で、委託経費は概算額5,977,000円とした。

歴史時代遺構は、竪穴住居跡１軒であったが、新旧２時期あり、カマドを造り替えていた。また縄文時代遺構も当初予測より多く、集石土坑１基、土坑12基、屋外埋甕２基などが検出された。この他に例年に無く雨天日が多かったことや敷地内に余裕スペースが無いため、残土の搬出に手間取ったことなどが重なり、調査は遅延し、８月20日までの現地期間変更を協議し、合意して契約変更を行い、現地調査を終えた。

３．第264次調査区

２件の調査が進行していた昭和61年７月７日に、第251次調査区の府中街道を挟む西側の西元町二丁目2,550－２外において、集合住宅を建設したい旨、文化財保護法による周知の遺跡

内における文化庁長官宛土木工事の届出が(株)大内商事代表取締役大内勝美氏より市教育委員会に提出された。敷地面積は614㎡で、同じく道路面まで切り下げて鉄筋コンクリート造りの集合住宅を建設する計画であった。

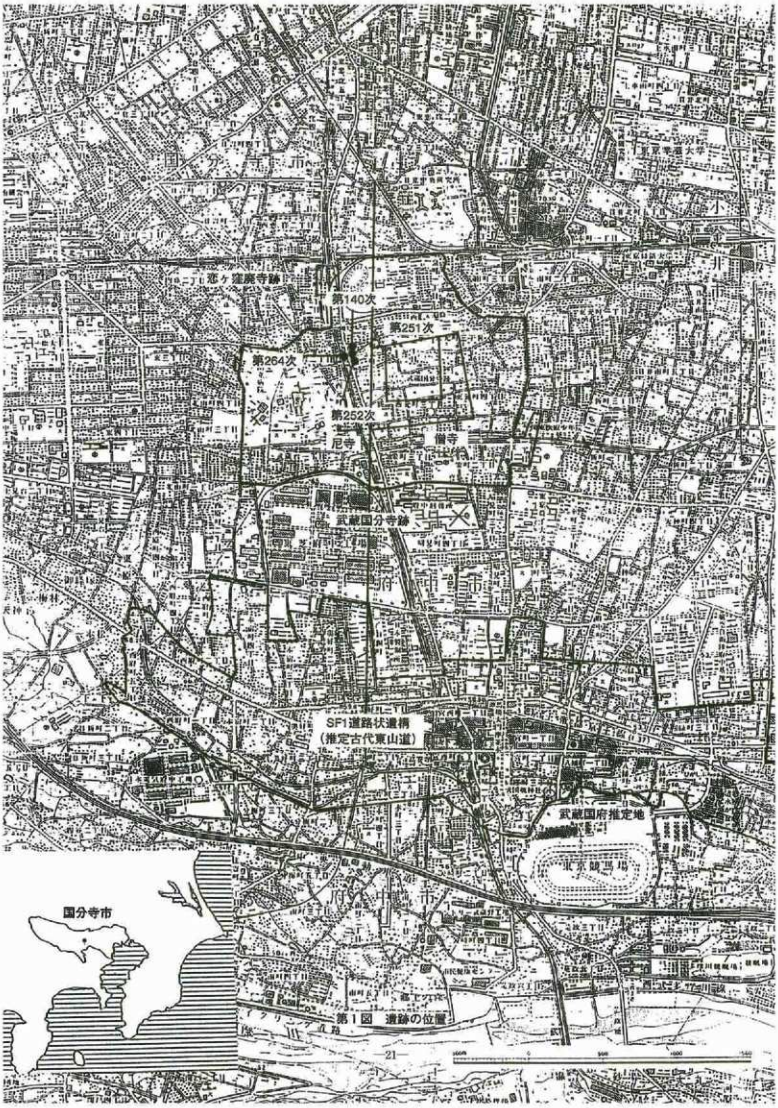
調査対象範囲は建物本体と設備部分に影響範囲を加え、敷地全域とした。条件では、包含層や遺構掘削に伴う2次残土の積み込み、搬出、処分費は、調査費に含むこととした。また、第251・252次調査区における縄文時代遺構の検出状況から、竪穴住居が検出される可能性があったので、期間短縮のため、写真測量による図化を併用することとした。発掘深度は東（府中街道）側をGL－約4m、西側をGL－約1.0mとし、歴史時代竪穴住居跡2軒、土坑5基、小穴40個他を予測して調査計画を立案した。現地調査期間57日間（3.6ヶ月）、整理・報告書作成期間112日間（7ヶ月）、委託経費7,658,000円（第1回提示）であった。

前記2件の現地調査を確認できる段階であったこともあり、数回の協議でほぼ当初提示案により合意に達し、昭和61年9月22日付で、届出人と武蔵国分寺遺跡調査会会長星野亮勝との間で埋蔵文化財発掘調査委託が締結された。期間は昭和61年10月1日から昭和62年5月31日まで（但し、現地調査は昭和62年1月19日まで）で、委託費は概算額7,658,000円とした。

歴史時代遺構は、敷地の西側において確認された上面幅8m以上の南北溝と小穴若干にとどまったが、縄文時代遺構は前記2地区とは様相が異なり、7軒の竪穴住居跡と土坑10基、小穴多数が検出され、予測を上回ってしまった。若干の遅れを生じ、届出人の了解を得て、1月22日まで現地作業を行い、完了にこぎつけた。

4．3地区をまとめた報告書に変更

3地区は近接し、縄文時代にあっては多喜窪集落跡の中心部分の一画として、歴史時代にあっては武蔵国分寺跡の北西域として相互に関連しているので、1冊の報告書にまとめる方が効率が良く、経費の節減になることから、3者と協議を行い、昭和62年8月17日付で、完了の期日を昭和63年3月31日までとする変更契約を締結した。


恋ヶ窪廃寺跡
第140次
第251次
第264次
第252次
尼寺
僧寺
武蔵国分寺跡
SF1道路状遺構
(推定古代東山道)
武蔵国府推定地
東京競馬場
国分寺市

第1図　遺跡の位置

第72次
第201次
第51次
第140次
第264次
第251次
第252次
第218次
第127次
第3次
北方建物
講堂
東僧坊
金堂
中門
SFI道路跡
僧寺伽藍地
塔
国分僧寺
尼寺
尼寺伽藍地
国分尼寺
寺院地東限
寺院地南限
★湧水地点
0
100
200
300m

第2図　調査地区の位置

Ⅱ　発掘経過

各調査地区が位置する多喜窪A地点は、国分寺崖線の武蔵野段丘南斜面から、崖線下の立川段丘面にかけて広がり(第8図)、従来から主に縄文時代中期の集落遺跡として周知されてきた。また位置的には武蔵国分僧寺北方地区に当たることから、歴史時代の掘立柱建物跡や竪穴式住居が数多く検出される地域である。さらに先土器時代においては、第Ⅳ層からⅩ層(立川ローム第Ⅲ～Ⅹ層に相当)より礫群が検出され、ナイフ形石器など各種石器の出土が報告されている。今次各調査地区における建物建設に伴う基礎工事がいずれも先土器時代下層の包含層にまで及ぶことから、調査もそれに対応して歴史時代・縄文時代・先土器時代の3時代を調査対象として実施した。

各調査地区における調査時代と層位は以下のとおりである。

・第251次調査　国分寺アパート建設に伴う調査

Ⅱ～Ⅲｂ層(歴史時代)、Ⅲｃ～Ⅳ層上面(縄文時代)、Ⅳ層下面～ⅩⅡ層(先土器時代)

・第252次調査　加瀬マンション建設に伴う調査

Ⅲｂ層(歴史時代)、Ⅲｃ～Ⅳ層上面(縄文時代)、Ⅳ層下面～Ⅸ層(先土器時代)

・第264次調査　大内ビル建設に伴う調査

Ⅲｂ層(歴史時代)、Ⅲｃ～Ⅳ層上面(縄文時代)、Ⅳ層下面～Ⅹ層(先土器時代)

なお、各地区の基本層位と遺構・遺物の関係は別項において詳細を記載しているのでここでは触れない。但し、各層位の調査範囲については第3図に示した。

また、各調査地区における本調査は以下の調査工程で実施した。

・第251次調査　国分寺アパート建設に伴う調査(第3表)

対象面積　985㎡		調査面積　682㎡		
調査期間　昭和61年3月17日から昭和61年9月19日				
歴史時代調査	開始	昭和61年5月7日	終了	昭和61年8月25日
縄文時代調査	開始	昭和61年6月19日	終了	昭和61年9月11日
先土器時代調査	開始	昭和61年8月27日	終了	昭和61年9月18日

・第252次調査　加瀬マンション建設に伴う調査(第4表)

対象面積　318㎡		調査面積　178.1055㎡		
調査期間　昭和61年4月7日から昭和61年8月12日				
歴史時代調査	開始	昭和61年5月12日	終了	昭和61年7月11日
縄文時代調査	開始	昭和61年5月27日	終了	昭和61年8月6日

先土器時代調査　　開始　　昭和61年７月９日　　終了　　昭和61年８月11日

・第264次調査　大内ビル建設に伴う調査(第５表)

対象面積　614.18㎡　　調査面積　614.18㎡

調査期間　昭和61年10月１日から昭和62年１月22日

歴史時代調査　　開始　　昭和61年10月14日　　終了　　昭和61年11月27日

縄文時代調査　　開始　　昭和61年10月13日　　終了　　昭和62年１月19日

先土器時代調査　　開始　　昭和62年１月７日　　終了　　昭和62年１月21日

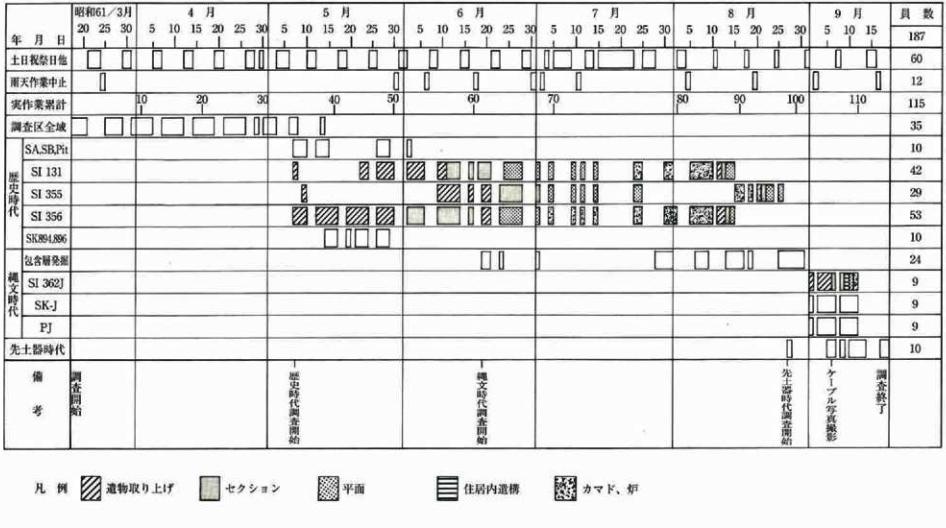
各調査区における発掘調査の深度の標高については以下のとおりである。

(単位　m)

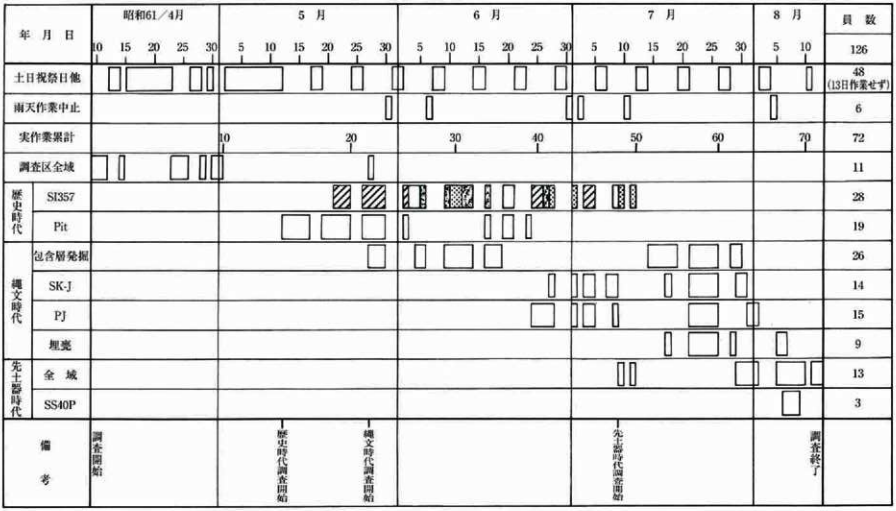
	Ⅰa	Ⅰb	Ⅰc	Ⅱ	Ⅲb	Ⅲc	Ⅳ	Ⅴa	Ⅴb	Ⅵ
251次調査地区	78.60	78.14			78.00	77.76	77.58	77.35	76.77	76.40
252次調査地区	78.21（Ⅰ層）				77.86	77.75	77.56	77.28	76.70	76.38
264次調査地区					78.10	77.94	77.76	77.36	76.92	76.47

Ⅶ	Ⅷa	Ⅷb	Ⅷc	Ⅷd	Ⅸ	Ⅹ	ⅩⅠ	ⅩⅡ
76.08	75.86	75.62	75.44	75.02	74.94	74.62	74.32	74.02
76.10	75.80	75.53	75.10		75.00			
76.12	75.80	75.64	75.43	75.05	74.98	74.74		

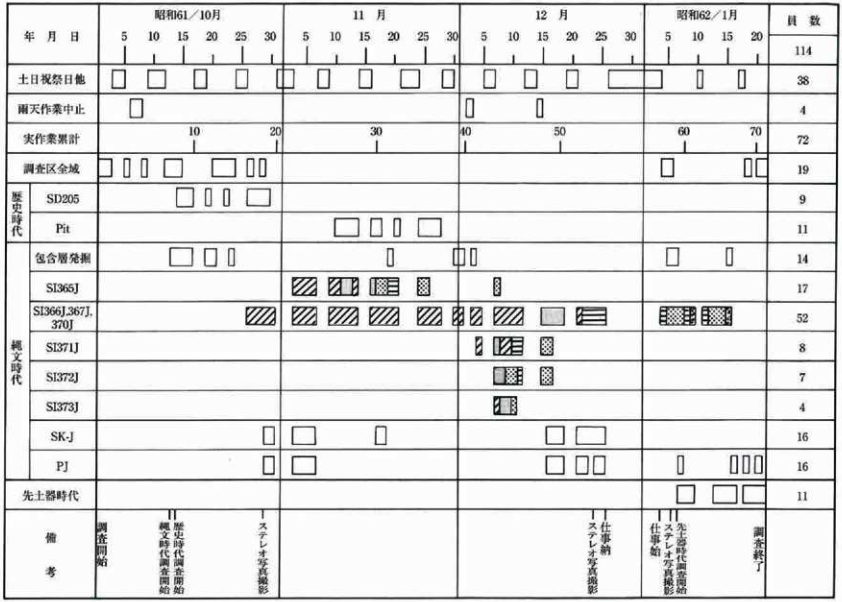
第２表　土層標高表



第3表 第251次調査 調査工程表



第4表 第252次調査 調査工程表



凡 例 遺物取り上げ　セクション　平面　住居内遺構　カマド、炉

第5表 第264次調査 調査工程表

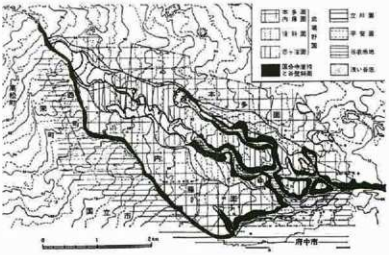
第3図　第251・252・264次調査　発掘深度図（1/400）

Ⅲ　調査地区の概観

1．調査地区の位置・立地・環境

国分寺市は地質学的に言うと関東平野の中でも「武蔵野台地」と呼ばれる台地上に位置している。最初にハケの成り立ちと旧石器時代・縄文時代の環境について述べる。

国分寺市の特徴的な地形である通称「ハケ」は、正式には「国分寺崖線」と言う学術用語が付けられている。国分寺崖線は北西端を立川市の北東部から始まり、中央線を国立駅の東で横切り、国分寺市、深大寺を経て二子玉川方面へと続く高低差10～20mの崖である。崖の北側で高い方を「武蔵野段丘」、南の低い方を「立川段丘」と呼んでいる。国分寺の基本的な景観は古多摩川が武蔵野台地を削り取って流れた結果にできた地形である。10万年から７万年前の武蔵野台地上では古多摩川が青梅付近を源流としながら放射状に流路を変え、扇状地のような景観を呈し、広範囲に河原が広がっていた。この時の河原を「武蔵野礫層」と呼んでいる。５万年前にはヴィルム氷期という氷河期の訪れと共に気温が下がり、徐々に海水面が低下していった。約２万年前には海面が100m程度低下しアジア大陸と日本列島が陸続きになっていた。その結果により武蔵野台地と海面との勾配が急傾斜になり、多摩川の流れは急流で流路も固定



武蔵野段丘

第４図　地形面分布図（上）・国分寺市の地形模式図（下）

され、現在の府中方面に向かって大地を削り取って流れることになった。この時の河原を「立川礫層」と呼んでいる。恋ヶ窪谷・さんや谷・殿ヶ谷戸谷・本多谷といった市内の谷もこの時期までに形成されている。さらに箱根火山から噴出した火山灰が堆積した。これを「武蔵野ローム層」と呼んでいる。約3.5万年から１万年前の活発で大規模な火山活動により火山灰が立川・武蔵野両段丘面に厚く堆積した。これを「立川ローム層」と呼んでいる。崖線の際や谷の奥からは随所で豊富な湧水が流れ出し、これが集まり「野川」となっている。我々が現在見ているハケの景観は約3.5万年前に形成されたと考えられている。

市内最古の石器が出土するのは、武蔵野段丘の立川ローム下層であるから国分寺市の旧石器時代はおおよそ3.5万年から３万年前まで溯ることができると考えられている。この時期はヴィルム氷期という氷河期の時代である。東京都の年平均気温は現在より７℃程低く、現在の青森県位の気候である。そうした環境で生育する植物は、立川ローム層の中に残されていた植物の花粉化石を分析すると、ササ科やヨモギ属、キク属などの草原にコナラやシラカンバといった樹木が点在する景観であったようである。動物は絶滅してしまったヤギュウやオオツノジカ、ヘラジカ、ナウマンゾウといった大型獣、イノシシ、日本ジカなどの中型獣、ウサギなどの小型獣といった多様な動物の生息が確認されている。残念ながら市内では動物化石は発見されていないため実態は不明な点が多い。市内の旧石器時代の遺跡が集中して分布するのは国分寺崖線に沿った地域と恋ヶ窪谷・さんや谷・殿ヶ谷戸谷・本多谷といった崖線に切り込んで浸食された小支谷の周辺である。これらの谷からも豊富な地下水が湧き出しており、人々の生活が湧水地を中心に営まれていたことが分かる。

約1.2万年前から始まる縄文時代は最後の氷河期であるヴィルム氷期が終わり、気温が上がり、それと同時に海水面も大きく上昇していった。いわゆる縄文海進である。植物は温暖な気候によって照葉樹木が武蔵野台地に広がっていき、ドングリやシイノミなどの堅果類が繁茂する豊かな森が形成され、人々の食生活の中に植物食が多く取り入れられる環境となった。こうした環境下においては冷涼な環境に生息していたヤギュウやオオツノジカ、ヘラジカ、ナウマンゾウといった大型獣は絶滅し、現在我々が良く知っている鹿やいのししが狩猟対象となった。人々の生活空間は基本的には旧石器時代と重なっているが、最も顕著な違いは定住化が始まったことである。特に条件の良い場所には数十件単位で住居が重複して構築されていた。市内で明らかに住居と判断される遺構が出現するのは縄文時代早期からであり、草創期については微隆起線文土器や有舌尖頭器が恋ヶ窪東遺跡より出土しているが、住居等の生活の痕跡は発見されていない。また晩期については八幡前遺跡において土器が出土しているが実態は不明である。現在までの調査例から考えて、国分寺市内の縄文文化が最も隆盛する時期は中期中葉の勝坂土器様式から加曽利ＥⅢ式期にかけてであったと考えられている。本報告の多喜窪遺跡Ａ地点は

その代表的な遺跡であり当該期の指標として位置付けられている。

第5図　調査地区の立地（昭和28年　✱　湧水地点）

2．層　序

Ⅰａ層　盛土。ローム、砂利、コンクリートブロック等の客土。10～60㎝。全体に見られた。

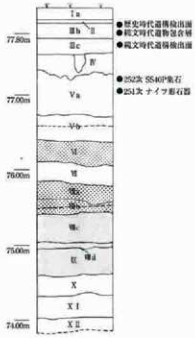
Ⅱ　層　黒褐色土。粒子粗く、粘性に欠く。10～20㎝。歴史時代遺構内の堆積土に酷似する。

Ⅲｂ層　暗茶褐色土。下部にいくに従い褐色味を帯びる。縄文時代の遺物を多く包含する。
歴史時代遺構は該層上面にて検出が容易となる。乾燥すると亀裂が多く入る。

Ⅲｃ層　茶褐色土。ローム漸移層。上部に多く縄文時代の遺物を包含する。縄文時代の遺構の
大半は該層上面にて検出することができる。

Ⅳ　層　暗黄褐色ローム。ソフトローム。縄文時代遺構の大半は該層上面で検出が容易となる。
（Ⅲ）

Ⅴａ層　黄褐色ローム。ハードローム。色調の相違によりⅤ層はａ・ｂの２層に分けられる。
（Ⅳａ）



第6図　標準層序
（第251次　DF106区先土器時代深掘り部分西壁）

下層にいくに従い黄色味薄くなり灰褐色味を帯びてくる。漸移的に変化する。赤色・黒色スコリアを多量に含む。部分的にⅤb層と中間の色調を有する部分がⅤb層上部にある。旧石器時代遺構・遺物が検出される。

Ⅴb層（Ⅳb）　暗灰褐色ローム。ハードローム。色調はⅤa層とⅥ層の中間。

Ⅵ層（Ⅴ）　暗褐色ローム。立川ローム第一黒色帯。スコリア細かく、全体に粒子緻密。やや粘性増す。

Ⅶ層（Ⅵ）　黄褐色ローム。黄色味強く明るい。Ⅷ層へは漸移的に移行し境やや不明瞭。削るとジャリジャリする（AT層）。

Ⅶa層（Ⅶa）　褐色ローム。やや暗くなり始まるところから本層とした。立川ローム第二黒色帯。成分的にはⅦ層下部に似て、削るとジャリジャリする。

Ⅶb層（Ⅶb）　暗褐色ローム。立川ローム第二黒色帯。さらに暗くなる。粒子細かく、緻密になり粘性がでてくる。

Ⅶc層（Ⅶc）　暗褐色ローム。立川ローム第二黒色帯。緻密で粘性が強くなる。

Ⅶd層（Ⅶd）　Ⅶ層からⅨ層への漸移層。

Ⅸ　層　黒褐色ローム。立川ローム第二黒色帯。より黒色味増し細粒で、下部にいくに従い、緻密となり、粘性強くなる。下部の5～10cmはⅩ層の影響か明るい部分もある。

Ⅹ　層　黄褐色ローム。粒子極めて細かく、緻密で粘性あり。

ⅩⅠ層　黄褐色ローム。Ⅹ層よりやや明るく、粘性あり。

ⅩⅡ層　暗黄褐色ローム。本層下部に黄褐色ロームブロック（ややカレー色で硬い）が多く見られ、このあたりが武蔵野ロームとの境と思われる（大沢進氏ご教示）。

なお、本層序の観察は武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅷに準じ（　）内の数字は立川ローム層番である。

Ⅳ 検出遺構

1．第251次調査

本次調査において、先土器時代の集石及び、縄文時代 住居１軒、土坑62基、小穴185個、歴史時代　掘立柱建物２棟、柱穴列１条、住居３軒、土坑２基、小穴２個を検出し、その内全容が把握可能な遺構について以下記述する。

①先土器時代検出遺構

調査地から４ケ所（4×5m、6×6m）の枠を設定して調査した。調査枠は、東地区（A坑）、中央地区（B坑）、南西地区（C坑）、北西地区（D坑）とした（参照：第3図・図版1）。

A坑は僧寺中軸線北202.00～207.00m、西290.00～294.00m、B坑は僧寺中軸線北199.00～205.00m、西302.00～308.00m、それぞれ深さⅤ層（ハードローム）中位まで掘削した。C坑は僧寺中軸線北195.00～201.00m、西313.00～319.00m、D坑は僧寺中軸線北204.00～210.00m、西315.00～321.00m、それぞれ深さⅨ層（第二黒色帯下部）まで掘削した。

遺物は中央地区（B坑）のⅤａ層（立川ローム層におけるⅣ層上部に相当）中位よりナイフ形石器（第７図・図版1－4）が１個出土し、C・D坑から礫が少量出土した。

②縄文時代検出遺構

SI362J住居（図面4・図版4）

僧寺中軸線北193.60～197.68m、西322.26～325.16mの範囲で確認した。西側は道路切土により滅失する。勝坂式期末から加曽利E式期の住居で、中央部に埋甕炉を検出した。また住居内P－2上にほぼ完形の深鉢形土器JF02（図面9－7）が横倒しの状態で出土した。住居の残存規模は南北3.84m、東西2.6mを測り、平面形は円形と推定する。壁高は約35cmを測り、断面は皿状を呈する。床面は平坦である。堆積土層はスコリア・ローム粒子をやや多く含む黒褐色土が主体である。下層は締まり粘性を帯びる。炉は床面を一辺42cm、深さ30cmの円形に掘り込んだ埋甕炉で、利用された甕は大形の深鉢形土器JE05（図面9－4）である。炉の堆積土層はローム粒子・焼土粒・炭化物を少量含み、ローム粗粒を多く含む暗黄褐色土が主体である。また住居床面には、東壁寄りに５個の小穴を検出した。小穴の規模は長径22～50cm、短径18～40cm、深さ8～80cmで平面形は円形を呈し、断面は皿状からU字形を呈する。小穴の堆積土層はローム粒子を多く含む黒褐色土が主体である。これらの小穴の内P－1･2が柱穴と考えられる。

遺物は深鉢（図面9－1～8・図面10－６・図面11－1）、ミニチュア土器（図面11－7）、土製円板（図面11－9･10）、打製石斧（図面11－13～15･19）等が出土した。

SK916J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北206.60～207.54m、西292.25～293.10mの範囲で確認した。土坑西側部に完形の深鉢形土器JE10（図面9－10）が横倒しの状態で出土した。規模は長径0.88m、短径0.80mを測り、平面形は円形を呈する。深さは56cmを測り、断面はV字形を呈し西側へ浅く広がる。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含む暗褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面9－10）等が出土した。

SK917J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北204.70～205.51m、西295.27～296.24mの範囲で確認した。規模は長径0.94m、短径0.80mを測り、平面形は円形を呈する。深さは20cmを測り、断面は擂り鉢状を呈する。堆積土層は赤色スコリア、ローム細粒、2cm大のロームブロックを若干含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK918J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北200.68～201.28m、西295.81～296.70mの範囲で確認した。南側は攪乱を受ける。残存規模は長径0.9m、短径0.53mを測り、平面形は楕円形と推定する。深さは20cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は大粒の赤色スコリアとローム細粒を多く含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は勝坂式期の土器片、礫が少量出土した。

SK919J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北198.96～200.23m、西292.16～296.28mの範囲で確認した。規模は長径1.26m、短径1.08mを測り、平面形は円形を呈する。深さは28cmを測り、断面は底面がいびつな逆台形を呈する。堆積土層は1～2mm大の赤色スコリアを多く含み、ローム細粒を少量含む暗茶褐色土が主体である。また底面近くにローム粒子・ロームブロックを含む。

遺物は打製石斧（図面11－20）等が出土した。

SK920J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北200.90～201.63m、西294.24～295.12mの範囲で確認した。南東側は攪乱を受け、東側はPJ－10に切られる。新旧関係は、SK920J（旧）→PJ－10（新）である。残存規模は長径0.83m、短径0.70mを測り、平面形は楕円形と推定する。深さは32cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は1～3mm大の赤色スコリアとローム細粒を含む暗茶褐色土が主体である。また底面近くは2～3cm大のロームブロックを含む。

遺物は礫が1個出土した。

SK921J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北203.71～205.05m、西293.44～294.67mの範囲で確認した。南東側がSK922Jに

切られる。新旧関係は、SK921J（旧）→SK922J（新）である。規模は長径1.32m、短径1.23mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは18cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は壁際にローム粒子を多く含み、中央部に1～2mm大の赤色スコリアがまとまる暗茶褐色土が主体である。

遺物は大形粗製石匙（図面11－17）等が出土した。

SK922J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北202.58～203.93m、西293.27～294.60mの範囲で確認した。北側はSK921Jを切る。新旧関係は、SK921J（旧）→SK922J（新）である。残存規模は長径1.50m、短径1.20mを測り、平面形は円形と推定する。深さは22cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はSK921Jに近くなる程ローム粒子を多量に含み、大粒の赤色スコリア・炭化物を少量含む暗黄褐色土が主体である。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片が少量出土した。

SK923J土坑（図面5・図版5）

僧寺中軸線北205.90～207.24m、西293.70～294.92mの範囲で確認した。規模は長径1.34m、短径1.20mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは44cmを測り、断面は擂り鉢状を呈する。堆積土層は黒色味が強く、下層にいく程ローム粒子が多量で、やや大粒の赤色スコリアを含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は加曽利E式期の土器片が1個出土した。

SK924J土坑（図面5・図版6）

僧寺中軸線北199.98～200.52m、西287.64～287.97mの範囲で確認した。東側は調査区外へ延長する。残存規模は長径0.54m、短径0.3mを測り、平面形は円形と推定する。深さは31cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は赤色スコリア、ローム細粒を含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は勝坂式期の土器片が1個出土した。

SK925J土坑（図面5・図版6）

僧寺中軸線北198.85～199.74m、西287.83～288.92mの範囲で確認した。南側は調査区外へ延長する。残存規模は長径0.79m、短径1.07mを測り、平面形は楕円形と推定する。深さは68cmを測り、断面はU字形を呈する。堆積土層は炭化物を微量に含み、中央部に赤色スコリア、壁際にローム粒子を多量に含む茶褐色土が主体である。

遺物は勝坂式期の土器片が少量出土した。

SK926J土坑（図面5・図版6）

僧寺中軸線北205.48～206.70m、西292.67～293.67mの範囲で確認した。規模は長径1.17m、

短径0.92mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは8cmを測り、断面は浅い皿状を呈する。堆積土層は土坑の最下部のみ残存する。底面にロームブロックを含む茶褐色土が主体である。

遺物は大形粗製石匙（図面11－18）等が出土した。

SK927J土坑（図面5・図版6）

僧寺中軸線北194.34～195.24m、西319.64～320.62mの範囲で確認した。規模は長径0.96m、短径0.82mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは33cmを測り、断面はいびつな逆台形を呈する。堆積土層はローム細粒がまとまり不鮮明なブロック状となり、1～1.5mm大の赤色スコリアと少量の炭化物を含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面9－11）等が出土した。

SK928J土坑（図面5・図版6）

僧寺中軸線北196.28～197.21m、西321.03～321.98mの範囲で確認した。規模は一辺0.94mを測り、平面形は円形を呈する。深さは35cmを測り、断面は箱形を呈する。土坑底面は平坦である。堆積土層は全体として、含有物の少ない均一な暗茶褐色土が主体である。

遺物は勝坂式期の土器片、剥片、礫が少量出土した。

SK929J土坑（図面6・図版6）

僧寺中軸線北198.30～199.11m、西320.88～321.82mの範囲で確認した。規模は長径0.93m、短径0.80mを測り、平面形は円形を呈する。深さは33cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層はローム細粒を多く含み、部分的にローム細粒が不鮮明なブロック状になる暗茶褐色土が主体である。

遺物は粗製石匙（図面11－16）等が出土した。

SK930J土坑（図面6・図版6）

僧寺中軸線北193.80～194.72m、西315.38～316.08mの範囲で確認した。規模は長径0.91m、短径0.69mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは17cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は ローム細粒を多く含み、やや明るい暗茶褐色土が主体である。

遺物は剥片（図面11－21）等が出土した。

SK931J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北197.82～198.77m、西316.94～317.98mの範囲で確認した。規模は長径1.04m、短径0.95mを測り、平面形は円形を呈する。深さは28cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は ローム細粒、1～1.5mm大の赤色スコリアを少量含み、黒色味が強い暗茶褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面9－12）、SK933Jで出土した大形粗製石匙（図面12－1）片と接合する破片

1個等が出土した。なおSK933Jは本土坑から2m（心々の距離）東北東の方向にある。

SK932J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北198.92～199.71m、西316.52～317.22mの範囲で確認した。規模は長径0.80m、短径0.61mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは36cmを測り、断面はいびつな擂り鉢状を呈する。堆積土層はローム細粒を全面に含み、赤色スコリアを少量含むほぼ均一な暗茶褐色土が主体である。

遺物は加曽利E式期の土器片が少量出土した。

SK933J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北198.16～199.03m、西315.15～315.84mの範囲で確認した。規模は長径0.88m、短径0.70mを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは33cmを測り、断面はU字形を呈する。堆積土層はローム細粒と赤色スコリアを少量含み、黒色味が強い暗茶褐色土が主体である。

遺物は打製石斧（図面12－3）、SK931Jで出土した大形粗製石匙（図面12－1）片と接合する破片3個等が出土した。なおSK931Jは本土坑から2m（心々の距離）西南西の方向にある。

SK938J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北202.22～203.36m、西317.30～317.95mの範囲で確認した。東側は、SI356（歴史時代）により削平される。残存規模は長径1.12m、短径0.53mを測り、平面形は不整楕円形と推定する。深さは19cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は2mm大の赤色スコリアと多量のローム細粒を含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は石匙が1個出土した。

SK939J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北201.38～203.28m、西312.65～314.14mの範囲で確認した。北側は、SI356（歴史時代）により削平される。またSK940Jと重複するが、新旧関係は不明である。残存規模は長径1.64m、短径1.35mを測り、平面形は楕円形と推定する。深さは25cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は微量の赤色スコリアとローム細粒を含む、含有物の少ない均一な暗茶褐色土が主体である。

遺物は耳栓（図面11－8）、打製石斧（図面11－22・図面12－5）等が出土した。

SK940J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北202.54～203.52m、西313.06～314.00mの範囲で確認した。北西側は、SI356（歴史時代）により削平される。南側はSK939Jと重複するが、新旧関係は不明である。残存規模は長径1.08m、短径0.56mを測り、平面形は楕円形と推定する。深さは33cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層は中層にローム粒子・1～4mm大の焼土粒を多量に含み、赤味を帯びた暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK941J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北199.49～200.44m、西315.10～316.12mの範囲で確認した。規模は長径1.01m、短径0.94mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは35cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は1～2mm大の赤色スコリアと、ローム細粒を含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片、礫が少量出土した。

SK942J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北201.04～201.90m、西317.16～318.08mの範囲で確認した。東側はSK943Jに切られる。新旧関係は、SK942J（旧）→SK943J（新）である。規模は長径0.85m、短径0.82mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは17cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は赤色スコリア・ローム粒子を多く含み、部分的に不鮮明なロームブロックを含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK943J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北201.21～202.03m、西316.54～317.32mの範囲で確認した。東側はSK944J、西側はSK942Jを切る。新旧関係は、SK942J・944J（旧）→SK943J（新）である。残存規模は長径0.80m、短径0.65mを測り、平面形は円形と推定する。深さは25cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は少量の赤色スコリアとローム細粒をやや多く含み、不鮮明なロームブロックを含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK944J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北201.77～202.78m、西316.10～317.20mの範囲で確認した。西側はSK943Jに切られる。新旧関係は、SK944J（旧）→SK943J（新）である。規模は長径1.10m、短径0.96mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは50cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は上部に赤色スコリアをやや多く含み、多量のローム粒子と1～3cm大のロームブロックを含む暗茶褐色土が主体である。また中層では2～3cm大のロームブロックが斜めに幅10cm、長さ30cm程の帯状に連なり、人為的な埋め戻しが行われた可能性を示す。

遺物は打製石斧（図面12－6）等が出土した。

SK945J土坑（図面6・図版7）

僧寺中軸線北199.84～200.97m、西321.64～322.84mの範囲で確認した。規模は長径1.19m、短径1.13mを測り、平面形は円形を呈する。深さは30cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はローム粒子がやや多く、黒色味を帯びた黒褐色土が主体である。

遺物は礫が1個出土した。

SK946J土坑（図面6・図版8）

僧寺中軸線北198.80～199.89m、西323.05～324.17mの範囲で確認した。規模は長径1.20m、短径1.11mを測り、平面形は円形を呈する。深さは43cmを測り、断面は底面に段差のある逆台形を呈する。堆積土層はローム粒子、ロームブロックを含む黒色土が主体である。

遺物は勝坂式期の土器片、礫が少量出土した。

SK947J土坑（図面6・図版8）

僧寺中軸線北200.43～201.48m、西323.12～324.00mの範囲で確認した。土坑西側部にほぼ完形の小形粗製深鉢土器JE11（図面9－13）が横倒しの状態で出土した。規模は長径1.05m、短径0.75mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは33cmを測り、断面は擂り鉢状を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含む黒色土が主体である。

遺物は深鉢（図面9－13）等が出土した。

SK948J土坑（図面6・図版8）

僧寺中軸線北200.44～201.82m、西320.64～321.84mの範囲で確認した。南東側はPJ－75に切られる。新旧関係は、SK948J（旧）→PJ－75（新）である。規模は長径1.30m、短径1.17mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは31cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はスコリア、ローム粒子を含む黒色土が主体である。

遺物は打製石斧（図面12－2）等が出土した。

SK949J土坑（図面6・図版8）

僧寺中軸線北202.24～203.23m、西320.87～321.77mの範囲で確認した。規模は長径1.02m、短径0.90mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは37cmを測り、断面は箱形を呈する。土坑底面は平坦で、堆積土層はローム粒子を少量含む黒色土が主体で、部分的に硬い所があり、全体に締まりがある。

遺物は加曽利E式期の土器片、礫が少量出土した。

SK950J土坑（図面7・図版8）

僧寺中軸線北208.24～208.69m、西326.08～326.74mの範囲で確認した。規模は長径0.67m、短径0.39mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは32cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含み、緻密で締まりのある黒色土が主体である。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片が少量と、礫が34個出土した。なお礫の91%は焼成を受け、集石土坑として利用された可能性が高い。

SK951J土坑（図面7・図版8）

僧寺中軸線北204.73～205.85m、西300.74～301.81mの範囲で確認した。規模は長径1.12m、

短径1.01mを測り、平面形はやや不整な円形を呈する。深さは44cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層は1mm大の赤色スコリア・ローム粒子を多量に含む暗茶褐色土が主体である。中央から下部にかけてローム粒子が1cm大のブロック状になる部分が5ヶ所あり、人為的な埋め戻しが行われた可能性を示す。

遺物は底面近くで、礫が少量と勝坂・加曽利E式期の土器片が多く出土した。

SK952J土坑（図面7・図版8）

僧寺中軸線北200.68～201.88m、西298.58～299.84mの範囲で確認した。規模は長径1.28m、短径1.22mを測り、平面形は円形を呈する。深さは21cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は1～1.5mm大の赤色スコリアを少量と、不鮮明なローム細粒を含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は五領ヶ台式期の土器片が1個出土した。

SK953J土坑（図面7・図版8）

僧寺中軸線北196.80～197.82m、西299.71～300.82mの範囲で確認した。規模は長径1.11m、短径1.02mを測り、平面形は円形を呈する。深さは18cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は大粒の赤色スコリアを少量含む明るい暗茶褐色土が主体である。

遺物は加曽利E式期の土器片が1個出土した。

SK954J土坑（図面7・図版8）

僧寺中軸線北196.94～198.26m、西301.22～302.48mの範囲で確認した。北側はSI355（歴史時代）に削平される。残存規模は長径1.45m、短径0.98mを測り、平面形は不整楕円形と推定する。深さは23cmを測り、断面は皿状と思われる。堆積土層は赤色スコリア、ローム細粒を含む暗茶褐色土が主体で、底面ではローム粒子が不鮮明なブロック状となる。

遺物は出土しなかった。

SK955J土坑（図面7・図版8）

僧寺中軸線北196.95～198.27m、西303.02～304.48mの範囲で確認した。規模は長径1.45m、短径1.16mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは29cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層は赤色スコリア・ローム細粒を含み、明るい暗茶褐色土が主体である。

遺物は勝坂式期の土器片が1個出土した。

SK956J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北197.08～198.08m、西306.00～306.95mの範囲で確認した。また土坑内には大形の深鉢形土器が1個体（JE12：図面9－15）伏せた状態で出土した。規模は長径1.04m、短径0.96mを測り、平面形は円形を呈する。深さは35cmを測り、断面は台形を呈する。堆積土層は1mm大の赤色スコリアをやや多く含む暗茶褐色土が主体である。またローム粒子が1～1.5cm大の不鮮明なブロック状を呈する部分が多い。

遺物は深鉢（図面9－15）等が出土した。

SK957J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北195.68～197.27m、西307.90～309.46mの範囲で確認した。規模は長径1.60m、短径1.40mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは56cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層は赤色スコリア、ローム細粒を含む暗茶褐色土が主体である。また2cm大の不鮮明なロームブロックも含む。

遺物は勝坂式期の土器片、剥片が少量出土した。

SK958J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北199.42～201.10m、西309.46～310.47mの範囲で確認した。南東側は攪乱を受ける。残存規模は長径1.63m、短径0.52mを測り、平面形は不整楕円形と推定する。深さは40cmを測り、断面は擂り鉢状を呈する。堆積土層は赤色スコリアを少量含み、黒色味が強い暗茶褐色土が主体である。またローム粒子が不鮮明なブロック状となる。

遺物は剥片が1個出土した。

SK959J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北196.46～197.24m、西311.84～312.80mの範囲で確認した。北西側はSK960Jを切る。新旧関係は、SK960J（旧）→SK959J（新）である。残存規模は長径0.88m、短径0.77mを測り、平面形は不整円形と推定する。深さは32cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は中央部に焼土粒を多く含み、多量のローム粒子と炭化物を少量含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は狢沢・勝坂・加曽利E式期の土器片、剥片、礫が少量出土した。

SK960J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北197.08～198.68m、西311.85～313.32mの範囲で確認した。南東側はSK959Jにより切られる。新旧関係は、SK960J（旧）→SK959J（新）である。残存規模は長径1.51m、短径1.26mを測り、平面形は不整楕円形と推定する。深さは32cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は赤色スコリア・ローム粒子を少量含む暗茶褐色土が主体である。しかし北側1/3は色調が黒褐色土に近い部分がある。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片が少量出土した。

SK961J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北203.71～204.80m、西310.40～311.40mの範囲で確認した。規模は長径1.08m、短径0.98mを測り、平面形は円形を呈する。深さは42cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は赤色スコリア、ローム細粒を含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK962J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北205.42～206.67m、西306.37～307.66mの範囲で確認した。規模は長径1.20m、短径1.12mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは38cmを測り、断面は結形を呈する。堆積土層は赤色スコリアを少量含み、ローム粒子・2～4cm大のロームブロックを多く含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK963J土坑（図面7・図版9）

僧寺中軸線北206.38～207.19m、西305.78～306.65mの範囲で確認した。規模は長径0.85m、短径0.80mを測り、平面形は円形を呈する。深さは19cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は赤色スコリアを少量含み、黒色味が強い暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK964J土坑（図面8・図版9）

僧寺中軸線北210.68～211.65m、西311.40～312.78mの範囲で確認した。規模は長径1.38m、短径0.94mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは35cmを測り、断面は底面に段差のある皿状を呈する。堆積土層はローム粒子をやや多く含み、黒色味を帯びる暗褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK965J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北209.60～210.77m、西314.13～315.28mの範囲で確認した。規模は長径1.20m、短径1.15mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは40cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層はローム粒子を含み、黒色味を帯びる暗褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK966J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北205.73～207.07m、西313.66～315.11mの範囲で確認した。南側はSI356（歴史時代）に削平される。残存規模は長径1.52m、短径1.31mを測り、平面形は不整楕円形と推定する。深さは41cmを測り、断面は逆台形と思われる。堆積土層はスコリア、ローム粒子、ロームブロックを含む暗褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK967J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北212.76～213.79m、西316.16～317.24mの範囲で確認した。規模は長径1.08m、短径1.00mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは32cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層は下層に大粒スコリア・ローム粒子を多く含む褐色土が主体である。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片が少量出土した。

SK968J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北209.12～210.56m、西316.68～318.10mの範囲で確認した。SK969Jの東側に重複する。新旧関係は、SK969J（旧）→SK968J（新）である。規模は長径1.22m、短径1.12mを測り、平面形は不整方形を呈する。深さは41cmを測り、断面は東側が緩やかに広がるV字形を呈する。堆積土層はローム粒子を多く含む黒褐色土が主体である。

遺物は打製石斧（図面12－7）等が出土した。

SK969J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北209.05～210.66m、西317.30～318.60mの範囲で確認した。SK968Jにより東側は切られる。新旧関係は、SK969J（旧）→SK968J（新）である。残存規模は長径1.57m、短径0.63mを測り、平面形は不整円形と推定する。深さは20cmを測り、断面は皿状と思われる。堆積土層はローム粒子を多く含み、明るい暗茶褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK970J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北211.94～212.92m、西320.10～320.50mの範囲で確認した。東側は攪乱を受ける。残存規模は長径0.91m、短径0.40mを測り、平面形は把握できない。深さは32cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はローム粒子を多量に含み、黒色味を帯びる暗褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK971J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北210.80～212.10m、西320.12～321.34mの範囲で確認した。西側はPJ－152を切る。新旧関係は、PJ－152（旧）→SK971J（新）である。規模は長径1.22m、短径1.18mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは46cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子を多量に含み、黒色味をやや欠く暗褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK972J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北206.00～206.82m、西318.22～319.14mの範囲で確認した。北西側はSK973Jに接する。新旧関係は、SK973J（旧）→SK972J（新）である。規模は長径0.93m、短径0.84mを測り、平面形は円形を呈する。深さは16cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はローム粒子を少量含む黒褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK973J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北206.41～207.41m、西318.95～320.04mの範囲で確認した。南東側はSK972Jに

接し、北西側はSK974Jに切られる。新旧関係は、SK973J（旧）→SK972J・974J（新）である。残存規模は長径0.88m、短径0.81mを測り、平面形は不整楕円形と推定する。深さは28cmを測り、断面はW字形を呈する。堆積土層はローム粒子を少量含む黒褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK974J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北206.90～207.88m、西319.56～320.76mの範囲で確認した。南東側はSK973Jを切り、北西側は一部攪乱を受ける。新旧関係は、SK973J（旧）→SK974J（新）である。規模は長径1.17m、短径0.96mを測り、平面形は不整円形と推定する。深さは41cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含み、黒色味が強い黒色土が主体である。

遺物は深鉢（図面10－7）等が出土した。

SK975J土坑（図面8・図版11）

僧寺中軸線北208.17～209.75m、西321.30～322.75mの範囲で確認した。土坑内では大形の深鉢形土器が1個体（JE15：図面10－1）伏せた状態、小形の深鉢形土器2個体（JE13・14：図面9－9・14）が横倒しの状態で出土した。どちらも完形からほぼ完形の深鉢である。規模は長径1.80m、短径1.16mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは42cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層はスコリアを少量含み、粘性で締まりのある黒色土が主体である。伏せ甕の中の土は、ガチガチに固まった暗茶褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面9－9・14・図面10－1）等が出土した。

SK976J土坑（図面8・図版11）

僧寺中軸線北208.70～209.76m、西323.12～324.10mの範囲で確認した。規模は長径1.00m、短径0.90mを測り、平面形は円形を呈する。深さは32cmを測り、断面は確認面が西側で下がるためJ字形を呈する。堆積土層はローム粒子を少量含む黒色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK977J土坑（図面8・図版11）

僧寺中軸線北203.27～204.56m、西320.54～321.78mの範囲で確認した。規模は長径1.25m、短径1.17mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは56cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はローム粒子を少量含みロームブロックの多い暗黄褐色土が主体で、底面は硬く締まる。

遺物は出土しなかった。

SK978J土坑（図面8・図版11）

僧寺中軸線北206.20～208.02m、西310.63～312.28mの範囲で確認した。土坑内の北西側に重複してPJ－179を検出した。新旧関係は、SK978J（旧）→PJ－179（新）である。規模は長径

2.00m、短径1.40mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは45cmを測り、断面は逆台形を呈す。堆積土層はスコリアを多く含み、ローム粒子がブロック状となる暗褐色土が主体である。

遺物は掻器（図面12－4）等が出土した。

SK979J土坑（図面8・図版11）

僧寺中軸線北206.04～206.88m、西312.52～313.28mの範囲で確認した。規模は長径0.83m、短径0.74mを測り、平面形は円形を呈する。深さは38cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層はローム粒子を多く含む暗茶褐色土が主体である。

遺物は磨石、剥片、礫が少量出土した。

SK980J土坑（図面8・図版11）

僧寺中軸線北199.44～199.97m、西320.78～321.54mの範囲で確認した。規模は長径0.75m、短径0.52mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは26cmを測り、断面は確認面が西側で下がるためJ字形を呈す。堆積土層はローム粒子を若干含む黒色土が主体である。

遺物は深鉢（図面10－2）等が出土した。

SK981J土坑（図面8・図版10）

僧寺中軸線北209.44～210.25m、西315.97～316.80mの範囲で確認した。規模は長径0.88m、短径0.69mを測り、平面形は不整楕円形を呈する。深さは36cmを測り、断面はU字形を呈する。堆積土層はスコリア、ローム粒子を多く含む暗褐色土が主体であり、東側上層は一部赤く焼土化している。

遺物は加曽利E式期の土器片が少量出土した。

③歴史時代検出遺構

SB71掘立柱建物（図面14・図版15）

僧寺中軸線北211.10～214.21m、西311.60～315.38mの範囲で確認した。主軸は桑行でN－7°－Wである。今次調査では5個の柱穴1－1・1－2・2－1・3－1・3－2を検出した。第140次調査で、北端の柱穴3個（1－3・2－3・3－3）は既に検出している。建物の規模は東西2間（4.3m）、南北2間（3.6m）の小規模な東西棟掘立柱建物である。柱間は桁行2.2m、桑行1.9mでそれぞれ等間隔である。柱穴は一辺37～60cmを測り、平面形は隅丸方形及び不整円形を呈する。深さは17～37cmを測り、断面形はU字形を呈する。埋め土はローム粒子、ロームブロックを含み、緻密で締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SB89掘立柱建物（図面15・図版16）

僧寺中軸線北203.12～208.54m、西291.84～295.78mの範囲で確認した。主軸は桑行でN－

82°－Eである。今次調査では7個の柱穴1－1・1－3・2－1・2－3・3－1・3－2・3－3を検出した。建物の規模は南北2間（4.3m）、東西2間（3.2m）の小規模な南北棟掘立柱建物である。柱間は桁行2.2m、梁行1.6mでそれぞれ等間隔である。柱穴は一辺22～40cmを測り、平面形は隅丸方形及び不整円形を呈する。深さは8～20cmを測り、断面形はU字形及び皿状を呈する。埋め土はローム粒子を若干含み、黒色味を帯びて締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は土師器 甕（柱穴2－1出土）、須恵器 坏（柱穴1－3出土）がそれぞれ1個出土した。

SA11柱穴列（図面15・図版16）

僧寺中軸線北206.39～207.48m、西288.87～295.28mの範囲で確認した。SB89掘立柱建物と重複し、東西に伸びる一本柱列である。主軸はN－82°－Eである。規模は東西2間（6m）、3個の柱穴を検出した。柱間は柱穴1～2は2.85m、柱穴2～3は3.25mを測る。柱穴の大きさは一辺26～44cmを測り、平面形は円形及び不整楕円形を呈する。深さは6～12cmを測る。断面は皿状を呈する。埋め土は締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SI131住居（図面16・17・図版17）

僧寺中軸線北207.22～211.04m、西296.33～300.60mの範囲で全面を確認した。カマドは、北壁中央で検出した。主軸は真北である。住居の規模は東西4.1m、南北3.1mを測り、平面形は長方形を呈する。壁高は約50cmを測り、断面は逆台形を呈する。床面は貼り床を施し、中央部分以外は硬く締まる。住居の堆積土層は、床面に近くなる程ローム粒子を多く含み、黒色味が強く、締まりのある黒褐色土が主体である。周溝は幅28～45cm、深さ22～27cmを測りカマド付近を除き全周で検出した。周溝の堆積土はローム粒子を多く含み、締まりが弱い黒褐色土が主体である。カマドは奥行き1.02m、幅0.8m、確認面からの深さは約43cmを測り、火床面からさらに約8cmの焼土堆積層を持つ。カマドの堆積土層は白色粘土粒をやや多く含み、締まりのある黒褐色土が主体である。火床はかなり火を受けたのか粘土・焼土等がカリカリの状態である。

遺物は緑釉陶器片が多く目立ち、土師器 坏・甕（図面23－1～6）、須恵器 坏・皿・埦・瓶（図面23－7～15・図面24－1～6・10）、土師質土器 坏（図面24－7）、灰釉陶器 高台付坏・瓶（図面24－8・9）、緑釉陶器 碗（図面24－11～13）、鐙瓦（図面24－14・15）、男瓦（図面24－16・図面25－1）、女瓦（図面25－2・3・図面26－1～3・図面27－1・2）、鉄釘（図面27－3）等が出土した。

須恵器 坏の観察からG5窯式期の古段階に比定される。

SI355住居（図面18・19・図版18）

僧寺中軸線北198.17～202.74m、西299.86～304.86mの範囲で全面を確認した。カマドは、東

壁中央で検出した。主軸はN－96°－Eである。住居の規模は東西3.8m、南北4.0mを測り、平面形は方形を呈する。壁高は約60cmを測り、断面は逆台形を呈する。床面は貼り床を施し、中央部分と北壁部分が硬く締まる。住居の堆積土層はローム粗・細粒を少量含み、下層にいく程、焼土粒、粘土粒、ロームブロックをやや多く含む黒褐色土が主体である。周溝は幅14～36cm、深さ10～12cmを測り、カマド付近を除き全周で検出した。周溝の堆積土層はロームをやや多く含む黒褐色土である。また住居内南東寄りでは、構築時に一辺約40cm、深さ30cm、平面形は円形の小穴を1個検出した。小穴の堆積土層は、黒色土・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土が主体である。カマドは奥行き1.45m、幅0.75m、確認面からの深さは約70cmを測り、火床面からさらに約20cmの焼土堆積層を持つ。カマドの堆積土層は炭化粒、赤色焼土が多く、住居内にいく程黒色土が混じる。構築土は粘土にローム粒、黒色土が混じり締まりがある。

遺物は土師器 甕（図面28－1～7）、須恵器 坏・埦・蓋（図面28－8～11）、男瓦（図面28－12・図面29－1）、女瓦（図面29－2・3）、塼（図面29－4）等が出土した。

SI356住居（図面20～22・図版19）

僧寺中軸線北202.34～206.85m、西312.44～317.57mの範囲で全面を確認した。カマドは、2基あり、東壁やや南寄り（東カマド）と北壁やや東寄り（北カマド）で検出した。カマドの新旧関係は東カマド（旧）→北カマド（新）である。主軸は東カマドがN－90°－E、北カマドは真北である。住居の規模は東西4.2m、南北3.5mを測り、平面形は長方形を呈する。壁高は約60cmを測り、断面は逆台形を呈する。床面は貼り床を施し、ほぼ全面で硬く締まる。住居の堆積土層はローム細粒をやや多く含み、黒色味が弱いが下層にいく程増し、締まりがややある黒褐色土が主体である。周溝は幅10～35cm、深さ25～38cmを測りカマド付近を除き全周で検出した。周溝の堆積土層は黒色味を帯びて締まりのある黒褐色土が主体である。カマドの大きさは、東カマドは奥行き1.35m、幅1.08m、確認面からの深さは約50cmを測り、火床面の焼土堆積層は薄い。北カマドは奥行き1.35m、幅0.8m、確認面からの深さは約55cmを測り、火床面からさらに約12cmの焼土堆積層を持つ。カマド崩壊土層は粘土粒、粘土ブロックを多量に含む。

遺物は土師器 坏・甕（図面30－1・2）、須恵器 坏・埦・鉢・蓋・瓶（図面30－3～18）、灰釉陶器 四耳壺（図面30－19）、男瓦（図面31－1）、女瓦（図面31－2～4・図面32－1）、フイゴ（羽口）（図面32－2）、鉄釘（図面32－3）等が出土した。

須恵器 坏の観察からG59窯式期に比定される。

SK894土坑（図面15・図版15）

僧寺中軸線北208.80～210.46m、西309.93～311.30mの範囲で確認した。規模は長径1.54m、

短径1.06mを測り、平面形は長方形を呈する。深さは57cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はローム細・粗粒やや多く、1～3cm大のロームブロックを含む黒褐色土が主体である。

遺物は須恵器 坏・甕、男瓦、女瓦が少量出土した。

SK896土坑（図面14・図版15）

僧寺中軸線北212.04～213.12m、西314.60～315.80mの範囲で確認した。SB71の梁行き柱列と重複する。規模は長径1.10m、短径1.02mを測り、平面形は方形を呈する。深さは22cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はローム細粒、1～3cm大の茶褐色土ブロックを含み締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は土師器 甕、須恵器 坏・蓋、灰釉陶器 碗が少量出土した。

2．第252次調査

本次調査において先土器時代 集石１基、縄文時代 屋外埋甕２基、土坑12基、小穴82個、歴史時代 住居１軒、小穴23個を検出し、その内全容が把握可能な遺構について以下記述した。

①先土器時代検出遺構

SS40P集石（図面33・図版24）

調査地西側で4×5mの枠（プレ坑）を設けた。プレ坑は僧寺中軸線北183.00～189.00m（拡張区を含む）、西315.00～319.00mの範囲で掘削した。そしてⅤa層（立川ローム層におけるⅣ層上部に相当）上部でSS40Pを検出した。SS40Pは僧寺中軸線北187.38～187.85m、西315.95～316.44mの範囲で確認した。規模は長径0.53m、短径0.26mを測り、平面形は楕円形を呈する。礫の集中する範囲の内側で明確な落ち込みは観察されず他所に本格的な礫群の存在が予測される。

遺物は礫が９個出土した。完形は1個で残りは破片である。全て被熱しており、その内4個は黒色付着物がある。石材は砂岩、チャート等である。

②縄文時代検出遺構

SU5屋外埋甕（図面35・図版25）

僧寺中軸線北185.16～185.37m、西312.86～313.17mの範囲で確認した。残存規模は直径30cmを測り、平面形は円形（北東側1/2は未確認）と推定する。深さは32cmを測るが、埋甕自体は深さ約18cmに埋置される。断面は凹形を呈し、底面はしっかりしている。堆積土層はスコリア・木炭粒を含む黒褐色土が主体である。埋甕の時期は加曽利ＥⅠ式期である。

遺物は深鉢（図面36－1）等が出土した。

SU6屋外埋甕（図面35・図版25）

僧寺中軸線北185.50～185.66m、西313.78～313.93mの範囲で確認した。残存規模は直径18cm

を測り、平面形は円形（南東側1/2は不明）と推定する。深さは９cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はローム粒子を若干含み、褐色味を帯びた黒褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面36－2）等が出土した。

SK904J土坑（図面35・図版26）

僧寺中軸線北182.42～183.26m、西303.32～304.06mの範囲で確認した。規模は長径0.86m、短径0.72mを測り、平面形は円形を呈する。深さは62cmを測り、断面はU字形を呈する。堆積土層はスコリア、ローム粒子、炭化物、ロームブロックを含み、下層にいく程締まりのある黒色土が主体である。

遺物は深鉢（図面36－11･12）、石鏃（図面37－1･2）、大形粗製・粗製石匙（図面37－3～7）等が出土した。

SK905J土坑（図面35・図版26）

僧寺中軸線北181.11～182.27m、西307.27～308.36mの範囲で確認した。規模は長径1.18m、短径1.05mを測り、平面形は円形を呈する。深さは34cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はスコリア、ローム粒子、炭化物を少量含み、締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK906J土坑（図面35・図版26）

僧寺中軸線北183.40～184.30m、西308.60～309.43mの範囲で確認した。規模は長径0.90m、短径0.80mを測り、平面形は円形を呈する。深さは50cmを測り、断面はU字形を呈する。堆積土層は中央にスコリアが目立ち、壁際にローム粒子をやや多く含み、締まりのある黒色土が主体である。

遺物は剥片が１個出土した。

SK907J土坑（図面35・図版26）

僧寺中軸線北186.40～187.66m、西304.54～305.66mの範囲で確認した。土坑内西端の底面に小形深鉢形土器（勝坂Ⅰ式）が1個体（図面36－3）横倒しの状態で出土した。南側にPJ－12が接する。規模は長径1.26m、短径1.07mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは36cmを測り、断面は箱形を呈する。堆積土層はスコリア・炭化物が若干含まれ、ローム粒子・1～3cm大のロームブロックをやや多く含む、黒色味を帯びた暗茶褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面36－3）等が出土した。

SK908J土坑（図面35・図版26）

僧寺中軸線北184.16～185.07m、西304.70～305.63mの範囲で確認した。北東側にPJ－1、南西側にPJ－2が接する。規模は長径0.94m、短径0.90mを測り、平面形は円形を呈する。深さは24cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子・炭化粒を少量含み、

締まりのある暗茶褐色土が主体である。

遺物は大形粗製石匙（図面37－8）等が出土した。

SK909J土坑（図面35・図版26）

僧寺中軸線北189.20～189.98m、西321.10～321.78mの範囲で確認した。南側にPJ－72が接する。規模は長径0.78m、短径0.68mを測り、平面形は円形を呈する。深さは40cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はスコリア、ローム粒子、焼土粒、炭化粒を含む黒色土が主体である。また底面は粘性と締まりがある暗褐色土である。

遺物は礫が少量出土した。

SK910J土坑（図面35・図版27）

僧寺中軸線北187.76～188.86m、西315.98～317.10mの範囲で確認した。規模は長径1.08m、短径1.00mを測り、平面形は円形を呈する。深さは16cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含み、黒色味を帯びた暗褐色土が主体である。

遺物は礫が少量出土した。

SK911J土坑（図面35・図版27）

僧寺中軸線北186.42～187.20m、西319.04～319.90mの範囲で確認した。規模は長径0.86m、短径0.78mを測り、平面形は円形を呈する。深さは22cmを測り、断面はいびつな皿状を呈する。堆積土層はローム粒子をやや多く含む暗褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK912J土坑（図面35・図版27）

僧寺中軸線北187.98～188.90m、西311.02～312.00mの範囲で確認した。南側はSK913Jに切られる。新旧関係は、SK912J（旧）→SK913J（新）である。規模は長径1.00m、短径0.92mを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは30cmを測り、断面は逆台形を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含む暗褐色土が主体である。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片、礫が少量出土した。

SK913J土坑（図面35・図版27）

僧寺中軸線北187.53～188.20m、西311.10～312.31mの範囲で確認した。北側はSK912Jを切り、東側は一部攪乱を受ける。新旧関係は、SK912J（旧）→SK913J（新）である。残存規模は長径1.15m、短径0.64mを測り、平面形は楕円形と推定する。深さは14cmを測り、断面は皿状を呈する。堆積土層はスコリア、ローム粒子、木炭を含む黒褐色土が主体である。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片、磨石、剥片が出土した。また礫が143個出土し、礫の97%は焼成を受けている。いわゆる集石土坑である。

SK914J土坑（図面35・図版27）

僧寺中軸線北189.36～190.70m、西314.36～315.06mの範囲で確認した。東側は調査区外へ延長する。残存規模は長径1.34m、短径0.66mを測り、平面形は円形と推定する。深さは40cmを測り、断面はいびつな皿状を呈する。堆積土層はスコリア、ローム粒子を含み炭化物が若干入る黒色土が主体である。

遺物は時期不明の縄文土器片、磨石、礫器が出土した。またSK913Jと同様に礫が108個出土し、礫の97%は焼成を受けている。本土坑もいわゆる集石土坑である。

SK915J土坑（図面35・図版27）

僧寺中軸線北183.54～184.44m、西320.66～321.45mの範囲で確認した。土坑中央部にほぼ完形の円筒形の深鉢形土器（JE03：図面36－4）が横倒しの状態で出土した。規模は長径0.90m、短径0.79mを測り、平面形は円形を呈する。深さは24cmを測り、断面はいびつな皿状を呈する。堆積土層は赤色スコリア、ローム粒子、炭化物を含む黒褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面36－4）等が出土した。

③歴史時代検出遺構

SI357住居（A期・B期）（図面39・図版30）

僧寺中軸線北185.10～188.20m、西313.68～317.90mの範囲で全面を確認した。新規にカマドを西へ（約1.1m）ずらし床面を若干下げて、住居を東西方向に縮小して建て直している特異な遺構である。新旧関係を、SI357A期（旧）→SI357B期（新）とする。カマドはそれぞれ東壁やや南寄りで検出した。主軸は同じでN－97°－Eである。住居の規模は東西3.76m、南北3.1mを測り、その範囲内で縮小される。平面形は長方形を呈する。壁高は16cmを測り、断面は逆台形を呈する。床面は貼り床を施し、南と西の壁際が硬く締まる。住居の堆積土層はローム細粒、焼土粒、木炭粒を含み、締まりのある黒褐色土が主体である。周溝は幅14～24cm、深さ4～8cmを測り北壁とカマド付近を除く東壁で検出した。カマドの規模は、SI357A期カマドは奥行き0.90～1.00m、幅0.66m、確認面からの深さは約16cmを測り、火床面からさらに約10cmの焼土堆積層を持つ。SI357B期カマドは、奥行き0.70～0.80m、幅0.46m、A期床面からの深さ15cmを測り、火床面からさらに10cmの焼土堆積層を持つ。カマド構築土はローム粒多く、締まりが強い黒褐色土が火熱を受けた赤色焼土である。小穴は9個検出した。一辺24～90cm、深さ6～48cmを測り、平面形は円形から不整楕円形で、断面は皿状からU字形を呈する。小穴の堆積土層は黒褐色土が主体である。

遺物はSI357A期は土師器 甕（図面40－1）、須恵器 坏・高台付坏（図面40－2～5）、土師質土器 埦（図面40－6）、男瓦（図面40－7）等が出土した。またSI357B期は土師器 甕（図面40－8）、須恵器 坏・埦（図面40－9～14）、土師質土器 高台付坏（図面40－15）、男瓦（図面

41－1)、女瓦（図面41－2）等が出土した。

須恵器 坏の観察からG５窯式期の新段階に比定される。

3．第264次調査

本次調査において縄文時代 住居７軒、土坑10基、小穴48個、歴史時代 溝１条、小穴６個を検出し、その内全容が、把握可能な遺構について以下記述した。

①縄文時代検出遺構

SI365J住居（図面43・図版34）

僧寺中軸線北232.35～235.42m、西350.53～354.71mの範囲で確認した。北側は調査区外へ延長する。主柱穴は３個（P－1･3･4）あり１回以上の建て替えが認められる。また遺物は住居の北寄りに多く出土した。住居の残存規模は東西4.16m、南北2.50mを測り、平面形は不整円形と推定する。壁高は44～58cmを測り、断面は逆台形を呈する。床面は貼り床を施し平坦である。住居の堆積土層はスコリア・ローム粒子・木炭粒をやや多く含み黒色味を帯びた暗茶褐色土が主体である。また住居床面には、16個の小穴（柱穴含む）を検出した。その内6個は壁際に沿って0.8～1.7m間隔に並んでいる。小穴の規模は内部の10個は一辺26～73cm、深さ７～75cm、平面形は円形から不整楕円形で、断面はU字形を呈する。壁際の６個は一辺10～16cm、深さ8～18cmで平面形は円形を呈し、断面は皿状を呈する。小穴の堆積土層はローム粒子を含む黒褐色土が主体である。

遺物は深鉢（図面50－1･2）、石鏃（図面55－1）等が出土した。

SI366J住居（図面43～46・図版35～37）

僧寺中軸線北225.53～231.25m、西347.94～353.22mの範囲で全面を確認した。北東側はSI367J、南側はSI370Jを切る。新旧関係は、SI367J･370J（旧）→SI366J（新）である。中央やや北東寄りに石囲炉を検出した。主柱穴は４～５個、また支柱穴は8～9個あり、３回以上の建て替えが認められる。遺物は住居の中央上層より大量の連弧文土器に混じって土偶が３個（DF01～03）出土した。また住居西側上層より連弧文土器（JF18：図面52－1）も出土した。住居の規模は南北5.60m、東西4.84mを測り、平面形は円形を呈する。また壁の外周は、幅0.3～0.4mで緩やかな勾配を有し、内周は南北4.9m、東西4.4mを測る。壁高は35cmを測り、断面は逆台形を呈する。床面は貼り床を施す。住居の堆積土層はローム細粒をやや多く含み、スコリア・炭化粒を少量含む黒褐色土が主体である。周溝は南側の4mを除き壁下にあり、幅22～36cm、深さ11cmを測る。炉の大きさは一辺66～76cm、深さ12cmで埋甕を伴う円形の石囲炉である。その南西隅に勝坂Ⅲ式土器１個体（胴下半欠失 JE05：図面50－5）を埋設していた。炉の堆積土層はローム粒をやや多く、焼土粒を多量に含み、締まりのある黒褐色土が主体である。

小穴はロームを埋め、貼り床を施した小穴が数本ありSI370Jの柱穴の残存かと思われる。小穴の総数は113個（柱穴を含む）に及ぶ。小穴の大きさは一辺12～70㎝、深さ6～74㎝を測る。平面形は円形から不整楕円形で、断面は皿状からいびつなU字形を呈する。小穴の堆積土層はローム粒子を含み、締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は深鉢・浅鉢（図面50－3～14・図面51－1～11・図面52－1～14・図面53－1～17・図面54－1～5）、器台（図面54－6）、土偶（図面54－7～9）、石鏃（図面55－2～8）、石錐（図面55－9）、打製石斧（図面55－10～17・図面56－1～3・6）等が出土した。

SI367J住居（図面43～45・図版35～37）

僧寺中軸線北227.36～232.31m、西347.79～349.41mの範囲で確認した。東側は道路切土により滅失し、南西側はSI366Jに切られる。新旧関係はSI367J（旧）→SI366J（新）である。住居の残存規模は南北4.38m、東西1.06mを測り、平面形は不整円形と推定する。壁高は10～13㎝を測り、断面は皿状を呈する。住居の堆積土層はローム粒子を含み、明るい黒褐色土が主体である。小穴を5個検出し、4個は壁に沿って検出した。4個は一辺18～26㎝、深さ15～25㎝を測り、残りの小穴は一辺44～48㎝、深さ52㎝を測る。平面形は円形から楕円形で、断面は皿状からU字形を呈する。小穴の堆積土層はローム粒子を含み、締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は打製石斧（図面56－5）等が出土した。

SI370J住居（図面44・45・図版35～37）

僧寺中軸線北224.89～226.52m、西348.58～352.42mの範囲で確認した。北側はSI366Jに切られる。新旧関係はSI370J（旧）→SI366J（新）である。住居の残存規模は東西3.84m、南北1.00mを測り、平面形は不整円形と推定する。壁高は10～16㎝を測り、断面は逆台形を呈する。床面は貼り床を施すが平坦ではない。住居の堆積土層はローム粒子を含み、明るい黒褐色土が主体である。小穴を8個検出し、一辺18～54㎝、深さ14～63㎝を測る。平面形は円形から不整楕円形で、断面はU字形を呈する。小穴の堆積土層はローム粒子を含み、締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は勝坂・阿玉台・加曽利E式期・連弧文の土器片、打製石斧、剥片、礫等が少量出土した。

SI371J住居（図面48・図版38）

僧寺中軸線北207.40～212.10m、西353.18～357.00mの範囲で確認した。北西側は不明落ち込み、南東側の一部はP－1（歴史時代）のため削平される。主柱穴を2個（P－1・2）検出し、1回の建て替えが認められる。住居の残存規模は南北4.88m、東西2.60mを測り、平面形は楕円形と推定する。壁高は8～16㎝を測り、断面は皿状を呈する。住居の堆積土層はローム粒

子を少量含み締まりのある黒褐色土が主体である。小穴を10個（柱穴含む）検出し、一辺18～92cm、深さ4～86cmを測る。平面形は円形から不整楕円形で、断面は皿状からU字形を呈する。小穴の堆積土層はスコリア、ローム粒子を含み、締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は打製石斧（図面56－4･9）等が出土した。

SI372J住居（図面48・図版38）

僧寺中軸線北211.84～214.46m、西346.06～350.28mの範囲で確認した。北西側は不明落ち込みのため削平される。柱穴と思われるものを6個検出したがまとまらない。住居の残存規模は長径（南北）3.50m、短径（東西）2.70mを測り、平面形は把握できない。壁高は8cmを測り、断面は皿状を呈する。住居の堆積土層はローム粒子をやや多く含み、締まりのある黒褐色土が主体である。小穴を8個（柱穴を含む）検出し、一辺24～68cm、深さ8～76cmを測る。平面形は円形から不整楕円形で、断面は皿状とU・V字形を呈する。小穴の堆積土層はローム粒子を含み、締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は狢沢・勝坂・阿玉台・加曽利E式期の土器片、打製石斧、剥片、礫等が少量出土した。

SI373J住居（図面49・図版38）

僧寺中軸線北200.80～203.36m、西343.91～345.20mの範囲で確認した。東側は道路切土により滅失する。住居の残存規模は長径（南北）1.98m、短径（東西）1.22mを測り、平面形は把握できない。壁高は10～12cmを測り、断面は皿状を呈する。住居の堆積土層はローム粒子を少量含み、締まりのある明るい黒褐色土が主体である。

遺物は狢沢・加曽利E式期の土器片等が少量出土した。

SK988J土坑（図面44･45・図版35）

僧寺中軸線北223.12～224.26m、西349.93～351.23mの範囲で確認した。北側はSK989Jを切る。新旧関係はSK989J（旧）→SK988J（新）である。残存規模は長径1.20m、短径0.80mを測り、平面形は隅丸方形と推定する。深さは40cmを測り、断面は擂り鉢状を呈する。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含み、黒色味がややある黒褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK989J土坑（図面44･45・図版35）

僧寺中軸線北223.84～224.98m、西349.84～351.00mの範囲で確認した。北側はSI370Jに接し、南側はSK988Jに切られる。新旧関係はSK989J（旧）→SK988J（新）である。残存規模は長径。1.04m、短径0.96mを測り、平面形は隅丸方形と推定する。深さは40～52cmを測り、断面は擂り鉢状を呈する。堆積土層は黒色味を帯びた黒褐色土が主体である。

遺物は出土しなかった。

SK990J土坑（図面49・図版33）

僧寺中軸線北204.13～205.07m、西354.40～355.30mの範囲で確認した。北西側にPJ－14が接する。規模は長径0.85m、短径0.82mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。深さは40～55cmを測り、断面は底面が丸底で段差のある逆台形を呈する。堆積土層はローム粒子を少量含み、茶褐色味を帯び、締まりのある黒褐色土が主体である。

遺物は五領ヶ台・狢沢・加曽利E式期の土器片、打製石斧、磨石、礫等が少量出土した。

SK991J土坑（図面49・図版33）

僧寺中軸線北209.98～211.66m、西346.19～347.00mの範囲で確認した。規模は長径1.66m、短径0.75mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。深さは55cmを測り、断面は箱形を呈し底面はほぼ平坦である。いわゆる早期の落とし穴土坑とは形態等異なる。堆積土層はスコリア・ローム粒子を少量含み、黒色味の強い黒色土が主体である。

遺物は勝坂・加曽利E式期の土器片、礫等が少量出土した。

②歴史時代検出遺構

SD205溝（図面49・図版45）

僧寺中軸線北196.50～219.40m、西356.94～364.04mの範囲で確認した。南北溝である。規模は上面幅8.00m以上、底面幅1～3.50m、深さ1.4mを測る。断面は擂り鉢状を呈し広く緩やかに開く。また遺構南半部分で硬質面を南北に検出し、底面には波板状の掘り込みを検出した。道路遺構の様相を呈しているが、南北方向との関連は周辺調査例がなく全体を道路遺構とする材料は得られていない。堆積土層はローム粒子をやや多く含む黒褐色土が主体である。

遺物は土師器 甕（図面58－1・2）、須恵器 坏・高台付坏（図面58－3・4）、灰釉陶器 碗（図面58－5）、男瓦（図面58－6）、刀子（図面58－7）、打製石斧（図面56－14）等が出土した。

灰釉 碗の観察からG25窯式期（9世紀後半代）段階以降に構築されたと推定される。

Ⅴ　出土遺物

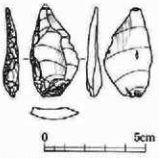
遺物の詳細は一覧表に示した。よってここでは特に説明を要する先土器時代の石器及び、縄文時代の土器・石器の分類についてその基準を記した。

なお、歴史時代の須恵器をA・Bに区分しているが、Aは器体表面が青灰色で硬質な還元焔焼成、Bは器体表面が褐色系でやや軟質の酸化焔焼成の須恵器である。

1．先土器時代

ナイフ形石器

第251次調査地区より、良質で半透明な黒曜石製ナイフ形石器が1点のみ出土した。幅広の縦長剥片を素材とし、基部に打点を有す。基部の打点を丁寧な刃潰しによって除去し、先端部にかけて左側縁に階段状剥離による細部調整を施した片側縁加工ナイフ形石器である。先端部がわずかに欠損するがほぼ完形である。



第7図　第251次調査　先土器時代出土ナイフ形石器実測図（2/3）

2．縄文土器の分類（特に中期前半から後半の土器について）

第1群　五領ヶ台式土器

1類　無文地文（浅鉢）のもの

a 交互刺突 ＋ 垂下する三角形沈刻文　　口縁

b 交互刺突　　口縁

c 口縁屈折、交互刺突　　口縁

d 沈線（横走2本）＋ 垂下する三角形沈刻文　　口縁

e 沈線（横走2本）のみ　　口縁

2類　縄文地文のもの

a 隆帯 ＋ 沈線

b 沈線

c 縄文のみ　　底部

第2群　結節沈線（角押文）を多用する。五領ヶ台直後～清水台・狢沢・五領ヶ台上層土器

1類　深鉢

a 隆帯有り　　口縁

b 隆帯有り　胴部

c 隆帯無し　口縁

d 隆帯無し　胴部

2類　浅鉢

a 口縁屈折しない

b 口縁屈折する

第3群　阿玉台式（系）土器

1類　隆起線 ＋ 1列の角押文のもの　Ⅰb式

a 窓枠状隆起線 ＋ 角押文　口縁

b 隆起線　口縁

c　胴部片

2類　有節線文（複列）のもの　Ⅱ式

3類　爪形文のもの　Ⅲ式　胴下半部

4類　ヒダ状圧痕、Y字状垂下線（隆起）のもの　1～3類　胴下半部

第4群　勝坂式土器（1～5類は深鉢、6類は浅鉢）

1類　Ⅰ～Ⅱ式に対比されるもの一括、三角形区画文等の有るもの

a 隆帯に三角押文を伴う　Ⅰ式

b 隆帯 ＋ 角押文による波状文　Ⅰ式

c 隆帯に幅広の爪形文・沈線による波状文を伴う　Ⅱ式

d 隆帯に幅広の爪形文・沈線による波状文を伴う　Ⅰ～Ⅱ式
（cの部分含む。波状文のみを含む。）

2類　Ⅱ～Ⅲ式に対比される一群、隆帯・平行沈線上に幅広の爪形文の有るもの

a 隆帯の上に爪形文 ＋ 渦巻状沈線、縦位沈線、竹管の腹による平行線文上に爪形文

b 竹管の腹による平行線文の上に爪形文 ＋ 沈線（曲線・直線）

c 隆帯の上に爪形文　口縁・胴部片

d 多段楕円区画（隆帯） ＋ 縦位沈線（充填）

e 平行沈線文 ＋ 斜行沈線文（充填）

3類　Ⅲ式に対比される一群のもの

a 一段の横帯区画文、隆帯上に爪形文、区画内を縦位沈線か爪形文で充填

b 幅広の隆帯 ＋ 刻目文（爪形文）、区画内は太沈線による渦巻文、縦位沈線、交互刺突（角押文有り）

c 隆帯上に沈線、沈線による渦巻文、爪形文

d 円筒形、上半部に文様帯、下半部縄文、沈線で渦巻文、三叉文

4類　隆帯、沈線、縄文、刺突など分類の不明瞭なもの

a 隆帯を持つ

b 沈線を持つ

c 交互刺突

d 列点文

e 爪形文のみ

f 縄文のみ

g 縄文 ＋ 爪形文か波状文

h 縄文・撚糸文 ＋ 隆帯（無文）

i 空番

j 縄文・撚糸文 ＋ 隆帯（爪形文）

k 縄文・撚糸文 ＋ 隆帯（刻目文）

l 無文 ＋ 隆帯上のみに縄文

m 隆帯貼付後に押捺（列点文）

n 横8の字状隆帯

5類　中部高地の影響が有るもの

a 口縁無文、隆帯による貼付、胴下半部縄文

b 隆帯上に刻目・爪形文有す。地文多条沈線（竹管の腹による平行沈線文）、部分的に押し引き爪形文を加える。

6類　浅鉢形土器を一括

a 隆帯 ＋ 幅広の爪形文、角押文による波状文

b 隆帯上に刻目文

c 角押文（1～2列）

d 口唇上に刻目文、内側に角押文

e 口縁外面に無文隆帯貼付

f 鉢形、太沈線による二重楕円渦巻文

第5群　加曽利E式土器（4類は浅鉢）

1類　口縁、横走撚糸文、渦巻文か隆帯間に沈線の有るもの　　Ⅰ～Ⅱ段階

2類　隆帯（間に沈線）による渦巻文、垂線の有るもの　　Ⅱ段階

a 縄文、撚糸文小片

b 口縁無文　頸部に半截竹管の腹による平行沈線文で直線・曲線、地文撚糸

c 口縁渦巻文 ＋ 無文帯 ＋ 大形懸垂文　地文撚糸

d 楕円区画、接点に渦巻文で突出

e 口縁渦巻文（撚糸）、無文帯無し、垂線　胴下半部条線、撚糸文

f 口縁、半肉隆帯（間に沈線）、横帯区画文、渦巻文、地文撚糸、頸部無文、胴下半部隆帯による懸垂文

g 空番

h 波状口縁 ＋ 大形屈曲文、地文撚糸

3類　隆帯による口縁、楕円区画、中を縦位条線・沈線（棒状沈線の条線）で充填のもの

a 深鉢、口縁隆帯区画、渦巻文、多条縦位太沈線で充填、頸部無文、胴下半部も隆帯による渦巻文、地文撚糸

b 深鉢、小突起上に渦巻文、胴部沈線文

c 深鉢、口縁内湾、楕円区画、口辺に列点文

d a・bの口縁部片

4類　浅鉢

a くの字状に屈曲、渦巻文で区画、区画内棒状沈線

b くの字状に屈曲、渦巻文で区画、区画内条線で充填

5類　縄文・撚糸地文の上に沈線で渦巻文を描くもの

口縁内湾、連結渦巻文

6類　沈線文、破片のもの

a 縄文地文 ＋ 沈線

b 撚糸地文 ＋ 沈線

c 撚糸地文 ＋ 沈線、すり消し、曲線文

d 縄文地文 ＋ 平行沈線文（竹管の腹）　　Ⅰ段階か

7類　縄文・撚糸地文の上に沈線で渦巻文を描くもの

（連弧状渦巻文）　＋ 注口口辺無文、隆帯貼付

8類　無文、隆帯口縁、渦巻文、列点文有るもの有り（小形土器）

a 内湾、無文

b 直立、列点文

9類　その他不明小片

a 隆帯、沈線

b 突起貼付部

第6群　連弧文土器及び連弧文系土器

1類　胴部でくびれ、胴下半部張るもの（深鉢）

a 三段構成、大形	上：弧＋波	中：弧＋波	下：懸垂文	完形
b 二段構成	上：弧＋弧	下：懸垂文		完形
c 二段構成（三段か）	上：弧＋弧	下：弧＋波？	以下欠損	
d 二段構成	上：弧＋弧	下半部欠損		
e 二段構成	上：弧＋枠	下：曲線		
f 二段構成（口縁波状）	上：波	下：∩状＋枠		
g 二段構成	上：波	下：曲線		
h 二段構成	上：弧＋枠	下：懸垂文		
i 二段構成	上半部欠損	下：∩状＋枠		
j 二段構成	上：弧？	下：弧＋十字文＋懸垂文		

2類　胴下半部の張りの少ないもの（深鉢・cは浅鉢）

a 二段構成	上：波＋波	下半部欠損
b 二段構成？	上：弧＋枠＋？	下半部欠損
c 二段構成？	上：弧＋枠	下半部欠損
d 二段構成？	上：弧＋？	
e 二段構成	上：連結渦巻文	下半部欠損、口辺に列点文、突起4箇所

3類　胴下半部のくびれないもの

a 二段構成	上：懸垂状沈線文	下：懸垂文
b 二段構成	上：弧＋？	下：連結沈線文

4類　口辺くの字に屈曲し、胴部張るもの（深鉢）

一段構成	波状文＋枠

5類　破片、文様有るもの

a 弧線文及び波状文	i	口縁片　条線もしくは沈線地文
	ii	胴部片　条線もしくは沈線地文
	iii	胴部片　撚糸地文
b 連結沈線文	i	沈線文　条線地文
	ii	隆帯による条線地文
c くびれ部横走沈線		
d 胴下半部懸垂文	i	胴部片
	ii	底部片
e その他小片		

6類　条線のみのもの

a 条線のみの深鉢（小形）　胴部くびれない

b 条線のみの破片　　i　胴部片

　　ii　底部片

第7群　曽利式（系）土器

1類　香炉形？隆帯、沈線文、大形のもの　　曽利Ⅰ

2類　太い沈線による渦巻文を描くもの

a 口縁無文で開く、胴部に渦巻文　　曽利Ⅰ

b 口縁X字状把手、渦巻文、波線　　曽利Ⅰ

c キャリパー、口縁、渦巻文、無文 ＋ J字状沈線　　曽利Ⅱ

d a～cの不明片

3類　柳目文系統の土器　　曽利Ⅱ～Ⅳ

a 連弧文（口縁、胴部とも）

b 口縁斜行沈線文、口唇にも斜行沈線文、波状隆帯（くびれ部）、胴下半部撚糸文 ＋ 懸垂文

c 胴上半部撚糸地文 ＋ 波線文、くびれ部に波状隆帯、胴下半部撚糸地文、隆帯懸垂文

d くびれ部に刺突列3 ＋ α条、胴下半部条線 ＋ 隆帯懸垂文

e くびれ部隆帯（刻目有り）、胴下半部条線 ＋ 隆帯懸垂文

f 口縁片　　i　口縁無文 ＋ 波状隆帯

　　ii　重弧文、口唇にも斜行沈線有り

　　iii　重弧文、口唇に斜行沈線無し

g 胴部片　　i　条線地文 ＋ 隆帯（懸垂文、波状文）

　　ii　条線地文 ＋ 隆帯（刻目有り）

　　iii　撚糸地文 ＋ 隆帯（刻目有り）

　　iv　縄文地文 ＋ 隆帯（刻目有り）

4類　地文条線、波線（2・3・4条）にて口縁に平行線・渦巻文と懸垂文、渦巻の所が突起となる、口縁やや広がり胴部すぼまるもの　　曽利Ⅱ～Ⅲ

5類　X字把手付大形甕　　曽利Ⅲ

地文粗い条線、隆帯（2列）による連結する渦巻文

第8群　無文土器（時期不詳）

1類　小形深鉢　　加曽利Eか

2類　浅鉢　　加曽利E、勝坂

3類　深鉢、浅鉢の破片、部分片で無文のもの

i　口縁部小片

ii　胴部片

iii　底部片

iv　底部片（網代底）

第9群　地文のみのもの（時期不詳）

1類　縄文　　a 胴部片

b 底部片

2類　撚糸、胴部片

3類　条線、胴部片

第10群　その他不明小片、分類不可（時期不詳）

3．土製品類

第251次調査地区より、ミニチュア土器・耳栓・土製円板が出土し、第264次調査地区より、器台と土偶が出土した。特に土偶は胴部片と右脚部片が出土しており、小形粗成の有脚立体土偶である。胴部片（図面54－8）と右脚部片（図面54－7）は接合しなかったが、胎土の観察から同一個体が破砕した（された）ものであろう。（図面54－9）は胴部片である。いずれも粗い沈線によって曲線や直線の文様が描かれている。同様の例が恋ヶ窪遺跡27・36次調査地区の加曽利E式期の住居から出土しており、該期の特徴的な形態である。

4．石器の分類

1類　尖頭器　　押圧剥離による丁寧な両面調整が施されるもの

2類　石鏃　　a 基部が平基で平面形が三角形を呈するもの

b 基部が「∧」形に抉れ、刃部がやや湾曲するもの

c 基部が「∩」形で深く抉れ、刃部が鋸歯状を呈するもの

3類　石錐　　a 頭部がやや尖るもの

b 頭部が丸味を持つもの

4類　石匙　　a 大形で幅広の刃部を打ち欠きあるいは抉りが入るもの

b 中形で湾曲した刃部、片面に自然面を残すもの

c 小形で直線的な刃部のもの

d 不定形で大形調整剥離片と分類することが可能なもの

5類　スクレーパー　　縦長剥片を横位にして細部調整を施すもの

6類　打製石斧　a 側縁が直線的で刃部に向かって広がるものと平行するもの及び、先端が尖るもの
b 側縁が湾曲または屈曲するもの
c 短小幅広で側縁が湾曲または屈曲するもの
d 欠損のもの
e 小形で寸詰まりのもの
f 小形であるが狭長のもの

7類　磨製石斧

8類　礫器　大形の礫の一端に粗い刃部を付けたもの

9類　叩き石　a 敲打痕が明瞭なもの
b 敲打痕が無いもの、形態より敲石に利用されたものと思われる礫

10類　磨石　a 不整形な磨石
b 円形を基本とするもの
c 凹石、凹部を平坦面の中央付近に1～2個、片面もしくは両面に有するもの
d 抉入磨石、長軸の両端を打ち欠き、抉りを入れたもので、両長側辺が良く磨耗しているほか、両平坦面も磨かれているもの

11類　スタンプ形石器　a 加工を有さないもの
b 1側縁のみ加工するもの
c 両側縁を加工するもの

12類　石皿　平盤でやや厚みの有る楕円形のもの

13類　砥石　平盤で表面に線状の細い溝が有るもの

14類　剥片　a 加工痕の有るもの
b 加工痕の無いもの

15類　石核・残核・原材

16類　不明・その他

遺構名	早期			前期	中期											後期					縄文土器合計	土製品				土製品合計
	撚系文系	押型文系	条痕文系	諸磯	五領ヶ台	神谷原（猪沢）	勝坂			阿玉台	加曽利E	連弧文	曽利	浅鉢	有孔鍔付土器	称名寺	堀之内	加曽利B	不明	時期不明		ミニチュア土器	耳栓	土製円板	土錘	
						添鉢	浅鉢	添鉢	浅鉢	不明																
SI362J								122	3	70	5	192									392	1		2		3
SK916J								2		1											3					
SK918J										3											3					
SK919J												1									1					
SK921J												4									4					
SK922J										2		1									3					
SK923J												1									1					
SK924J										1											1					
SK925J								1											1		2					
SK927J								1	1			1									3					
SK928J										7											7					
SK931J								1				2									3					
SK932J												2									2					
SK933J								5		3		1									9					
SK939J										1		1									2		1			1
SK941J										2		3									5					
SK944J												1									1					
SK946J								1													1					
SK947J								1				1									2					
SK948J								4		10											14					
SK949J												2									2					
SK950J										1		2									3					
SK951J								18		6		10									34					
SK952J					1																1					
SK953J												1									1					
SK955J									1												1					
SK956J								49													49					
SK957J										2											2					
SK959J						1				2		1									4					
SK960J								2		4		6									12					
SK967J										3		4									7					
SK968J								2		9		6									17					
SK974J								4													4					
SK975J								21		3		1									25					
SK980J								1													1					
SK981J												3									3					
P　J								10		10	1	26		1							48					
遺構内小計					1	1		245	5	140	6	273		1						1	673	1	1	2		4
包含層	1				2	20	3	426			86	886			1	8	28	5		497	1963					
遺構外								240			15	682					14	3		409	1363					
遺構不明																				5	5					
遺構外小計	1				2	20	3	666			101	1568			1	8	42	8		911	3331			2		2
合　計	1				3	21	3	911	5	140	107	1841		1	1	8	42	8	1	911	4004	1	1	4		6

第6表　第251次調査 縄文時代出土土器・土製品一覧表

遺構名	早期		前期		中期											後期				土製品				
	撚糸文系	押型文系	条痕文系	諸磯	五領ヶ台	神谷原（谷沢）		勝坂			阿玉台	加曽利E	連弧文	曽利	浅鉢	有孔鍔付土器	称名寺	堀之内	加曽利B	不明	時期不明	縄文土器合計	ミニチュア土器	耳栓	土器台	土製円板	土偶	土製品合計
						深鉢	浅鉢	深鉢	浅鉢	不明																		
SU5												2		1								3						
SU6												5										5						
SK904J								2			1	2										5						
SK907J								2														2						
SK908J								1														1						
SK912J								20				5										25						
SK913J										1		2									4	7						
SK914J																					3	3						
SK915J								2														2						
P J								3		2	1	7										13						
遺構内小計								30		3	2	23		1							7	66						
包含層	1	3	1			17		211	1		9	419	7					2			152	823						
遺構外						1	1	131			3	98						3			91	328						
遺構不明								1				2										3						
遺構外小計	1	3	1			18	1	343	1		12	519	7					5			243	1154						
合　計	1	3	1			18	1	373	1	3	14	542	7	1				5			250	1220						

第７表　第252次調査　縄文時代出土土器・土製品一覧表

遺構名	早期	前期			中期											後期				土製品				
	後半	諸磯	五領ヶ台		神谷原（谷沢）		勝坂			阿玉台	五領ヶ台	勝坂	阿玉台	加曽利E	連弧文	曽利	浅鉢	有孔鍔付土器	称名寺	堀之内	加曽利B	不明	時期不明	縄文土器合計	ミニチュア土器	耳栓	土器台	土製円板	土偶	土製品合計
					深鉢	浅鉢	深鉢	浅鉢																				
S1365J			3	4			98		12		7			133								213	470						
S1366J	1		17	87			969	12	66		216			4200	794	267	154					2304	61	9148			2		3	5
S1366J・367J			1				72	1	1		21			479	2								327	904						
S1366J・370J		1	2				164		2		55			706		1							6	937						
S1370J							14		4					15	1								4	38						
S1371J			1	5			15		2		3			41	1								57	125						
S1372J				3			1		9		4			3									17	37						
S1373J				1										1										2						
SK990J			1	1							2			11										15						
SK991J							1							1										2						
P J			3	6			2							11									5	27						
遺構内小計	1	1	28	107			1336	13	96		308			5601	798	268	154					2304	690	11705			2		3	5
包含層				45			367				56			1477	10	12				4			824	2795						
遺構外			3	23			93		25					335	5	2	19						209	714						
遺構外小計			3	68			460		25		56			1812	15	14	19			4			1033	3509						
合　計	1	1	31	175			1796	13	121		364			7413	813	282	173			4		2304	1723	15214			2		3	5

第８表　第264次調査　縄文時代出土土器・土製品一覧表

遺構名	1類	2類			3類	4類				5類	6類					7類	8類	9類		10類			11類			12類	13類	14類		15類	15類	合計
		a	b	c	a	a	b	c	d		a	b	c	d	e	f		a	b	a	b	c	d	a	b	c		a	b			
SI362J						1					1	3	6	12						2							2	5(3)	29 (8)			61 (11)
SK919J														1															1			2
SK921J						1																							2			3
SK926J						1																							2 (2)			3 (2)
SK928J																													1			1
SK929J							1																									1
SK930J																												1				1
SK931J						1																										1
SK933J						1								1															1			3
SK938J							1																									1
SK939J											1			1															2			4
SK944J												1																				1
SK948J												1									1											2
SK957J																													2			2
SK958J																													1 (1)			1 (1)
SK959J																												1				1
SK968J														1															1			2
SK978J										1																						1
SK979J																							1						3			4
PJ－11																				1												1
PJ－57																													1 (1)			1 (1)
PJ－100																													1			1
遺構内小計						5	2			1	2	5	6	16						3	1		1				2	7(3)	47(12)			98 (15)
包含層					1		1	1			4	23	3	53		1		1	1	17			7	1		2		1	12(2)	112(15)	1 (1)	2	249 (18)
表土他				1								4	3	24						1			9	1			1		9	63(14)		1	120 (14)
遺構外小計				1	1		1	1			4	27	6	77		1		1	1	18			16	2		2	1	1	21(2)	175(29)	1 (1)	3	369 (32)
合計				1	1	5	3	1		1	6	32	12	93		1		1	1	21	1		17	2		2	3	1	28(5)	222(41)	1 (1)	3	467 (47)
類毎合計		1			1	9				1	144							1	9	39				4			3	1	250 (46)		1 (1)	3	467 (47)

（ ）内は黒曜石。　（ ）内は合計に含まれている。

第９表　第251次調査　縄文時代出土石器一覧表

遺構名	1類	2類			3類	4類				5類	6類						7類	8類	9類		10類				11類			12類	13類	14類		15類	16類	不明	合計
		a	b	c	a	a	b	c	d		a	b	c	d	e	f			a	b	a	b	c	d	a	b	c'			a	b				
SK904J			1 (1)	1 (1)		1	3	1																							3 (2)		1	1	12 (4)
SK906J																															1				1
SK908J						1																									2				3
SK913J																								2							1				3
SK914J																		1				1												3	5
SK915J																															1 (1)				1 (1)
PJ－18																														1	1 (1)				2 (1)
PJ－63																															1				1
PJ－70																															1				1
PJ－78																														1					1
遺構内小計			1 (1)	1 (1)		2	3	1										1				1		2						2	11 (4)		1	4	30 (6)
包含層											4	6	11	35	1						4	12	1	20						9 (4)	69 (10)				173 (14)
表土 他												2	2	13								3		4				3		3	16 (7)				46 (7)
遺構外小計	1										4	8	13	48	1						4	15	1	24				3		12 (4)	85 (17)				219 (21)
合 計	1		1 (1)	1 (1)		2	3	1			4	8	13	48	1			1			4	16	1	26				3		14 (4)	96 (21)		1	4	249 (27)
類毎合計	1		2 (2)				6						74					1	4				43					3		110 (25)			1	4	249 (27)

第10表　第252次調査 縄文時代出土石器一覧表

遺構名	1類	2類			3類	4類				5類	6類						7類	8類	9類		10類				11類			12類	13類	14類		15類	16類	合計
		a	b	c	a	a	b	c	d		a	b	c	d	e	f			a	b	a	b	c	d	a	b	c			a	b			
SI365J	1											1	1	4	1						4			5						17	8				42
SI366J	2 (2)	2 (2)		4	1 (1)		2				1	25	15	46	2	1		4		4	2			24				2		19 (2)	512 (297)	7 (7)	7	682 (311)
SI366J-367J														2							1									7 (1)	93 (56)	1 (1)		104 (58)
SI367J												2		2																	3			7
SI368J-367J														6										6						4	35 (11)			51 (11)
SI370J														1																1	1 (1)			3 (1)
SI371J												2																			2		1	5
SI372J												1																			1			2
SK990J														1							2													3
PJ－14																											1							1
PJ－21																															1			1
遺構内小計	3 (2)	2 (2)		4	1 (1)		2				1	31	16	62	3	1		4		4	9			35			1	2		48 (3)	656 (365)	8 (8)	8	901 (381)
包含層												9	6	27	2		1	1		3	1			10						2	174 (46)	1		237 (46)
表土 他										1	1	2	6	22				2	1							1				14 (2)	98 (51)			148 (53)
遺構外小計										1	1	11	12	49	2		1	3	1	3	1			10		1				16 (2)	272 (97)	1		385 (99)
合 計	3 (2)	2 (2)		4	1 (1)		2			1	2	42	28	111	5	1	1	7	1	7	10			45		1	1	2		64 (5)	928 (462)	9 (8)	8	1286 (480)
類毎合計		9 (4)			1 (1)		3						189				1	7	8				55			2		2		992 (467)		9 (8)	8	1286 (480)

（ ）内は黒曜石。　〔 〕内は合計に含まれている。

第11表　第264次調査 縄文時代出土石器一覧表

遺構名	点数	1) 石材			2) 破損度		3) 焼成状況						4) 黒色付着物	5) 全重量 (g)	6) 平均重量 (g)
							砂岩		チャート		その他		有		
		珪岩	チャート	その他	完形	破損	焼成	未焼成	焼成	未焼成	焼成	未焼成			
ブレC坑	4	3	1		4		3			1				100	25
ブレD坑	1	1			1		1							22	22
ブレ坑小計	5	4	1		5		4			1				122	24.4
SI 362J	2	1	1		1	1	1		1					20	10
SK916J	2 (1)		2 (1)		2 (1)				2 (1)				1	129 (113)	64.5 (113)
SK918J	4	1		3	2	2	1				2	1		32	8
SK920J	1	1			1		1							44	44
SK921J	1	1				1	1							10	10
SK928J	5	4		1		5	4				1			31	6.2
SK929J	1	1			1		1							14	14
SK930J	3	1	2			3	2	1						35	11.7
SK931J	8	6		2	4	4	6				2			337	42.1
SK933J	14	11	2	1	4	10	10	1	2		1			238	17
SK939J	1	1			1		1							9	9
SK941J	2	2				2	2							37	18.5
SK944J	2	2			2		1	1						16	8
SK945J	1		1		1				1					152	152
SK946J	3	3			3		3							58	19.3
SK948J	4 (2)	4 (2)			1 (1)	3 (1)	4 (2)						2	68 (34)	17 (17)
SK949J	1	1				1	1							5	5
SK950J	34 (11)	33 (11)	1		2	32 (11)	30 (11)	3	1				11	4323 (1590)	127.1 (144.5)
SK951J	10	9		1	3	7	8	1				1		612	61.2
SK959J	6 (1)	4	2 (1)		2 (1)	4	4		1 (1)	1			1	415 (72)	69.2 (72)
SK974J	1	1				1		1						109	109
SK979J	2	2				2	1	1						29	14.5
P J	21	19	1	1	8	13	17	2	1			1		603	28.7
遺構内小計	129 (15)	108 (13)	12 (2)	9	38 (3)	91 (12)	99 (13)	11	9 (2)	1	6	3	15	7326 (1809)	56.8 (120.6)
包含層	1460 (172)	922 (110)	177 (38)	361 (24)	375 (43)	1085 (129)	477 (85)	445 (25)	74 (34)	103 (4)	211 (19)	150 (5)	172	117011 (17776)	80.1 (103.3)
表土	1201 (183)	469 (124)	181 (28)	551 (31)	410 (57)	791 (126)	335 (109)	134 (15)	156 (27)	25 (1)	366 (30)	185 (1)	183	50771 (13947.5)	42.3 (76.2)
遺構外小計	2661 (355)	1391 (234)	358 (66)	912 (55)	785 (100)	1876 (255)	812 (194)	579 (40)	230 (61)	128 (5)	577 (49)	335 (6)	355	167782 (31723.5)	63.1 (89.4)
総合計	2795 (370)	1503 (247)	371 (68)	921 (55)	828 (103)	1967 (267)	915 (207)	590 (40)	239 (63)	130 (5)	583 (49)	338 (6)	370	175230 (33532.5)	62.7 (90.6)

( ) 内は黒色付着物

第12表　第251次調査 先土器時代・縄文時代出土礫一覧表

遺構名	点数	1) 石材			2) 破損度		3) 焼成状況						4) 黒色付着物有	5) 全重量 (g)	6) 平均重量 (g)
							砂岩		チャート		その他				
		砂岩	チャート	その他	完形	破損	焼成	未焼成	焼成	未焼成	焼成	未焼成			
ブレ坑V層上部	3 (1)	2 (1)	1		2	1 (1)	2 (1)		1				1	1009 (114)	336.3 (114)
ブレ坑小計	3 (1)	2 (1)	1		2	1 (1)	2 (1)		1				1	1009 (114)	336.3 (114)
SS40P	9 (4)	3 (2)	1	5 (2)	1 (1)	8 (3)	3 (2)		1		5 (2)		4	1255 (489)	139.4 (122.3)
SS小計	9 (4)	3 (2)	1	5 (2)	1 (1)	8 (3)	3 (2)		1		5 (2)		4	1255 (489)	139.4 (122.3)
SK904J	1	1			1		1							6	6
SK909J	2 (2)	2 (2)				2 (2)	2 (2)						2	1140 (1140)	570 (570)
SK910J	3	3			3		3							40	13.3
SK912J	9	9			1	8	9							172	19.1
SK913J	143 (30)	110 (23)	18 (3)	15 (4)	7 (3)	136 (27)	107 (23)	3	18 (3)		15 (4)		30	15579 (3656.5)	108.9 (121.9)
SK914J	108 (16)	30 (9)	70 (7)	8	3 (2)	105 (14)	30 (9)		70 (7)		5	3	16	31947 (5963)	295.8 (373.9)
P J	10	7		3	1	9	7				3			390	39
遺構内小計	276 (48)	162 (34)	88 (10)	26 (4)	16 (5)	260 (43)	159 (34)	3	88 (10)		23 (4)	3	48	49274 (10779.5)	178.5 (224.6)
包含層	773 (22)	498 (14)	143 (6)	132 (2)	180 (5)	593 (17)	458 (14)	40	104 (6)	39	55 (2)	77	22	51262 (2694)	66.3 (122.5)
表土	182 (7)	110 (6)	26	46 (1)	57 (2)	125 (5)	110 (6)		19	7	20 (1)	26	7	29920 (16330)	164.4 (2332.9)
遺構外小計	955 (29)	608 (20)	169 (6)	178 (3)	237 (7)	718 (22)	568 (20)	40	123 (6)	46	75 (3)	103	29	81182 (19024)	85 (656)
総合計	1243 (82)	775 (57)	259 (16)	209 (9)	256 (13)	987 (69)	732 (57)	43	213 (16)	46	103 (9)	106	82	132720 (30406.5)	106.8 (370.8)

( ) 内は黒色付着物

第13表　第252次調査　先土器時代・縄文時代出土礫一覧表

遺構名	点数	1)石材			2)破損度		3)焼成状況						4)黒色付着物有	5)全重量(g)	6)平均重量(g)
		砂岩	チャート	その他	完形	破損	砂岩		チャート		その他				
							焼成	未焼成	焼成	未焼成	焼成	未焼成			
プレ坑Ⅳ層	5	2	3		2	3	2		2	1				1007	201.4
プレ坑Ⅲ層	2	1		1	1	1	1				1			31	15.5
プレ坑Ⅱ層	15	15			6	9	14	1						181	12.1
プレ坑小計	22	18	3	1	9	13	17	1	2	1	1			1219	55.4
SI365J	297 (1)	186 (1)	28	83	112 (1)	185	130 (1)	56	21	7	34	49	1	10012 (27)	33.7 (27)
SI366J	2746 (154)	1820 (105)	358 (33)	568 (16)	887 (34)	1859 (120)	1157 (62)	663 (43)	255 (26)	103 (7)	258 (14)	310 (2)	154	70773 (7868)	25.8 (51.1)
SI366J・367J	396 (17)	282 (15)	25	89 (2)	122 (2)	274 (15)	194 (15)	88	19	6	44 (2)	45	17	7392 (707)	18.7 (41.6)
SI367J	18 (4)	11 (4)	2	5	5	13 (4)	10 (4)	1	2		4	1	4	355 (25)	19.7 (6.3)
SI366J・370J	492 (11)	294 (3)	80 (1)	118 (7)	154 (1)	338 (10)	221 (3)	73	54 (1)	26	45 (7)	73	11	8672 (436)	17.6 (39.6)
SI370J	15	13		2	3	12	10	3				2		742	49.5
SI371J	72 (2)	52 (1)	9 (1)	11	12	60 (2)	42 (1)	10	8 (1)	1	2	9	2	1129 (57)	15.7 (28.5)
SI372J	13 (1)	7 (1)	2	4	4	9 (1)	6 (1)	1	1	1	2	2	1	362 (51)	28.5 (51)
SK990J	17	12	4	1	5	12	12		4			1		307	18.1
SK991J	3	3			1	2	3							17	5.7
P J	15	11	2	2	2	13	9	2	2		2			787	52.5
遺構内小計	4084 (190)	2691 (130)	510 (35)	883 (25)	1307 (38)	2777 (152)	1794 (87)	897 (43)	366 (28)	144 (7)	391 (23)	492 (2)	190	100548 (9171)	24.6 (48.3)
包含層	1164 (61)	734 (47)	148 (7)	282 (12)	290 (8)	874 (53)	482 (37)	252 (10)	84 (5)	64 (2)	119 (7)	163	61	33943 (4009)	29.2 (65.7)
表土	606 (47)	382 (27)	61 (4)	163 (16)	126 (9)	480 (38)	284 (24)	98 (3)	43 (4)	18	91 (15)	72 (1)	47	38717 (5074)	63.9 (108)
遺構外小計	1770 (108)	1116 (74)	209 (11)	445 (28)	416 (17)	1354 (152)	766 (61)	350 (13)	127 (9)	82 (2)	210 (22)	235 (1)	108	72660 (9083)	41.1 (84.1)
総合計	5876 (298)	3825 (204)	722 (46)	1329 (53)	1732 (55)	4144 (243)	2577 (148)	1248 (56)	495 (37)	227 (9)	602 (45)	727 (3)	298	174427 (18254)	29.7 (61.3)

( ) 内は黒色付着物

第14表 第264次調査 先土器時代・縄文時代出土礫一覧表

遺構名	土師器						須恵器A							須恵器B						土師質土器			灰釉陶器				緑釉陶器			瓦塔類						土錘	金属製品				炭化物		合計
	坏	椀	小型椀	甕台	甕	不明	坏	皿	椀	壷	甕	瓶	鉢	不明	坏	椀	皿	壷	甕	不明	坏	椀	不明	坏	椀	瓶	壺	椀	瓶	瓦	宇瓦	男瓦	女瓦	塔	鬼瓦	不明	フイゴ	釘	鉄滓	刀子	不明	木片	炭	
SB89						1	1																																				2
SI131	23		16		330	5	227	10	12	22	46	1		11	44					14	43			1	3	3		7		2		24	73			18		1	1		3		3	943
SI355	1				542		86		7	9	1				8			2		7												29	31	1							2		4	730
SI356	26			4	260	9	285		25	49	7	2	1		5											3	1			5	5	36	82			29	1	1	1		2		8	842
SK894							5				2			3	5																	1	2											18
SK896							1			1				2										1																				7
小計	50		16	4	1135	14	605	10	44	81	56	3	1	16	62			2		21	43			1	4	6	1	7		2	5	90	188	1		47	1	2	2		7		15	2542
遺構外	2	10			70		112			8	115			4	44	4		3	1	22	26		3		2	1						58	72		1	24		1	2		1	1	3	590
合計	52	10	16	4	1205	14	717	10	44	89	171	3	1	20	106	4		5	1	43	69		3	1	6	7	1	7		2	5	148	260	1	1	71	1	3	4		8	1	18	3132

第15表　第251次調査　歴史時代出土遺物一覧表

遺構名	土師器						須恵器A							須恵器B						土師質土器			灰釉陶器			緑釉陶器			瓦塔類						土錘	金属製品				炭化物		合計
	坏	椀	小型椀	甕台	甕	不明	坏	皿	椀	壷	甕	瓶	鉢	不明	坏	椀	皿	壷	甕	不明	坏	椀	不明	坏	椀	瓶	壺	椀	瓶	瓦	宇瓦	男瓦	女瓦	塔	鬼瓦	不明	フイゴ	釘	鉄滓	刀子	不明	木片	炭	
SI357A	2				43		64				1				4						10	2										6	3											135
SI357B	4				58		72		1	1	1				45	5					28				2							33	23			16							2	291
Pit					9		14		4		6				12					3	5				2							5	8					1					1	70
小計	6				110		150		5	1	8				61	5				3	43	2			4							44	34			16		1					3	496
遺構外	1	1			29		36				21				15						8	4			1	1					2	9	19			7							4	158
合計	7	1			139		186		5	1	29				76	5				3	51	6			5	1					2	53	53			23		1					7	654

第16表　第252次調査　歴史時代出土遺物一覧表

遺構名	土師器						須恵器A							須恵器B						土師質土器			灰釉陶器			緑釉陶器			瓦塔類						土錘	金属製品				炭化物		合計
	坏	椀	小型椀	甕台	甕	不明	坏	皿	椀	壷	甕	瓶	鉢	不明	坏	椀	皿	壷	甕	不明	坏	椀	不明	坏	椀	瓶	壺	椀	瓶	瓦	宇瓦	男瓦	女瓦	塔	鬼瓦	不明	フイゴ	釘	鉄滓	刀子	不明	木片	炭	
SD205				1	20		34			1	13				12						5				5	3					2	29	18			2					1			146
Pit	1		1		11	1	3			3				4	4																	2				1						1		1	33
小計	1		1	1	31	1	37			4	13			4	16						5				5	3					2	31	18			3					1	1		1	179
遺構外					18		47			1	18			2	25						1				1	3					1	26	35						1			2		17	198
合計	1		1	1	49	1	84			5	31			6	41						6				6	6					3	57	53			3					1	1	3		18	377

第17表　第264次調査　歴史時代出土遺物一覧表

第18表　第251次調査　先土器時代・縄文時代出土遺物一覧（1）

プレ坑　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
第7図 図版1－4 251－FA01	ナイフ形 石器	プレ坑 Ⅴa層 上部	片面縁 加工	黒曜石	(4.5) 2.4 0.6	4.9	縦長剥片を素材としている。打点を基部とする。バルブが発達している。	先端部をわずかに欠損。

SI362J　住居　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
9－4 図版12 251－JE05	深鉢	埋甕炉	38.6 (27.2) －	大形の深鉢。口縁部に2ヶ所の小突起を付す。	口縁部に大胆な貼付隆帯によって玉抱三叉文や抽象文を表出する。頸部は無文。	口縁部のみ残存。焼成良好。5YR 2/2 明灰褐色。緻密。勝坂Ⅲ式。
9－2 図版12 251－JE06	深鉢	覆土 上層	－ (12.2) 7.8	欠損部が多く、全容は不明。	器体全面にRの撚糸文を施す。	胴部下半から底部にかけて残存。焼成良好。5YR4/6 赤褐色。やや粗く、3～4㎜大の砂礫を含む。勝坂Ⅲ式。
9－1 図版12 251－JE07	深鉢	床直	－ (10.6) －	欠損部が多く、全容は不明。	表面の剥落が著しいが、RLの縄文を施文する。縄文のみの粗製土器。	胴部のみ残存。焼成不良。5YR 4/3 にぶい赤褐色。2㎜大の砂粒を多く含む。勝坂Ⅲ式。
9－5 図版12 251－JE08	深鉢	覆土 上層	－ (16.8) 8.2	欠損部が多く、全容は不明。	RLの縄文を器体全面に施文する。原体が短い。	胴部から底部にかけて残存。焼成やや不良。5YR6/3 にぶい橙色。緻密。勝坂式。
9－3 図版12 251－JE09	深鉢	覆土 中層	－ (12.8) 6.3	底部付近がやや膨れるキャリパー形。	Lの撚糸文を施文する。内面丁寧なミガキ。	胴部下半から底部にかけて残存。焼成やや良好。10YR6/2 灰黄褐色。緻密だが3㎜大の砂粒を少量含む。勝坂Ⅲ式。
11－1 図版13 251－JE16	深鉢	覆土 中層	－ (5.4) －	波状口縁。欠損部が多く、全容は不明。	重三角形区画文による三角押文（区画内）。隆帯の交点にひねりもち状の蓋帯、区画内に玉抱文、三叉文を施す。	口縁部破片。焼成良好。5YR5/6 明赤褐色。緻密だが砂粒を少量含む。勝坂Ⅰ（新道新）式。
9－6 図版12 251－JF01	深鉢	床直	23.8 (17.3) －	口縁部に小突起を付す。	口縁部に横S字文を表出し、胴部にはLの深い撚糸文を施文する。	胴部下半及び口縁部1/2を欠損。焼成良好。10YR6/2 灰黄褐色。緻密。加曽利Ⅰ式。
9－7 図版12 251－JF02	深鉢	覆土 上層	10.2 (20.4) －	円筒形の胴部に著しく内湾する口縁部。	口縁部は沈線による波状文と渦巻文を組み合わせる。胴部はLの撚糸文を地文とし、胴部上半、下半を指にて波状にナデる。さらに2ヶ所の突起から連鎖状の蓋帯を貼付隆帯によって表出する。	底部のみ欠損。焼成やや良好。5YR6/3 にぶい橙色。緻密。加曽利Ⅰ式。

第19表　第251次調査　縄文時代出土遺物一覧 (2)

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
9－8 図版12 251－JF04	深鉢	覆土 中層	21.5 30.1 7.4	口縁部が僅かに内湾するキャリパー形。	Rの撚糸文を地文とし、沈線によって胴部を二段に区画し、上部を無文。口縁部は隆帯によって十字状の文様で、部分的に刺突文を施す。	口縁部の一部及び底部付近の一部を欠損。焼成良好。5YR6/3にぶい橙色。1～2mm大の白色砂粒を含む。加曽利EⅠ式。
10－6 図版13 251－JF06	深鉢	覆土 中層	(24.6) (18.5) －	波状口縁の深鉢。4単位の突起で強く外反する。	撚糸Lの地文、口縁部は単沈線文。胴部は半截竹管による文様を施す。	口縁部から底部にかけて1/4残存。焼成良好。10YR7/3にぶい黄橙色。3～4mm大の砂礫、1mm大の金雲母を少量含む。加曽利EⅠ式。

SI362J　住居　土製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
11－7 図版13 251－DA01	ミニチュア 土器	覆土 中層	5.5 3.7 4.6	底部がわずかに丸みを帯びる。	指による整形。	ほぼ完形。焼成やや良好。内外面共に灰黒色。緻密。

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	寸法	備考
11－10 図版13 251－DE01	円板	覆土	径　2.8×2.6 厚み　1.2～1.3 重量　11g	完形。5YR5/8。撚糸文。全周よく摩耗。
11－9 図版13 251－DE02	円板	覆土	径　3.1×2.8 厚み　0.65～0.7 重量　5.8g	完形。7.5YR3/2。3/4周よく摩耗。残りは打ち欠いたままに近い。

SI362J　住居　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
11－13 図版13 251－AG01	打製石斧	床直	6－a	砂岩	14.45 4.5 2.0	139	表面に一部自然面を残すが、比較的丁寧な両面調整で、胴長で幅狭に仕上げる。	完形。
11－14 図版13 251－AG02	打製石斧	覆土 上層	6－b	頁岩	9.9 4.4 2.4	132	やや粗い両面調整で、長方形に仕上げる。断面は分厚い。	完形。
11－15 図版13 251－AG03	打製石斧	床直	6－c	砂岩	9.5 3.7 1.3	53	表面に自然面、裏面に主剥離面を残し、比較的小形、薄手に仕上げる。	完形。
11－19 図版14 251－AG04	打製石斧	床直	6－c	頁岩	8.2 4.8 1.6	71	表面に自然面を残し、表面は全面に粗い剥離。	完形。

第20表　第251次調査　縄文時代出土遺物一覧（3）

SKJ　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
9－12 図版12 251－JE02	深鉢	SK931J 覆土 上層	－ (10.8) 6.0	欠損部が多く、全容は不明。	器体表面の剥落が著しく、全容は不明。	胴部下半から底部にかけて残存。焼成不良。5YR5/2 灰褐色。粗雑で2mm大の砂粒を多量に含む。勝坂Ⅰ（猪沢）式。
10－2 図版12 251－JE03	深鉢	SK980J 覆土 上層	－ (11.8) 8.5	欠損部が多く、全容は不明。	器体表面の剥落が著しいが、曲線を描く貼付隆帯の両側縁に押し引き文を施す。	底部と胴部破片が残存。焼成不良。10YR6/2 灰黄褐色。砂質。勝坂Ⅰ（猪沢）式。
9－11 図版12 251－JE04	深鉢	SK927J 覆土 上層	－ (14.7) 5.8	欠損部が多く、全容は不明。	頸部と胴部の境界に浅い沈線を廻らす。頸部には貼り付けによって細幅文を施文する。	頸部から底部にかけて残存。焼成良好。5YR5/3 にぶい赤褐色。緻密だがやや砂質。勝坂Ⅱ式。
9－10 図版12 251－JE10	深鉢	SK916J 覆土	11.4 17.9 6.9	キャリパー形を呈し、把手を付す。	口縁部は無文。頸部から底部にかけてヒダ状連続圧痕が認められる。胴部には抽象文が11ヶ所表出される。	完形。焼成良好。5YR6/8 橙色。緻密。勝坂Ⅱ式。
9－13 図版12 251－JE11	深鉢	SK947J 覆土 上層	11.6 13.4 7.0	やや胴張りで寸詰まりの小形粗製深鉢。口唇部が肥厚する。	全面にRLの縄文を施文する。口縁部に全周する磨り消し。	口縁部の一部を欠損。焼成やや良好。5YR6/3 にぶい橙色。粗く、砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ式。
9－15 図版12 251－JE12	深鉢	SK956J 覆土 中層	28.2 (27.6) －	内湾する口縁部に1ヶ所の小突起と、大きく上方に立ち上がる1ヶ所の把手。	口縁部は無文。残存部では二段に楕円区画文を配し、枠内に縦位の沈線を施文する。	口縁部から頸部にかけて全周し、胴部以下を欠損。焼成良好。10YR6/2 灰黄褐色。緻密。勝坂Ⅱ式。
9－9 図版12 251－JE13	深鉢	SK975J 覆土 下層	16.5 28.6 6.1	細身のキャリパー形。	口縁部に2ヶ所の把手を付す。縦位区画文を表出し、縦・横位の鋸歯状文と印刻文。さらに貼付隆帯による垂線や曲線上に戳痕を施す。	ほぼ完形。焼成やや良好。5YR5/3 にぶい赤褐色。緻密。勝坂Ⅱ式。
9－14 図版12 251－JE14	深鉢	SK975J 覆土 下層	11.0 19.6 8.1	ほぼ円筒形の深鉢。	器体全面にRLの縄文を施文する。	完形。焼成やや良好。5YR5/4 にぶい赤褐色。2～3mm大の砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ式。
10－1 図版12 251－JE15	深鉢	SK975J 覆土 下層	46.1 43.1 16.6	口縁部に1ヶ所の小突起を付す大形の深鉢。	口縁部は、貼付隆帯による連弧状文と隅丸の三角形文で文様帯を表出する。胴部上半は貼付隆帯によって三角形と逆三角形を表出し、各々の辺に貼付隆帯による円形、あるいは半円形文を付す。口縁部にも胴部にも隆帯に沿って連続爪形文が付され、さらに幅広の角押文がそれに平行する。胴部下半から底部にかけては無文。	ほぼ完形。焼成やや不良。5YR4/3 にぶい赤褐色。2mm大の砂粒を少量含む。勝坂Ⅱ式。

第21表　第251次調査　縄文時代出土遺物一覧 (4)

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
10－7 図版13 251－JE17	深鉢	SK974J 覆土 下層	(23.2) (13.5) -	口縁部が外反する円筒形の深鉢。	地文はRLの粗い縄文。口縁部に円形の突起を付し、そこから胴帯を垂下させ、幅広の角押縦位の単沈線を施す。	口縁部から胴部にかけて一部残存。焼成やや良好。5YR3/3 暗赤褐色。多量の赤色スコリア、砂粒を含む。勝坂Ⅱ式。

SKJ　土製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	幅 器高	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
11－8 図版13 251－DB01	耳栓	SK939J 覆土 上層	1.7 2.0	つづみ形で、中心を貫く小孔あり。	指による整形。	完形。焼成不良。左右が10YR 7/8と10YR2/1とに区分される。粗く、3㎜大の砂粒を多く含む。中心に幅0.4㎝の小孔を貫通する。

SKJ　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
12－4 図版14 251－AD01	掻器	SK978J 覆土 上層	5	チャート	3.2 6.0 0.9	12	縦長剥片の片側に連続する微調整。	完形。刃角25°
11－20 図版14 251－AG05	打製石斧	SK919J 覆土 上層	6－d	砂岩	(9.0) 5.8 2.2	141	片面に自然面を残す。	1/2欠損。
12－3 図版14 251－AG06	打製石斧	SK933J 覆土	6－d	砂岩	(6.0) 5.4 1.8	70		基部のみ残存。
12－5 図版14 251－AG07	打製石斧	SK939J 覆土 下層	6－a	砂岩	13.2 5.2 2.0	166	片面に自然面を残す。やや厚手。	完形。
11－22 図版14 251－AG08	打製石斧	SK939J 覆土	6－d	頁岩	(7.0) 4.9 1.9	79		基部のみ残存。
12－6 図版14 251－AG09	打製石斧	SK944J 覆土 下層	6－b	砂岩	12.2 4.9 1.8	110	両面調整で、刃部がやや幅広で少し尖る。	ほぼ完形。
12－2 図版14 251－AG10	打製石斧	SK948J 覆土 上層	6－b	砂岩	12.4 4.9 1.4	89	片面に自然面を残す。やや薄手。	完形。
12－7 図版14 251－AG11	打製石斧	SK968J 覆土	6－d	頁岩	(6.7) 4.5 1.4	39	粗い両面調整。	刃部先端のみ残存。
11－17 図版13 251－AS02	石匙	SK921J 床直	4－a	ホルンフェルス	7.5 14.0 1.7	100	右側が一部欠損するが、鋭角的で分厚い刃部。刃部中央に浅い抉り。つまみ部は三角形を呈する。	ほぼ完形。大形粗製石匙。刃角50°

第22表　第251次調査　縄文時代出土遺物一覧（5）

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
11－18 図版13 251－AS03	石匙	SK926J 覆土 下層	4－a	頁岩	11.7 12.9 1.8	157	大形で刃部は脱く薄い。つまみ部は大ぶりで丸みを持つ。	ほぼ完形。大形粗製石匙。刃角25°
11－16 図版13 251－AS04	石匙	SK929J 覆土 中層	4－b	粘板岩	6.2 8.3 0.9	38	片面に自然面を残す。横幅は狭く、刃部は大きく湾曲する。つまみ部は大きく、四角形を呈する。	完形。粗製石匙。刃角35°
12－1 図版14 251－AS05	石匙	SK931J SK933J 覆土	4－a	粘板岩	(7.0) 10.9 1.4	99	一部剥落しているが、部分的に磨かれる。	つまみ部欠損。異なる土坑から出土。大形粗製石匙。
11－21 図版14 251－AT01	剥片	SK930J 覆土 下層	14－a	頁岩	9.6 4.7 1.0	53	大きく湾曲する刃部は鎌の様相を呈する。	ほぼ完形。刃角40°

PJ　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
10－3 図版12 251－JF05	深鉢	PJ－149 覆土 上層	(30.0) (17.3) －	両耳の把手を付す鉢か？	口縁部は無文。頸部から胴部にかけてRLの単節縄文を施文する。	口縁部から胴部上半の一部残存。焼成やや不良。10YR7/3 にぶい黄橙色。片並り。やや砂質で、白色砂粒や黒雲母を少量含む。加曽利EⅢ式。

Ⅲb層　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
10－4 図版12 251－JE01	深鉢	Ⅲb層	11.4 (21.6) 6.8	ほぼ円筒形だが、頸部から口唇部にかけてやや膨らみ、外反する。	口縁部中心に角押文の端で隆帯による円形貼付を施す。胴部にヒダ状圧痕。	胴部下半を欠損。焼成不良。10YR5/2 灰黄褐色。砂粒を多く含む。勝坂Ⅰ式。
11－2 図版13 251－JE18	深鉢	Ⅲb層 上面	－ (2.4) －	波状口縁。欠損部が多く、全容は不明。	表・裏面共に極めて丁寧なナデ。口縁部に湾巻状の突起と、重三角、幅広の爪形文を施す。	口縁部破片。焼成良好。5YR4/3 にぶい赤褐色。緻密。勝坂Ⅰ式。
11－4 図版13 251－JE19	深鉢	Ⅲb層	－ (5.5) －	欠損部が多く、全容は不明。	表・裏面共に粗いナデ。	口縁部破片。焼成良好。5YR3/2 暗赤褐色。粗く、2～3mm大の砂粒と金雲母、黒雲母を多量に含む。阿玉台式。
11－3 図版13 251－JE20	深鉢	Ⅲb層	－ (11.7) －	欠損部が多く、全容は不明。	器厚は薄く、ヒダ状圧痕が全面に認められる。	胴部の一部残存。焼成良好。5YR4/3 にぶい赤褐色。粗く、2～3mm大の砂粒、金雲母、黒雲母を多量に含む。阿玉台Ⅰ式。
10－9 図版13 251－JE21	深鉢	Ⅲb層	(14.4) (16.0) －	わずかに口縁部が内湾する円筒形の深鉢。口縁部は肥厚し、内側に粘土紐。	器体全面にRLの縄文を施文する。	口縁部から胴部にかけて1/3残存。焼成不良。5YR5/3 にぶい赤褐色。やや粗く、微小な黒雲母を多量に含む。勝坂Ⅱ式。

第23表　第251次調査　縄文時代出土遺物一覧 (6)

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
10－8 図版13 251－JE22	深鉢	Ⅲb層	(23.2) (10.7) －	波状口縁。欠損部が多く、全容は不明。	表・裏面共に粗いナデ調整。波頂部の下に小突起を付す。	口縁部の一部残存。焼成良好。5YR4/1 灰褐色。粗く、多量の赤色スコリア、1㎜大の砂粒、黒雲母を含む。勝坂Ⅱ式。
10－10 図版13 251－JE23	有孔鍔付土器	Ⅲb層	(25.2) (3.9) －	有孔鍔付土器。欠損部が多く、全容は不明。	表・裏面共に丁寧なナデ。穿孔1ヶ所あり。	口縁部の一部残存。焼成良好。5YR5/1 灰褐色。粗く、2～4㎜大の砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ～Ⅲ式。
10－5 図版12 251－JF03	深鉢	Ⅲb層	(43.6) (39.0) －	欠損部が多く、全容は不明。大形の深鉢。	口縁部は無文。沈線を廻らせて口縁部下を区分し、RLの縄文を地文として、横位の沈線を垂下し、その間を廻り消す。	口縁部から胴部の一部残存。焼成良好。5YR6/4 にぶい橙色。2～3㎜大の砂粒を多く含む。加曽利EⅣ式。
11－5 図版13 251－JG01	深鉢	Ⅲb層 上部	－ (10.2) －	波状口縁の深鉢。	波頂部突起先端に「C」字状貼付文を持つ。頂部に「8」字状の突起。	口縁部破片。焼成やや良好。10YR6/3 にぶい赤橙色。微小な黒雲母を多量に含む。称名寺Ⅱ式。
11－6 図版13 251－JG02	深鉢	Ⅲb層	－ (6.2) －	欠損部が多く、全容は不明。	肥厚させた口縁部に小突起を付す。断面三角形の隆帯。	突起を付す口縁部破片。焼成良好。5YR4/6 赤褐色。粗く、2㎜大の砂粒を多く含む。称名寺Ⅱ式。

Ⅲb層　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
12－8 図版14 251－AC01	石錐	Ⅲb層	3	チャート	(3.3) 2.4 0.8	4.3	やや粗い剥離による頭部調整。錐部はやや扁平なひし形。	錐部を欠損。
12－10 図版14 251－AG12	打製石斧	Ⅲb層	6－a	砂岩	15.1 4.7 1.9	130	表面に自然面を残し、裏面全体に剥離を施し、薄手に仕上げ、刃部端を尖頭状にする。	完形。
12－12 図版14 251－AG14	打製石斧	Ⅲb層	6－b	頁岩	11.4 6.5 2.3	173	表面に一部自然面を残す。全体に大きな剥離を行い、洋梨形を呈する。	完形。
12－9 図版14 251－AG15	打製石斧	Ⅲb層 上部	6－b	頁岩	12.6 4.7 2.7	165	表面に一部自然面を残し、分厚く粗い調整。側面にツブレが明瞭。左右非対称。	完形。
12－13 図版14 251－AG16	打製石斧	Ⅲb層 上部	6－b	頁岩	10.7 4.7 1.55	81	表面に自然面を残し、裏面に主剥離面を残す。やや粗雑な側縁部調整。	完形。
12－14 図版14 251－AG17	打製石斧	Ⅲb層 上部	6－b	頁岩	9.9 6.95 2.1	125	扇形を呈し、表面に自然面を残す。裏面に主剥離面を残す。	完形。
12－15 図版14 251－AG18	打製石斧	Ⅲb層	6－c	凝灰岩	9.1 3.8 1.5	64	表面に自然面を残し、裏面全体に粗い剥離を施す。	完形。

第24表　第251次調査　縄文時代出土遺物一覧（7）

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
12－17 図版14 251－AG19	打製石斧	Ⅲb層	6－c	砂岩	8.4 4.2 0.9	36	表・裏面に主調剥面を残す。薄く粗い調整で、左右非対称。	完形。
12－16 図版14 251－AG20	打製石斧	Ⅲb層	6－f	頁岩	9.9 3.0 1.7	75	表面に自然面を残すが、ほぼ両面調整で挟長。側面にツブレの痕跡が明瞭。	完形。

Ⅲc層　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
12－11 図版14 251－AG13	打製石斧	Ⅲc層	6－a	凝灰岩	15.7 7.6 3.2	450	周面調整で分厚く、やや粗雑なつくり。	完形。

遺構外　土製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	寸法	備考
11－11 図版13 251－DE03	円板	排土	径　(3.7×2.6) 厚み　1.05～1.1 重量　12g	1/2残存。7.5YR2/3。撚糸文。残存部よく摩耗。
11－12 図版13 251－DE04	円板	表土	径　1.8×1.7 厚み　0.55～0.8 重量　1.4g	完形。7.5YR2/3。無文？全周よく摩耗。

遺構外　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
12－20 図版14 251－AB01	石鏃	攪乱	2－c	チャート	3.1 (1.2) 0.4	1.1	胴長で鋸歯状の側縁を呈し、丁寧な両面調整。深い逆V字形の抉りを有する。	左脚部を欠損。
12－18 図版14 251－AG21	打製石斧	攪乱	6－b	頁岩	12.9 4.7 2.0	136	ほぼ両面調整。	完形。
12－19 図版14 251－AG22	打製石斧	排土	6－c	頁岩	8.9 4.0 0.9	37	表面に自然面、裏面に主調剥面を残す。薄く、左右非対称。	完形。

第25表　第251次調査　歴史時代出土遺物一覧（1）

SI131 住居　土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
23－1 図版20 251－PH01	土－坏	カマド 覆土	11.2 3.7 5.5	体部直線的に立ち上がる。器壁厚い。	口縁部ナデ。体部下半に指頭による調整痕残す。底部外面は手持ちヘラ削り。	ほぼ完形。橙褐色。砂粒少ない。
23－2 図版20 251－PH02	土－坏	覆土 中層	－ － －		内面ヘラ磨き。黒色処理。	小片。外面暗褐色。砂粒少ない。体部外面に墨書文字「日」（？）。
23－3 － 251－PH03	土－甕	カマド 覆土	(12.3) (6.8) －	小形。口縁部弱い「>」字状。胴部上半に最大径あり。	胴部上半横及び斜めのヘラ削り。	暗赤褐色。細砂粒多い。
23－4 図版20 251－PH04	土－甕	カマド 覆土	(20.1) (18.2) －	口縁部弱い「コ」字状。胴部上半に最大径あり。	胴部上半外面横、胴部下半縦のヘラ削り。胴部上半内面ヘラナデ。	橙褐色。細砂粒多い。
23－5 図版20 251－PH05	土－甕	覆土 上層	(21.2) (17.5) －	頸部が幅広で、弱い「コ」字状口縁を呈する。胴部上半に最大径あり。	胴部上半横、斜めのヘラ削り。胴部下半縦のヘラ削り。	赤褐色。砂粒多い。
23－6 － 251－PH06	土－甕	覆土 上層	(22.4) (9.0) －	弱い「コ」字状口縁。胴部上半に最大径あり。	胴部上半横及び斜めのヘラ削り。	暗赤褐色。赤色スコリア状物質を含む。
23－7 図版20 251－PK01	須－坏	覆土 下層	12.8 3.95 5.0	体部やや内湾する。	底部回転糸切り。器壁厚い。体部外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	完形。半澄元焔。灰白色～橙灰色。赤色スコリア状物質を若干含む。体部外面に墨書文字「南」。
23－8 図版20 251－PK02	須A－坏	覆土 下層	12.7 4.2 5.6	体部上半若干内湾する。	底部回転糸切り。ロクロ目顕著。口縁部内面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	完形。暗灰色。細砂粒多い。
23－9 図版20 251－PK03	須A－坏	カマド 覆土 中層	10.4 3.45 6.3	体部直線的。器厚あり。	底部回転糸切り。	完形。灰色。細砂粒多い。
23－10 図版20 251－PK04	須A－坏	覆土 下層	11.6 3.45 5.7	体部ほぼ直線的。	口縁部外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	ほぼ完形。青灰色。白色粗粒若干入る。
23－11 図版20 251－PK05	須A－坏	覆土 上層	13.3 3.55 5.5	体部やや内湾し、大きく開く。内面底部と体部との境不明瞭。	底部回転糸切り。	ほぼ完形。暗灰色。砂粒多く入る。
23－12 図版20 251－PK06	須A－坏	覆土 下層	12.6 3.95 5.4	体部若干内湾する。		口縁部1/3欠損。暗灰色（底部周辺のみ赤褐色）。大粒の砂粒やや多い。
23－13 図版20 251－PK07	須A－坏	覆土 下層	12.8 2.95 6.6	体部やや内湾し、外に開く。内面底部と体部との境不明瞭。	底部回転糸切り。口縁下外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部から底部2/3残存。灰色（底部のみ橙灰色）。赤色スコリア状物質少し入る。

第26表　第251次調査　歴史時代出土遺物一覧（2）

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
23－14 － 251－PK08	須A－坏	覆土 下層	(11.5) 3.5 (5.85)	体部やや内湾し、外方に開く。	底部回転糸切り。	口縁部から体部1/2残存。灰褐色。砂粒やや多い。
24－1 － 251－PK09	須A－坏	覆土 中層	(15.0) 5.05 (7.5)	大ぶりの坏。体部は直線的。	底部回転糸切り。	口縁部から底部1/3残存。灰白色。砂粒やや多い。
24－2 － 251－PK10	須A－坏	覆土 上層	(13.7) 4.05 5.6	体部やや内湾し、外方に開く。	底部回転糸切り。	口縁部から底部1/3残存。灰色。大粒の砂粒入る。
23－15 － 251－PK11	須A－坏	覆土 下層	(13.6) 4.0 (6.7)	体部内湾する。	底部回転糸切り。	口縁部から底部1/6残存。青灰色。大粒の砂粒やや多い。
24－3 － 251－PK12	須B－坏	覆土 上層	(10.2) 3.95 (4.9)	体部外面直線的。内面丸みを有する。	底部回転糸切り。口縁下外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部から底部1/4残存。赤褐色。細砂粒多い。
24－4 図版20 251－PK13	須A－皿	覆土 下層	14.9 2.8 6.4	内面底部の平坦部なし。		口縁部から体部3/4残存。灰色。大粒の砂粒若干入る。
24－5 － 251－PK14	須A－瓶	覆土 下層	(15.8) (5.8) －		体部外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部のみ1/6残存。
24－6 － 251－PK15	須A－瓶	覆土 上層	－ (3.1) (8.0)	体部外方に開く。断面三角形の高台を貼り付ける。		底部2/3残存。灰白色。大粒の砂粒多い。高台高0.7cm
24－10 － 251－PK38	須A－瓶	覆土 中層	(9.2) (7.3) －	口縁部強く外反し、口唇部直立する。	内外面ロクロ調整で、特に外面に削り状の条痕が見られる。	口縁部から頸部1/2残存。焼成良好。灰白色。白色砂粒少量入る。静岡産。
24－7 － 251－PL01	土質－坏	覆土 上層	(15.7) 4.9 (6.6)	体部緩やかに内湾する。	底部糸切り離しのまま。	口縁部から底部1/3残存。明橙褐色。砂粒入る。緻密で破断面とろとろ。
24－8 － 251－PN01	灰釉－ 高台付坏	覆土 上層	－ (2.1) 6.1	断面三日月形の高台を貼り付ける。	底部回転糸切り後、高台を付け裾部をナデる。	底部と体部の一部残存。焼成良好。素地灰白色、釉淡緑色。黒色鉱物少し入る。高台高0.5cm
24－9 － 251－PN02	灰釉－瓶	覆土 上層	－ (2.5) －			胴部小片。焼成良好。灰白色。釉濃緑色。砂粒少ない。
24－11 － 251－PP01	緑釉－椀	覆土 上層	(16.0) 3.5 (7.8)	口唇部薄く、若干外反する。断面やや三日月形を呈する高台を付す。		口縁部から底部小片。焼成良好。素地灰白色。釉褐色～緑色。やや軟質。高台高0.5cm
24－12 － 251－PP02	緑釉－椀	覆土 上層	(14.5) (3.75) (7.1)	体部外面下半に稜が付く。断面やや三日月形を呈する高台を付す。		口縁部と底部小片。焼成良好。素地暗灰色。釉灰緑色～緑色。硬質。高台高0.5cm
24－13 － 251－PP03	緑釉－椀 （稜椀）	覆土 上層	－ － －	体部中程に稜を有する。口縁部薄手。体部下半厚くなる。		体部小片。焼成良好。素地灰白色。釉褐色～淡緑色。軟質。

SI131　住居　鐙　瓦　一　覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	直径	内区 中房径 蓮子数	内区 弁区径 弁幅	内区 弁数	外区 幅	外区 内縁 幅	外区 内縁 文様	外区 外縁 幅	外区 外縁 高	外区 外縁 文様	全長	備考
24－15 － 251－KA01	覆土 下層	－	－ －	－ －	－	2.0	1.1		0.9	0.9		(9.5)	小片。灰白色。海綿骨針多く含む。
24－14 図版20 251－KA02	覆土 中層	－	－ －	－ －	－	1.6	0.6		1.0	0.2		(3.6)	小片。外面灰黒色。海綿骨針多く含む。

SI131　住居　男　瓦　一　覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴 凹面 素材	凹面 布目	凹面 特徴	凸面 叩き	凸面 特徴	端面 特徴	備考
25－1 図版20 251－KC01	カマド 覆土 上層	－ 20.8 (18.3)	1.5	－	18×20	側端縁ヘラ削り。	－	側端縁やや幅広くヘラ削り。	広端わずかに剛落とし。	1/3残存。灰色。砂粒多い。
24－16 － 251－KC02	覆土 下層	10.6 － (12.4)	1.7	粘土紐 (巻き上げ)	33×34	端縁ヘラ削り。	－	端縁ヘラ削り。	ヘラ削り。	1/3残存。自然釉かかる。灰褐色～赤褐色。白色細砂粒多い。

SI131　住居　女　瓦　一　覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴 凹面 素材	凹面 布目	凹面 特徴	凸面 叩き	凸面 特徴	端面 特徴	備考
25－2 図版21 251－KD01	覆土 下層	(16.1) (25.3) 37.6	2.3	－	19×17	端縁幅広くヘラ削り。	縄目 L 6本		ヘラ削り。	ほぼ完形。灰色。砂礫多い。
26－1 － 251－KD02	カマド 覆土 上層	(11.5) (18.8) 36.8	2.3	粘土紐	22×18	端縁ヘラ削り。	縄目 L 7本	広端、狭端ヘラ削り。		1/2残存。濃灰色。凹面中央の広端寄りに朱墨書文字（不明）。
27－1 － 251－KD03	カマド 覆土	(5.2) (15.9) 37.2	2.2	粘土紐	18×22	端縁ヘラ削り。	縄目 L 9本	無調整。	ナデとヘラ削り。	1/2残存。赤褐色味帯びる。凹面中央の広端寄りに朱墨書文字（不明）。
27－2 － 251－KD04	覆土 上層	(15.2) － (36.5)	1.9	－	26×29	端縁ヘラ削り。	縄目 (無節) R 13本	側端縁ナデ。	狭端面縄目叩き後部分ヘラ削り。側端面はナデ。	1/2残存。青灰色。
26－2 － 251－KD05	カマド 構築土 崩壊土	－ － (13.6)	2.2	粘土紐	22×18	無調整。	縄目 L 7本	無調整。	ナデ。	1/6残存。凹面中央に朱墨書文字（不明）。
26－3 － 251－KD07	カマド 覆土	－ (16.7) (18.2)	2.5	粘土紐	21×21	端縁わずかにヘラ削り。	縄目 L 8本		ナデ。	1/6残存。凹面中央にヘラ書き文字と朱墨書文字（不明）。
25－3 図版20 251－KD08	覆土 上層	－ － (12.1)	2.4	－	33×37	側端縁ヘラ削り。	縄目 L 8本		ヘラ削り。	1/7残存。灰白色。海綿骨針含む。凹面にヘラ書き文字「児」(?)。

SI131 住居　金属製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	寸法	備考
27－3 図版20 251－MM01	鉄釘	覆土 上層	最大長（3.2） 最大幅（1.15） 最大厚 0.4	重量（処理前）2.5g

SI355 住居　土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
28－1 － 251－PH07	土－甕	覆土 中層	－ （1.3） 《8.4》	胴部内湾する。底部も若干丸底状で、胴部との境には弱い稜が付く。	胴部は横ヘラ削り。底部もヘラ削り。内面胴部から底部にかけ放射状の暗文が僅かに見られる。	底部小片。外面暗赤褐色。内面赤褐色。緻密。
28－2 図版21 251－PH08	土－甕	カマド 構築土 崩壊土	《20.0》 《27.0》 6.0	口縁部弱い「コ」字状を呈するが、肩部がややダレる。	胴部上半は横、斜めのヘラ削り。胴部下半は斜めのヘラ削り。	口縁部から底部1/3残存。赤褐色。細砂粒多い。胴部表面に朱墨書文字「心」（？）。
28－3 － 251－PH09	土－甕	カマド 火床床下	《20.5》 （7.8） －	口縁部「コ」字状を呈する。胴部上半に最大径あり。	胴部上半は横、斜めのヘラ削り。	口縁部小片。赤褐色。細砂粒多い。
28－4 － 251－PH10	土－甕	覆土 床直 構築土	《23.1》 （7.3） －	口縁部大きく湾曲する。	胴部上半は横のヘラ削り。頸部外面に輪積み痕あり。	口縁部小片。赤褐色。細砂粒多い。
28－5 － 251－PH11	土－甕	カマド 火床床下	《19.8》 （7.6） －	口縁部大きく湾曲する。	口縁部内面に輪積み痕が2条あり。胴部上半は横のヘラ削り。	口縁部小片。橙褐色。赤色スコリア状物質多く含む。
28－6 － 251－PH12	土－甕	カマド 構築土 右袖	－ （3.5） 《5.0》		外面は縦のヘラ削り。	胴部から底部破片。赤褐色。細砂粒多い。PH09もしくはPH10の底部か。
28－7 － 251－PH13	土－甕	覆土 中層	－ （2.3） 《5.0》		外面は縦のヘラ削り。	底部1/2残存。赤褐色。砂粒多い。PH05の底部か。
28－8 図版21 251－PK16	須A－坏	覆土 中層	《11.8》 3.3 6.0	体部内湾する。	底部回転糸切り。ロクロ目殆ど見られない。	口縁部から底部3/4残存。灰白色。海綿骨針少量含む。PK26（SI356東カマド構築土）に器形、色調、胎土で共通する。
28－9 図版21 251－PK17	須A－坏	カマド 構築土 崩壊土	12.4 3.7 7.0	底部大きく、体部直線的に開く。	底部回転糸切り。	ほぼ完形。灰色。大粒の砂粒少量入る。
28－10 － 251－PK18	須A－甕	覆土 上層 SI356	《15.3》 6.0 《8.8》	体部内湾する。	底部周辺回転ヘラ削り。体部外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部から底部1/4残存。濃灰色。海綿骨針含む。
28－11 － 251－PK19	須A－壺	覆土 中層	（17.15） （2.15） －	口縁部外に開き折れ曲がる。		口縁部1/3残存。濃灰色～灰色。海綿骨針多量に含む。

SI355　住居　男瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴							備考
				凹面			凸面		端面		
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴		
29－1 図版21 251－KC03	構築土 崩壊土	－ 25.3 (37.4)	1.3	粘土紐 幅狭い	17×24	端縁ヘラ削り。	－	広端縁ヘラ削り。縦のナデ。	ヘラ削り。		狭端部若干欠損。灰色。海綿骨針含む。狭端側麻縄付巻き上げか。
28－12 － 251－KC04	覆土 中層	12.2 － (18.8)	1.3	粘土紐	14×17	両側端縁ヘラ削り。	縄目 L 9本	縦のナデ。両側端縁ヘラ削り。			凹面中央に朱墨書文字(不明)。

SI355　住居　女瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴							備考
				凹面			凸面		端面		
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴		
29－2 － 251－KD09	覆土 中層	－ － (9.1)	2.7	粘土紐	26×29	端縁ヘラ削り。	縄目 L 9本	無調整。	ヘラ削り。		小片。凹面に朱墨書文字(不明)。
29－3 図版22 251－KD10	カマド 構築土 崩壊土	－ 28.6 (21.2)	2.5	粘土板	17×21	両側端縁ヘラ削り。	押型		ヘラ削り。		1/3残存。「荘」の押型。

SI355　住居　塼一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	長辺 短辺 厚さ	素材	成・整形の特徴	備考
29－4 図版22 251－KH01	カマド 構築土	(21.7) 17.0 6.5		表裏面及び長辺側面は、長辺に平行するヘラ削り。短辺側面は、短辺に平行するヘラ削り。ヘラ削り後全面ナデ。	短辺若干欠損。灰褐色。重量(現存)3600g

SI356　住居　土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
30－1 図版22 251－PH14	土－坏	覆土 中層 SI131	(13.4) 4.1 6.8	体部緩やかに内湾する。	体部下半と底部を手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。黒色処理を施す。部分的に被熱している。	口縁部から底部1/2強残存。外面淡赤褐色。赤色スコリア状物質多く含む。北関東系。
30－2 － 251－PH15	土－甕	東カマド 覆土 下層	(21.8) (9.1) －	口縁部幅広く、大きく湾曲する。	外面横ヘラ削り。	口縁部1/2残存。赤褐色。砂粒多い。PH10に似る。
30－3 － 251－PK20	須A－坏	覆土 中層	(12.6) 3.8 6.6	体部直線的に立ち上がる。	底部回転糸切り。	口縁部から底部2/3残存。焼成やや不良。暗赤褐色。細砂粒多い。
30－4 図版22 251－PK21	須A－坏	東カマド 覆土 上層	(11.7) 3.7 (5.8)	体部ほぼ直線的に立ち上がる。	底部回転糸切り離しのまま。	口縁部から底部1/2弱残存。暗赤褐色。砂粒やや多い。

第30表　第251次調査　歴史時代出土遺物一覧（6）

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
30－5 図版22 251－PK22	須A－坏	覆土 中層	12.3 3.95 6.4	体部直線的に立ち上がる。体部下端指押えのため、凹となる。	底部回転糸切り。体部外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部から底部5/6残存。暗灰褐色。白色砂粒多い。
30－6 － 251－PK23	須A－坏	覆土 中層	(12.7) (4.0) －	体部内湾する。		口縁部から体部1/3残存。暗灰褐色。白色砂粒多い。
30－7 － 251－PK24	須A－坏	覆土 上層	(12.2) 4.0 (7.55)	底径やや大きい。器壁厚い。	体部外面（下端）に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部から底部1/3残存。暗灰褐色。海綿骨針少量含む。
30－8 図版22 251－PK25	須A－坏	周溝内	11.5 3.6 5.9	口唇部薄く、体部下半厚い。	底部回転糸切り。	口縁部から底部4/5残存。焼成良好。青灰色。白色砂粒多い。
30－9 図版22 251－PK26	須A－坏	東カマド 構築土	11.6 3.7 6.0	体部大きく内湾する。	底部回転糸切り。	完形。暗灰色。海綿骨針多く含む。
30－10 図版22 251－PK27	須A－坏	覆土 中層	(11.6) (3.0) －			口縁部小片。灰色。海綿骨針多く含む。体部外面に墨書文字「月」(?)。
30－11 図版22 251－PK28	須A－塊	覆土 中層	15.45 6.0 7.85	体部下半内湾する。口縁部はまっすぐに立つ。器壁厚い。鋼鉢の模倣形。	底部回転糸切り。	完形。灰白色。大きな砂粒少し入る。海綿骨針含む。G59窯式期。
30－12 図版22 251－PK29	須A－塊	北カマド 覆土 中層	15.6 6.5 6.0	体部下半内湾し、口縁部はまっすぐに立つ。	底部回転糸切り離しのまま。	口縁部から底部1/3残存。灰白色。白色砂粒少量含む。
30－13 － 251－PK30	須A－塊	覆土 上層	－ (3.0) 6.9	断面方形の高台を付す。	底部回転糸切り後、高台を付す。	体部から底部残存。灰色。海綿骨針多量に入る。高台高0.55cm
30－14 － 251－PK31	須A－鉢	覆土 上層	(17.7) (4.2) －	口縁部はやや幅広い。体部やや内湾する。		口縁部小片。暗青灰色。海綿骨針やや多く含む。
30－15 図版22 251－PK32	須－壺	覆土 中層	17.1 5.3 －	器肉厚い。		1/2強残存。青灰色。礫多く入る。
30－16 図版22 251－PK33	須－壺	東カマド 構築土 崩壊土	－ (3.9) －	ボタン状のつまみを貼り付ける。器肉厚い。		口縁部欠損。半還元焔。淡橙褐色。細砂粒多い。
30－17 図版22 251－PK34	須－壺	覆土 中層	－ (2.5) －			体部小片。灰色。白色砂粒少し入る。内面に墨書痕1ヶ所あり。文字か否か不明。
30－18 － 251－PK37	須－瓶	覆土 上層	(7.8) (3.9) －	口縁部端が強く外反する。		口縁部1/2残存。焼成良好。暗灰色。緻密。
30－19 － 251－PN04	灰釉－ 四耳壺	覆土 中層	－ (8.2) －	断面方形の陸帯を貼り付ける。その上に、上下に孔を貫通させた耳を付す。	突帯以下の外面に平行叩き痕残る。	胴部小片。焼成良好。素地灰白色。釉灰緑色。緻密。

第31表　第251次調査　歴史時代出土遺物一覧 (7)

SI356 住居　男瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴							備考
				凹面			凸面			端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴		特徴	
31－1 図版23 251－KC05	覆土 中層	(9.4) 20.1 37.1	2.0	粘土紐 幅狭い	18×19	広端縁と側端縁幅広くヘラ削り。	－	広端縁と側端縁幅広くヘラ削り。			2/3残存。淡灰色。砂粒多い。

SI356 住居　女瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴							備考
				凹面			凸面			端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴		特徴	
31－2 － 251－KD11	東カマド 構築土	(8.8) － (19.0)	2.25	粘土 縦紐	21×16	側端縁ヘラ削り。	縄目 (無節) L10本	無調整。	側端面ナデ後ヘラ削り。		1/6残存。暗灰色。
31－3 － 251－KD12	東カマド 構築土	－ 29.9 (18.0)	2.05	粘土板	18×20	端縁ヘラ削り。	縄目 L7本	無調整。			1/4残存。砂粒多く含む。
31－4 図版23 251－KD13	覆土 上層	－ － (12.8)	2.7	粘土紐	16×17		縄目 L7本				小片。凹面にヘラ書き文字（不明）。
32－1 － 251－KD14	東カマド 構築土	25.1 － (18.3)	1.6	－	28×29	端縁ヘラ削り。	縄目 L9本	無調整。	ヘラ削り。		1/3残存。海綿骨針含む。広端面にワラ状圧痕あり。

SI356 住居　土製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	寸法	備考
32－2 － 251－TK01	フイゴ (羽口)	覆土 中層	最大長　－ 最大幅　－ 最大厚　(1.9)	赤褐色～灰褐色。胎土に砂粒多い。

SI356 住居　金属製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	寸法	備考
32－3 図版23 251－MM02	鉄釘	床直	最大長　(10.0) 最大幅　(1.25) 最大厚　0.85	重量24.5g

遺構外　土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
32－4 図版23 251－PK35	須A－坏	撹乱	《12.4》 3.7 6.7	体部直線的に立ち上がる。底部大きい。	底部回転糸切り。	口縁部から底部2/3残存。濃灰色。海綿骨針多く含む。
32－5 － 251－PK36	須－坏	表土	《12.1》 3.95 《4.6》	体部内湾する。	ロクロ目顕著。	口縁部から底部1/4残存。濃灰色。海綿骨針多く含む。

遺構外　男瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴								備考
				凹面			凸面			端面		
				素材	布目	特徴	叩き	特徴		特徴		
32－6 図版23 251－KC06	撹乱	－ (14.2) (22.0)	2.0	粘土紐	26×26	側端縁ヘラ削り。広端縁幅広くヘラ削り。	－	両側端縁ヘラ削り。広端縁幅広くヘラ削り。		ヘラ削り。		1/4残存。赤褐色。海綿骨針含む。凸面に押印「父」。
32－7 図版23 251－KC07	表土 (中央 東壁)	－ － (7.0)	1.55	粘土紐	22×33		－	縦方向のナデ。		ヘラ削り。		小片。凸面にシダ類の圧痕あり。海綿骨針含む。

遺構外　熨斗瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
32－8 図版23 251－KE01	撹乱 (南東隅)	－ － (11.8)	1.9	－	20×18	両端縁幅広くヘラ削り。	縄目 L8本	叩き後、縦ヘラ削り。	ヘラ削り。	

第33表　第252次調査　縄文時代出土遺物一覧 (1)

SU5 埋甕　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
36－1 図版28 252－JF01	深鉢	埋甕内	24.8 (17.1) －	口縁部が湾曲するキャリパー形の深鉢。	口縁部に横S字文を連結して施文し、隆帯による横S字文、蛇行文、懸垂文。隆帯の渦巻はLの撚糸文。頸部は無文。	胴部下半を欠損。焼成良好。10YR7/3 にぶい黄橙色。緻密。加曽利EⅠ式。

SU6 埋甕　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
36－2 図版28 252－JF04	深鉢	埋甕内	－ (8.8) 11.3	欠損部が多く、全容は不明。	丁寧なナデ。	底部のみ残存。焼成不良。5YR3/4 暗赤褐色。白色砂粒を多量に含む。無文。

SKJ　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
36－3 図版28 252－JE01	深鉢	SK907J 覆土 下層	12.6 21.0 7.7	口縁部がやや内湾する。胴部が筒形。	口唇部に粘土紐を貼り付け、連続刻目を入れる。器体部にはRL縄文を施す。	口縁部の一部を欠損。焼成やや良好。5YR4/3 にぶい赤褐色。やや粗く、白色砂粒を多く含む。勝坂Ⅰ式。
36－4 図版28 252－JE03	深鉢	SK915J 覆土	12.2 28.1 6.8	円筒形の深鉢。口縁部が四角形に比類する。	胴部LRの縄文。半截竹管状工具の連続爪形文による区画。区画内は印刻状の三叉文、交互刺突文、渦巻状の文様を施す。	ほぼ完形。焼成良好。10YR6/4 にぶい赤橙色。やや粗く、砂粒を多く含む。勝坂Ⅲ式。
36－11 図版28 252－JE07	深鉢	SK904J 覆土 上層	－ (3.4) －	欠損部が多く、全容は不明。	幅の狭い押し引き文、角押文を施す。	胴部破片。焼成良好。10YR6/2 灰黄褐色。極めて粗く、5㎜大の砂礫を含む。勝坂Ⅰ式。
36－12 図版28 252－JE08	深鉢	SK904J 覆土 中層	－ (3.3) －	欠損部が多く、全容は不明。		胴部破片。5YR3/3 暗赤褐色。阿玉台式。

SKJ　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
37－1 図版29 252－AB01	石鏃	SK904J 覆土 下層	2－b	黒曜石	2.3 1.4 0.45	1.1	やや抉りの浅い、断面レンズ状を呈する両面調整。	完形。
37－2 図版29 252－AB02	石鏃	SK904J 覆土 下層	2－c	黒曜石	3.4 (2.4) 0.5	2	丁寧な両面調整で、側縁は鋸歯状。やや幅広で深い抉りを有する。	片脚部を欠損。

第34表　第252次調査　縄文時代出土遺物一覧（2）

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
37－3 図版29 252－AS01	石匙	SK904J 覆土 中層	4－a	結板岩	7.6 (10.8) 1.0	60	刃部右側は一部欠損するものの、左側より鋭角。つまみ部は四角形に調整される。両面調整。	刃部の一部を欠損。大形粗製石匙。刃角40～55°
37－4 図版29 252－AS02	石匙	SK904J 覆土 上層	4－b	砂岩	7.2 8.4 1.2	57	刃部は大きく湾曲し幅広。つまみ部は丸みを持つ。片面調整。	完形。粗製石匙。刃角30°
37－5 図版29 252－AS03	石匙	SK904J 覆土 下層	4－b	安山岩	4.4 7.4 0.8	22	ほぼ左右対称。つまみ部は四角形に調整され、片面には自然面を残す。	完形。粗製石匙。刃角35°
37－6 図版29 252－AS04	石匙	SK904J 覆土 上層	4－b	砂岩	3.4 8.1 0.7	16	刃部が湾曲し、つまみ部は小さく、やや丸みを持つ。両面調整。	完形。粗製石匙。刃角35～40°
37－7 図版29 252－AS05	石匙	SK904J 覆土	4－c	チャート	2.1 2.6 0.5	1.5	小形で両面調整。	完形。粗製石匙。刃角25°
37－8 図版29 252－AS06	石匙	SK908J 覆土 下層	4－a	頁岩	6.0 10.5 1.3	62	裏面に主剥離面を残す。抉り部の左右に細かい調整。	完形。大形粗製石匙。刃角25～40°

PJ　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
36－5 図版28 252－JE02	深鉢	PJ－69 PJ－70 PJ－71	22.2 (17.8) －	欠損部が多く、全容は不明。	口唇部に大きく立ち上がる突起を1ヶ所付し、交互刺突。口縁部に2本の沈線。貼付隆帯によって4ヶ所の楕円区画で文様帯を構成し、枠には連続爪形文、枠内には斜方向の短い沈線を施す。	胴部以下を欠損。焼成良好で内黒。5YR6/8 橙色。緻密だが白色砂粒を少量含む。勝坂Ⅲ式。
36－14 図版28 252－JE09	深鉢	PJ－58 覆土	－ (2.7) －	欠損部が多く、全容は不明。	角押文を施す。	口縁部破片。焼成良好。5YR3/3 暗赤褐色。粗く、砂礫を多く含む。勝坂Ⅰ式。
36－23 図版28 252－JE10	深鉢	PJ－46 覆土	－ (3.4) －	欠損部が多く、全容は不明。	口唇部に刻目、隆線に沿って爪形文を施文する。	口縁部破片。焼成良好。5YR4/3 にぶい赤褐色。粗く、2～4mm大の砂礫を多く含む。阿玉台1式。
36－13 図版28 252－JF05	深鉢	PJ－51 覆土	－ (2.0) －	欠損部が多く、全容は不明。	Lの撚糸文を施す。	胴部破片。焼成良好。5YR4/6 赤褐色。粗く、2mm大の砂粒を少量含む。加曽利EⅠ式。

第35表　第252次調査　縄文時代出土遺物一覧 (3)

Ⅲb層　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
36－15 図版28 252－JC01	深鉢	Ⅲb層	－ (4.2) －	欠損部が多く、全容は不明。	山形押捺文を施文。内面ミガキ。	胴部破片。焼成良好。10YR5/6黄褐色。粗く、砂礫を少量含む。早期中葉。
36－6 図版28 252－JE05	深鉢	Ⅲb層	－ (10.4) 11.0	欠損部が多く、全容は不明。	貼付隆帯による幅広の沈線を施す。	底部の一部のみ残存。焼成やや良好。5YR5/3 にぶい赤褐色。粗く、2mm大の砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ式。
36－7 図版28 252－JE06	深鉢	Ⅲb層	(26.0) (18.8) －		口縁部は抽象文的文様。連続する幅広の爪形文と波状沈線。隆帯による区画で、頸部は楕円文、胴部は波状文。内面のミガキ良好。	口縁部から胴部にかけて一部残存。焼成不良。5YR3/2 暗赤褐色。粗く、砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ式。
36－16 図版28 252－JF06	深鉢	Ⅲb層	－ (4.3) －	欠損部が多く、全容は不明。	口縁部に二段の円形竹管文を施す。細い隆線下には撚糸文を施す。	口縁部破片。焼成やや良好。10YR6/2 灰黄褐色。粗く、赤色スコリア、砂粒を多く含む。加曽利EⅣ式。
36－17 図版28 252－JG01	深鉢	Ⅲb層 上面	－ (3.5) －	欠損部が多く、全容は不明。	横位の2本の沈線の間にLR縄文を施文し、他は磨り消し。	胴部破片。焼成良好。5YR7/2 明灰褐色。緻密。堀之内2式。

Ⅲb層　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
37－9 図版29 252－AA01	尖頭器	Ⅲb層	1	粘板岩	(9.4) 2.0 0.9	15	極めて丁寧な剥離を表・裏面に施し、基部、端部を鋭角的に仕上げ、断面はレンズ状を呈する。	ほぼ完形。
37－10 図版29 252－AG01	打製石斧	Ⅲb層 上面	6－a	砂岩	13.6 5.75 2.1	197	表面に自然面、裏面に主剥離面を有し、側縁部に調整を集中するが、やや左右非対称。	完形。
37－11 図版29 252－AG02	打製石斧	Ⅲb層	6－a	砂岩	16.3 6.7 3.0	367	両面調整で分厚く、大形。	完形。
37－12 図版29 252－AG06	打製石斧	Ⅲb層	6－c	頁岩	10.25 3.35 1.75	52	両面調整で、表面に著しい磨耗痕が認められる。	完形。

Ⅲc層　縄文土器一覧

図面図版遺物番号	種別器形	出土位置	口径器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
36－19 図版28 252－JB01	深鉢	Ⅲc層	－ （3.0） －	垂直に立ち上がる口縁部。	撚糸文（原体は不明）を施文する。	口縁部破片。焼成良好。5YR3/3暗赤褐色。極めて粗く、3mm大の砂粒を多量に含む。早期前半。
36－20 図版28 252－JC02	深鉢	Ⅲc層	－ （4.1） －	欠損部が多く、全容は不明。	条痕文系、機縷を含む。	胴部破片。焼成やや不良。10YR6/3にぶい黄橙色。粗く、砂粒を多く含む。早期後半。
36－18 図版28 252－JE11	浅鉢	Ⅲc層 埋甕付近	－ （8.3） －	口縁部を肥厚。	内・外面丁寧なミガキ。	口縁部破片。焼成良好。5YR5/6明赤褐色。丹塗り。白色砂粒を含む。赤色塗りの痕跡。勝坂Ⅲ式。
36－8 図版28 252－JF02	深鉢	Ⅲc層 埋甕周辺	（30.3） （25.6） －	キャリパー形で口縁部が突起。	口縁部に渦巻状の区画。頸部は無文。胴部は渦巻状の区画で、Rの撚糸文を施す。	口縁部及び胴部下半を欠損。焼成良好。5YR5/3にぶい赤褐色。緻密だが4mm大の砂礫を少量含む。加曽利EⅠ式。
36－9 図版28 252－JF03	深鉢	Ⅲc層 埋甕周辺	－ （18.0） －	やや寸詰まりのキャリパー形の深鉢。	頸部はナデによって無文。胴部との境界は2本の貼付隆帯によって区分される。胴部にはLの撚糸文を地文とし、垂下する蛇行文と直線文を貼付隆帯にて表出している。	頸部から胴部、底部が残存。焼成良好。5YR5/6明赤褐色。やや粗く、砂粒を多く含む。加曽利EⅠ式。

遺構外　縄文土器一覧

図面図版遺物番号	種別器形	出土位置	口径器高底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
36－10 図版28 252－JE04	深鉢	表採	（15.0） （10.9） －	円筒形の深鉢。	口縁部に蛇行隆帯と爪形文。隆帯による三角形の区画に三叉文、隆帯上に交互刺突文を施す。	口縁部から頸部の一部残存。焼成良好。5YR6/2灰褐色。砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ式。
36－24 図版28 252－JE12	深鉢	表土	－ （3.2） －	欠損部が多く、全容は不明。	幅狭の押し引き文を2条施す。	胴部破片。焼成やや良好。5YR3/2暗赤褐色。砂質。勝坂Ⅰ（狐沢）式。
36－25 図版28 252－JE13	深鉢	表採	－ （4.8） －	欠損部が多く、全容は不明。	ヒダ状圧痕。	胴部破片。焼成やや良好。5YR3/2暗赤褐色。砂質。勝坂Ⅰ式。
36－21 図版28 252－JF07	深鉢	撹乱	－ （4.2） －	欠損部が多く、全容は不明。	RLの縄文。磨り消し縄文。	胴部破片。10YR4/2灰黄褐色。加曽利EⅢ式。
36－22 図版28 252－JG02	深鉢	表土	－ （4.3） －	朝顔形口縁の深鉢。	横位2本の沈線の間にRL縄文を施文。他は磨り消し。	胴部破片。焼成良好。10YR6/2灰黄褐色。緻密だが、1mm大の砂粒を含む。堀之内2式。

第37表　第252次調査　歴史時代出土遺物一覧（1）

SI357（A期・B期）　住居　土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
40－1 － 252－PH01	土－甕	SI357(A) 覆土	(15.6) (19.0) 8.0	口縁部短く若干外反し、胴部中位に最大径あり。底部大きい。	口縁部若干横ナデ。胴部外面縦のヘラ削り。内面胴部から底部ヘラ削り。	口縁部から底部1/3残存。赤褐色。細砂粒多い。器肌粗い。ヘラ削り痕良く残らず。
40－8 － 252－PH02	土－甕	SI357(B) 覆土 上層	(19.4) (9.0) －	口縁部弱い「>」字状。	頸部指頭による調整痕残す。胴部上半横及び斜めのヘラ削り。	口縁部1/2弱残存。焼成良好。暗橙褐色。砂粒多く測い。
40－2 － 252－PK01	須A－ 高台付坏	SI357(A) 床下Ⅲb 層上部	(15.5) 5.4 (6.5)	体部緩やかに内湾する。断面方形の高台を付す。	底部に回転糸切り痕を残す。	口縁部から体部1/5残存。灰白色。砂粒少し入る。高台高0.5cm
40－3 － 252－PK02	須B－坏	SI357(A) カマド 覆土	(12.8) (4.9) －.	体部大きく内湾する。	内面のロクロ目顕著。	口縁部から体部1/6残存。暗赤褐色。砂粒多い。
40－4 図版31 252－PK03	須B－坏	SI357(A) 覆土	(12.7) 4.1 4.6	体部やや内湾する。	底部回転糸切り。	口縁部から底部1/2残存。器表面黒褐色、胎土橙褐色。海綿骨針含む。
40－5 － 252－PK04	須B－坏	SI357(A) 覆土 上層	(13.2) (3.6) (5.9)	体部直線的に開く。体部と底部との境不明瞭。	底部回転糸切り。	口縁部から底部1/3残存。橙褐色。細砂粒多い。
40－9 図版31 252－PK06	須B－坏	SI357(B) 覆土	(12.4) 3.6 4.7	体部直線的に外に開く。	底部回転糸切り。ロクロ目顕著。口縁部外面に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部のみ1/2欠損。淡赤褐色。雲母少し入る。
40－10 － 252－PK07	須B－坏	SI357(B) 覆土	(10.2) 3.05 4.2	体部直線的に外に開く。	底部回転糸切り。	口縁部のみ6/7欠損。赤褐色。砂粒多い。
40－11 図版31 252－PK08	須B－坏	SI357(B) 覆土	(13.0) 4.2 4.2	体部大きく内湾する。	底部回転糸切り。体部下半に輪積みもしくは巻き上げ痕あり。	口縁部のみ1/2欠損。橙褐色。砂粒多い。赤色スコリア状物質含む。
40－12 － 252－PK09	須B－坏	SI357(B) 床直	(12.6) 4.0 (3.8)	体部緩やかに内湾する。		口縁部から底部1/3残存。赤褐色。砂礫多い。
40－13 － 252－PK10	須B－坏	SI357(B) カマド上	(12.6) 3.6 (4.4)	体部直線的に開く。		口縁部から底部1/5残存。暗褐色。砂粒少ない。二次焼成受け、器肌粗い。
40－14 － 252－PK11	須B－塊	SI357(B) 覆土	－ (3.1) 8.5	高く、台端が外に「L」字状に張り出す高台部分。	底部糸切り痕残らず。	高台のみ残存。赤褐色。砂粒多い。赤色スコリア状物質含む。高台高1.85cm
40－6 － 252－PL01	土質－塊	SI357(A) 覆土	－ (3.7) 11.8	台端が僅かに外に張り出す。		高台のみ残存。赤褐色。細砂粒入る。赤色スコリア状物質含む。全体に歪みあり。高台高（3.7）cm

第38表　第252次調査　歴史時代出土遺物一覧（2）

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
40－15 － 252－PL02	土質－ 高台付坏	SI357(B) 覆土	(18.85) (5.9) －	体部やや内湾し、大きく外に開く。器壁厚い。	ロクロ目顕著。	口縁部から体部1/5残存。赤褐色。軟質。赤色スコリア状物質含む。外面に黒色付着物。口唇部に刻み目状のキズ（？）がある。

SI357（A期・B期）　住居　男瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴							備考
				凹面			凸面		端面		
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴		
40－7 － 252－KC01	SI357(A) 床直	－ (4.5) (14.8)	1.15	粘土紐	26×23		縄目	板状工具による回転ナデ。	ヘラ削り。		1/8残存。凹面に朱墨書文字(不明)。
41－1 図版31 252－KC02	SI357(B) 覆土	11.9 24.7 37.3	2.2	粘土紐	21×14	無調整。	縄目 7本	板状工具による回転ナデ。	ヘラ削り。		ほぼ完形。灰色。砂礫多い。

SI357（A期・B期）　住居　女瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴							備考
				凹面			凸面		端面		
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴		
41－2 図版31 252－KD01	SI357(B) 床直	(10.9) (23.4) 37.8	2.3	－	27×28	端縁ヘラ削り。	縄目 L11本	無調整。	ナデ後部分ヘラ削り。		1/2残存。青灰色。

第39表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（1）

SI365J 住居　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
50－1 図版39 264－JE01	深鉢	P－1 覆土	－ （8.4） 8.5	欠損部が多く、全容は不明。	胴部文様帯系で、隆帯で区画し、区画文が施される。	底部のみ残存。焼成良好。10YR 7/4 にぶい黄橙色。やや砂質で、2㎜大の白色砂粒を多く黒雲母を少量含む。勝坂Ⅱ式。
50－2 図版39 264－JE02	深鉢	覆土 上層 SI366J	－ （15.6） －	欠損部が多く、全容は不明。	頸部楕円横帯区画文で、枠の間に刺突文を施文し、薄い隆帯。	頸部破片。焼成やや良好。10YR 5/2 灰黄褐色。比較的緻密で、白色砂粒を少量含む。勝坂Ⅱ式。

SI365J 住居　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 （g）	特徴	備考
55－1 図版44 264－AB01	石鏃	覆土 上層	2－c	チャート	（2.3） 1.6 0.4	1.6	やや脚長で逆U字形の抉りを有する両面調整。	先端部を欠損。

SI366J 住居　縄文土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
54－5 図版42 264－JC01	深鉢	覆土 上層	－ （11.1） －	波状口縁。	口縁部、口唇部に3条の連続爪形文。原体は不明縄文。内面は丁寧なミガキ。	口縁部破片。焼成不良。10YR7/4 灰黄褐色。粗く、3～4㎜大の砂礫を多く含む。早期後半。
50－3 図版39 264－JE03	深鉢	覆土 上層	－ （13.2） －	円筒形。	貼付隆帯で棒状単沈線の縦位の平行沈線を区画内に充填。裏面にミガキ。	胴部破片。焼成良好。5YR5/3 にぶい赤褐色。白色砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ式。
50－4 図版39 264－JE04	深鉢	覆土 上層 SI367J	－ （7.0） －	欠損部が多く、全容は不明。	頸部楕円横帯区画文。区画内側に縦位の沈線文を施文する。	頸部文様帯の一部残存。焼成やや良好。5YR6/3 にぶい橙色。砂質で、1～2㎜大の砂粒を多く含む。勝坂Ⅱ式。
50－5 図版39 264－JE05	深鉢	石囲炉 埋甕	－ （26.3） －	口縁部が無文で内消している。	口縁部と頸部、胴部との境界には押し引きを施した貼付隆帯を廻らせ、渦巻文を配し、連続刺突文、胴部にはRLの単節縄文を縦位に施文する。	頸部から胴部上半にかけて1/3残存。焼成やや良好。10YR6/2 灰黄褐色。緻密。勝坂Ⅲ式。
50－7 図版39 264－JE06	深鉢	覆土 上層 SI370J SD205内 P－15	（18.4） （21.9） －	円筒形の深鉢。	縦位区画文、貼付隆帯によって区画した内側に沈線による渦巻文と刻目、列点を施す。	胴部破片。焼成良好。5YR5/6 明赤褐色。緻密だが、2～3㎜大の砂粒を少量含む。勝坂Ⅲ式。

第40表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（2）

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
50－6 図版39 264－JE07	深鉢	覆土 上層 SI367J	(19.2) (14.2) －	円筒形の深鉢。	口縁部から胴部上半は沈線による波状文と三叉文、斜行文、渦巻文、胴部下半は1本の沈線を巡らせて、上半と区画し、RL単節縄文を施文する。	胴部1/2残存。焼成良好。5YR5/3にぶい赤褐色。粗く、砂粒を多く含む。全体に粗雑。勝坂Ⅲ式。
50－8 図版39 264－JE08	浅鉢	覆土 上層	(42.4) (7.8) －		沈線によって渦巻文と楕円文を表出する。	口縁部1/4残存。焼成良好。10YR7/3 にぶい黄橙色。丹塗り。緻密だが、1mm大の砂粒を多く含む。赤色顔料が付着する。勝坂Ⅲ式。
50－9 図版39 264－JF01	深鉢	覆土 上層	(19.4) (8.7) －	キャリパー形を呈すると考えられる。	口縁部には隆帯表出の渦巻文による区画が認められ、区画内には L の縦位の撚糸文が施文される。	口縁部1/2残存。焼成良好。10YR6/4 にぶい黄橙色。2mm大の砂粒を少量含む。加曽利EⅡ式。
50－10 図版39 264－JF02	深鉢	覆土 下層 SI371J	41.2 (24.3) －	口縁部は緩やかに外反する。	口縁部は貼付隆帯によって文様帯と渦巻文を表出し、区画内に撚糸文を施す。胴部は地文に条線を施し、貼付隆帯によって意匠文を表出する。	胴部下半を欠損。焼成良好。5YR7/3 にぶい橙色。砂質で、3mm大の砂粒を多く含む。加曽利EⅡ式。
50－11 図版39 264－JF03	深鉢	覆土 上層 SI367J SI370J	(30.0) (18.8) －	口縁部が緩く湾曲し、頸部で窄まる。	口縁部は貼付隆帯によって文様帯を区画し、表出し、区画内は押し引きによる列点を施文。頸部は広い無文帯で、貼付隆帯によって分境している。胴部は粗いLの撚糸文の地文上に隆帯を垂下している。	胴部下半以下を欠損し、残存部は全周の1/3を欠損。焼成良好。10YR7/4 にぶい黄橙色。白色砂粒を少量含む。加曽利EⅠ式。
50－12 図版39 264－JF04	深鉢	覆土 上層	(49.0) (29.6) －	外反する波状口縁で、頸部から胴部にかけて「く」字状に屈曲する。	口唇部は丁寧なナデを施し、著しく蛇行する貼付隆帯によって区画された内側に L の撚糸文を施す。	口縁部から胴部にかけて一部残存。焼成良好。10YR7/6 明黄褐色。緻密で、2mm大の砂粒を微量含む。加曽利EⅠ式。
51－1 図版39 264－JF05	深鉢	覆土 下層 SI367J SI370J	(34.7) (39.1) －	ほぼ垂直に立ち上がる波状口縁で、頸部で窄まる。	口縁部は貼付隆帯によって長方形の区画を表出し、内側に沈線を施文する。頸部は広い無文帯で、2本の隆帯で分境する。胴部はLの撚糸文を地文とし、垂下する隆帯と横位の「J」字文を隆帯で表出する。	胴部下半を欠損し、残存部はほぼ全周する。焼成良好。10YR8/3 浅黄橙色。緻密で、2mm大の砂粒を微量含む。加曽利EⅠ式。
50－13 図版39 264－JF06	深鉢	覆土 上層	(27.0) (16.3) －	口縁部がやや内湾するキャリパー形を呈する。	口縁部には貼付隆帯によって文様帯を区画し、枠間に竹管状工具による沈線で渦巻文を施文する。区画内は垂下する沈線を施文する。頸部は斜方向の条線を施し、胴部は沈線による渦巻文を施す。内側は丁寧なミガキを施す。	口縁部から胴部にかけて一部残存。焼成良好。7.5YR7/2 明灰褐色。微量な白色粒子と雲母を多く含む。加曽利EⅡ式。

第41表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧 (3)

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
50－14 図版39 264－JF07	深鉢	覆土 下層	(27.0) (7.4) －	著しく内湾する口縁部。	地文に縦位の条線を施し、貼付隆帯によって区画した内側の隆帯際を竹管状工具で太くなぞり、さらにその内側に細い沈線を縦方向に施す。口唇部直下に列点を施す。	口縁部1/3残存。焼成やや良好。2.5Y7/2 灰黄色。3～4mm大の砂粒を少量含む。加曽利EⅡ式。
51－3 図版40 264－JF08	浅鉢	覆土 1層	－ (24.4) 9.7	口縁部から頸部にかけて「く」字状に屈曲し、頸部から胴部にかけて「>」字状に屈曲。	口縁部は無文。頸部は貼付隆帯による文様帯区画で、内側に竹管状工具によって隆帯際に沈線を施し、さらに内側にも細い沈線を縦位に施す。区画の枠周には沈線による渦巻文と、その直上に4～5個の列点を施す。胴部は粗いナデによって調整され、無文。	全体の1/3を欠損。焼成やや良好。10YR8/6 黄橙色。丹塗り。2～3mm大の砂粒を多く含む。加曽利EⅡ式。
51－5 図版40 264－JF09	深鉢	覆土 2層	(16.8) 15.5 9.0	胴部が内湾する、無頸の鉢。	単沈線による渦巻文（唐草文）を配し、RLの単節縄文を施文する。刺先文も見られる。大木の影響。	胴部下半は全周するが、口縁部から胴部上半は1/2を欠損。焼成良好。5YR7/3 にぶい橙色。緻密。加曽利EⅠ式。
51－7 図版40 264－JF10	浅鉢	覆土 上層	(31.4) (25.7) －	口縁部が垂直に立ち上がる浅鉢。	口縁部は無文。頸部と口縁部の境界は貼付隆帯を廻らす。頸部には沈線で9ヶ所の文様帯を区画し、内側に縦方向の細い沈線を施す。区画枠の間には列点を多く施す。胴部から底部にかけて無文。頸部と胴部の境界には貼付隆帯を廻らす。	口縁部及び胴部1/2残存。焼成やや良好。10YR8/3 浅黄橙色。丹塗り。5mm大の小礫をやや多く含む。加曽利EⅡ式。
51－10 図版40 264－JF11	深鉢	覆土 2層	(16.0) (19.6) －	注口土器。	RLの縄文を地文とし、隆帯を付し、それに沿う沈線文、渦巻文、連弧文。扁平な隆帯。	1/3残存。焼成良好。10YR8/4 浅黄橙色。丹塗り。砂質。加曽利EⅡ式。
51－8 図版40 264－JF12	深鉢	覆土 上層	(12.0) (5.1) －	欠損部が多く、全容は不明。	丁寧なナデ調整の後、貼付隆帯によって渦巻文を表出し、隆帯際を竹管状工具でなぞり、強調している。	口縁部1/3残存。焼成不良。5YR 4/3 にぶい赤褐色。2mm大の砂粒と黒雲母を多く含む。加曽利EⅡ式。
51－2 図版39 264－JF13	深鉢	覆土 上層	35.5 43.5 (9.2)	口縁部が開き、胴部中半で一度括れ、胴部下半でやや膨れた後、除々に底部に移行する。	条線地文を表出した後、3本の沈線を口縁部と括れ部、胴部下半に廻らせて、2区画の文様帯を表出し、3本で二段の沈線で胴部上半と胴部下半に弧線文を表出している。弧線の単位は胴部上半は12単位、胴部下半が9単位である。胴部下半から底部にかけて直線状及び蛇曲状の沈線を垂下する。	ほぼ完形。焼成良好。10YR7/6 明黄褐色。やや砂質。連弧文土器。

第42表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（4）

図版番号	種別 器形	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
51－4 図版40 264－JF14	深鉢	覆土上層	(34.4) 35.6 (9.5)	口縁部が開き、胴部中半で一度括れ、胴部下半でやや膨らむ後、除々に底部に移行する。	半截竹管状工具にて条線地文を表出した後、3本の沈線を口縁部と括れ部に廻らせ、さらに胴部上半に3本の沈線を二段廻らせて、8単位の弧線文を表出している。胴部下半には、2本で一組として8単位の沈線を垂下する。	ほぼ完形。焼成良好。2.5YR7/6明黄褐色。やや砂質。連弧文土器。
51－6 図版40 264－JF15	深鉢	覆土上層	29.0 (12.7) －	欠損部が多く、全容は不明。	半截竹管状工具による条線地文を表出した後、3本二段の弧線文を表出している。	口縁部1/2残存。焼成やや不良。5YR3/2 暗赤褐色。1mm大の砂粒を多く含む。連弧文土器。
51－9 図版40 264－JF16	深鉢	覆土上層	(22.4) (17.8) －	口縁部は大きく外反する。	口縁部に3本、括れ部に3本の沈線が廻る。口縁部と括れ部の間には上下二段に3本の弧線文が施される。また、括れ部下にも3本の弧線文が施される。地文は条線である。	口縁部から胴部にかけて全体の1/4残存。焼成やや良好。5YR4/1 灰褐色。やや粗く、白色砂粒を多く含む。連弧文土器。
51－11 図版40 264－JF17	深鉢	覆土上層 SI367J	31.1 (25.0) －	口唇部がやや内湾し、口縁部は外反する。	地文は櫛状工具による細い条線文。口縁部と括れ部に3本の沈線を廻らす。口縁部と括れ部の間には上方に2本の沈線による弧状文が、その下に弧の頂点を意識した隅丸の三角形が沈線によって12ヶ所表出される。括れ部の下には沈線によって渦巻状文が表出される。	口縁部全周と胴部の一部残存。焼成良好。5YR5/3 にぶい赤褐色。緻密だが、白色砂粒を多く含む。連弧文土器。
52－1 図版40 264－JF18	深鉢	覆土1層	29.9 (25.4) －	口縁部は内消し、頸部で窄まった後、胴部上半が比較的大きく膨らむ。	地文は半截竹管状工具による条線で、口唇部直下に細い隆帯を波状に貼り付けて廻らせ、その下に1本の沈線を廻らす。括れ部には3本の沈線を廻らす。口縁部と括れ部の間は3本の沈線で波状文が表出される。胴部には2本の沈線で下向きの連弧文が表出される。	口縁部から頸部にかけてほぼ全周し、胴部下半は欠損。焼成やや良好。10YR8/4 浅黄橙色。白色砂粒を少量含む。連弧文土器。
52－5 図版40 264－JF19	深鉢	覆土上層	(26.4) (27.8) －	最大径が胴部上半にあるが、欠損部が多く、全容は不明。	口縁部と括れ部に3本の沈線を廻らす。口縁部と括れ部の間には、3本の沈線による波状文を施す。胴部上半には沈線による渦巻状文を施文する。地文は半截竹管状工具による条線。	口縁部1/2と胴部下半を欠損。焼成良好。10YR7/2 にぶい黄橙色。砂質で比較的緻密。連弧文土器。
52－7 図版40 264－JF20	深鉢	覆土上層	(31.0) (26.2) －	括れ部直下の胴部上半が肩状に張り出す。	櫛描状の条線文。口縁部に粗雑な連弧文、口縁部から垂下する平行沈線と蛇行沈線を施す。	胴部下半を欠損。焼成良好。10YR6/1 灰褐色。緻密で含有物は微量。連弧文土器。

第43表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（5）

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
52－9 図版41 264－JF21	深鉢	覆土 下層	－ (25.3) 《9.0》	欠損部が多く、全容は不明。	括れ部に2本の押し引きを廻らす。半截竹管状工具による条線を縦方向に施して地文とする。胴部には1～3本の沈線で大雑把な波状文を施文する。	括れ部から底部にかけて1/2残存。焼成やや良好。10YR7/3 にぶい黄橙色。白色砂粒を多く含む。連弧文土器。
52－11 図版41 264－JF22	深鉢	覆土 上層	－ (19.4) －	欠損部が多く、全容は不明。	櫛描状の条線を地文とし、括れ部には細い貼付隆帯と列点を施す。胴部には2本の沈線による弧線文と、3本の沈線を廻らせ、垂縄と蛇行文を施す。内面は炭素吸着により黒色で、研磨されている。	胴部及び括れ部の一部残存。焼成良好。5YR7/3 にぶい橙色。粗く、2mm大の砂粒を多く含む。連弧文土器。
52－13 図版41 264－JF23	深鉢	覆土 上層 SI370J	17.0 (9.0) －	欠損部が多く、全容は不明。	櫛描状の条線を地文とし、口縁部に2本の沈線を廻らせ、2本一組の沈線で波状文を廻らす。表・裏面は丁寧なナデ調整を施している。	口縁部が全周するが、胴部以下は欠損。焼成良好。10YR5/2 灰黄褐色。緻密。連弧文土器。
52－2 図版40 264－JF24	深鉢	覆土 上層	(8.0) (8.3) －	欠損部が多く、全容は不明。	半截竹管状工具による条線を地文とし、沈線による区画帯と連弧文を表出する。裏面は丁寧なナデ。	口縁部破片。焼成やや良好。10YR5/4 にぶい黄褐色。粗く、2mm大の砂粒を多く含む。連弧文土器。
52－3 図版40 264－JF25	深鉢	覆土 上層 SI367J SI370J	(14.4) (6.6) －	欠損部が多く、全容は不明。	櫛描状工具による条線を地文とし、口縁部に2本の沈線を廻らせ、1本の沈線による波状文を施文する。	口縁部3/4のみ残存。焼成やや不良。10YR5/2 灰黄褐色。やや粗く、砂粒を少量含む。連弧文土器。
52－4 図版40 264－JF26	深鉢	覆土 上層	(15.9) (6.7) －	欠損部が多く、全容は不明。	口縁部に3本の沈線を廻らす。RLの縄文を地文とし、2本の沈線による弧線文を施す。	口縁部破片。焼成不良。5YR7/3 にぶい橙色。やや粗く、2～3mm大の砂粒を多く含む。連弧文土器。
52－6 図版40 264－JF27	深鉢	覆土 上層	(40.8) (12.3) －	欠損部が多く、全容は不明。口縁部は波状で、波頂部に把手を付す。	地文は櫛描状の条線で、口唇部には列点を密集させる。1本の沈線による大雑把な渦状文と波状文を施文する。	口縁部破片。焼成不良。5YR3/2 暗赤褐色。2mm大の白色砂粒、雲母を多量に含む。連弧文土器。
52－8 図版41 264－JF28	深鉢	覆土 下層	(22.0) (15.6) －	括れ部がなく、口縁部から胴部にかけて窄まる。	櫛描状工具による条線を地文とし、口縁部に2本、頸部と胴部を区画する3本の沈線を廻らす。さらに沈線による渦巻状文が頸部沈線を挟んで二段に施文される。内面調整は行われていない。	胴部下半を欠損し、口縁部1/2残存。焼成やや良好。5YR3/3 暗赤褐色。極めて粗く、2mm大の砂粒を多量に含む。連弧文土器。
52－10 図版41 264－JF29	深鉢	覆土 上層 SI367J	(27.6) (34.1) 7.1	緩やかな波状口縁で括れ部がなく、口縁部から底部にかけて窄まる。	半截竹管状工具による粗い条線を地文とする。口縁部と頸部に4本の沈線を廻らせ、口縁部には5本の沈線による弧線文、胴部には3本の沈線による波状文と、波状文の波頂から縁り出す短い懸垂文が施される。	口縁部の一部と胴部から底部にかけて残存。焼成不良。10YR7/6 明黄褐色。砂質で粗く、3～4mm大の砂粒を少量含む。連弧文土器。

第44表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（6）

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
52－12 図版41 264－JF30	深鉢	覆土 上層	19.7 16.2 6.3	胴部が短く、壺状を呈する。	口縁部は無文。括れ部と胴部の膨れ部に3本の沈線を廻らす。文様はこの沈線の間に施文され、2本の沈線による波状文と楕円区画を表出する。地文は櫛描状の細い条線である。胴部下半は無文。無文部は比較的丁寧に磨かれている。	ほぼ完形。焼成やや良好。5YR5/3 にぶい赤褐色。丹塗り。緻密であるが、1㎜大の砂粒を多く含む。遠弧文土器。
52－14 図版41 264－JF31	深鉢	覆土 2層	－ （7.9） －	欠損部が多く、全容は不明。	地文はRの撚糸文。3本の沈線による弧線文と、括れ部に1本の沈線及び交互刺突文を廻らす。内面ミガキ。	口縁部破片。焼成良好。10YR7/2 にぶい黄橙色。粗く、2㎜大の砂粒を多く含む。遠弧文土器。
53－1 図版41 264－JF32	深鉢	覆土 上層	（22.6） （22.5） －	僅かに屈曲する口縁部からやや膨らむ頸部に至り、括れることなく底部にかけて窄まる。	櫛描状工具による条線を全面に施し、底部付近のみ丁寧なナデによって調整される。	口縁部から胴部にかけて1/3残存。焼成良好。10YR7/6 明黄褐色。やや内けた胎土で緻密。遠弧文土器。
53－2 図版41 264－JF33	深鉢	覆土 上層 SI367J	17.4 24.5 7.4	口縁部がやや内湾する。	粗製土器。	ほぼ完形。10YR8/4 浅黄橙色。条痕文土器。
53－4 図版41 264－JF34	深鉢	覆土 上層 SI367J	（15.5） 19.0 6.4	僅かに屈曲する口縁部から、括れることなく底部にかけて窄まる。	器面全体に櫛描状工具による細い条線を施す。	ほぼ完形。焼成良好。5YR4/3 にぶい赤褐色。粗く、2㎜大の砂粒を多く含む。遠弧文土器。
53－5 図版41 264－JF35	深鉢	覆土 上層	－ （14.7） －	欠損部が多く、全容は不明。	半截竹管状工具による渦巻文を表出し、括れ部に2本の沈線を廻らす。	口縁部から胴部の一部残存。焼成良好。5YR5/6 明赤褐色。3～4㎜大の砂礫をやや多く含む。曾利式。
53－7 図版41 264－JF36	深鉢	覆土 1層	（8.7） （6.3） －	波状口縁の波頂部にX把手と楕円区画文を表出し、区画内に半截竹管状工具による縦位の沈線を区画する。口唇折り返し部には沈線による渦巻文を表出する。	貼付隆帯によってX把手と楕円区画文を表出し、区画内に半截竹管状工具による縦位の沈線を区画する。口唇折り返し部には沈線による渦巻文を表出する。	口縁部破片。焼成良好。5YR5/4 にぶい赤褐色。粗く、1㎜大の砂粒を多く含む。加曽利E Ⅰ式。
53－6 図版41 264－JF37	深鉢	覆土 下層	－ （10.2） －	欠損部が多く、全容は不明。	地文はLの撚糸文を施し、平行沈線による横位縦位の区画。口唇部直下に無文帯。隆帯に渦巻、内面の口縁部は丁寧なミガキ。	口縁部から胴部破片。焼成やや良好。5YR6/3 にぶい橙色。粗く、砂粒を多く含む。加曽利E Ⅰ式。
53－3 図版41 264－JF38	深鉢	覆土 2層 SI367J	28.5 （21.3） －	口縁部が大きく外傾し、口縁端部が内折する。	口縁部及び胴部に半截竹管状工具による2本一単位の沈線にて、いわゆる重弧文状に表出される。重弧文は垂下する蛇行文と垂線で区画され、口縁部では5個、胴部には5個表出されている。また、頸部には蛇行文が廻り、6個の貼付文を付す。	胴部下半欠損。焼成やや良好。5YR4/1 灰褐色。やや砂質。曾利Ⅱ式。

第45表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧 (7)

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
53－8 図版41 264－JF39	深鉢	覆土 下層	20.0 (7.4) －	口縁部が大きく外傾し、口縁端部が内折する。	口縁部から頸部、括れ部にかけて竹管状工具による斜行沈線が施され、括れ部には貼付隆帯の蛇行沈線が1本巡る。口唇折り返し部の沈線は、斜行沈線と連接している。	胴部以下を欠損。焼成良好。10YR5/2 灰黄褐色。やや粗く、白色砂粒を多く含む。曽利Ⅱ式。
53－9 図版41 264－JF40	深鉢	覆土 上層 SI366J内 P－47	－ (18.5) －	口縁部がやや内湾し、頸部が括れる。	沈線による重弧文。頸部と蛇行する貼付隆帯と垂下する隆帯、円形の隆帯を貼り付け、細い竹管で施す。地文はLの撚糸文。	1/3残存。焼成良好。5YR5/3 にぶい赤褐色。白色砂粒を多く含む。曽利Ⅱ式。
53－10 図版41 264－JF41	深鉢	覆土 上層	－ (12.8) －	欠損部が多く、全容は不明。	櫛描状工具による条線を地文とし、括れ部には貼付隆帯を押し引きにてキャタピラ状に表出して巡らせる。胴部には蛇行文を貼付隆帯にて12本垂下する。	口縁部及び胴部下半は欠損。残存部はほぼ全周する。焼成やや不良。10YR8/4 浅黄橙色。砂質で極めて粗く、2～6mm大の砂粒を多く含む。曽利Ⅱ式。
53－11 図版41 264－JF42	深鉢	覆土 上層	22.3 25.5 7.9	4ヶ所の波頂を持つ朝顔形の波状口縁で、括れることなく底部に移行する。	口縁部に沿って3本の沈線を巡らせ、波頂部に渦巻文を施文する。さらにそれぞれの渦巻文から垂下する4本一組の沈線と、波頂間には2本一組の沈線による蛇行文が垂下する。地文は櫛描状工具による細い条線。	ほぼ完形。焼成良好。10YR7/6 明黄褐色。粗く、2mm大の砂粒を多く含む。連弧文のくずれ。
53－14 図版42 264－JF43	深鉢	覆土 上層 SI367J SI370J	43.8 59.4 8.8	大形で口縁部に最大径を持つ。頸部で括れ、胴部上半でやや膨らむ。	口縁部は無文。頸部には5ヶ所の把手を付し、胴部から底部にかけて条線を地文とした上に、貼付隆帯による渦巻状の意匠文を表出する。	胴部を一部欠損するもほぼ完形。焼成良好。10YR8/6 黄橙色。砂質で緻密。曽利Ⅱ式。
53－12 図版42 264－JF44	浅鉢	覆土 上層 SI366J内 P－3・4 SI367J SI370J	36.5 (22.7) －	口縁部はほぼ垂直な浅鉢。	表・裏面共に丁寧なミガキ。	底部及び胴部の一部欠損。焼成良好。5YR5/6 明赤褐色。丹塗り。1mm大の砂粒を極めて多量に含む。無文。
53－17 図版42 264－JF45	浅鉢	覆土 上層	(32.2) (12.5) －	口縁部がやや外反する浅鉢。	表・裏面共に極めて丁寧なミガキ。	口縁部から胴部にかけて一部残存。焼成良好。5YR5/6 明赤褐色。内黒。粗く、2～5mm大の砂粒を多く含む。無文。
53－15 図版42 264－JF46	深鉢	覆土 上層	(37.6) (8.6) －	欠損部が多く、全容は不明。	口唇部を肉状に貼り付けて肥厚させ、内側に張り出させる。表・裏面共に極めて丁寧なナデによって磨かれる。	口縁部の一部のみ残存。焼成良好。5YR7/4 にぶい橙色。丹塗り。緻密。無文。
53－16 － 264－JF47	浅鉢	覆土 上層 SI366J内 P－90	(21.5) (1.8) －	浅鉢の口縁部。	丁寧なミガキ。	口縁部1/2残存。焼成やや良好。10YR8/3 浅黄橙色。丹塗り。やや粗く、1mm大の白色砂粒を多く含む。無文。
53－13 図版42 264－JF48	深鉢	覆土 上層	(16.0) (16.6) －	欠損部が多く、全容は不明。	外面は比較的丁寧なナデ。内面はやや粗いナデ。	口縁部から胴部の一部残存。焼成良好。5YR7/3 にぶい橙色。砂質で緻密。無文。

第46表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（8）

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
54－1 図版42 264－JF49	深鉢	覆土 下層 SI366J内 P－21	(37.2) (5.3) －	欠損部が多く、全容は不明。	口唇部を肥厚させ、表・裏面は粗いナデ。	口縁部のみ残存。焼成やや良好。5YR5/6 明赤褐色。極めて砂質で、1～2mm大の砂粒を少量含む。無文。
54－3 図版42 264－JF50	浅鉢	覆土 下層	(28.6) (11.7) －		口唇部をやや肥厚させ、表・裏面にミガキ。	口縁部から胴部にかけて1/4残存。焼成良好。10YR8/3 浅黄橙色。丹塗り。砂質で比較的緻密。赤色塗りの痕跡。
54－2 図版42 264－JF51	深鉢	覆土 下層	－ (5.8) (8.4)	欠損部が多く、全容は不明。	欠損部が多く、全容は不明。	底部のみ残存。焼成やや良好。5YR6/4 にぶい橙色。砂質で緻密。無文。
54－4 図版42 264－JE09	深鉢	覆土 下層	(16.3) (16.0) －	釣り手土器。	頸部に板状の隆帯と単沈線による鋸歯状の文様。裏面には隆帯を「S」字状に貼り付け、その上に単沈線を施す。内面は粗い削りの後ミガキ。	頸部の一部残存。焼成良好。5YR4/6 赤褐色。緻密。粒子は殆どない。勝坂Ⅲ式。

SI366J　住居　土製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
54－6 図版43 264－DD01	器台	覆土 上層	(18.4) 10.5 (23.0)	欠損部が多く、全容は不明。	透かしが入り、全体に丁寧なナデ。	全体の1/4弱残存。焼成良好。10YR7/6 明黄褐色。粗く、2～3mmの砂礫を多く含む。

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	寸法	備考
54－7 図版43 264－DF01	土偶	覆土 上層	最大長　3.2 最大幅　2.5 厚み　0.7	右足部破片。5YR3/4 足裏面から脚部内側にかけて赤褐色、その他は暗褐色。細砂粒を含む。脚部外側から足の甲の外側まで（暗褐色の範囲にほぼ重なる）は平滑にナデ調整し、ミガキがかかっている。胎土、色調、ミガキの3点より見ても、板状土偶とは趣を全く異にする。現存高2.5cm、脚部径1.6～1.7cm
54－8 図版43 264－DF02	土偶	覆土 上層	最大長　(3.8) 最大幅　4.7 厚み　1.8	小形省略形で、上半身欠損。焼成やや良好。7.5YR5/6 白色砂粒を多く含む。胴部より臀部にかけてハート形に広がる。正、背面に沈線により山形や平行の文様が表出される。
54－9 図版43 264－DF03	土偶	覆土 上層	最大長　(1.9) 最大幅　2.3 厚み　1.7	小形省略形で、胴部破片。焼成やや良好。5YR2/4 白色砂粒を少量含む。ナデによって調整し、沈線による平行、円形の文様が表出される。

SI366J　住居　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
55－2 図版44 264－AH02	石鏃	覆土 1層	2－a	黒曜石	2.2 1.8 0.6	1.6	ほぼ正三角形を呈する。抉りのない両面調整。	完形。

第47表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧 (9)

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
55－3 図版44 264－AB03	石鏃	覆土 上層	2－a	黒曜石	1.9 1.5 0.7	1.5	分厚く、やや粗雑な剥離による両面調整。抉りはない。	完形。
55－4 図版44 264－AB04	石鏃	覆土 上層	2－b	黒曜石	2.15 1.5 0.3	0.7	幅広で逆V字形の抉りを有する両面調整。	完形。
55－5 図版44 264－AB05	石鏃	覆土 上層	2－c	石英	1.8 1.4 0.4	0.5	緩やかな弧状の側縁を呈し、逆U字形の抉りを有する、比較的雑な両面調整。	完形。
55－6 図版44 264－AB06	石鏃	覆土 上層	2－c	黒曜石	(2.3) 1.5 0.4	1.0	鋸歯状の側縁で、二等辺三角形を呈する両面調整。	先端部と左脚部を欠損。
55－7 図版44 264－AB07	石鏃	覆土 3層	2－c	安山岩	3.3 1.7 0.4	2.4	表面に主剥離面を残し、緩やかな弧状の側縁。浅い逆U字形の抉りを有する。	完形。
55－8 図版44 264－AB08	石鏃	覆土 上層	2－c	チャート	2.5 1.9 0.4	1.1	正三角形を呈し、丁寧な両面調整で浅く幅広い抉りを有する。	完形。
55－9 図版44 264－AC01	石錐	覆土 上層	3	黒曜石	(2.9) 2.7 1.0	5.0	丁寧な剥離による頭部調整で、錐部はひし形を呈する。	錐部を欠損。
55－10 図版44 264－AG02	打製石斧	覆土 上層	6－a	砂岩	14.7 6.5 2.0	216	表面に自然面を残し、裏面に主剥離面を残す。	完形。
55－11 図版44 264－AG03	打製石斧	覆土 下層	6－b	砂岩	9.8 4.5 1.7	95	表面に自然面を残し、裏面全体に剥離を施す。	完形。
55－12 図版44 264－AG05	打製石斧	覆土 1層	6－b	砂岩	10.9 6.9 2.2	168	表面に自然面を残し、側面からの調整で基部と刃部を区別する。表面に主剥離面を残す。	基部の裏面が割落。
55－15 図版44 264－AG06	打製石斧	覆土 上層	6－b	砂岩	(11.5) 6.7 3.3	275	表面に自然面を残し、側面からの調整で刃部をやや幅広に作り出す。全体的に分厚い。	刃部端の一部を欠損。
55－14 図版44 264－AG07	打製石斧	覆土 下層	6－b	砂岩	12.3 6.0 2.5	181	表面に自然面を残す。左右非対称で、特に右側縁の調整が著しい。	完形。
55－13 図版44 264－AG09	打製石斧	覆土 下層	6－b	頁岩	11.4 4.6 1.2	73	表面に自然面、裏面に主剥離面を残し、比較的雑な両側縁調整によって整形する。	完形。
55－17 図版44 264－AG11	打製石斧	覆土 1層	6－c	砂岩	10.0 4.4 1.9	75	表面基部に自然面を残すが、ほぼ両面調整。左右非対称。	完形。
55－16 図版44 264－AG12	打製石斧	覆土 上層	6－c	砂岩	8.3 6.1 1.8	95	表面に自然面を残し、基部は方形で刃部は扇状に広がる。	完形。
56－1 図版44 264－AG13	打製石斧	覆土 下層	6－c	砂岩	8.7 5.9 2.1	120	表面に摩耗痕を残し、裏面は全面調整。左右非対称で右刃部を再調整。	完形。

第48表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（10）

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
56－2 図版44 264－AG14	打製石斧	覆土 2層	6－c	ホルンフェルス	9.4 6.5 3.2	243	表面の一部に自然面を残し、断面が分厚い。	完形。
56－3 図版44 264－AG16	打製石斧	覆土 上層	6－c	ホルンフェルス	9.2 4.6 2.0	95	表面に自然面を残し、基部はやや尖頭状で刃部は直線。	完形。
56－6 図版44 264－AG18	打製石斧	覆土 上層	6－f	砂岩	8.8 3.5 1.8	61	全体的に尖頭状でほぼ全面調整。上下が明瞭ではない。	完形。

SI367J　住居　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
56－5 図版44 264－AG19	打製石斧	P－1 覆土	6－b	頁岩	11.1 4.3 1.95	100	表面に一部自然面を残し、刃部が著しく摩耗する。	完形。

SI371J　住居　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
56－4 図版44 264－AG21	打製石斧	覆土	6－b	砂岩	12.1 6.6 1.6	129	表面に自然面を残す。横長剥片の周縁に刃部調整を加える。左右非対称。	完形。
56－9 図版44 264－AG22	打製石斧	覆土 下層	6－b	砂岩	9.6 5.4 1.4	89	表面に自然面を残す。裏面に主剥離面を残し、左側縁がやや抉れる。	完形。

SD205　溝　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
56－14 図版44 264－AG30	打製石斧	南側 構築土	6－b	砂岩	10.1 5.3 1.8	85	表面基部付近に自然面を残す。基部は尖頭状で、刃部はやや広がる。	完形。

Ⅲb層　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
56－8 図版44 264－AG23	打製石斧	Ⅲb層	6－b	砂岩	11.9 4.9 1.9	134	表面に自然面を残す。表面に主剥離面を残し、刃部先端を極めて薄く仕上げる。	完形。

第49表　第264次調査　縄文時代出土遺物一覧（11）

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
56－10 図版44 264－AG24	打製石斧	Ⅲb層	6－b	頁岩	12.8 4.2 2.1	120	両面調整で、基部が尖頭状を呈する。	完形。
56－7 図版44 264－AG25	打製石斧	Ⅲb層	6－c	頁岩	8.4 6.3 1.95	90	表面に自然面を残し、基部は丸みを帯び、刃部は扇状に広がる。	完形。
56－11 図版44 264－AG26	打製石斧	Ⅲb層	6－c	頁岩	8.8 3.9 1.4	60	表面に自然面を残し、周辺部に刃部調整を行う。基部がやや尖る。	完形。
56－12 図版44 264－AG27	打製石斧	Ⅲb層	6－e	頁岩	5.45 4.1 1.0	25	表面に自然面を残し、基部は方形で、刃部は扇状に広がる。	完形。
56－13 図版44 264－AG28	打製石斧	Ⅲb層	6－e	頁岩	(5.2) 4.0 1.05	26	両面調整で小形。	基部を欠損。

遺構外　石器一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	分類	石材	最大長 最大幅 最大厚	重量 (g)	特徴	備考
56－16 図版44 264－AG29	打製石斧	排土	6－a	砂岩	18.5 6.0 2.5	312	表面に自然面を残し、裏面に主剥離面を残す。側縁部調整は丁寧で、大形に仕上げる。	表面刃部が剥落。
56－15 図版44 264－AG31	打製石斧	表土	6－b	頁岩	11.0 4.5 1.7	92	表面に自然面を残す。裏面に主剥離面を残すが、刃部に左右からの大きな剥離で仕上げる。	完形。

SD205 溝　土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
58－1 － 264－PH01	土－甕	南側	(12.8) (4.7) －	頸部弱い「>」字状を呈する。	胴部上半横ヘラ削り。	焼成不良。暗灰褐色。砂粒少ない。
58－2 － 264－PH02	土－甕	南側	－ (2.1) (8.4)	外に強く張り出す高台。		高台のみ残存。橙褐色。赤色スコリア状物質含む。高台高1.2cm
58－3 － 264－PK01	須A－坏	南側	(16.2) 5.3 (7.0)	体部内湾し、口唇部外反する。	底部回転糸切り。ロクロ目顕著。	口縁部から底部1/8残存。淡灰色。白色砂粒多く含む。
58－4 － 264－PK02	須B－ 高台付坏	南側	－ (2.3) 7.0	断面が台形状の高台を付す。	底部回転糸切り。	高台のみ5/6残存。赤褐色。大粒の砂粒多い。高台高0.6cm
58－5 － 264－PN01	灰釉－瓶	南側	15.7 4.9 (7.4)	体部下半大きく内湾する。断面しっかりした三日月状の高台を付す。	底部中央に糸切り痕を残す。釉のかかりが悪く、一見素地のままに見える。	口縁部から底部1/4残存。焼成良好。素地灰白色。釉淡緑色。砂粒少ない。静岡産。G25窯式期。9世紀後半代。高台高0.7cm

SD205 溝　男瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴							備考
				凹面			凸面		端面		
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴		
58－6 図版46 264－KC01	南側	－ 19.9 (8.4)	2.0	粘土紐	14×17	両側端縁ヘラ削り。広端縁幅広くヘラ削り。	－	両側端縁ヘラ削り。回転ナデ。	広端若干隅落とし。		

SD205 溝　金属製品一覧

図面 図版 遺物番号	種別	出土 位置	寸法	備考
58－7 図版46 264－MH01	刀子	南側	最大長　(14.0) 最大幅　(1.7) 最大厚　0.5	重量処理前11.5g

遺構外　土器一覧

図面 図版 遺物番号	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
58－8 図版46 264－PK03	須－坏	表土	(14.6) 5.2 6.0	体部大きく内湾する。口縁部のみ若干外反する。	口唇部内側に浅い沈線が巡る。	口縁部から底部1/2残存。半微化焔。赤褐色～灰白色。砂粒少量入る。
58－9 － 264－PK04	須A－坏	表土	－ (4.3) (6.7)	体部緩やかに内湾する。	底部回転糸切り。	体部から底部1/2残存。灰白色。砂粒少ない。

第51表　第264次調査　歴史時代出土遺物一覧 (2)

遺構外　男瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
58－10 － 264－KC02	表土	－ － (7.3)	1.5	粘土紐	30×28		－	板状工具による回転ナデ。		凹面に朱墨書文字（不明）。

遺構外　女瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
58－11 図版46 264－KD01	新規溝 埋め土	－ － (12.0)	2.2	－	29×28		縄目 L10本			凹面に模骨文字「上」(逆字)。

Ⅵ 小 結

1．多喜窪遺跡A地点の概要

本報告の各調査区は、いずれも多喜窪遺跡A地点に所在することは前述した。多喜窪遺跡は、恋ヶ窪遺跡と並んで国分寺市内の縄文時代遺跡として古くから知られていた遺跡である。恋ヶ窪遺跡が恋ヶ窪谷を中心として集中的に集落が確認されているのに対し、多喜窪遺跡は第8図に示したように、国分寺崖線に沿って検出される遺跡群であり、A・B・C・Dの4地点に区分されている。これらの地点区分は必ずしも集落の範囲やその時期を限定して線引きされた範囲ではなく、中心的な規模の発掘調査と採集資料によって区分されている。大まかに各地点の時期を見ればA地点は中期中葉から後期初頭、B地点は早期を中心とし、C地点は早期から中期前半、D地点は現在のところ早期から中期前半までで遺構・遺物とも散発的で特に主体とする時期は無いが崖線際の斜面部の様相を将来的に明らかにすることを目的に設定された。

A地点は、国分寺市西元町二・三丁目に所在し、現府中街道を挟んで国分寺崖線上の武蔵野段丘面に広がる。崖線下は野川源流域に当たる黒鍬谷に面し豊富な湧水に恵まれている。既往の調査において特記されるのは昭和24年の多喜窪遺跡第1号住居調査である（第10図）。当該住居からは中期末葉の土器群が出土し（第11図）、A地点の標識遺構・遺物となった。なお、これらの土器群を含む一括遺物は昭和50年に国指定重要文化財に指定された。また、多喜窪遺跡A地点に位置している武蔵台東遺跡（第9図）は平成4～7年に調査された。調査面積は17,194.97㎡に及び、竪穴住居77軒、埋甕34基等を検出した。早期から後期にかけての集落であり、崖線上に濃密に広がる集落の様相が看取される。本報告の各地点の様相もまたこうした集落の一部分に当たると考えられる。よって小結では特に土器の観察と編年的位置付けを行い、該期の集落群との比較材料としたい。

2．多喜窪遺跡A地点出土の縄文時代中期の土器について

今次調査地点では縄文時代早期～後期の少量の土器片、縄文時代中期の土器としては五領ヶ台・貉沢（神谷原）・新道式や阿玉台Ⅰ式が見られるが断片的な資料に止まり、量的に多いのは勝坂Ⅱ式期以降の土器であった。今のところ遺物の出土量などから見れば、確実な集落の開始時期は勝坂Ⅱ式期以降と考えられる（註1）。第264次調査地区は現府中街道と武蔵野線に挟まれた段丘上に位置し、縄文時代中期後半の住居跡が検出された。当調査地区から南西方向

数十m程の距離には、南に張り出した台地上から斜面地にかけて府中市「武蔵台東遺跡」（西野・山本他 1999）が隣接する。「武蔵台東遺跡」の西側は地形的には南北方向に入り込む黒鐘谷によってその西方の「武蔵台遺跡」とは画されるが、北東側で当調査地区に連なる。縄文時代中期後半～終末の集落としては、当調査地区と本来一連の集落であった可能性が濃厚である（当調査地区のSI366]とほぼ同時期の住居跡が7～8軒調査されている）。第251・252次調査地区は府中街道の東側の段丘上に位置し、縄文時代中期前半と中期前半末～中期後半初頭の住居跡と同時期の土坑などが比較的まとまって検出されている。特に第251次調査の北隣地の第140次調査では中期前半の土坑群が集中して見いだされ（付編参照）、中期前半を主とした集落のほぼ中心域が調査されたものと考えられる。土坑の多くはその在り方から見て、従来的な表現を用いれば、「定型的な環状集落」の中央部に群集する墓坑または貯蔵穴とされてきた遺構群である。かつての吉田格氏調査地点＝勝坂Ⅲ式土器の「多喜窪タイプ」を含む国重要文化財一括指定資料（第11図）の出土した中期前半末の住居跡、中期後半の住居跡（吉田 1952、国分寺市 1986）は当調査地区の東側約150m程に位置するが、その間の発掘調査例に乏しく今回の調査地区の集落跡の一続きとなるのかは明確ではない。

第251次調査地区出土土器

当調査地区では主として中期前半末葉の住居跡（SI362J）と土坑出土の纏まった土器がある。住居跡SI362Jは勝坂式最終末のキャリパー形土器（JE05）を炉体に用い、覆土に横S字文やクランク文系の加曽利E式最古段階の土器（JF01、04）を混えることから、勝坂～加曽利E式の過渡的段階の時期であることは疑いないであろう（勝坂Ⅲ式末、新地平編年9c期）。炉体に使用されたJE05は口縁部に太い隆帯区画と沈線により玉抱三叉文・渦巻文を配するタイプで武蔵野台地を中心に分布するものである。JF02は小形の土器で、内湾する口縁部に加曽利EⅠ式に見られるような沈線による波状文が配され、一方で胴部には隆帯による懸垂文と太目の暗文による横位の波状文を配した、他でもあまり類例を見ない特異な構成の型式である。JF06は強く外反し、狭い口縁部文様帯を持ち、胴部には平行沈線で文様を表出するタイプで、大木式系とされる型式である。本住居跡には伴わなかったが、同様な文様構成で胴部が丸く膨らむ壺形の器形も同時期には普通に見られる。本住居跡には他に新道式（6b期）の小破片（JE16）なども混在している。

土坑出土土器には、幅広押引文（キャタピラ文）を多用した抽象文土器（JE10）や載痕を用いたパネル文（縦位区画文）の古相を示す個体（JE13）、縄文粗製土器（JE11・14）、SK975JのJE15のような押引文系の新道タイプなどが見られる。これらはいずれも勝坂Ⅱ式のやや古手（藤内Ⅰ式併行、新地平編年7a～b期）（註2）の時期に相当するであろう。本期の土坑に埋置される土器には、小形筒形の土器が選定される傾向があるが（SK916J・947J・975J出土土器等）、各

土坑毎に墓坑の副葬品として埋納されたものであろうか。SK956J出土のJE12は藤内Ⅱ式（新地平編年８a期）の多段楕円区画文系土器である。中期前半の土坑に埋納された小形土器や大形石匙の在り方は多摩地域では他に八王子市神谷原遺跡などと共通性が見られる。当調査地区では他に加曽利E式終末の土器（JF03）もわずかに見られることから至近に当該期の住居跡が存在するのであろう。

第252次調査地区出土土器

当調査地区では勝坂Ⅱ式（新地平編年７ｂ期）、勝坂Ⅲ式（新地平編年９a期）と加曽利EⅠ式（新地平編年10ｂ期）などの土器が見られるが、現況では土器型式上の連続性は見られない。

子細に見ると第251・252次調査地区土器群は勝坂Ⅱ式の古手と、勝坂Ⅲ式～加曽利EⅠ式の古手の時期に途絶し、その間の型式的な断絶を認めざるを得ない。

第264次調査地区出土土器

当調査地区では７軒の住居跡が確認されたが、特に調査地区北寄りで検出された住居跡SI366Jより中期後半中葉（加曽利EⅡ式期）のまとまった土器群が出土している。本住居跡は覆土内より50個体以上の半完形～大形破片など多量の土器が出土した。遺物分布図によると、比較的住居跡内で万遍なく破片が接合する状況が伺われ、集落内での廃絶住居跡を利用した廃棄場として機能していたと考えられよう。SI366Jは中期前半土器（新地平編年９a期）の破片（JE02～08）や加曽利EⅠ式（JF03～05）など先行する型式を混在するものの、連弧文土器または同系列の深鉢を主体とし、曽利Ⅱ式（JF38～41・43）とわずかながらの加曽利EⅡ式系（JF02）、加曽利E・曽利系折衷タイプ（JF06）に鉢、浅鉢が伴う組成である。JF09・11は渦巻文 ＋ 剣先文を配した壺形の土器で、大木８b式系であろうか。本住居跡の時期は加曽利EⅡ式段階（東京・埼玉編年1980　第Ⅳ段階、新地平編年1995　11c期）である。本時期は当地周辺では加曽利E系が影を潜め、連弧文土器が組成の大半を占めるような在り方がよく知られている。本住居跡の土器群は一部の中期前半期の土器を除外して、一応他はほぼ同時期に属する土器であろう。国分寺市内では他に恋ヶ窪遺跡５号住居跡でも連弧文系主体の同様な状況が伺える（秋山 1979 など）。連弧文土器は比較的単純な文様にも関わらずモチーフと地文の組み合わせが多種多様であることが知られている。また沈線による弧状文の表現は連弧文より波状文がより後出な文様として見られる傾向に在るが、本住居跡の資料で見る限り、連弧文と波状文による表現が同一個体に見られることから（JF13）、一概に単一系列的に時間差と認識するのではなく、やはり文様の系統差を反映していると考えるのが妥当であろう。ただ本住居跡の連弧文土器の口縁部には鋸歯状の交互刺突列を施したものがほとんど見られないこと、胴部文様に逆Ｕ字状文や渦巻き状の懸垂文が付加される例（JF17～19・21・29）が目立つことから、やや新しい様相を示しているかも知れない。なお連弧文自体が施されないJF28・42も連弧文

系の１つのタイプである。本住居跡のごとく曽利系土器としては重弧文土器など以外で曽利Ⅱ～Ⅲ式の大形品である「X字状把手付大甕」（JF43）が伴う例は西多摩地域を除き、多摩川中流域左岸の武蔵野台地側の遺跡ではさほど多くはない。本地域では、恋ヶ窪遺跡をはじめとして連弧文土器盛行期（11c期）にはいずれも一定量の曽利式（系）を伴っており、その成立には直接的な関与が想定される。SI366Jの中には口縁部付近に刺突文を施した個体（JF20・27）も見られ、本資料などは曽利式の中でも山梨方面の「曽利縄文系」とされるグループや曽利式口縁部文様に見られる渦巻つなぎ弧文との類似性が感じられる。本地域の11c期に見られる連弧文土器、または「連弧文崩れ」の土器や「連弧文類似」土器（註３）の中には、加曽利E式には見られなかった交互刺突文や列点文・短沈線を充填文的に用いる場合が多々ある。

本住居跡には好例が見られないが、器形の上から見ても、「連弧文類似」土器には頸部が括れ口縁が外傾する、連弧文系と曽利式の折衷した様な形態も見られる。そのような面から見ても多摩地域で発展した連弧文土器については、「曽利c・y②型」と呼称される多摩地域の在地化した曽利系土器を介して曽利縄文系に祖形を求める見解は留意されよう（黒尾 1995）。

また近年連弧文土器群を加曽利E式より分離させ、「恋ヶ窪式」として独自の一型式として呼称しようという試案も提示されている（小林 2000）。なお、当調査地区の住居跡SI366Jからは勝坂Ⅲ式の釣手土器の破片（JE09）が出土している。

まとめ

今次の複数箇所の調査により、多喜窪遺跡（A地点）は武蔵野段丘上に位置する、縄文時代中期前半～後半ないしは中期末葉までの集落跡であることがほぼ確実となった。とくに東半は中期前半～後半の初頭、西半は府中市域の「武蔵台東遺跡」に連なる中期後半～末葉を中心に展開する２つの別の集落跡である可能性も見えてきた。従来的な見地から見れば、本遺跡は「拠点的な大規模集落」に相当するものであろう。しかし本資料を近年の細分された土器型式期に充てて振り分けた時に、必ずしも集落として長期に亘り途絶なく営まれていたとは断言できない状況をも示す。あるいは、「多喜窪遺跡」付近が早くから宅地化され全掘されていないために、欠落する時期がまだ未調査地区に存在しているのか現状の調査成果のみでは言及することができない。また近年調査が実施された「武蔵台東遺跡」など、近接する集落間で頻繁な移動が行われていたのかも知れない。少なくとも同一地点が中期全般に亘って間断なく継続的に「拠点集落」として維持されていたかどうかは、今後の調査を見据えてから検討する余地はあろう。いずれにせよ当調査地区とその周辺地域は、多期に亘って竪穴住居跡や土坑などの居住痕跡が残されており、縄文中期の拠点的集落の一部であったことは否定できない。

（中 山）

Ⅵ 小 結

（註１）本遺跡の佐藤敏也氏採集資料には勝坂Ⅰ（新道）式土器の半完形個体が見られ、集落の開始時期の上限は若干遡るかも知れない（国分寺市史 1986 P205）。

（註２）時期細分は文献４による。本書は1986年段階で刊行される予定であったが諸般の事情により遅れた。その間に土器型式の細分研究が目まぐるしく進展し、本書に所収された土器群についても再検討の必要が迫られ、近年の時期細分の研究成果に照らして見直しているのでご了解願いたい。

（註３）斉一的な「連弧文土器」以外にも、連弧文土器に共通する文様＝地文に沈線・条線を用い、円形の突起、隆帯（無調整の粘土紐貼り付け）や沈線による絡行懸垂文などを施した一見すると曽利式にも類似した要素で構成されるグループをそのように呼称したい。隆帯が剥脱するなど施文が粗放である例が目立つ。当地域でも見られるが、西多摩地域が分布の中心と考えられる。

参考引用文献

1　秋山遺生　1979「恋ヶ窪遺跡調査報告書Ⅰ」　国分寺市教育委員会・恋ヶ窪遺跡調査会

2　安孫子昭二・秋山遺生・中西充
1980「東京・埼玉における縄文中期後半土器の編年試案」　神奈川考古10　神奈川考古同人会

3　黒尾和久　1995「縄文中期集落遺跡の基礎的検討（１）」「論集宇津木台」第１集
宇津木台地区考古学研究会

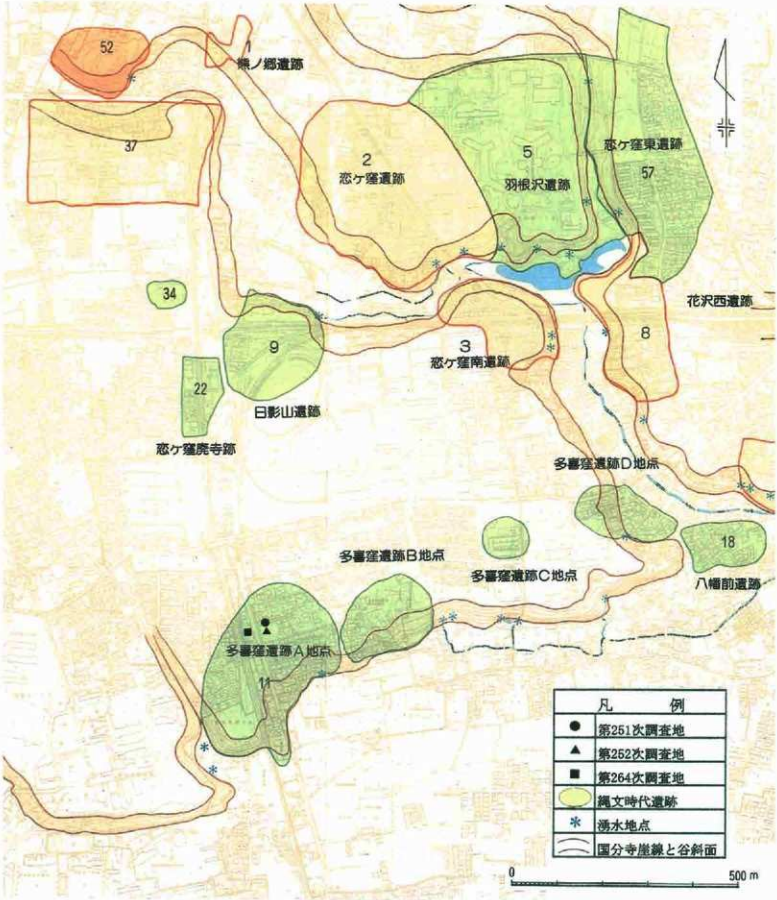
4　黒尾和久・小林謙一・中山真治
1995「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」「縄文中期集落の新地平シンポジウム発表要旨・資料」　縄文中期集落研究グループ

5　小林謙一　2000「土器型式編年論　中期」「縄文時代」10　縄文時代研究会

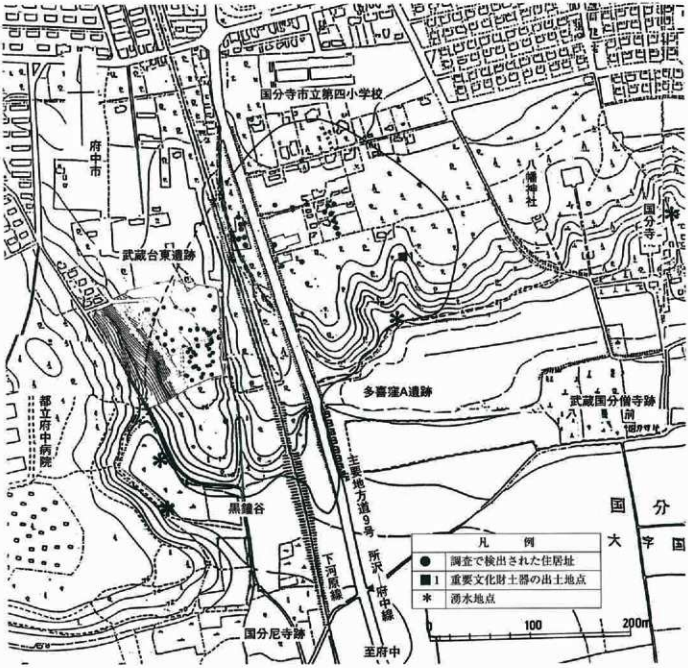
6　国分寺市　1986「国分寺市史　上巻」　国分寺市史編さん委員会

7　西野善勝・山本典幸　1999「武蔵台東遺跡」　都営川越道遺跡調査会

8　吉田格　1952「東京都国分寺町中期縄文式竪穴住居址調査概要」「武蔵野」32巻３・４号
武蔵野文化協会（「関東の石器時代（東京都滝久保遺跡）」1973再録）

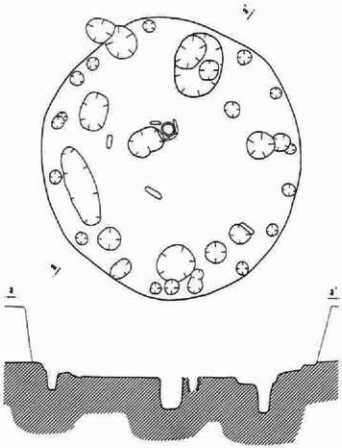


第8図　国分寺市内の先史時代遺跡

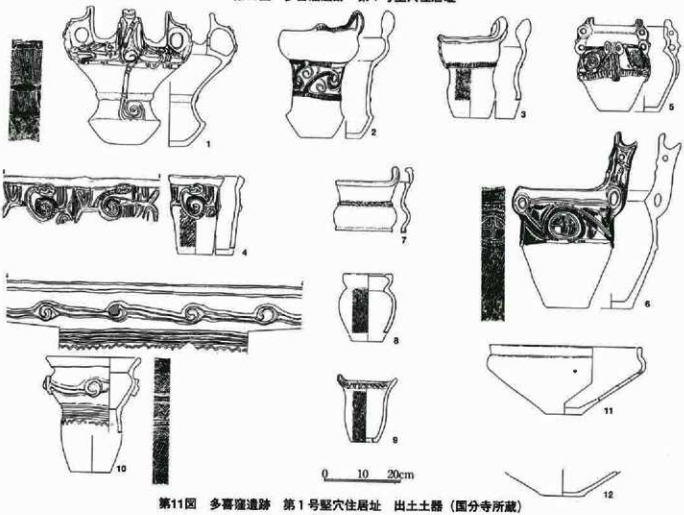


第9図　多喜窪遺跡A地点　全体図

（昭和28年作成　東京1：3000地形図に修正加筆）



第10図　多喜窪遺跡　第１号竪穴住居址



第11図　多喜窪遺跡　第１号竪穴住居址　出土土器（国分寺所蔵）

Ⅵ 総　括

本書は昭和57年から62年にかけて、武蔵国分寺跡および多喜窪遺跡内で開発が計画された4ヶ所の共同住宅建設工事に伴う事前調査の発掘調査報告書である。調査地は、国分寺崖線の武蔵野段丘上に位置し、歴史時代においては武蔵国分僧寺北方地区にあたり、縄文時代においては多喜窪遺跡A地点にあたる地域である。多喜窪遺跡A地点については、特に国の重要文化財に指定された縄文時代中期の土器群が出土した地域であるが、これまでまとまった報告書が刊行されていなかったため、本報告書が最初の報告となる。

最初に調査成果について述べる。旧石器時代は集石1基が検出され、ナイフ形石器1点が出土した。縄文時代の遺構は竪穴住居8軒、屋外埋甕2基、土坑84基、小穴315個が検出され、早期の撚糸文・押型文・条痕文系土器群、前期の諸磯式。中期は、五領ヶ台式・狢沢式・勝坂式・阿玉台式・加曽利E式・連弧文・曽利式の土器群。後期の称名寺式・堀之内式・加曽利B式期の土器群が出土した。さらに多様な石器群および集石が散布した結果であろうか、大量の焼けた礫が出土した。歴史時代の掘立柱建物跡2棟、柱穴列1条、竪穴住居4軒、溝1条、土坑2基、小穴31個である。これらの中で中心となる時期は縄文時代中期の勝坂式・阿玉台式・加曽利E式期である。

特に数多く検出された土坑群の性格についても興味深い知見を得た。埋葬遺構との即断は避けているものの、土坑内覆土の堆積状況から人為的な埋戻しが行われた可能性や、粗製の大形石匙が出土していること。さらに複数の土坑から出土した石匙の破片が接合する事など。遺跡の性格を考察する上でも重要な資料であろう。また、第264次調査で検出されたSI366J住居跡からは大量の土器が出土しており、接合関係についても貴重な資料が得られた。

今後の課題としては、本調査地区の西側に位置する「武蔵台東遺跡」との関連についても注目されたい。出土遺物の傾向との関連から、多喜窪遺跡A地点の時代は中期前半から後半、ないしは中期末葉までの集落であることがほぼ確定されたが、「武蔵台東遺跡」では中期後半から末葉の時期があてられている。確かに、国分寺崖線に沿って縄文時代中期の集落が広がり、いわゆる「拠点的な大規模集落」の様相を呈しているが、このような状況から判断すると、中期前半～後半、ないしは中期末葉までの集落である多喜窪遺跡A地点と、武蔵台東遺跡では中期後半～末葉の集落である武蔵台東遺跡のやや時期を違えた集落が存在していた可能性が指摘されよう。

良好な自然環境を背景として、より安定的な定住化の結果、当該地区においての縄文時代中期の集落が恒常的に営まれ「拠点的な大規模集落」が形成されて行ったのか、これからの周辺地区の成果報告と比較しながら検討して行きたい。

（調査団長　吉田　格）

参 考 文 献

武蔵国分寺跡関連報告書

コ　国分寺市　1986『国分寺市史　上巻』

国分寺市遺跡調査団　1988『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸⅡ－昭和50～53年度公共下水道面整備に伴う調査－』国分寺市文化財調査報告第27集

1989『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸⅤ－昭和53年度公共下水道面整備西元町地区３号工事に伴う調査－』国分寺市文化財調査報告第30集

1990『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸⅥ－国分寺市公共下水道面整備南部地区18号工事に伴う調査－』国分寺市文化財調査報告第31集

1994『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸ－国分寺市公共下水道面整備南部地区19号工事に伴う調査－』

1996『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸⅠ－国分寺市公共下水道面整備西元地区５・６号工事に伴う尼寺西・南方地区他の調査－』

1998『武蔵国分寺跡発掘調査概報ＸＸⅡ－国分寺市公共下水道面整備南部地区15号工事他に伴う調査－』

ム　武蔵国分寺遺跡調査団　1985『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅶ－北方地区・国際電信電話株式会社国分寺寮建設に伴う調査－』国分寺市文化財調査報告第19集

恋ヶ窪遺跡関連報告書

コ　恋ヶ窪遺跡調査団　1979『東京都国分寺市　恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ』国分寺市文化財調査報告第8集

1980『東京都国分寺市　恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ』国分寺市文化財調査報告第11集

1982『東京都国分寺市　恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ』国分寺市文化財調査報告第14集

1984『花沢東遺跡－都営国分寺南町三丁目団地建設に伴う調査－』国分寺市文化財調査報告第17集

国分寺市遺跡調査団　1987『恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報Ⅰ－都営国分寺第８都営住宅建設に伴う調査－』国分寺市文化財調査報告第24集

1988『東京都国分寺市　恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅳ』国分寺市文化財調査報告第25集

1990『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅰ－山一証券国分寺独身寮建設に伴う調査－』

1991『国分寺市No.37遺跡調査概報Ⅰ－都道17号線整備工事に伴う発掘調査－』国分寺市文化財調査報告第34集

1992『東京都国分寺市　恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅵ－日立中央研究所研究棟・食堂・プール更衣室建設工事に伴う調査－』国分寺市文化財調査報告第40集

1996『東京都国分寺市　恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ－国分寺市公共下水道面整備中部地区32号工事に伴う調査－』

1997『東京都国分寺市　恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ－国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査－』

その他の報告書

ト　都営川越道住宅遺跡調査会　1999『武蔵国分寺跡西方地区　武蔵台東遺跡－Ⅱ－（1）縄文時代（本文）－』

付　編　クリーン建工(株)マンション建設に伴う調査

本編に報告した3調査地点の内、第251次調査地区北側に隣接して調査されたクリーン建工(株)マンション建設に伴う調査（第140次調査）の成果は、多喜窪遺跡A地点を報告する上で、重要な検出遺構・出土遺物があるため、付編として報告する。なお、本調査区については国分寺市史 上巻にてその報告を紹介している。よって遺構・遺物の記述については200～206頁の記載を引用・参考とした。

1．調査の概要

調査地は西元町二丁目2,550－4で府中街道に面しての東側台地上に位置する。国分寺崖線から約100m程台地上に上がった所で、第251次調査地区の北側に隣接する（図面1・2参照）。

調査は先に記したように、マンション建設工事に伴う事前調査として、昭和57年4月6日から9月6日まで実施した。

2．検出遺構と出土遺物

歴史時代主要検出遺構は掘立柱建物3棟（内SB42は第41次調査で報告済みであるため武蔵国分寺遺跡調査会年報Ⅱ（第2分冊）を参照。SB71は第251次調査地区の延長）、機能・用途が不明の土坑5基等である。土器・瓦等は破片が出土しているが遺構の時期を判別するに足りる資料は認められなかった。

縄文時代主要検出遺構は集石2基、土坑24基等である。土坑の機能・用途については後述する。土坑は調査地区全体に分布しているがやや西側に偏るようにも見られる。しかしながら、第251次調査地区の密集度と比較するとやや散漫になることから、土坑群の北限に近いことを示している。集石は調査地区西側部分より検出されたが、土坑群との時期関係については不明である。出土土器は全て縄文時代中期中葉と考えられる。石器は石鏃、打製石斧、磨石、石皿、凹石等が出土した（図面62・63・図版55）。

次に各時代の主要遺構と出土遺物について述べる。

①縄文時代

SS22集石（図面59）

約30個程の礫が、南北約0.6m、東西約0.75mに分布する小規模な集石である。土坑は伴わない。

SS23集石土坑（図面59・図版48）

直径0.9mの範囲内に約160個の礫が集積されている。集石は土坑上面に集中し、土坑下部に

はほとんど入り込んでいない。土坑の規模は上面で直径0.7～0.8mのほぼ円形で深さ約0.6mを測り、断面は不整形な擂り鉢状を呈する。

集石を構成する礫は2/3以上が重量300g以下の被熱破砕礫であるが、中には3～5kgを量る大形礫も少量含まれる。石材は砂岩が主体である。なお、接合により10kgを超える礫となったものもある。集石内からは少量の土器片と石鏃（図面63－1）、石皿（図面63－3･4）等が出土したが、時期を判別するには至らなかった。

土坑群（図面59～61・図版48～54）

土坑の規模は長軸0.6～2.9m、短軸0.6～2.1mで深さ11～49cmを測る。平面形は隅丸方形及び楕円形を呈する。覆土は黒褐色・暗褐色土が主体である。これらの土坑群の内SK666J・670J・680Jについては土坑内より残存状況が良好な土器が出土しているため、これらの土坑及び出土遺物について詳述し、遺構外より出土した土器についても記述する。また、記述はしなかったが、土坑か小穴か判然とせず、小穴扱いとしたPJ－47・189（図面61）からも土器片が比較的まとまって出土した。石器はSK649Jより凹石（図面63－5）が、SK678Jより石鏃（図面63－2）等が出土した。

SK666J（図面59・図版50）

直径約0.95mの円形を呈し、深さ49cmを測り、断面は壁がほぼ垂直に立ち上がる箱形を呈する。今次調査地区で検出された土坑の中で最も深い。覆土は茶褐色土を主体として分層されたが、それぞれブロック状に堆積しており人為的な埋め戻しが想定される。

浅鉢（図面62－1・図版55）は覆土中から逆位の状態で出土した。口径40cm、器高14.5cmを測る浅鉢形土器である。口縁部の一部を欠失しているが、ほぼ完形である。隆帯による楕円枠状文が全周で七単位配されており、区画内には渦巻状文や波状沈線文が連続爪形文と共に施文されている。隆帯上には竹管による刻みが加えられている。

SK670J（図面60・図版51）

長径約1.2m、短径約1mの不整円形を呈する。深さ26cmを測り、断面は浅い皿状を呈する。覆土はほぼ暗茶褐色土である。

土器は（図面62－2）覆土上面で押し潰された状態で出土した。底部より直線的に開く深鉢形土器である。口径17.6cm、器高25.0cmを測り、底部を一部欠失する。口縁下に波状沈線を1本めぐらし、その下に半截竹管状工具による沈線を2本表出している。地文として全面にRL縄文を横位に施文する。勝坂期の土器である。

SK680J（図面61・図版53）

長軸約1m、短軸0.8mの不整円形を呈し、浅い落ち込みが重複する。深さ26cmを測り、断面は浅い擂り鉢状を呈する。覆土はほぼ黒褐色土である。

土器は覆土中程から2個体（図面62－8・10）、上部から１個体（図面62－9）のいずれもミニチュア土器が出土した。

図面62－8は、円筒形の深鉢形土器を模したミニチュア土器である。口径8cm、器高15cmを測る。口縁下に隆帯をV字状に貼付し、隆帯に沿って竹管状工具による爪形文と小波状沈線文が配される。この隆帯の付された口縁部には把手が付くが欠失している。また、口縁下には２個１対の円形暗文が三箇所に認められる。地文としてRL縄文が全面に施される。阿玉台期の土器である。

図面62－10は、口径8.3cm、器高11cmを測る円筒形の土器である。文様は上下で連続する隆帯を貼付し、隆帯上には刻みを加えている。それ以外は口縁部より半截竹管状工具による沈線が垂下し、沈線間には連続爪形文、円形刺突文等が施されている。なお、隆帯の周辺は風化のため文様が剥落している。阿玉台期の土器である。

図面62－9は、緩いキャリパー形を呈するミニチュア土器である。口径6.5cm、残存器高（把手まで）8.4cmを測り、底部を欠失する。文様は施文されておらず無文である。口縁部に小把手が付けられている。器表面の調整がやや粗い。勝坂期の土器である。

遺構外出土遺物

浅鉢（図面62－3・図版55）は全体の約1/4残存する。推定法量は口径42cm、器高23cmを測る。鋭角的に内傾する口縁部が特徴的で４本の沈線をめぐらし口唇部と頸部に連続する刻みを入れ、口縁中央部を渦巻文で区画する。

深鉢（図面62－4）は口縁部を欠失しているが、底部より直線的に開く円筒形である。残存器高は19.8cmを測る。胴上半部に1本の隆帯を横位にめぐらし、その上・下端を横ナデの後、隆帯より下にRL縄文を施文する。

深鉢（図面62－5）は埋甕（図面61・図版54）である。口縁部は欠失し胴部のみ残存している。残存器高は13.8cmを測る。胴部はやや張り出し、頸部で強く括れる。RL縄文を縦位に施文した後竹管で蛇行と直線2本を交互に垂下させ、直線２本は頸部付近で繋がっている。

深鉢（図面62－6・図版55）はキャリパー形を呈し、口縁部・底部の一部を欠失している。推定法量は口径47.6cm、器高60cm、底径14.0cmである。口縁部には小波頂を持ち、口唇部を肥厚させ、直下に沈線をめぐらせている。沈線は波頂下で渦巻文に変化させ、口縁部全体を四単位に区画している。頸部は無文。胴部は横位に展開する大柄な渦巻文と懸垂文を連結させている。地文はRの撚糸を縦位に施文する。

深鉢（図面62－7・図版55）はキャリパー形を呈し、口縁部の一部と胴下半部を欠失している。推定口径32.5cm、残存器高31.2cmである。口縁部は隆帯による楕円区画文が施され、区画の内側はキャタピラ文と爪形文が充填される。区画文の下には爪形文がめぐり、頸部と胴部の

間にも楕円区画文が施文されている。胴部には隆帯によって上部に開くY字状文が貼り付けられている。

②歴史時代

SB70掘立柱建物（図面64・図版54）

僧寺中軸線北221.70～224.59m、西293.92～296.05mの範囲で確認した。主軸は梁行でN－2°－Wである。今次調査では5個の柱穴1－1・1－2・1－3・2－1・2－3を検出した。東側は調査区外に及び、現状の規模は東西残存2.67m、南北2間（2.27m）を測る。柱間は梁行1.1m、桁行1.6mである。柱穴の形状は不整円形及び隅丸方形を呈する。深さは11～30cmを測り、断面は浅いU字形を呈する。埋め土はローム粒子を含む黒色・黒褐色土で、柱痕や抜き穴は確認できなかった。

3．まとめ

以上第140次調査で検出・出土した主要遺構・遺物について説明した。ここでは特に縄文時代について言及する。縄文時代中期については多くの土坑が検出され南側に隣接する第251次調査地区及び第252次調査地区と一体となる地域であることは明らかであろう。ただし本調査地区における土坑群は相対的に2調査地区と比較すると浅く小規模で、その形状も不整形である。また覆土中に土器や石器を含む例が少ない。覆土中より土器を出土したSK666Jがやや歪みがあるものの円形に近い平面形で深い掘り込みと人為的な埋没過程が認められるのに対し、SK670J・680Jについては土坑の形も不整形で掘り込みも浅く様相を異にしているようにも見える。もちろん遺跡形成過程における、遺構形状の変容や遺物の減失など考慮すべき点はあるものの、当地における概期の埋葬の実態をより明らかにするまでは、即座にこれら土坑群が埋葬関係の遺構と判断することは避けたい。

さらに、土坑群に隣接して並行する時期の住居が検出されなかったことから、土坑群を取り巻くように、住居群が3調査地区の外側に広がっている可能性も指摘される。この点については、府中街道を挟んで西側で検出されたSI365J・366J・367J・370J住居の存在（図面1・42～47参照）が関係するものと考えられる。時期については、他2調査地区出土土器と併せて観察すると阿玉台式期・勝坂期・加曽利E式期あるいはそれらに並行する時期の土器が主体的である。

このように多喜窪遺跡A地点は、集落の規模や土坑群の性格等依然として不明な点が残るものの、従来言われてきたように国分寺崖線の際に広がる集落と土坑群からなる、中期中葉を主体とした遺跡であることは明確に位置付けられた。

国分寺市遺跡調査会組織

（平成15年3月現在）

—役員及び監事—

会　長	坂詰　秀一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副会長	吉田　格	調査団長
理　事	大川　清	国士舘大学名誉教授
理　事	星野　信夫	国分寺市長
理　事	大平　惠吾	国分寺市教育委員会委員長
理　事	野村　武郎	国分寺市教育委員会教育長
理　事	藤間　恭助	元国分寺市文化財保護審議会委員
理　事	星野　晃雅	元国分寺市社会教育委員
理　事	本多寅太郎	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理　事	古関　豊	国分寺市文化財保護審議会委員
理　事	関口雄基臣	国分寺市文化財保護審議会委員
理　事	北原　進	国分寺市文化財保護審議会委員
理　事	石田　和彦	東京都教育庁生涯学習スポーツ部副参事（文化財担当）
理　事	平井　茂樹	国分寺市教育委員会教育部長
監　事	榎戸　潔	元国分寺市社会教育委員
監　事	岡崎　完樹	東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課理蔵文化財係長

—武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会—

委員長	吉田　格	（考　古）
委　員	坂詰　秀一	（考　古）
委　員	大川　清	（考　古）

—事　務　局—

事務局長	伊藤　正蔵	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局員	豊泉　文夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局員	田中富美雄	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係員
事務局員	松崎亜希子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事務局員	稲井　亮	国分寺市遺跡調査会

—調　査　団—

調査団長	吉田　格	元国分寺市文化財保護審議会委員
主任調査員	福田　信夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調査員	上村　昌男	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調査員	上敷領　久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調査員	岩崎　玲子	国分寺市教育委員会嘱託遺跡調査員（平成14年12月31日退職）
調査員	木下さおり	国分寺市遺跡調査会
調査員	板倉　欽之	国分寺市遺跡調査会
調査員	吉田　好孝	日本窯業史研究所
調査員	吉岡　秀穂	日本窯業史研究所

報告書抄録

ふりがな	むさしこくぶんじあとはっくつちょうさがいほう28
書名	武蔵国分寺跡発掘調査概報28
副書名	多喜窪遺跡の調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	国分寺市遺跡調査団（団長　吉田格）福田信夫　上敷領　久
編集機関	国分寺市遺跡調査会
所在地	〒185－8501　東京都国分寺市戸倉1丁目6－1　国分寺市教育委員会内　TEL 042－325－0111
発行年月日	西暦2003年3月31日

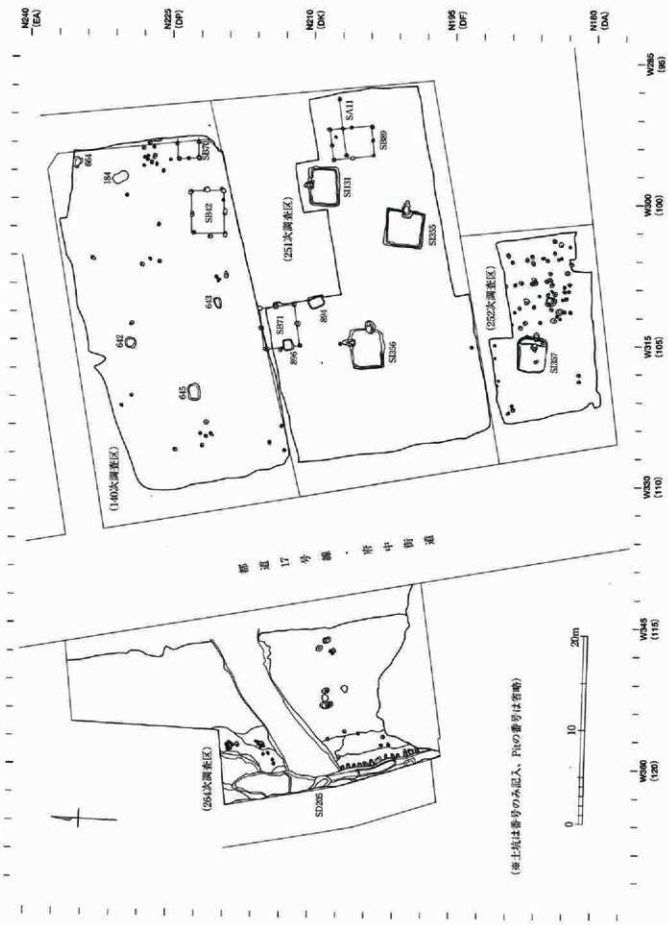
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
武蔵国分寺跡	東京都国分寺市 西元町・東元町	13－214	10・19	35度 41分 09秒 ～	139度 28分 12秒 ～	1986.03.17 ～ 1987.01.22	1,474.28	共同住宅建設に伴う事前調査
多喜窪遺跡	西元町		11	35度 41分 30秒	139度 28分 47秒			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
武蔵国分寺跡	寺院跡	奈良・平安時代	歴史時代 掘立柱建物　2棟 柱穴列　1条	土師器・須恵器・土師質土器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦・塼・フイゴ（羽口）・刀子・鉄釘	
多喜窪遺跡	集落跡	縄文（中期）	住居　4軒 溝　1条 土坑　2基 小穴　31個 縄文時代 住居　8軒 屋外埋甕　2基 土坑　84基 小穴　315個 先土器時代 集石　1基	縄文土器・ミニチュア土器・耳栓・器台・土製円板・土偶・尖頭器・石鏃・石錐・掻器・打製石斧・石匙・剥片 ナイフ形石器	

図　　面

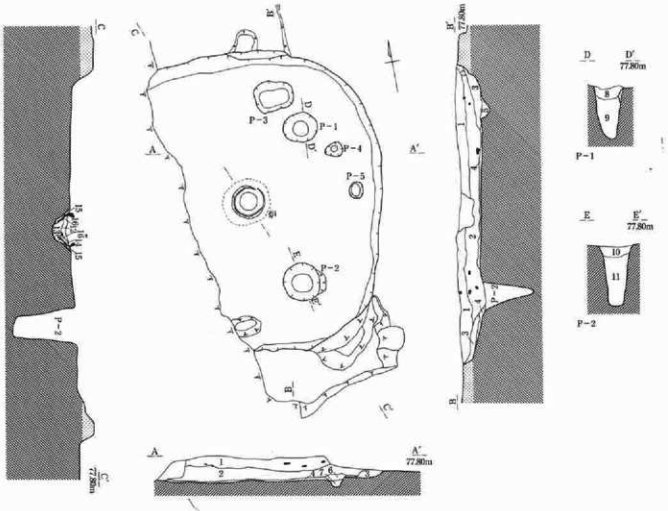
図面1　第140・251・252・264次調査　縄文時代遺構配置図（1/300）

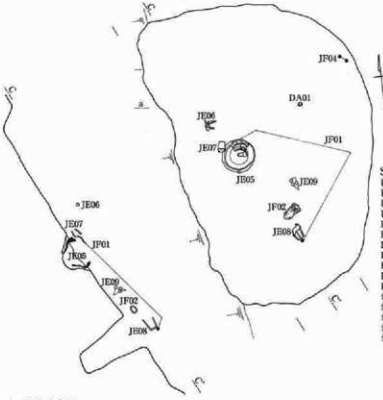
図面2　第140・251・252・264次調査　歴史時代遺構配置図（1/400）



図面3　第251次調査　縄文時代遺構配置図（1/150）

図面4　第251次調査　SI362J住居実測図



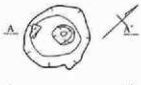


遺物分布図

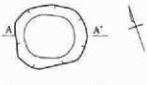
SI362J

覆土上層1　黒褐色土
覆土中層2　黒色土（スコリア粒・ローム粒やや多い）
覆土下層3　黒褐色土（やや褐色味帯びる）
覆土下層4　黒褐色土（ローム粒やや多く、締まり・粘性あり）
P-3覆土5　暗茶褐色土（ローム多量に含む）
P-4覆土6　黒褐色土（ローム粒やや多い）
P-4覆土7　暗褐色土（ローム多量に入る）
P-1覆土8　黒褐色土（炭化物入る、4層に似る）
P-1覆土9　黒褐色土（ローム粒多く、締まりやや弱い）
P-2覆土10　黒褐色土（8層に同じ）
P-2覆土11　黒褐色土（9層に同じ）
炉構築土12　黒褐色土（ローム粒・焼土粒・炭化物少量入る。火床構築土）
炉構築土13　暗黄褐色土（ローム粒が多い）
炉構築土14　黒褐色土（ローム粒少量含む）
炉構築土15　黒褐色土（ローム粒やや多く、締まりあり。掘り方埋め土）
炉構築土16　暗黄褐色土（ローム粒多量に入り、締まりあり。掘り方埋め土）

図面5　第251次調査　SK916J～928J土坑実測図



SK916J
1．暗褐色土（ローム・スコリア若干入る）
2．褐色土
3．暗褐色土（1層よりやや暗い）
4．暗褐色土（ローム少し入る）
5．黒色土（ローム少し入る）



SK917J
1．暗茶褐色土（ローム細粒を含む）
2．暗黄褐色土（ロームブロック若干入る）
3．暗茶褐色土（1層より明るい）

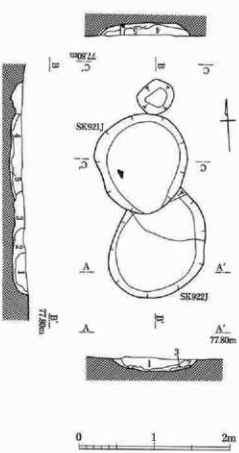
SK918J
1．暗茶褐色土（ローム細粒多く含む）
2．暗茶褐色土（1層よりローム粒多く、明るい）
3．暗黄褐色土

SK919J
1．暗茶褐色土（ローム細粒少量含む）
2．暗茶褐色土（1層よりやや明るい）
3．暗黄褐色土（ローム粒＋茶褐色土）
4．茶褐色土（ロームブロック入る）
5．暗黄褐色土

SK920J
1．暗茶褐色土（ローム細粒少量含む）
2．茶褐色土（スコリアはほとんど含まず）
3．暗黄褐色土（ロームブロック＋茶褐色土）
4．PJ－10
5．PJ－10

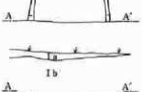
SK921J
4．暗茶褐色土（ローム細粒少量含む）
5．暗黄褐色土（ローム粒多量に含む）

SK922J
1．暗茶褐色土（ローム細粒少量含む）
2．暗黄褐色土（ローム粒多量に含む）
3．暗黄褐色土（汚れたローム）

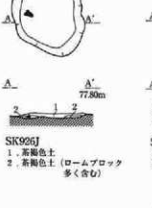


SK923J
1．暗茶褐色土（黒色味強い）
2．暗黄褐色土（ロームブロック主体とする）

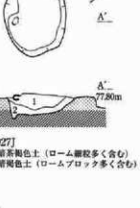
SK924J
1．暗茶褐色土（Ⅲc層よりやや暗い）
2．暗茶褐色土（ローム細粒をやや多く含む）
3．暗黄褐色土（ロームブロック多く含む）



SK925J
1．暗茶褐色土（炭化物極く微量含む）
2．暗茶褐色土（1層より明るい）
3．茶褐色土（ローム粒、ブロック含む）
4．茶褐色土（ローム粒を多量に含む）
5．暗黄褐色土（ロームブロック含む）
6．暗黄褐色土（ロームブロック多く含む）



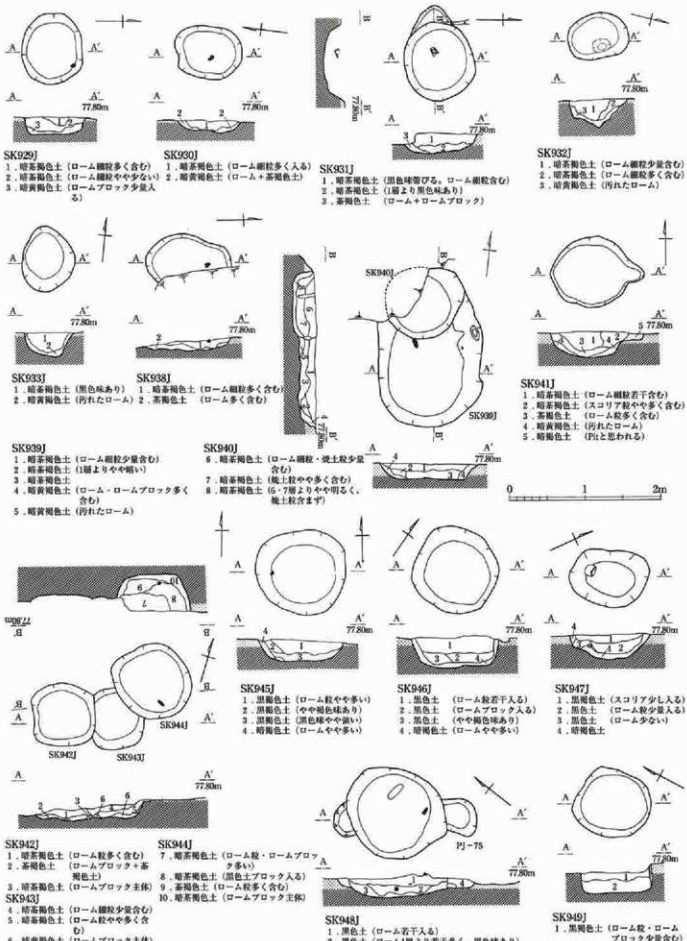
SK926J
1．茶褐色土
2．茶褐色土（ロームブロック多く含む）



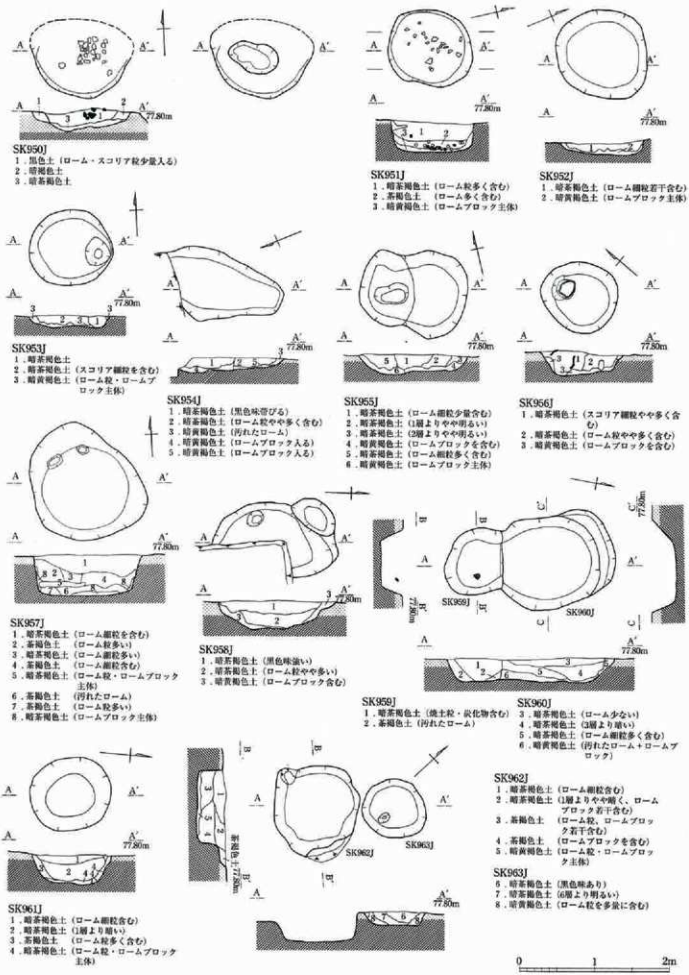
SK927J
1．暗茶褐色土（ローム細粒多く含む）
2．暗褐色土（ロームブロック含む）

SK928J
1．暗茶褐色土（黒色味帯びる）
2．暗茶褐色土（1層より明るい）
3．暗黄褐色土（汚れたローム）
4．暗黄褐色土（掘りずぎと思われる）

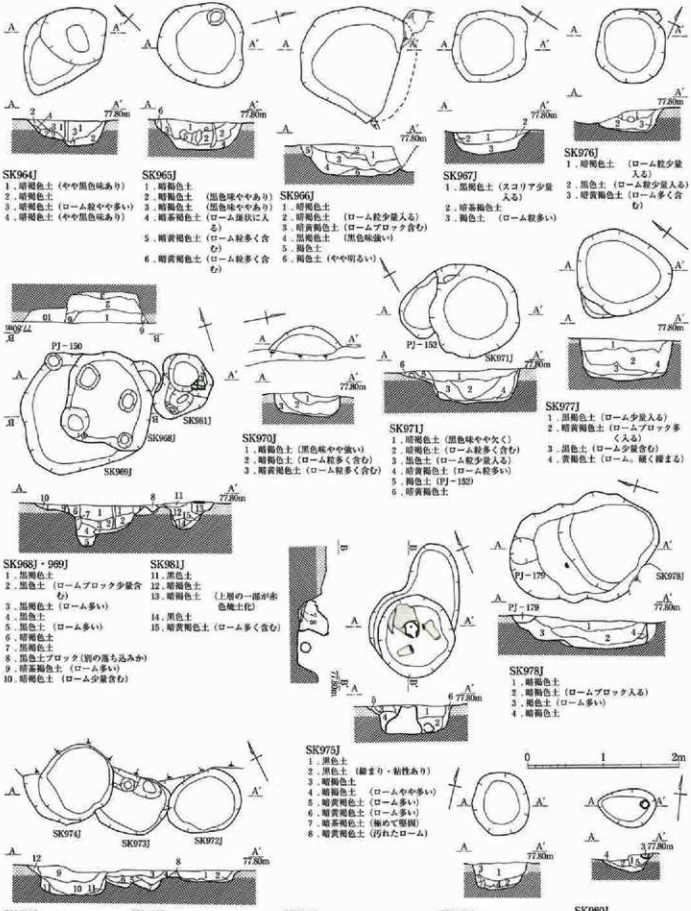
図面6　第251次調査　SK929J～933J・938J～949J土坑実測図



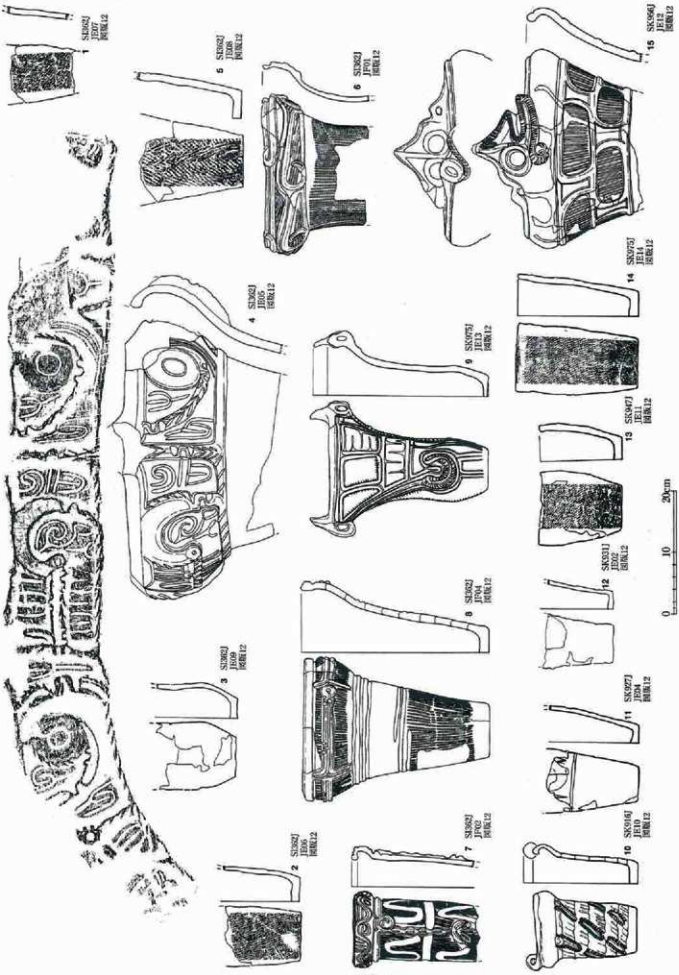
図面7　第251次調査　SK950J～963J土坑実測図



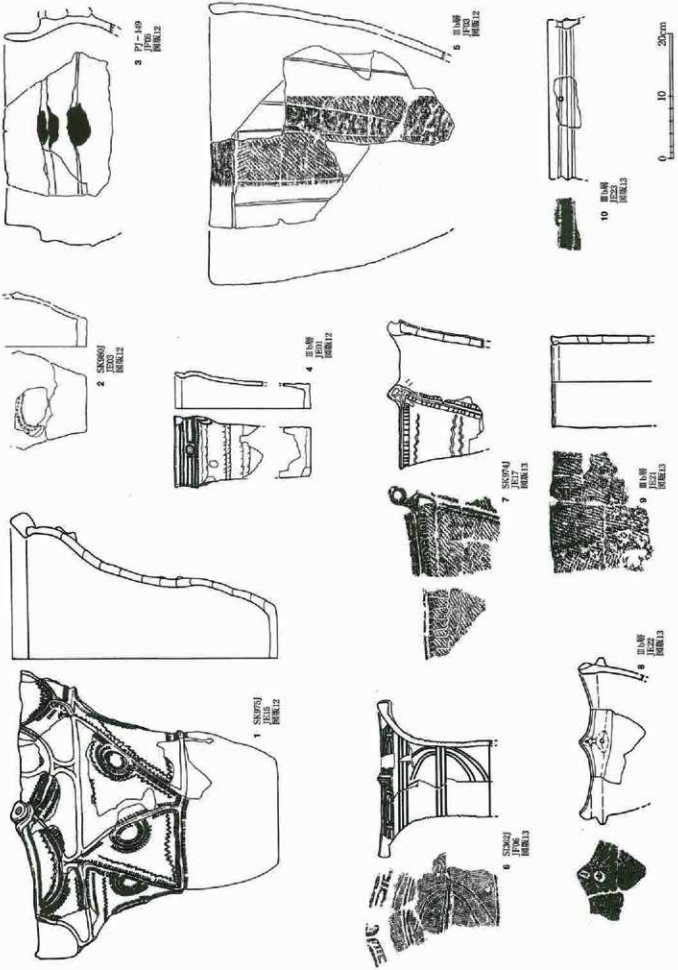
図面8　第251次調査　SK964J～981J土坑実測図



図面9　第251次調査　SI362J住居・SK916J・927J・931J・947J・956J・975J土坑出土遺物

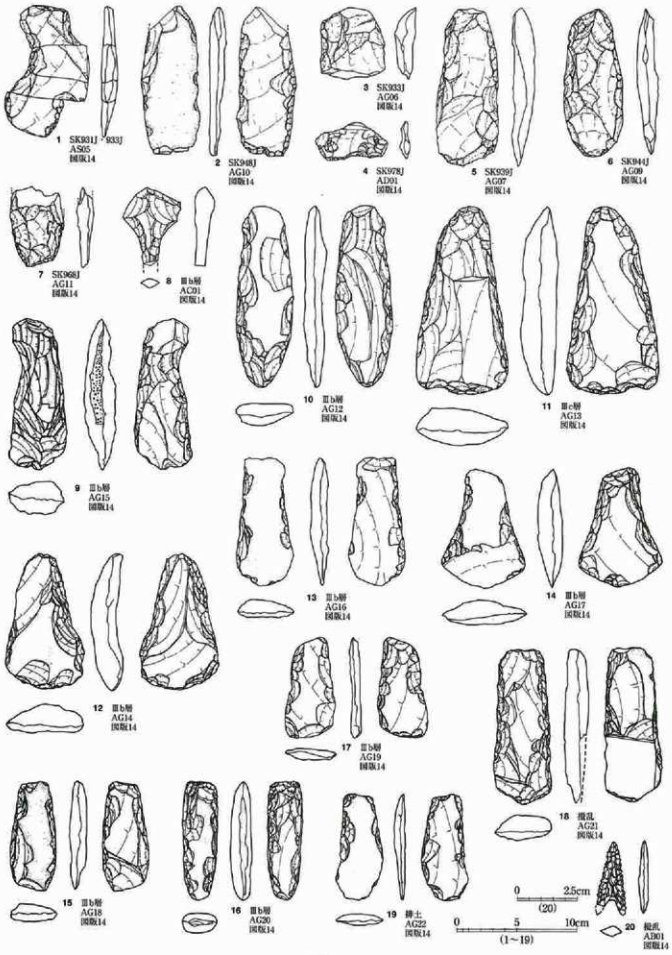


図面10　第251次調査　SI362J住居・SK974J・975J・980J土坑・PJ－149小穴・Ⅲb層出土遺物

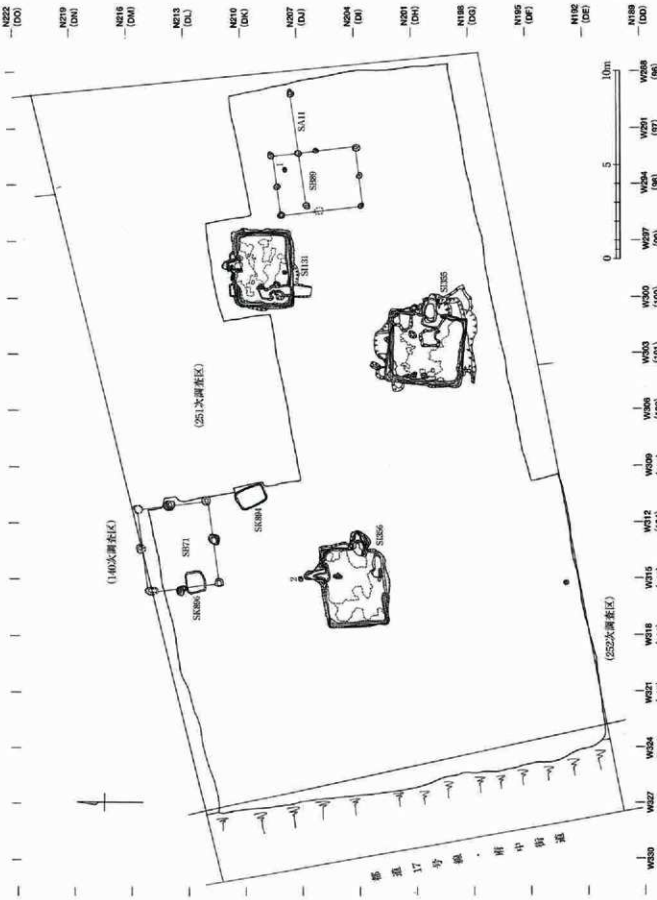


図面11　第251次調査　SI362J住居・SK919J・921J・926J・929J・930J・939J土坑・Ⅲb層・遺構外出土遺物

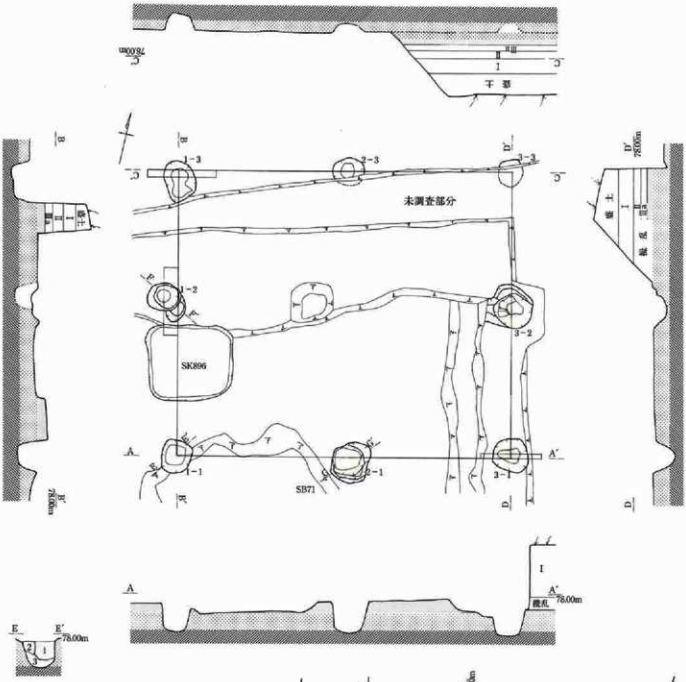
図面12　第251次調査　SK931J・933J・939J・944J・948J・968J・978J土坑・Ⅲb・Ⅲc層・遺構外出土遺物



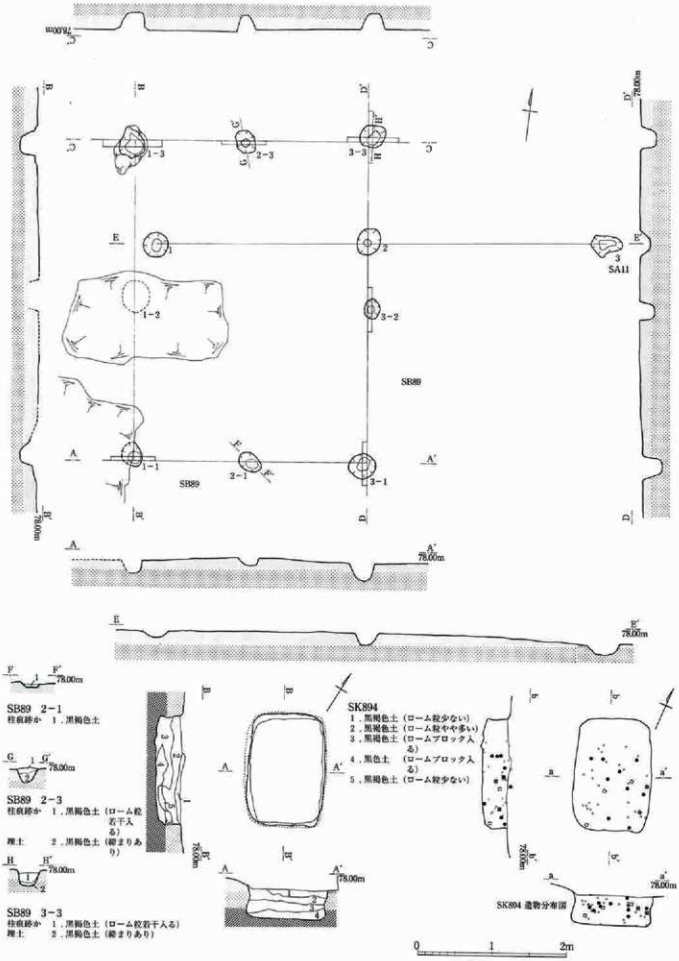
図面13　第251次調査　歴史時代遺構配置図（1/200）



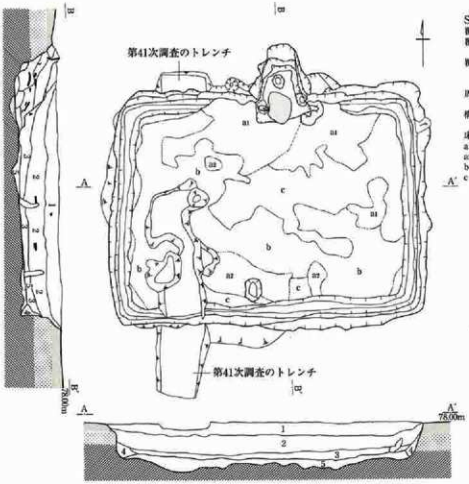
図面14　第251次調査　SB71掘立柱建物・SK896土坑実測図



図面15　第251次調査　SB89掘立柱建物・SA11柱穴列・SK894土坑実測図



図面16　第251次調査　SI131住居実測図



SI131

覆土上層	1．黒褐色土	（ローム細粒少量含む）
覆土中層	2．黒褐色土	（ローム粒やや多くなり、締まり、黒色味増す）
覆土下層	3．黒褐色土	（ローム粒さらに多くなり。締まりと粘性強くなる。黒色味も強い）
周溝	4．黒褐色土	（ローム粒多い。締まりやや弱い）
構築土	5．暗黄褐色土	（ロームブロック多い）

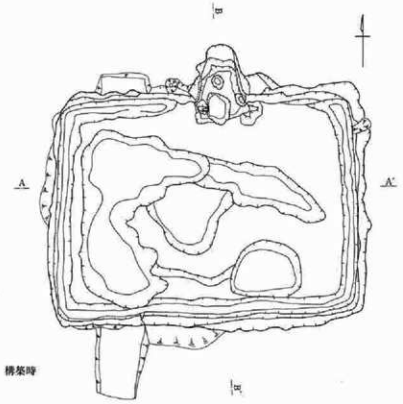
床面の硬軟度

a1　a2の上にロームの貼り床。堅固

a2　堅固

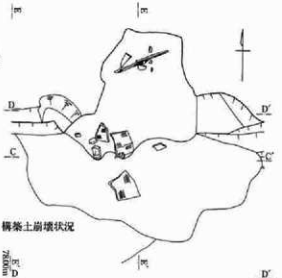
b　やや堅固

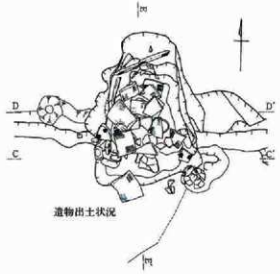
c　締まりない床

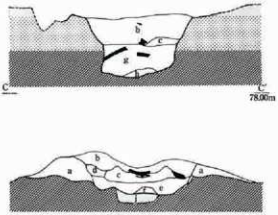


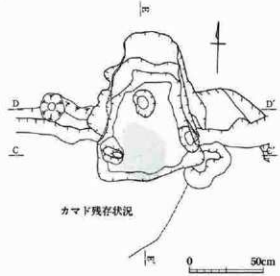
0　1　2m

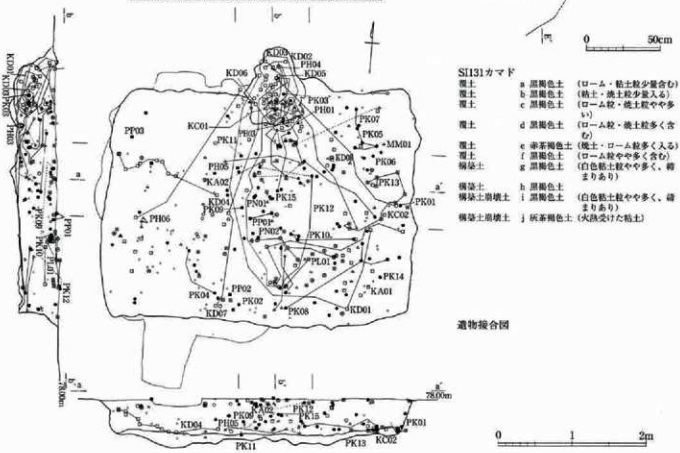
図面17　第251次調査　SI131住居カマド実測図（上）・遺物接合図（下）









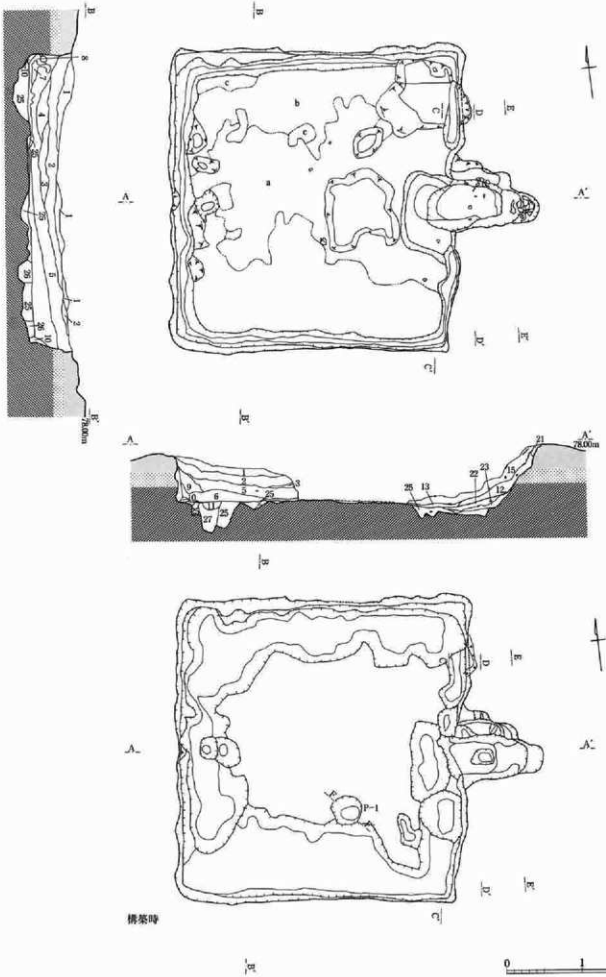


SI131カマド

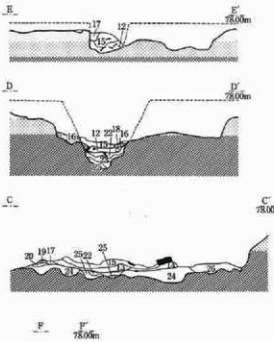
覆土	a	黒褐色土	（ローム・粘土粒少量含む）
覆土	b	黒褐色土	（粘土・焼土粒少量入る）
覆土	c	黒褐色土	（ローム粒・焼土粒やや多い）
覆土	d	黒褐色土	（ローム粒・焼土粒多く含む）
覆土	e	赤茶褐色土	（焼土・ローム粒多く入る）
覆土	f	黒褐色土	（ローム粒やや多く含む）
構築土	g	黒褐色土	（白色粘土粒やや多く、礫まりあり）
構築土	h	黒褐色土	
構築土崩壊土	i	黒褐色土	（白色粘土粒やや多く、礫まりあり）
構築土崩壊土	j	所茶褐色土	（火熱受けた粘土）

遺物接合図

図面18　第251次調査　SI355住居実測図

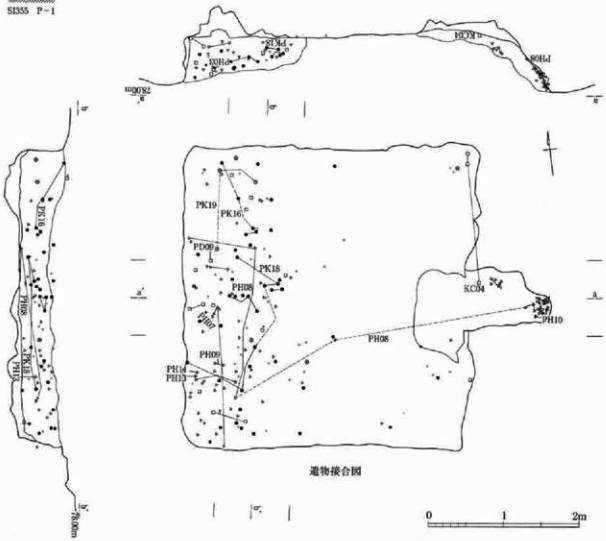


図面19　第251次調査　SI355住居実測図（上）・遺物接合図（下）



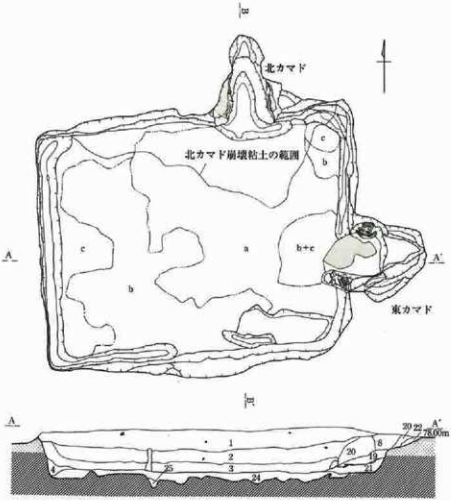
SI355

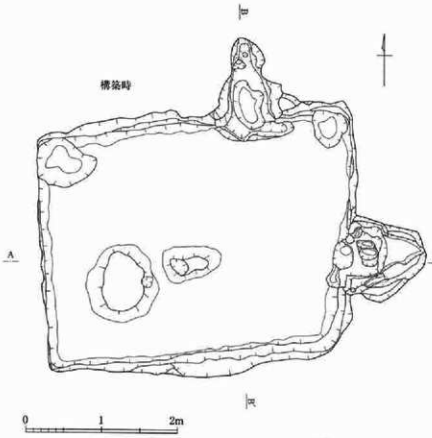
覆土上層	1．黒褐色土	（ローム細粒と焼土粒を若干含む）
覆土中層	2．黒褐色土	（ローム細粒をやや多く含む）
覆土中層	3．黒褐色土	（ローム少ない）
覆土中層	4．黒褐色土	（ローム少なく、やや粗粒）
覆土下層	5．黒褐色土	（ローム粒・ロームブロック・焼土粒・粘土粒を多く含む）
覆土下層	6．黒褐色土	（ローム粒・焼土粒をやや多く含む）
覆土下層	7．赤色焼土	（ブロック）
覆土下層	8．黒褐色土	（焼土やや多く混じり、赤色味を帯びる）
覆土下層	9．黒褐色土	（ローム少なく、やや粗粒）
周溝	10．黒褐色土	（ローム少やや多く含む）
内面	11．暗黄褐色土	（ローム多量＋黒色土）
カマド覆土	12．暗赤褐色土	（炭化粒若干と焼土を多く含む）
カマド覆土	13．黒色土	（ローム・粘土・焼土粒やや多く、炭化物を多く含む）
カマド覆土	14．黒色土	（焼土・粘土少なく、炭化物やや多く含む）
カマド構築土崩壊土	15．暗灰色土	（焼土多く、ローム粗粒を少し含む）
カマド構築土	16．黄灰色粘土	（締まり、粘性あり）
カマド構築土	17．黒色土	（粘土・ローム粒若干入る）
カマド構築土	18．暗灰褐色土	（粘土に黒色土とロームまじる）
カマド構築土	19．白色粘土	（黒色土若干まじる）
カマド構築土	20．暗褐色土	（ローム粒多い。粘土細粒少し入る）
カマド構築土	21．黒褐色土	（粘土・焼土粒少しあり）
カマド構築土	22．粗灰褐色土	（ローム・粘土若干入る。赤色焼土化）
カマド構築土	23．暗赤褐色土	（ローム・粘土細粒入る。赤色焼土化）
住居構築土	24．黄褐色土	（ローム・ロームブロックより成る）
住居構築土	25．暗黄褐色土	（ローム・ロームブロックを多く、黒色土を少量含む）
住居構築土	26．黒褐色土	（黒色土主体＋ローム・ロームブロック）
住居構築土	27．暗黄褐色土	（ローム・ロームブロックを多く、黒色土をやや多く含む）
貼り床FP－1	28．暗黄褐色土	（27層に似るもやや黒色土多く含む）



遺物接合図

図面20　第251次調査　SI356住居実測図

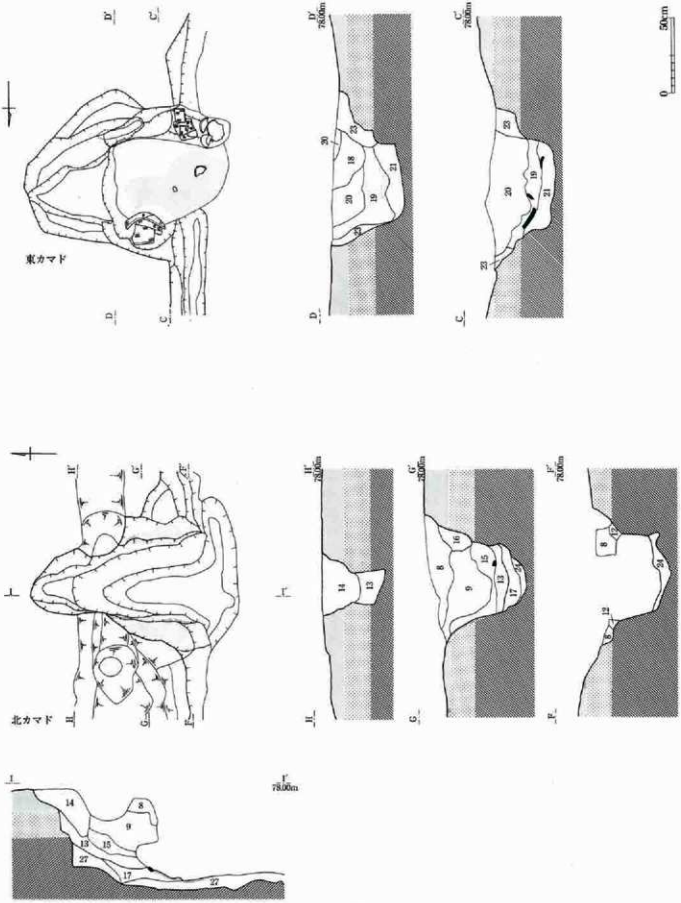




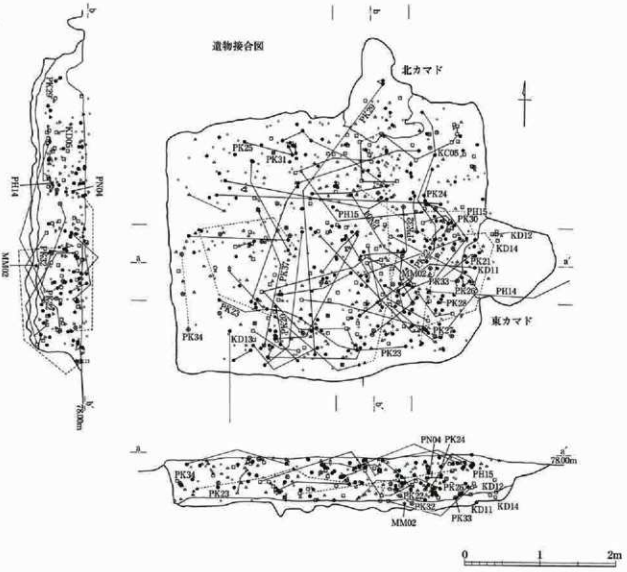
SI356

覆土上層	1．黒褐色土（ローム細粒やや多く含む）
覆土中層	2．黒褐色土（締まり・粘性・黒色味増す。ローム粗粒多い）
覆土下層	3．黒褐色土（締まり・粘性・黒色味増す。ロームブロック少し含む）
周溝	4．黒褐色土（ローム粒・ロームブロックやや多い）
北カマド構築土崩壊土	5．灰白色土　（粘土粒・粘土ブロック多く含む）
北カマド構築土崩壊土	6．暗灰褐色土（粘土やや多く含む）
北カマド構築土崩壊土	7．黒褐色土　（粘土少量含む）
北カマド構築土崩壊土	8．黒色土　　（ローム粒少量含む）
北カマド構築土崩壊土	9．灰褐色土　（粘土多量に含む）
北カマド覆土	10．暗灰褐色土（粘土・焼土多量に含む）
北カマド覆土	11．暗灰褐色土（粘土・焼土やや多く含む）
北カマド覆土	12．暗橙褐色土（ローム・粘土多く含む）
北カマド覆土	13．暗灰褐色土（粘土・焼土多く含む）
北カマド覆土	14．暗橙褐色土（焼土多い）
北カマド覆土	15．暗橙褐色土（粘土・焼土多い。構築土・崩壊土含む）
北カマド袖築土	16．黒色土（粘土少量含む）
北カマド火床貼り床土	17．黒色土（ローム粒・粘土若干含む）
東カマド構築土崩壊土	18．黒色土（白色粘土やや多い。硬く締まる）
東カマド構築土崩壊土	19．暗橙灰褐色土（粘土多く、焼土やや多く含む）
東カマド覆土	20．黒褐色土　（ローム粒・白色粘土粒・焼土粒やや多い）
東カマド覆土	21．暗赤褐色土（焼土多く含む）
東カマド覆土	22．黒褐色土　（焼土粒若干入る）
東カマド傍築土	23．黒褐色土　（暗茶褐色土をやや多く含む）
北カマド傍築土	24．暗黄褐色土（ロームブロック少量＋黒色土。締まりあり）
住居構築土	25．黒褐色土　（ローム若干入る。締まり多い）
住居構築土	26．黒褐色土（ローム粒少量入る）
北カマド傍築土	27．黒褐色土　（ローム粗粒やや含む）

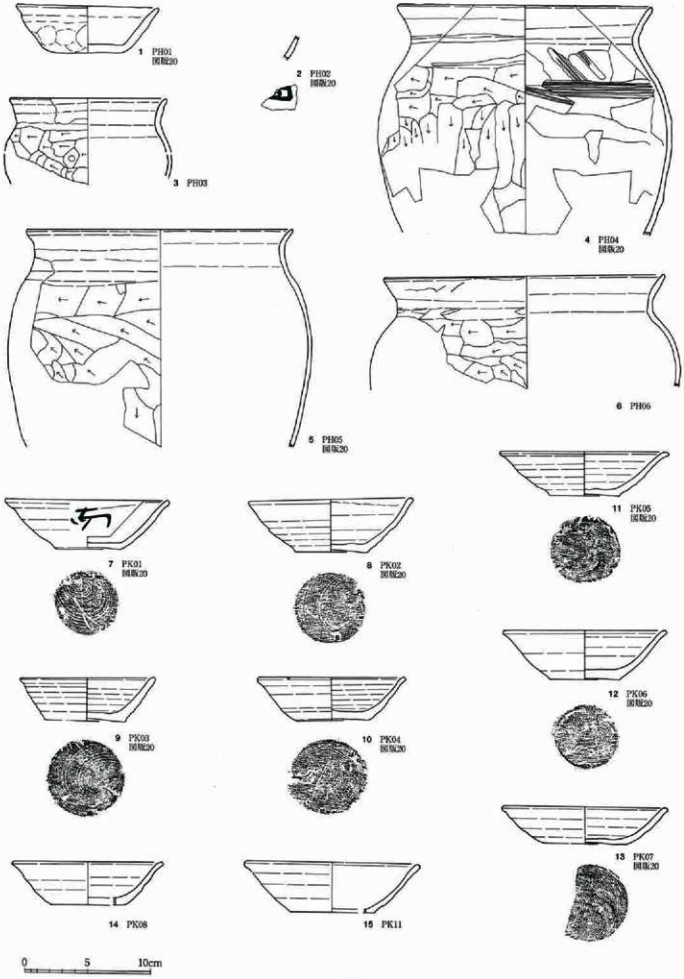
図面21　第251次調査　SI356住居カマド実測図



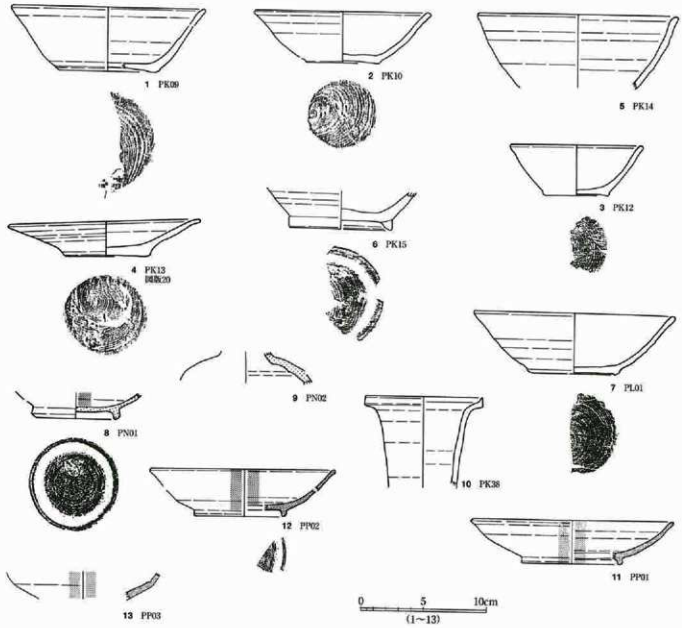
図面22　第251次調査　SI356住居遺物接合図

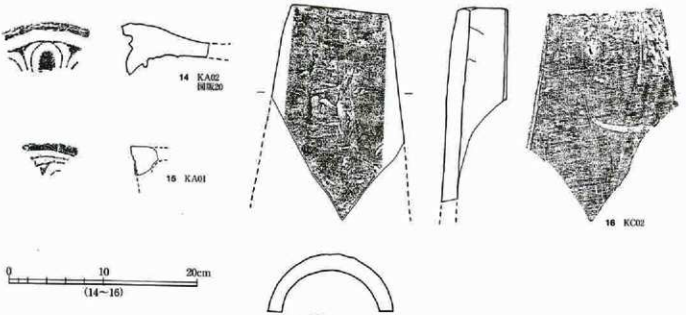


図面23　第251次調査　SI131住居出土遺物（1）

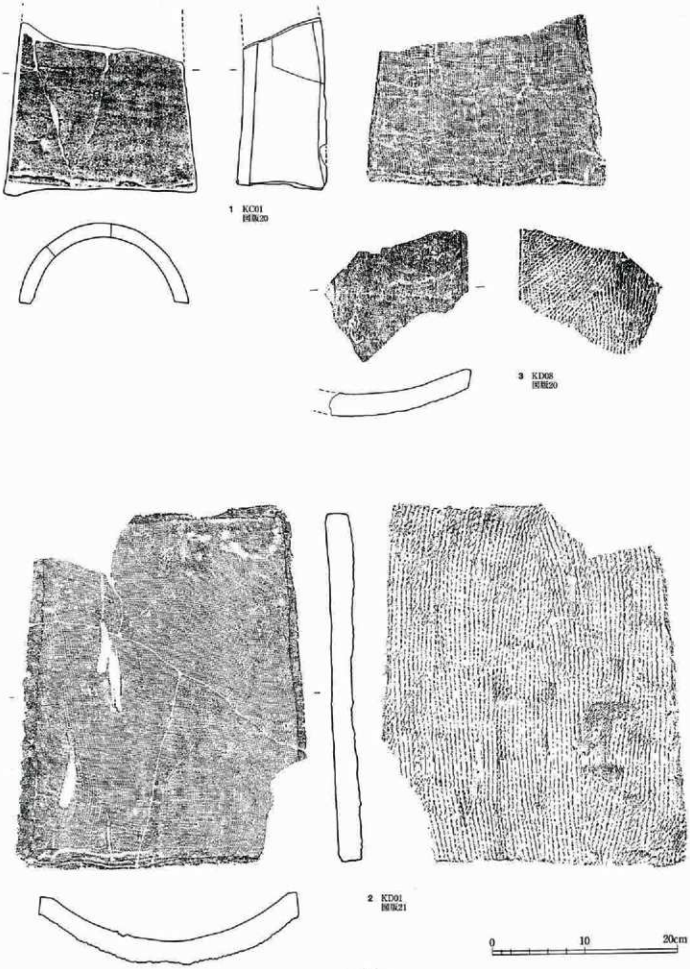


図面24　第251次調査　SI131住居出土遺物（2）

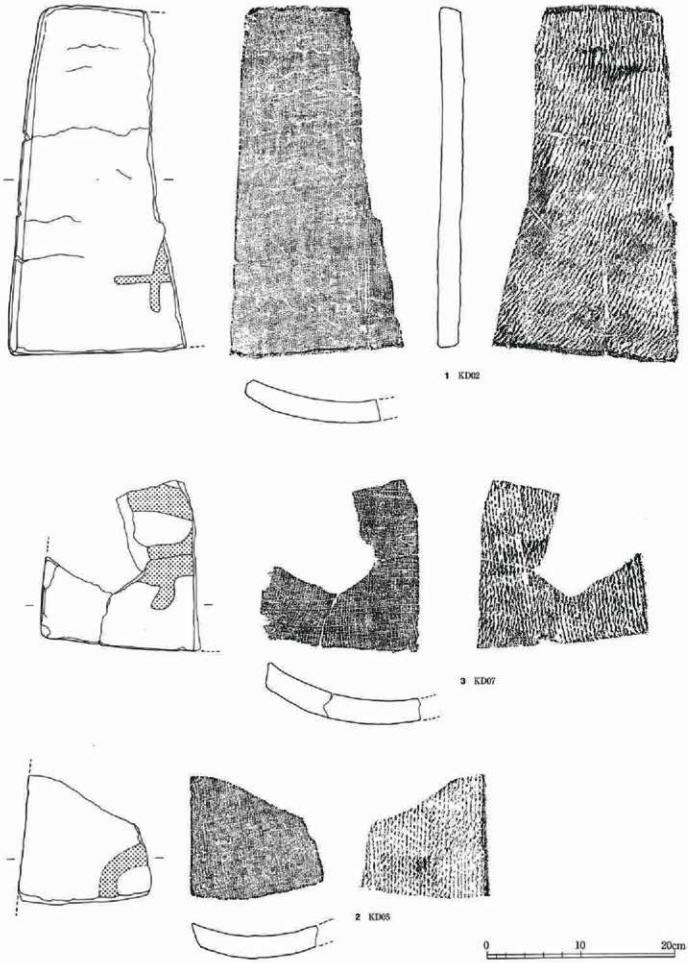




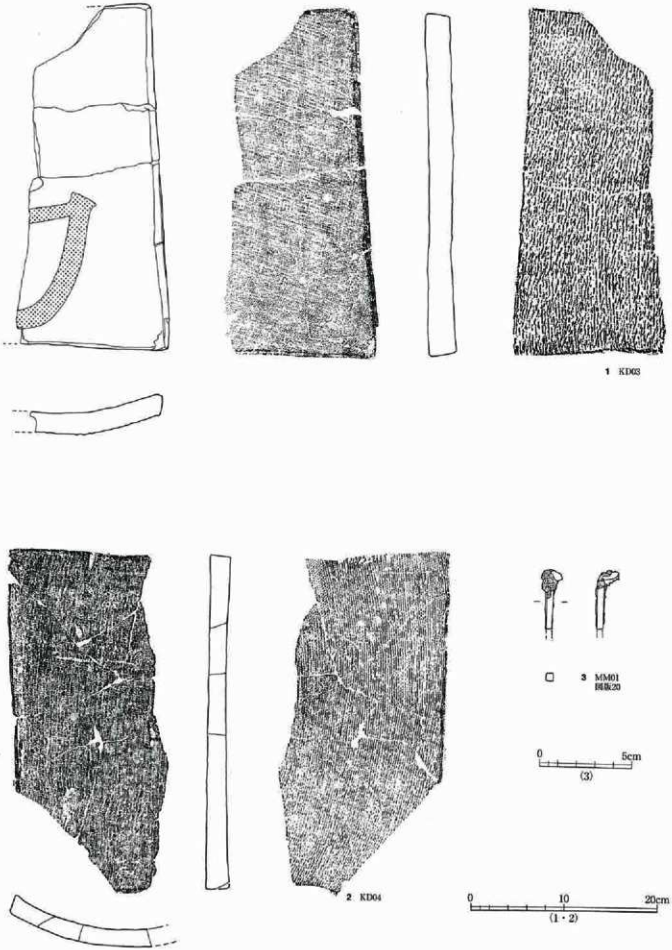
図面25　第251次調査　SI131住居出土遺物（3）



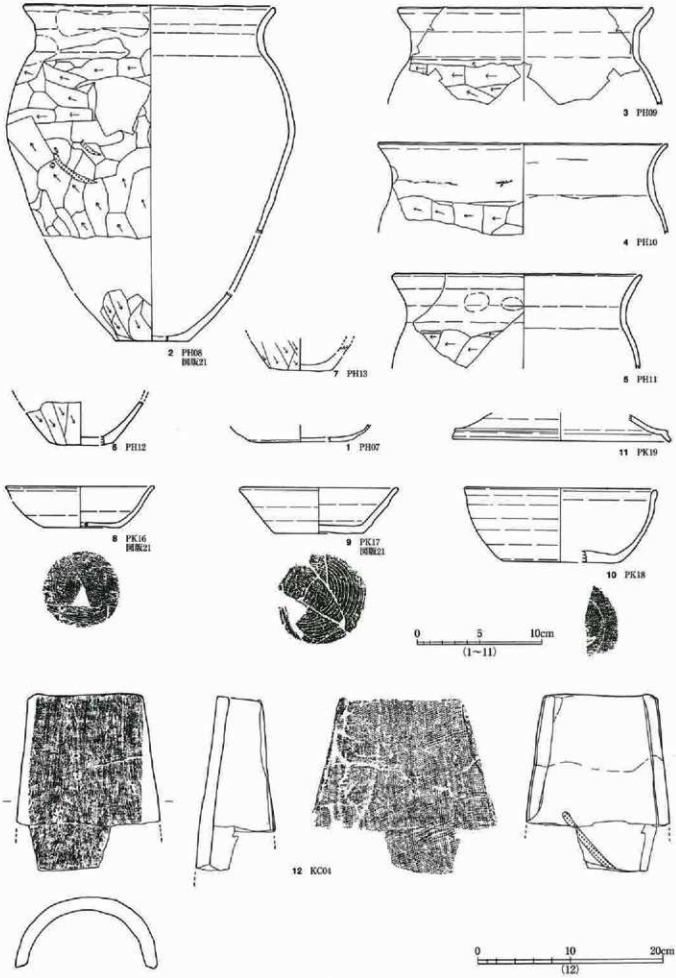
図面26　第251次調査　SI131住居出土遺物（4）



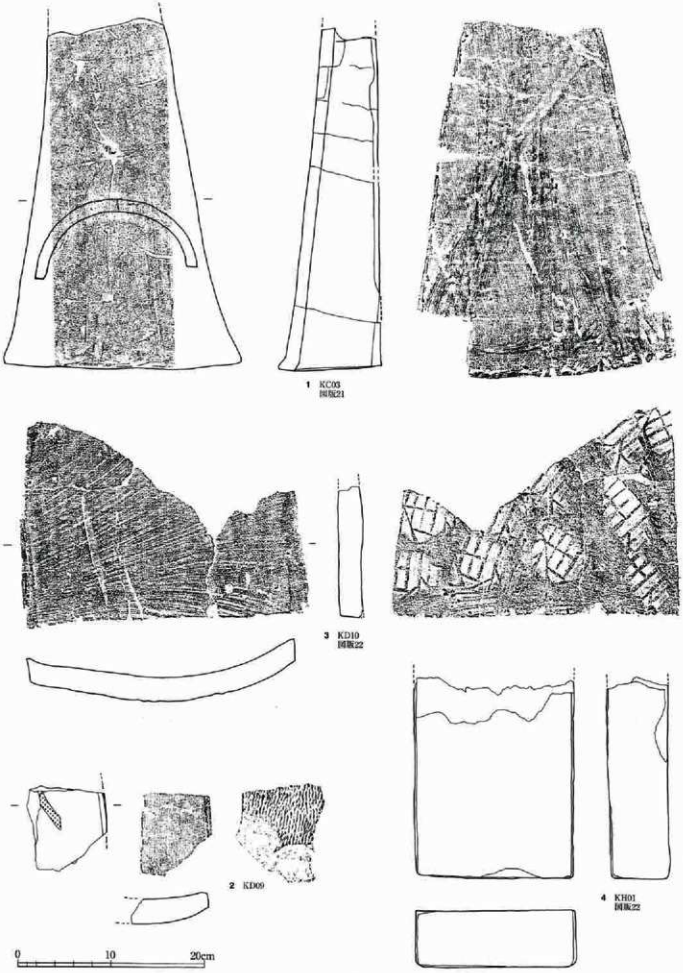
図面27　第251次調査　SI131住居出土遺物（5）



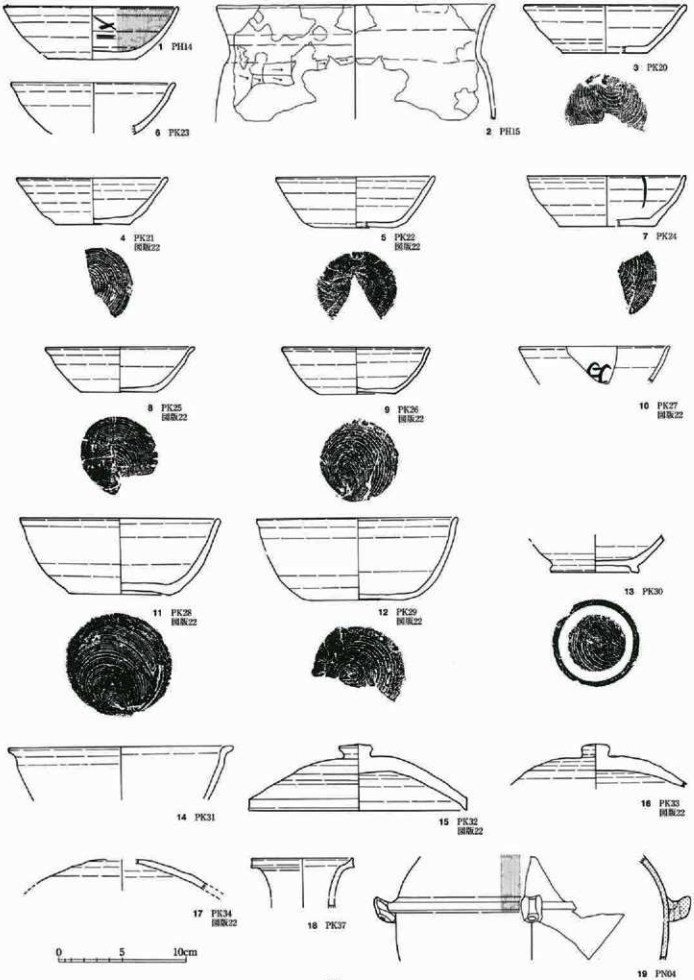
図面28　第251次調査　SI355住居出土遺物（1）



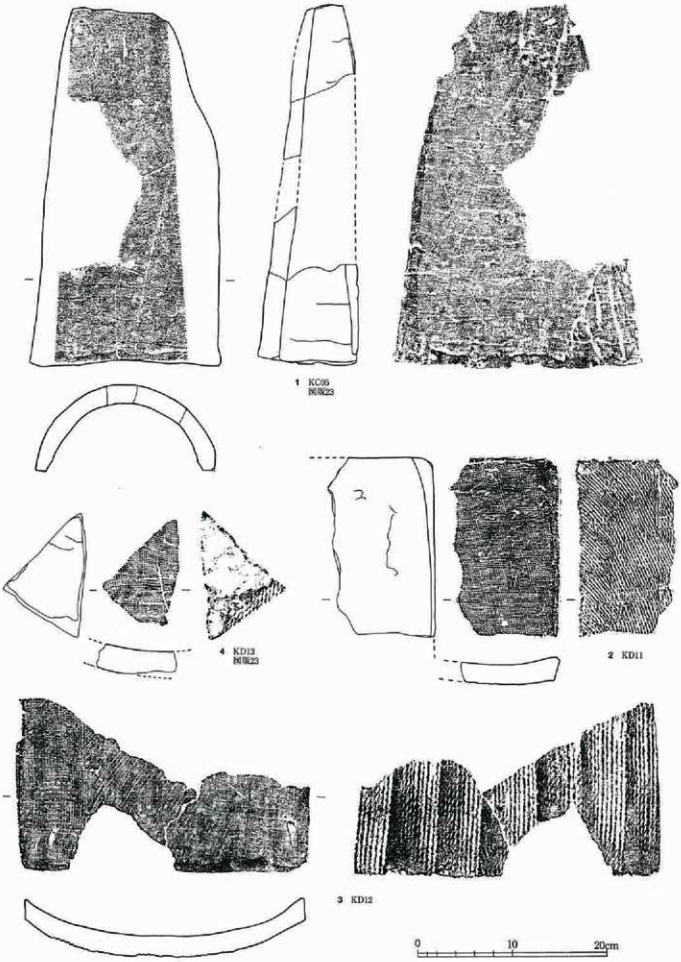
図面29　第251次調査　SI355住居出土遺物（2）



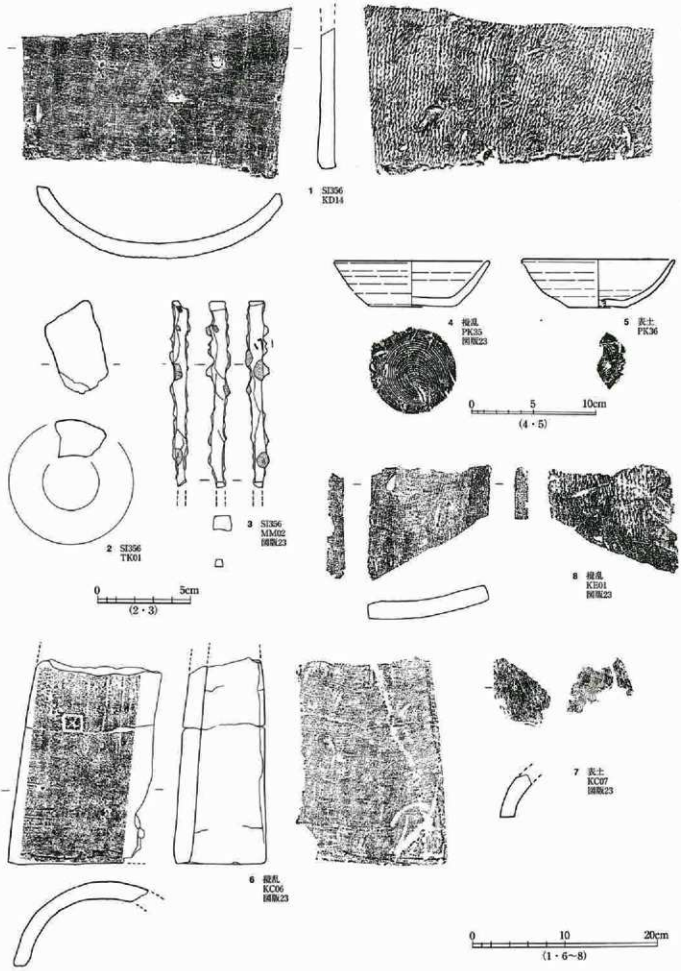
図面30　第251次調査　SI356住居出土遺物（1）



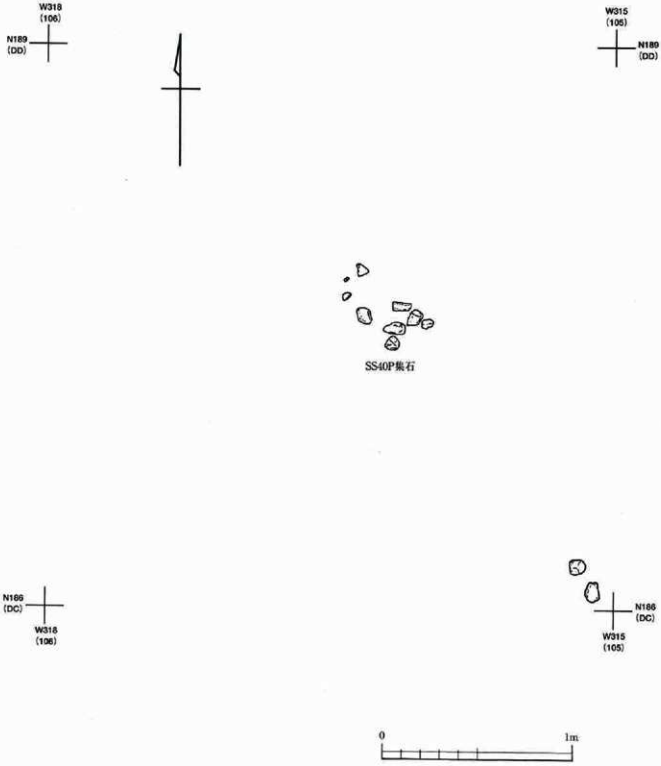
図面31　第251次調査　SI356住居出土遺物（2）



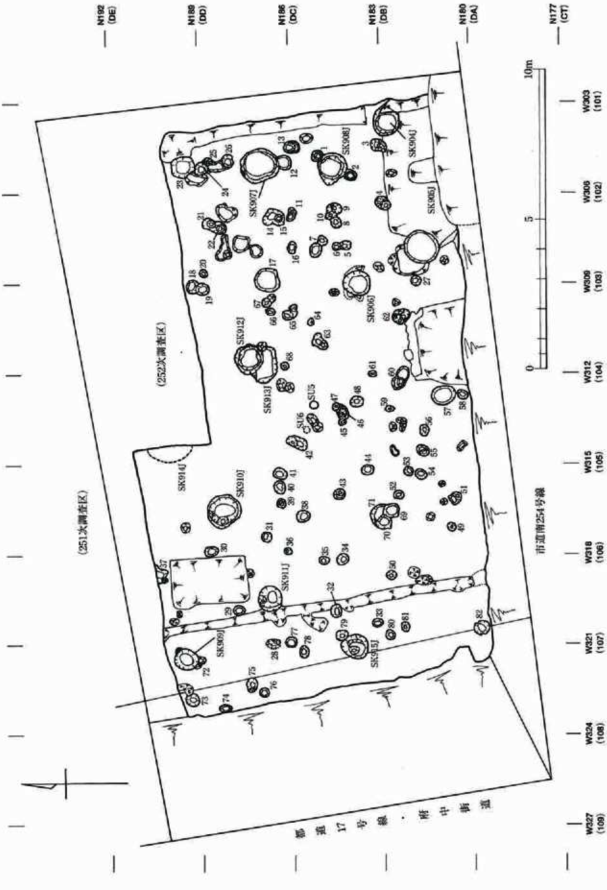
図面32　第251次調査　SI356住居・遺構外出土遺物（3）



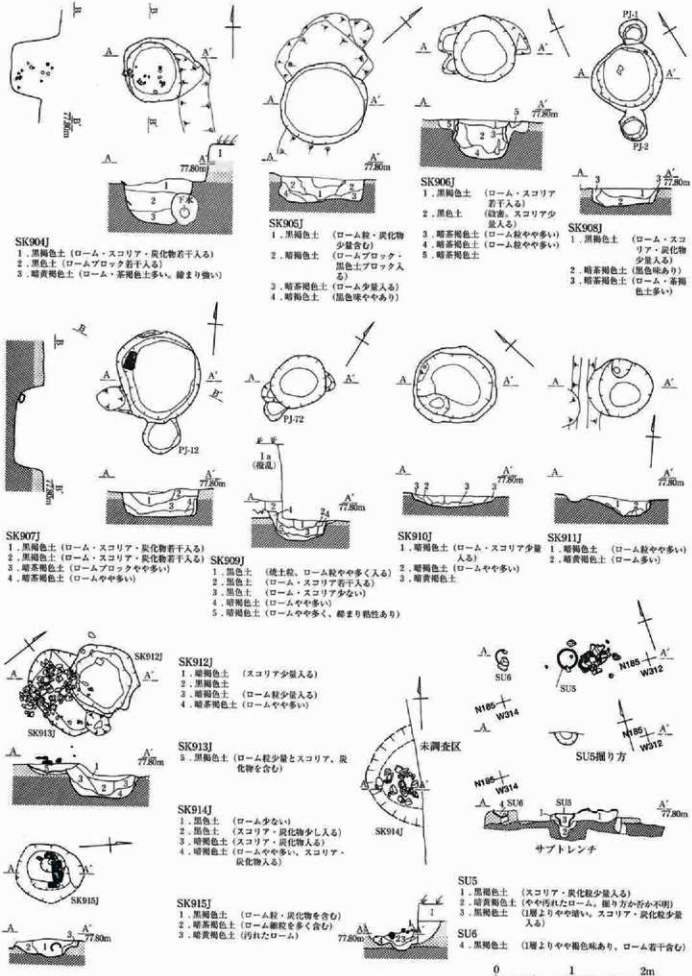
図面33　第252次調査　先土器時代遺物分布図（1/20）



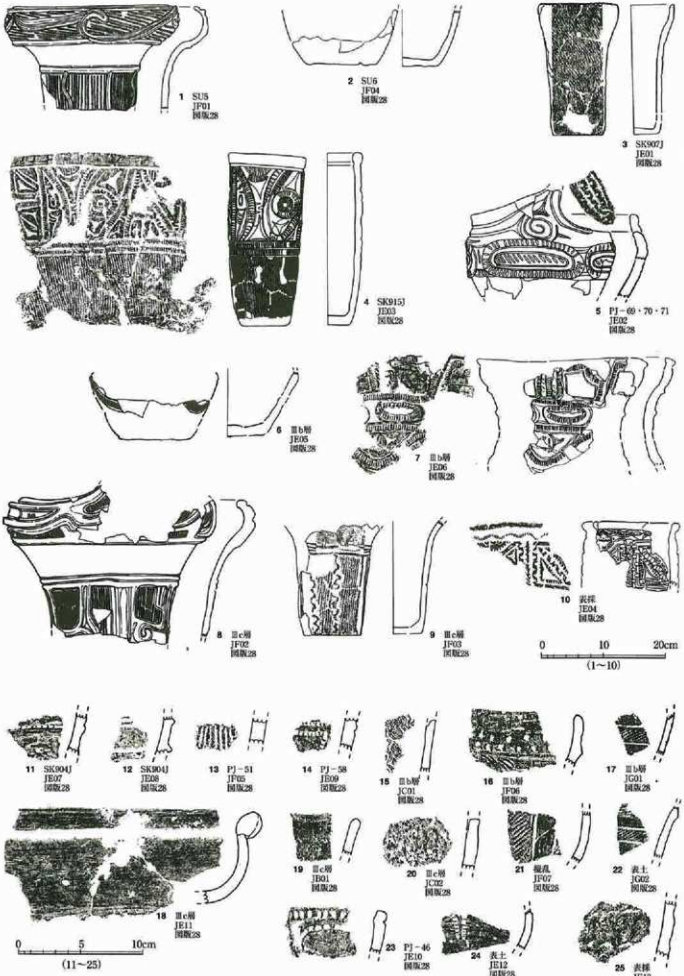
図面34　第252次調査　縄文時代遺構配置図（1/125）



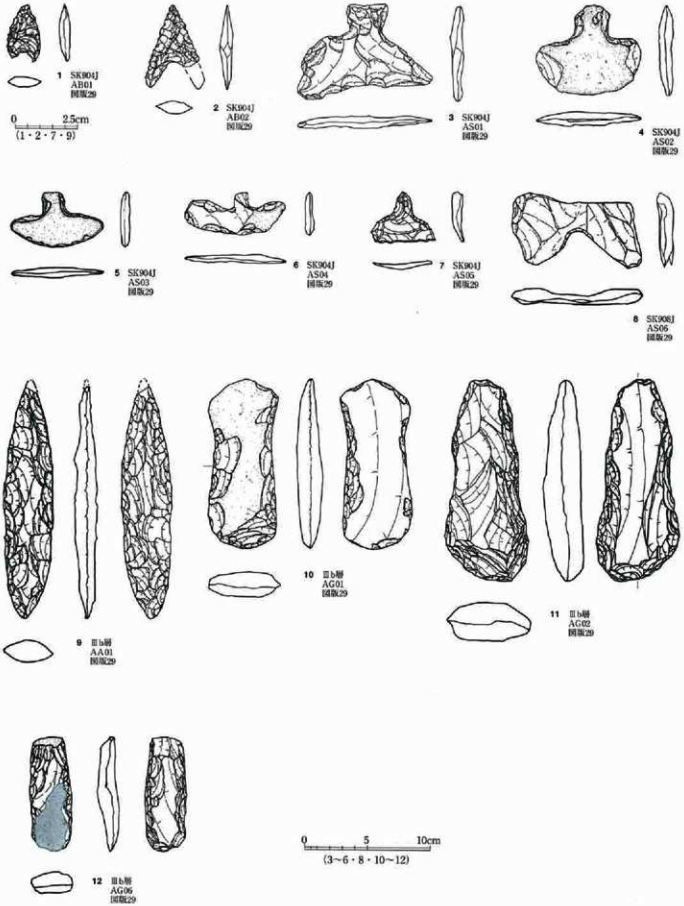
図面35　第252次調査　SK904J～915J土坑・SU5・6屋外埋甕実測図



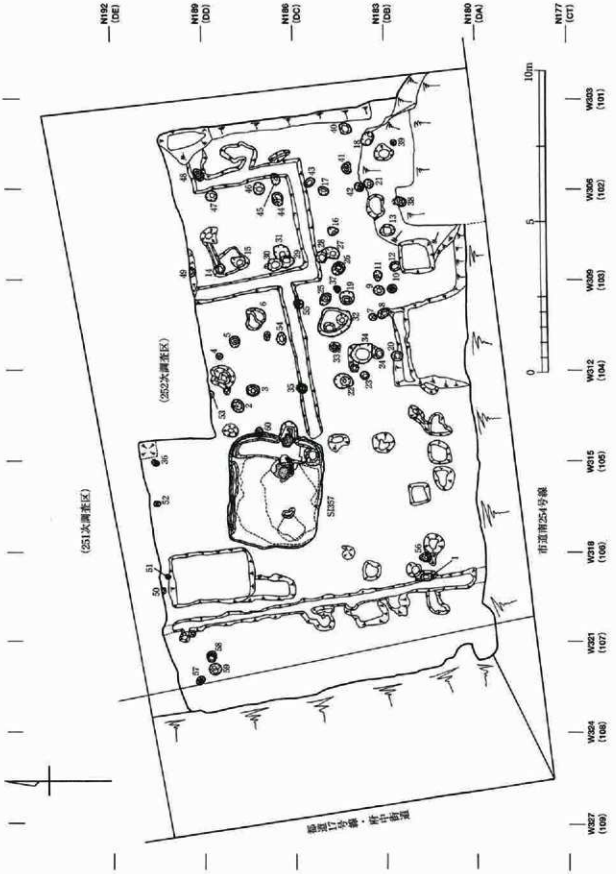
図面36　第252次調査　SU5・6屋外埋甕・SK904J・907J・915J土坑・PJ－46・51・58・69～71小穴・Ⅲb・Ⅲc層・遺構外出土遺物



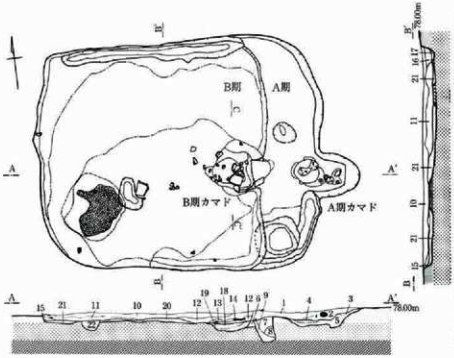
図面37　第252次調査　SK904J・908J土坑・Ⅲb層出土遺物



図面38　第252次調査　歴史時代遺構配置図（1/125）



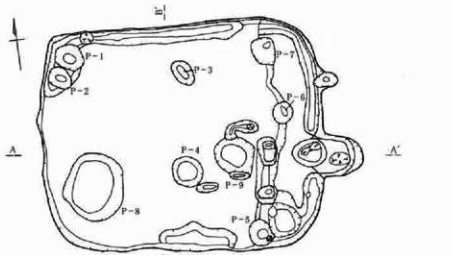
図面39　第252次調査　SI357住居実測図（上）・遺物接合図（下）



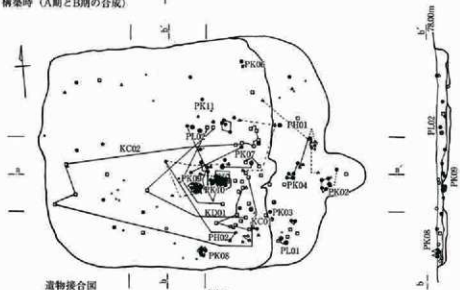
SI357

A期
覆土　1．黒褐色土（茶褐色土ブロック多い）
覆土　2．黒褐色土（ローム粒・焼土粒やや多い）
カマド構築土　3．黒褐色土（ロームやや多い）
カマド構築土　4．赤色焼土（SI層が焼土化したもの）
カマド構築土　5．黒褐色土（火熱を受ける）
住居構築土　6．黒褐色土（茶褐色味ややあり）
床下Pit覆土　7．黒褐色土（ローム細粒と木炭少量含む）
床下Pit覆土　8．黒褐色土（茶褐色土多い）
床下Pit覆土　9．黒褐色土（ロームやや多い）

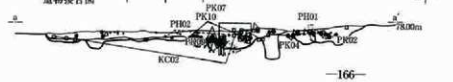
B期
覆土　10．黒褐色土（ローム細粒若干含む）
覆土　14．黒褐色土（ローム粒・茶褐色土やや多い）
覆土　12．黒褐色土（ローム・焼土・木炭の細粒少量含む）
覆土　13．黒褐色土（焼土粒・結土粒やや多い）
覆土　14．赤褐色土（焼土粒・結土粒多量に含む）
周溝　15．暗黄褐色土
周溝　16．黒褐色土（茶褐色土若干含む）
周溝　17．暗茶褐色土（茶褐色土多い）
カマド崩壊土　18．赤色焼土（20層が焼土化したもの）
カマド崩壊土　19．暗赤褐色土（20層が火熱を受けたもの）
カマド構築土　20．黒褐色土（ローム多く，粒まり強い）
住居構築土　21．黒褐色土（ローム若干含む）
貼り床下Pit　22．黒褐色土（ローム含む，粒まりあり）



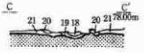
構築時（A期とB期の合成）



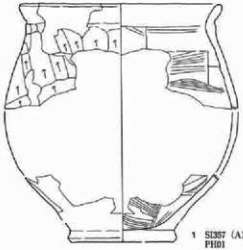
遺物接合図



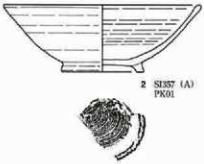
B期カマド



図面40　第252次調査　SI357（A期・B期）住居出土遺物（1）

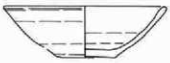


1 SI357 (A)
PH01

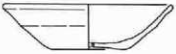


2 SI357 (A)
PK01

3 SI357 (A)
PK02

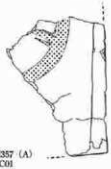


4 SI357 (A)
PK03
図版31



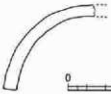
5 SI357 (A)
PK04

6 SI357 (A)
PL01



7 SI357 (A)
KC01

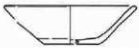
0　5　10cm
(1～6・8～15)



0　10　20cm
(7)

8 SI357 (B)
PH02

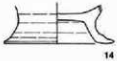
9 SI357 (B)
PK06
図版31



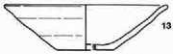
10 SI357 (B)
PK07

11 SI357 (B)
PK08
図版31

12 SI357 (B)
PK09



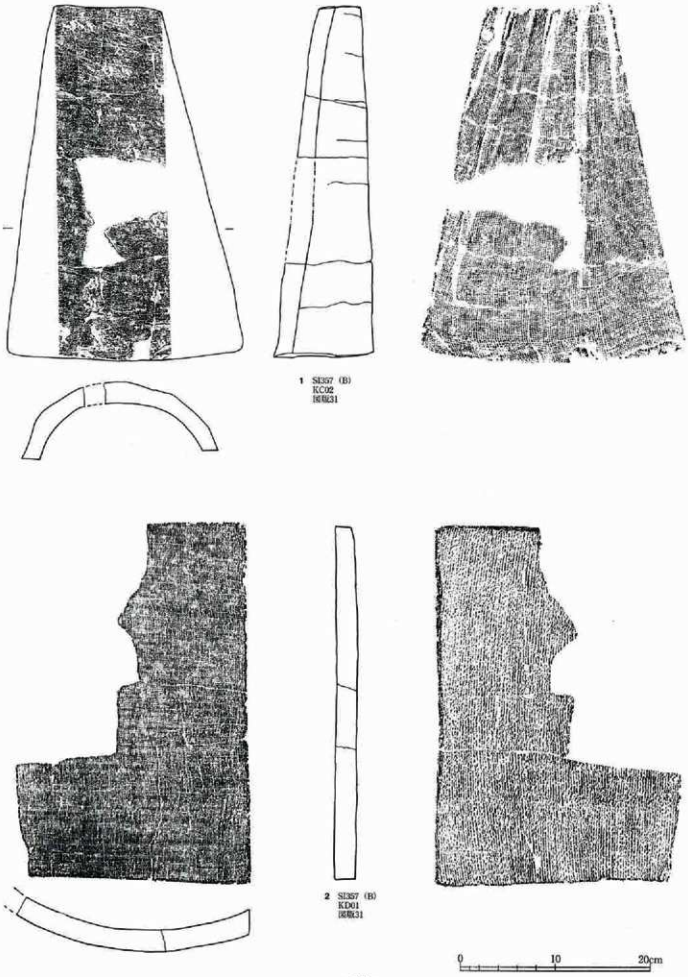
14 SI357 (B)
PK11



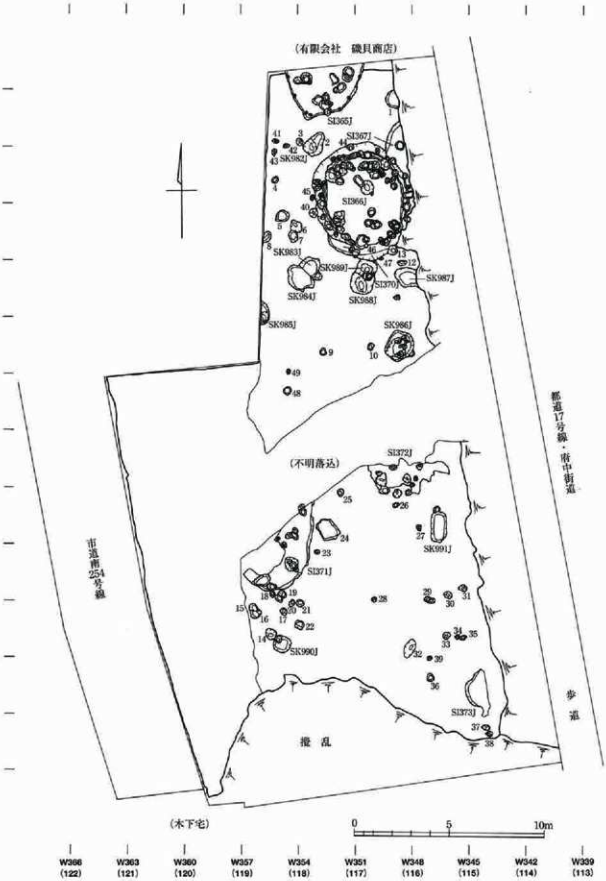
13 SI357 (B)
PK10

15 SI357 (B)
PL02

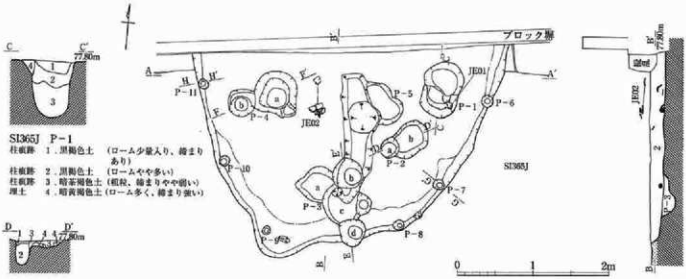
図面41　第252次調査　SI357（A期・B期）住居出土遺物（2）



図面42　第264次調査　縄文時代遺構配置図（1/200）



図面43　第264次調査　SI365J～367J住居実測図



SI365J　P－1
柱痕跡　1．黒褐色土　（ローム少量入り、締まりあり）
柱痕跡　2．黒褐色土　（ロームやや多い）
柱痕跡　3．暗茶褐色土（粗砂、締まりやや弱い）
埋土　4．暗黄褐色土（ローム多く、締まり強い）

SI365J　P－2
a　1．黒褐色土　（ローム若干入る。貼り床）
　　2．黒褐色土　（柱痕跡、締まりやや弱い）
b　3．黒褐色土　（ロームやや弱い、貼り床）
　　4．暗黄褐色土（ローム多量）

SI365J
1．暗茶褐色土（ローム・スコリア・炭化物少量入る）
2．暗茶褐色土（ローム・スコリア・炭化物やや多く、黒色味ややあり）

SI365J　P－3
d　柱痕跡　1．黒褐色土　（ローム細粒若干含む）
　　柱痕跡　2．黒褐色土　（ローム粒やや多く、締まりやや弱い）
　　埋土　3．黒褐色土　（ローム少量含み、締まりややあり）
　　埋土　4．暗茶褐色土（ローム多く、締まりあり）
c　柱痕跡　5．黒褐色土　（ローム少量入る）
　　埋土　6．黒褐色土　（ロームややあり）
b　柱痕跡　7．黒褐色土　（ロームややあり）
　　柱痕跡　8．暗黄褐色土（ローム多量）
　　埋土　9．黒褐色土　（ローム少量）
　　埋土　10．暗黄褐色土（ローム多い）
　　埋土　11．暗黄褐色土（ローム多い）

SI365J　P－4
a　柱痕跡　1．黒褐色土　（ローム少量入る）
　　柱痕跡　2．黒褐色土　（ロームブロック含み、締まりやや弱い）
　　柱痕跡　3．暗黄褐色土（ローム多量、やや粗粒）
　　埋土　4．暗褐色土　（ロームややあり）
b　柱痕跡　5．黒褐色土　（貼り床、ローム少量入る）
　　柱痕跡　6．黒褐色土　（ロームブロック含み、締まりやや弱い）
　　埋土　7．暗褐色土　（ロームややあり）

SI365J　P－7
1．暗褐色土（ローム やや多い）

SI365J　P－11
1．黒褐色土（ローム若干入る）

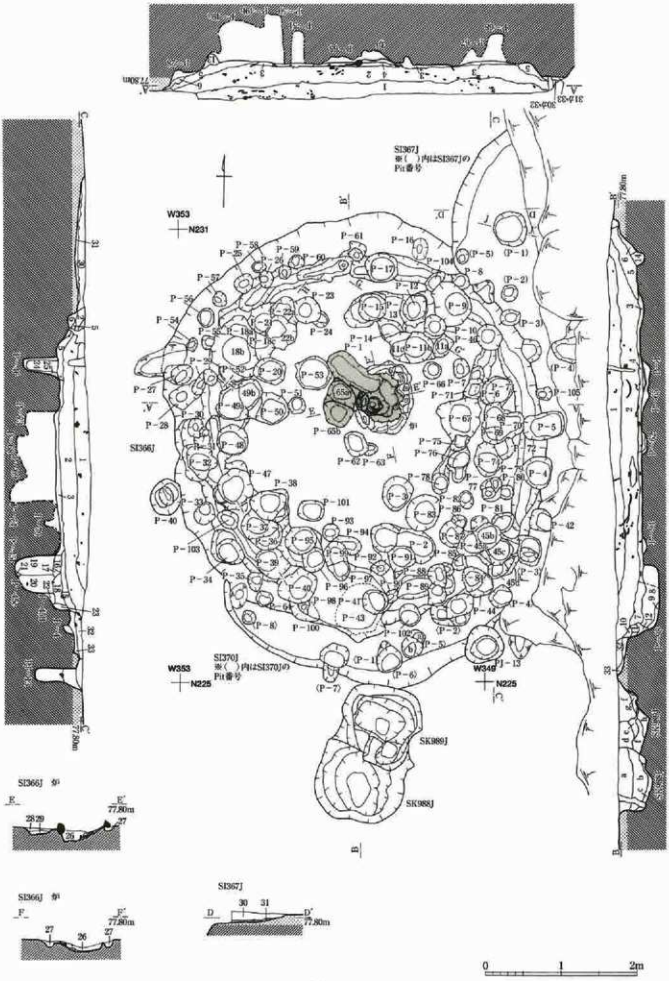
SI366J　P－11～13
P－12　1．黒色土　（ローム少なく、締まりあり）
　　2．黒褐色土　（ローム少量入り、締まりあり）
　　3．暗茶褐色土（ローム多く、締まり弱い）
P－13　4．黒褐色土　（ローム少量入り、締まり強い貼り床）
　　5．黒褐色土　（ローム多く、締まり弱い）
　　6．暗褐色土　（貼床、締まりあり）
P－11　7．黒色土　（ローム少量入る）
　　8．黒色土　（ローム粗粒多く、締まり弱い）

SI367J　P－1
1．黒褐色土　（ローム粒若干入る。締まりあり）
2．黒褐色土　（粗粒、締まり強い）
3．暗茶褐色土（締まりあり）

SI366J　P－18b～22a
P－18c　1．黒褐色土　（ロームの貼り床。P－20、18b土と共通）
　　2．黒褐色土　（ローム少量入る、細粒）
　　3．黒褐色土　（ロームやや多く、粗粒）
P－18b　4．黒褐色土　（ロームブロック入る、締まりあり）
　　5．黒褐色土　（黒色味あり）
　　6．黒褐色土　（ロームやや多く、締まりにやや欠く）
P－22a　7．黒褐色土　（ローム少量入り、締まりあり。貼り床）
　　8．黒褐色土　（黒色味あり）
　　9．暗黄褐色土（ローム多く、締まりあり）
P－21　10．黒褐色土　（粗粒、締まりやや弱い）

SI366J　P－36、37、39
P－37　1．黒褐色土　（ローム若干入る）
　　2．黒褐色土　（粗粒、締まりやや弱い）
P－36　3．黒褐色土　（ローム若干入る、貼り床）
　　4．黒褐色土　（ロームやや多く含む）
　　5．黒色土　（ローム・ロームブロックやや多く、締まり弱い）
P－39　6．黒褐色土　（ロームやや多い、貼り床）
　　7．暗茶褐色土（ローム多い、締まりやや弱い）
　　8．暗黄褐色土（ローム多く、締まりに欠く）

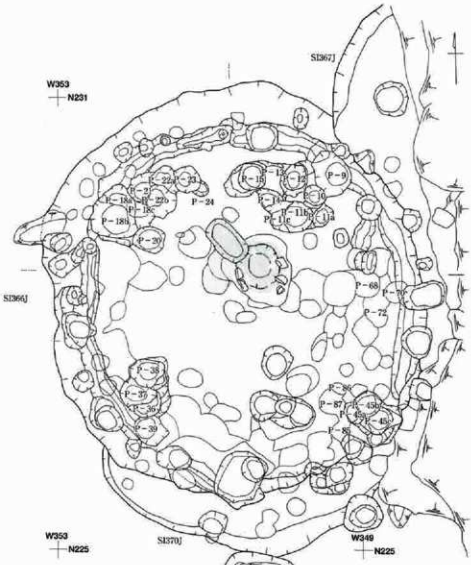
図面44　第264次調査　SI366J・367J・370J住居・SK988J・989J土坑実測図（1）



図面45　第264次調査　SI366J・367J・370J住居・SK988J・989J土坑実測図（2）

●主なPitの新旧関係表

(P−10)→(P−9) ↘(P−11)→(P−12) (P−14)→(P−13)↗ (P−15)↗	(P−19)→(P−18b)→(P−18c)→(P−18a) (P−20)↗(P−21)↗ (P−22b)↗(P−22a)↗ (P−23)→(P−24)	(P−36)　(P−39)→(P−37) (P−38)↗ (P−72)→(P−70)→(P−68)	(P−85)→(P−45)→(P−86)→(P−87)



SI366J

覆土上層1	黒褐色土	（ローム細粒やや多い）
覆土中層2	黒褐色土	（ローム粒多くなる）
覆土下層3	黒褐色土	（ロームブロック入る。粘性強い）
覆土下層4	黒褐色土	（ローム少なく、黒色味あり）
覆土下層5	黒褐色土	（ローム少なく、黒色味あり）
覆土下層6	黒褐色土	（ローム多く入る）
P−43　7	黒褐色土	（5層に似る。褐色味あり）
P−43　8	黒褐色土	（黒色味強い）
P−43　9	黒褐色土	（ローム中や多い）
P−43　10	暗褐色土	（ローム少なく、締まりあり）
P−43　11	暗褐色土	（ローム少量含み、締まりあり）
P−43　12	暗黄褐色土	（ローム・ロームブロックより成る）
周溝　13	黒褐色土	（ローム粒やや多く、締まりやや弱い）
周溝　14	黒褐色土	（ローム粒やや多く、締まりやや弱い）
P−45　15	黒褐色土	（5層にやや似る）
P−45　16	黒褐色土	（ローム中や多く、締まりあり）
P−45　17	暗褐色土	（ローム・茶褐色土やや多い）
P−45　18	黒褐色土	（ローム中や多く、締まり弱い）
P−45　19	黒褐色土	（ローム粒多く、締まり弱い）
P−45　20	黒褐色土	（ローム粒やや少なく、締まり弱い）
P−45　21	暗褐色土	（締まりややあり）
P−45　22	暗茶褐色土	（ローム多く、締まりあり）
P−45　23	黒褐色土	（ローム中や多く、締まりあり）
P−46　24	暗褐色土	（ローム中や多く、締まりやや弱い）
P−46　25	暗黄褐色土	（ローム多く、締まりあり）
炉　26	黒褐色土	（焼土多く入り。締まりあり）
炉　27	黒褐色土	（焼土若干入る。ローム中や多い）
P−65　28	黒褐色土	（ローム粒若干入る）
P−65　29	黒褐色土	（焼土多く入る）

SI367J

覆土上層30	黒褐色土	（ローム若干入る）
覆土下層31	黒褐色土	（ローム中や多い）

SI370J

覆土上層32	黒褐色土	（ローム若干入る）
覆土下層33	黒褐色土	（ローム中や多い）

SK988J

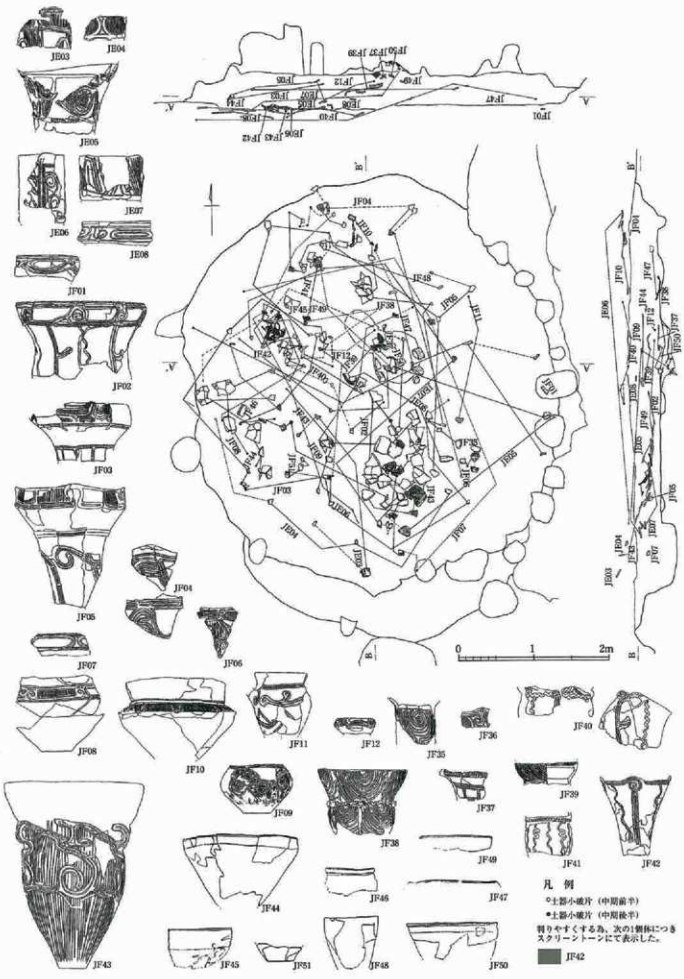
a	黒褐色土	（やや茶褐色味あり）
b	黒褐色土	（黒色味ややあり）
c	暗黄褐色土	（ローム多い）

SK989J

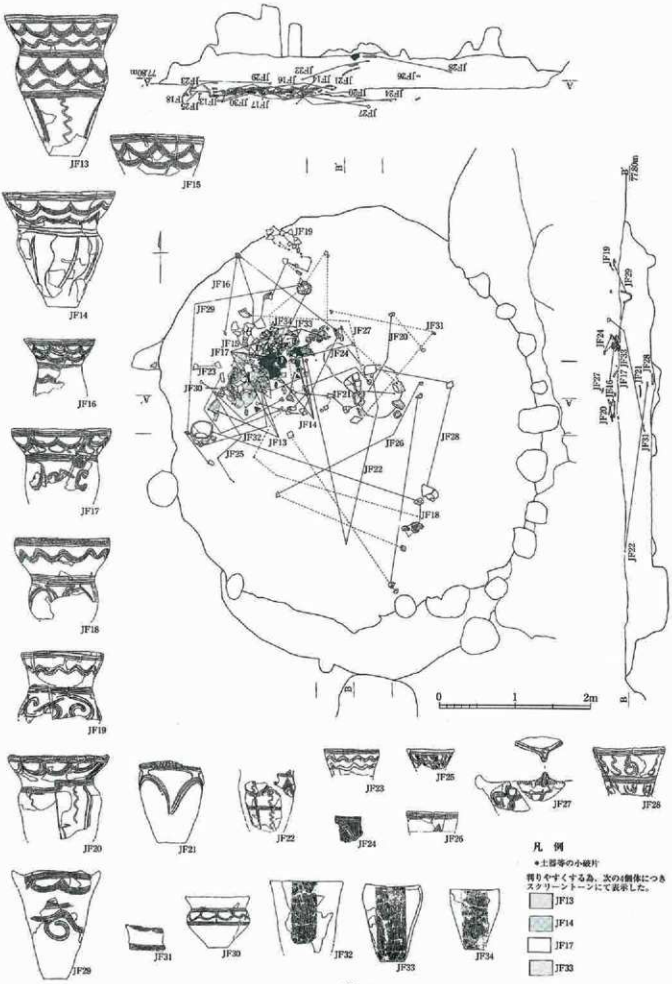
d	黒褐色土	（やや茶褐色味あり）
e	黒褐色土	（黒色味ややあり）
f	黒褐色土	（ローム粒やや多い）
g	黒褐色土	（やや茶褐色味あり）
h	暗黄褐色土	（ローム多い）

0　1　2m

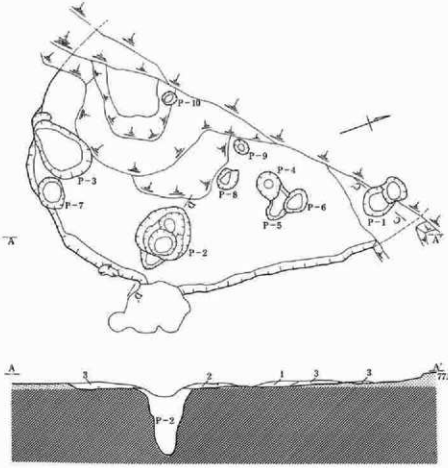
図面46　第264次調査　SI366J住居遺物接合図

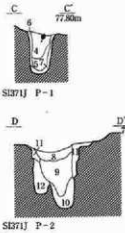


図面47　第264次調査　連孤文土器接合図



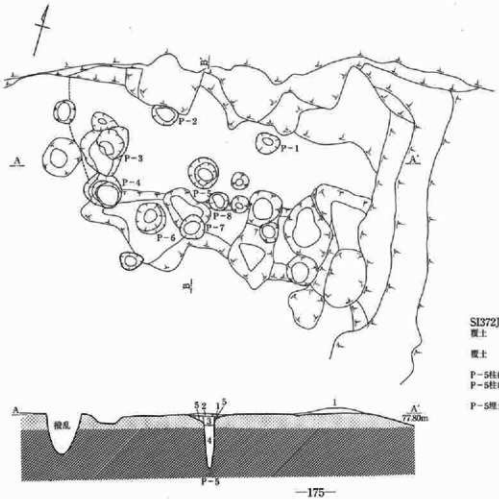
図面48　第264次調査　SI371J・372J住居実測図





SI371J

覆土	1	黒褐色土	(ローム少なく、締まりあり)
覆土	2	黒褐色土	(ローム少量入る)
覆土	3	黒褐色土	(ローム、茶褐色土やや多く含む)
P-1柱痕跡	4	黒褐色土	(ローム少量入り、締まりやや弱い)
P-1柱痕跡	5	黒褐色土	(ローム粗粒やや多く、締まりやや弱い)
P-1埋土	6	黒褐色土	(ローム少なく、締まりあり)
P-1埋土	7	暗黄褐色土	(ローム多く、締まりあり)
P-2柱痕跡	8	黒褐色土	(ローム・スコリア・木炭粒少量入る)
P-2柱痕跡	9	黒褐色土	(黒色味あり、やや微粒)
P-2柱痕跡	10	暗褐色土	(粒粒、ロームやや多く、締まりやや弱い)
P-2埋土	11	黒褐色土	(ロームやや多く、締まりあり)
P-2埋土	12	黄褐色土	(ローム多く、締まりやや弱い)

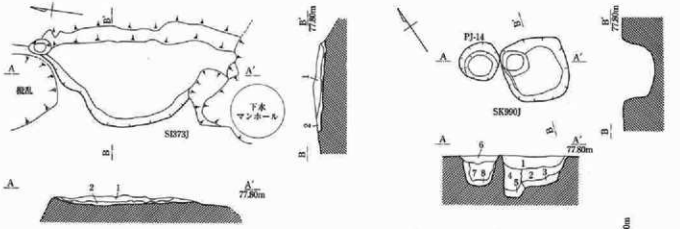


SI372J

覆土	1	黒褐色土	(ローム粒やや多く、締まりあり)
覆土	2	黒褐色土	(ローム少量入る、Pit上部)
P-5柱痕跡	3	黒褐色土	(ローム少量入る)
P-5柱痕跡	4	黒褐色土	(ローム少量入る、締まりやや弱い)
P-5埋土	5	黒褐色土	(ロームやや多く締まりあり)

0　1　2m

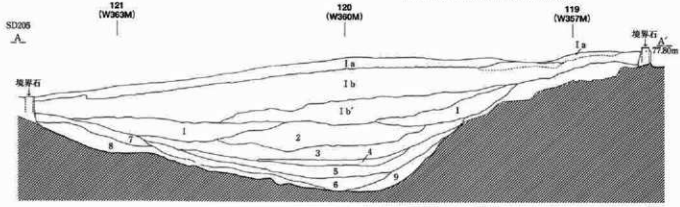
図面49　第264次調査　SI373J住居・SK990J・991J土坑・SD205溝実測図



SI373J
- 1　黒褐色土　（ローム少量入り、締まりあり）
- 2　暗褐色土　（茶褐色土やや多い）

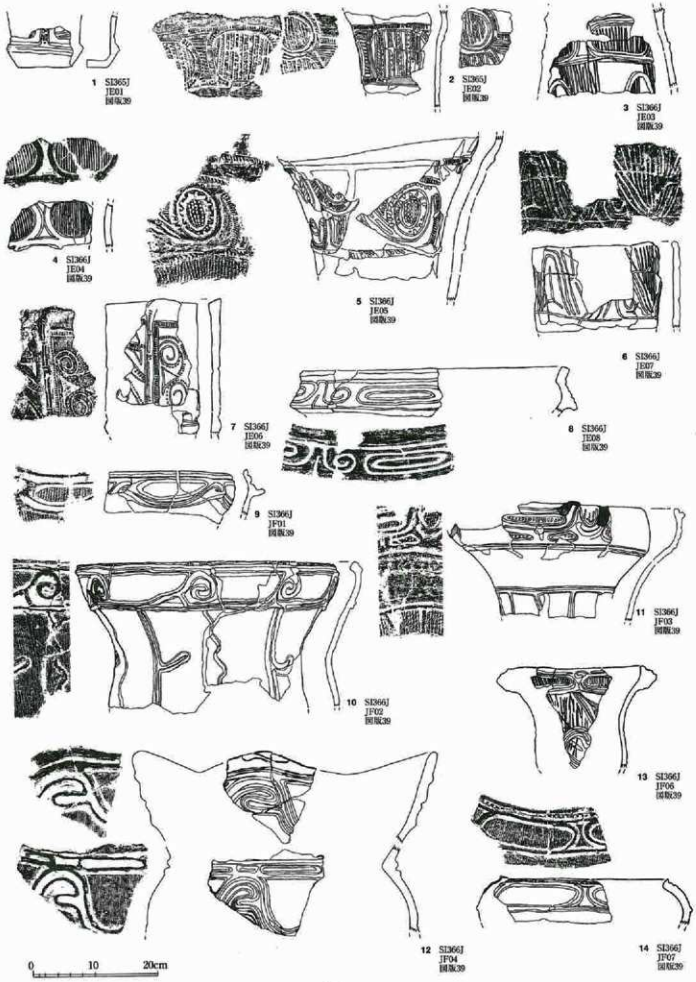
SK990J
- 1　黒褐色土　（ローム若干入る。締まりあり）
- 2　黒褐色土　（ローム少量入る。黒色味あり）
- 3　暗茶褐色土（ローム細粒入る）
- 4　黒褐色土　（ローム少量入る）
- 5　暗茶褐色土
- PJ-14 6　黒褐色土
- PJ-14 7　黒褐色土　（ローム若干入る）
- PJ-14 8　暗茶褐色土（黒色味あり）
- PJ-14 8　暗茶褐色土（ローム多く入る）

SK991J
- 1　黒褐色土（やや褐色味あり、締まりあり）
- 2　黒色土　（ローム粒・スコリア粒少量入る）
- 3　黒色土　（黒色味増す。緻密）
- 4　黒色土　（さらに緻密になる。締まり・粘性あり）
- 5　黒褐色土（ロームやや多く含む）

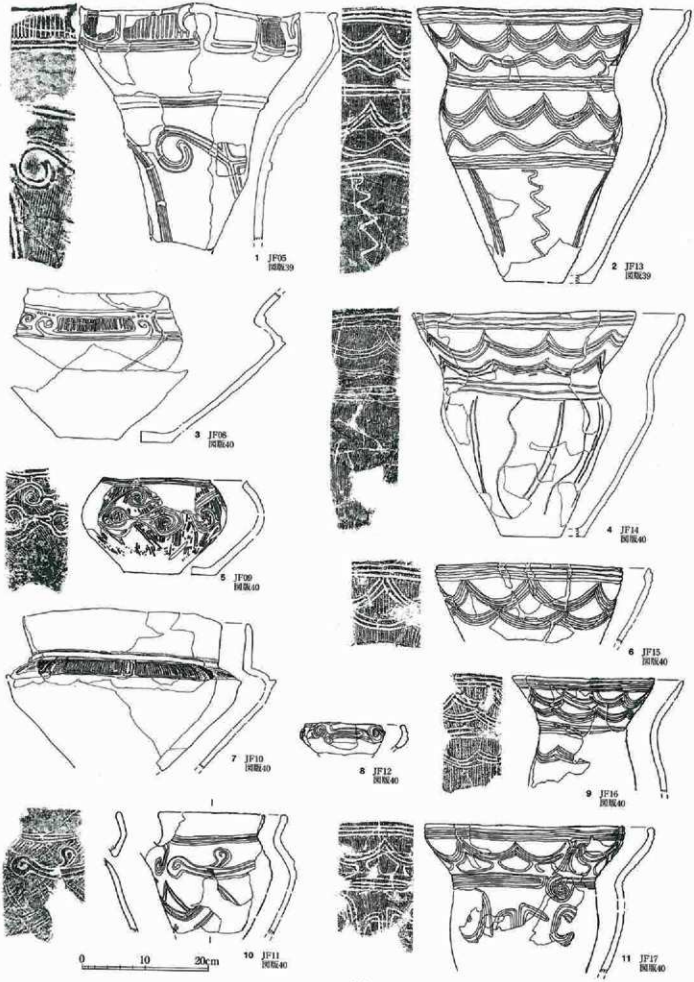


SD205
- Ia　表土　（盛土・砂利・コンクリート）
- Ib　表土　（ローム粒多い）
- Ib'　表土　（ローム粒やや多い）
- 1　黒褐色土　（ローム粒少ない）
- 2　暗茶褐色土（粘質土、ローム粒少量入る）
- 3　黒褐色土　（ローム粒やや多く入る）
- 4　黒色土　（ローム粗粒少量入る）
- 5　暗茶褐色土（ロームブロック多い。やや粗粒）
- 6　黒色土　（ローム粒少量入る）
- 7　黒褐色土　（ローム粗粒やや多く入る）
- 8　暗黄褐色土（ローム・ロームブロック多量に入る）
- 9　黒褐色土　（ローム粗粒・ロームブロック多量に入る。＝黒褐色土）
- 10　黒褐色土　（≒1層、ローム少量入る）
- 11　黒褐色土　（≒1層、ロームやや多く入る）
- 12　暗茶褐色土（上部は3層に対応。下部は黒色味強く、粘性、締まりあり）
- 13　暗茶褐色土（ローム若干入る。硬く締まる）
- 14　暗茶褐色土（≒3・4層、ローム粗粒多い）
- 15　黒褐色土　（≒5・6層、締まりあり、ローム粒多く入る）
- 16　暗黄褐色土（≒8層、ローム多く入る。締まりやや弱い）

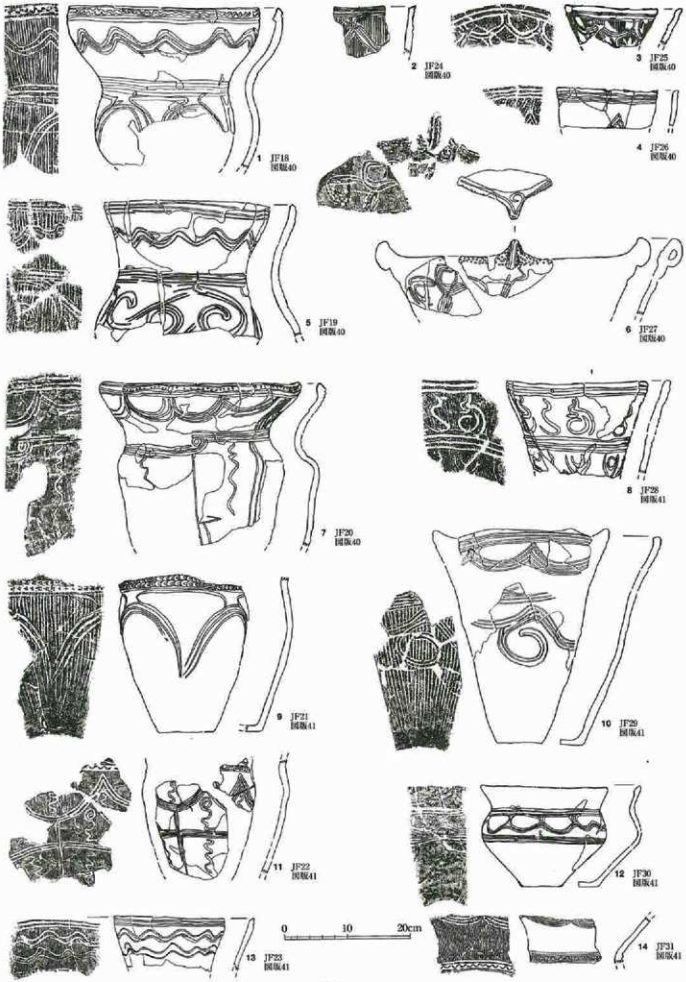
図面50　第264次調査　SI365J・366J住居出土遺物（1）



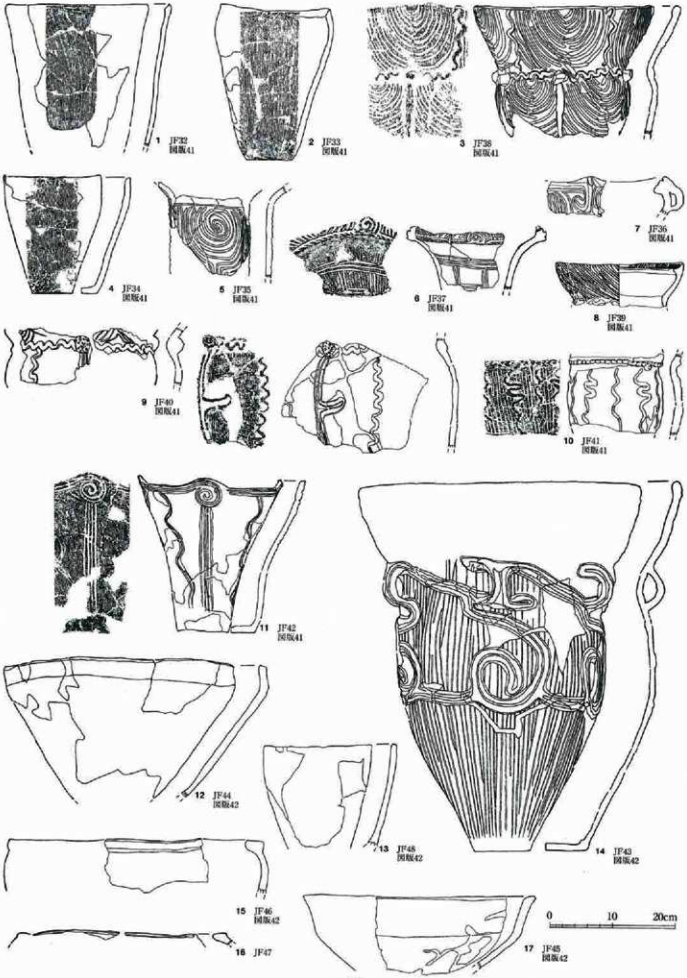
図面51　第264次調査　SI366J住居出土遺物（2）



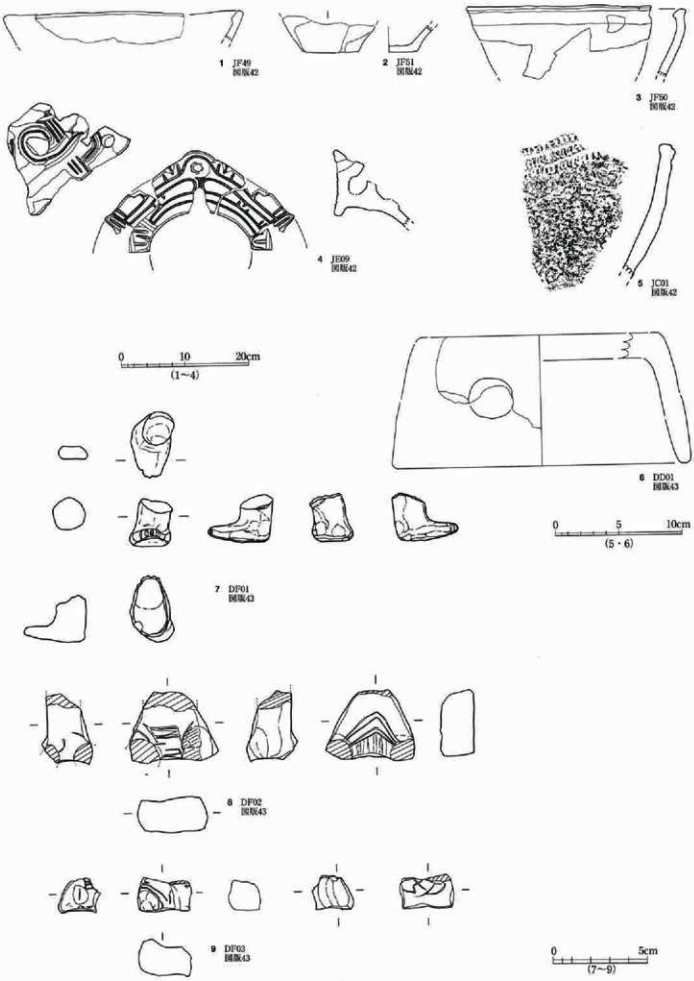
図面52　第264次調査　SI366J住居出土遺物（3）



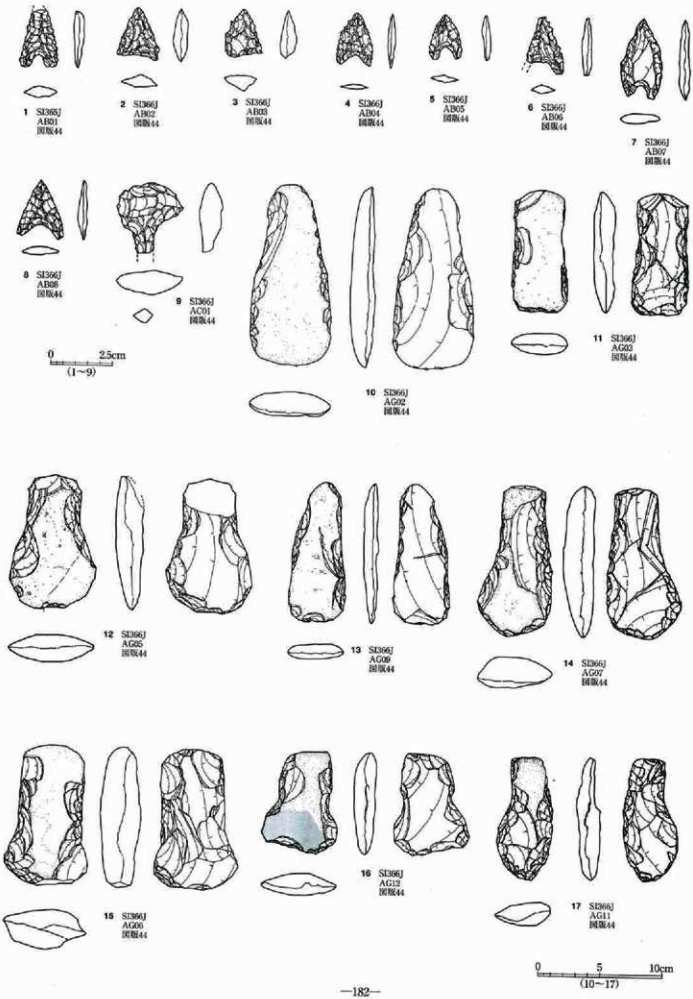
図面53　第264次調査　SI366J住居出土遺物（4）



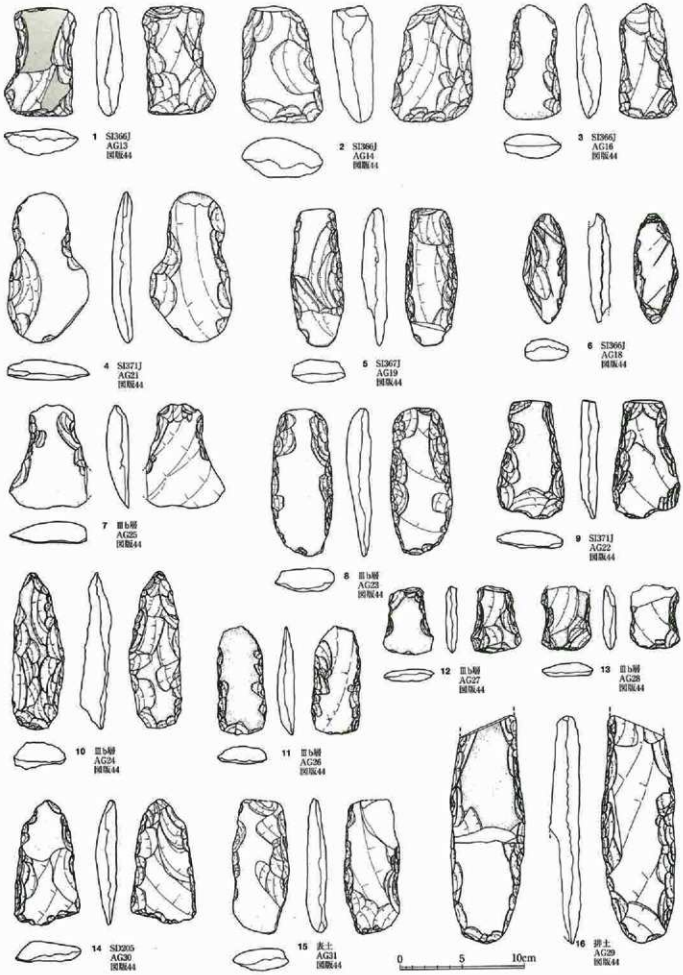
図面54　第264次調査　SI366J住居出土遺物（5）



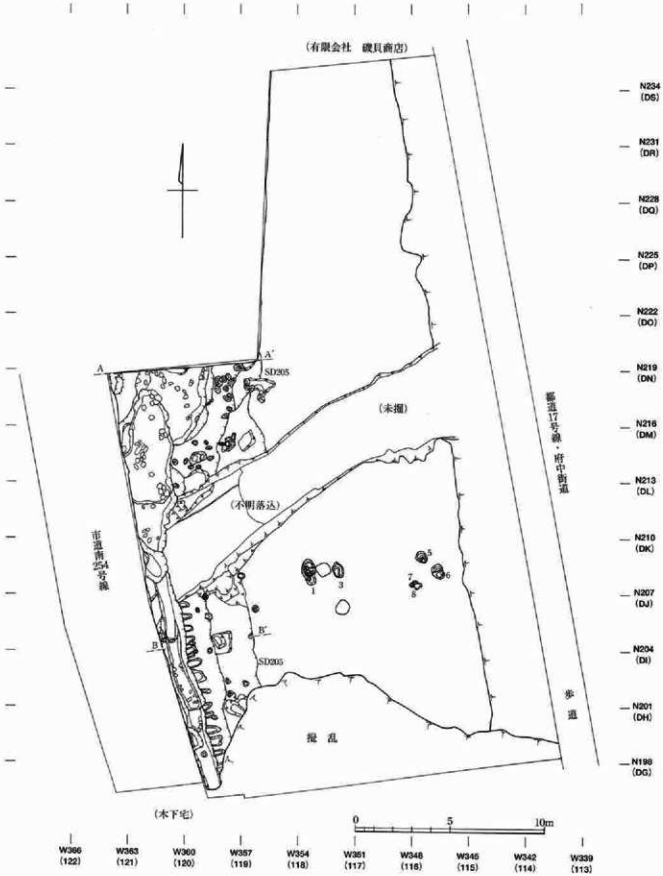
図面55　第264次調査　SI365J・366J住居出土遺物（6）



図面56　第264次調査　SI366J・367J・371J住居・Ⅲb層・遺構外・SD205溝出土遺物



図面57　第264次調査　歴史時代遺構配置図（1/200）



図面58　第264次調査　SD205溝・遺構外出土遺物

1　SD205
PH01

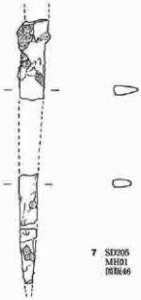
3　SD205
PK01

5　SD205
PN01

2　SD205
PH02

4　SD205
PK02

6　SD205
KC01
図版46

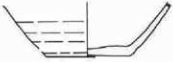


7　SD205
MH01
図版46

0　10　20cm
(6・10・11)

0　5cm
(7)

8　表土
PK03
図版46



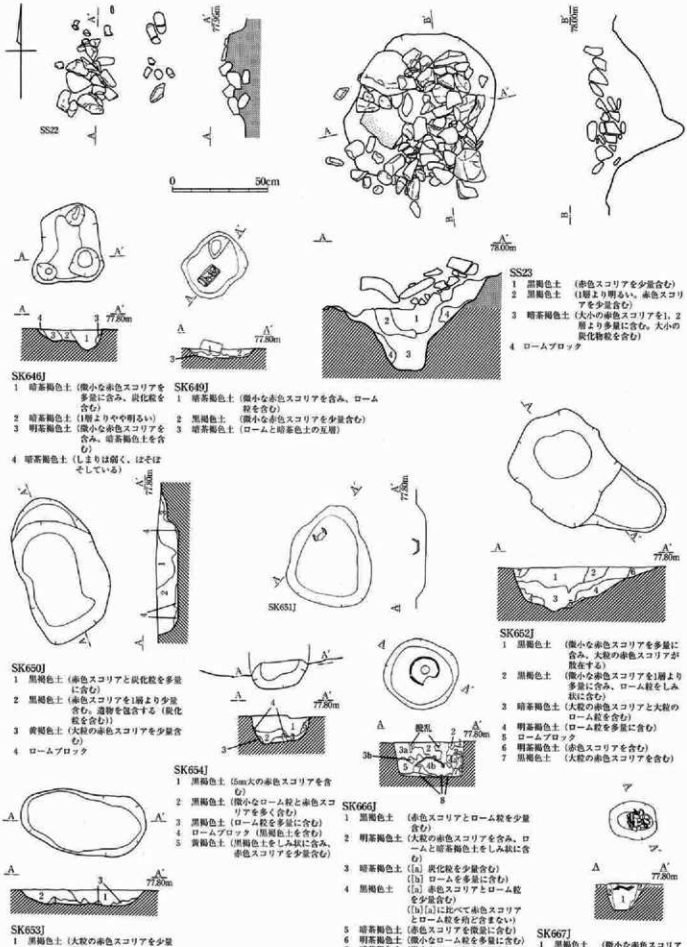
9　表土
PK04

10　表土
KC02

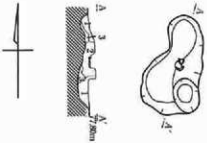
11　遺構外　新規課
KD01
図版46

0　5　10cm
(1～5・8・9)

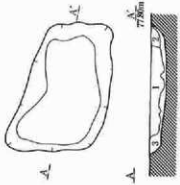
図面59　第140次調査　SS22・23集石・SK646J・649J～654J・666J・667J土坑実測図



図面60　第140次調査　SK668J～676J土坑実測図

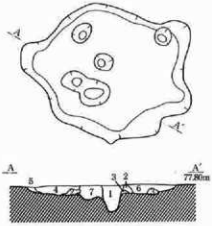


SK668J
1　黒褐色土　（微小な赤色スコリアを少量含む）
2　暗茶褐色土（大粒の赤色スコリアを少量含む）
3　明茶褐色土（赤色スコリアを少量含む）

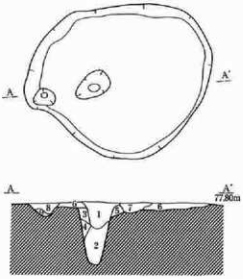


SK669J
1　暗茶褐色土（赤色スコリアを少量含む）
2　暗茶褐色土（大粒の赤色スコリアを少量含む）
3　明茶褐色土（赤色スコリアを少量含む）

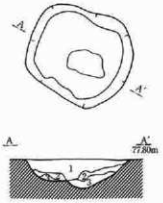
SK670J
1　暗茶褐色土（5mm大の赤色スコリアを多量に含み、炭化粒を含む）
2　明茶褐色土（ローム粒を多量に含む）



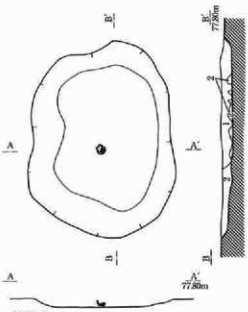
SK671J
1　暗茶褐色土（赤色スコリアとローム粒を含む）
2　黄褐色土　（赤色スコリアとローム粒を多量に含む）
3　ロームブロック
4　黒褐色土　（赤色スコリアを少量含む。別遺構との新旧関係については不明）
5　暗茶褐色土（硬質である）
6　暗茶褐色土（黒褐色土をしみ状に含み、ロームをブロック状に含む）
7　明茶褐色土（暗茶褐色土をしみ状に含む）



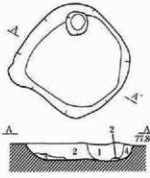
SK672J
1　黒褐色土　（大小の赤色スコリアを多量に含み、炭化粒を含む）
2　黒褐色土　（赤色スコリアを多く含む）
3　暗茶褐色土（ローム粒を含む）
4　ロームブロック
5　暗茶褐色土（赤色スコリアを少量含む）
6　暗茶褐色土（ローム粒をしみ状に含む）
7　黒褐色土　（微小な赤色スコリアを少量含む）
8　暗茶褐色土（微小な赤色スコリアを多く含む）
9　明茶褐色土（ローム粒を多量に含む）



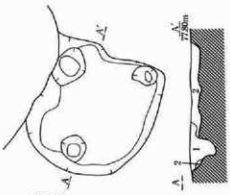
SK673J
1　暗茶褐色土（微小な赤色スコリアを部分的に多く含む）
2　暗茶褐色土（赤色スコリアを1層より多く含む）
3　明茶褐色土（ローム を多量に含む）



SK674J
1　暗茶褐色土（微小な赤色スコリアを含む）
2　暗茶褐色土（1層よりやや明るく、ローム粒を含む）



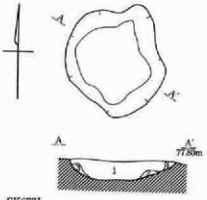
SK675J
1　黒褐色土　（赤色スコリアを少量含み、大きな炭化物を含む）
2　黒褐色土　（1層より微小な炭化物を含む）
3　暗茶褐色土（ローム粒を含む）
4　ロームブロック



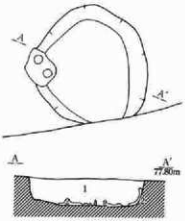
SK676J
1　黒褐色土　（大小の赤色スコリアを含む）
2　明茶褐色土（覆土はしみ状で良好ではない）

0　1　2m

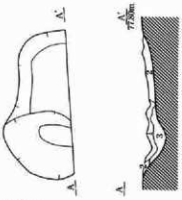
図面61　第140次調査　SK677J～680J・682J・686J土坑・PJ－47・189小穴実測図



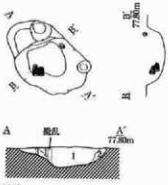
SK677J
1　暗茶褐色土（大小の赤色スコリアを含み、多量の炭化物（2cm大の炭化物も含む）を含む。遺物を多量に含む）
2　暗茶褐色土（1層よりやや明るい）
3　明茶褐色土（微小な赤色スコリアと炭化粒を含む）
4　暗茶褐色土（赤色スコリアとロームを多量に含む）



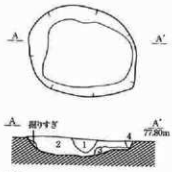
SK678J
1　暗茶褐色土（赤色スコリアを多量に含み、ロームをブロック状に含む）
2　ロームブロック



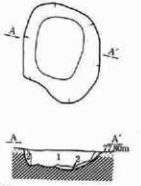
SK679J
1　暗茶褐色土（ローム粒をしみ状に含む）
2　暗茶褐色土（やや明るい色調である）
3　黄褐色土　（1層の粗土をしみ状に含む）



SK680J
1　黒褐色土　（微小な赤色スコリアを多量に含む）
2　暗茶褐色土（硬質である）
3　暗茶褐色土（ロームをしみ状に含む）

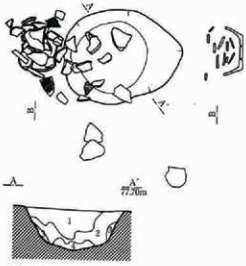


SK682J
1　暗茶褐色土（微小な赤色スコリアを少量含む）
2　暗茶褐色土（大粒の赤色スコリアを少量含む）
3　明茶褐色土（ロームを多量に含む）
4　暗茶褐色土（1層より微小な赤色スコリアを含む）

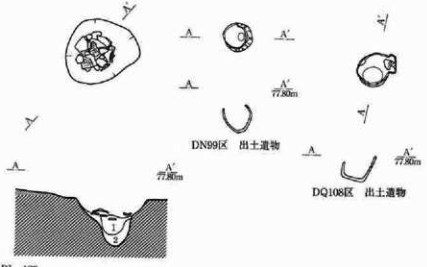


SK686J
1　暗茶褐色土（赤色スコリアを少量含み、遺物を包含する）
2　明茶褐色土（やや硬質だが、ほぞぼそしている）

0　1　2m



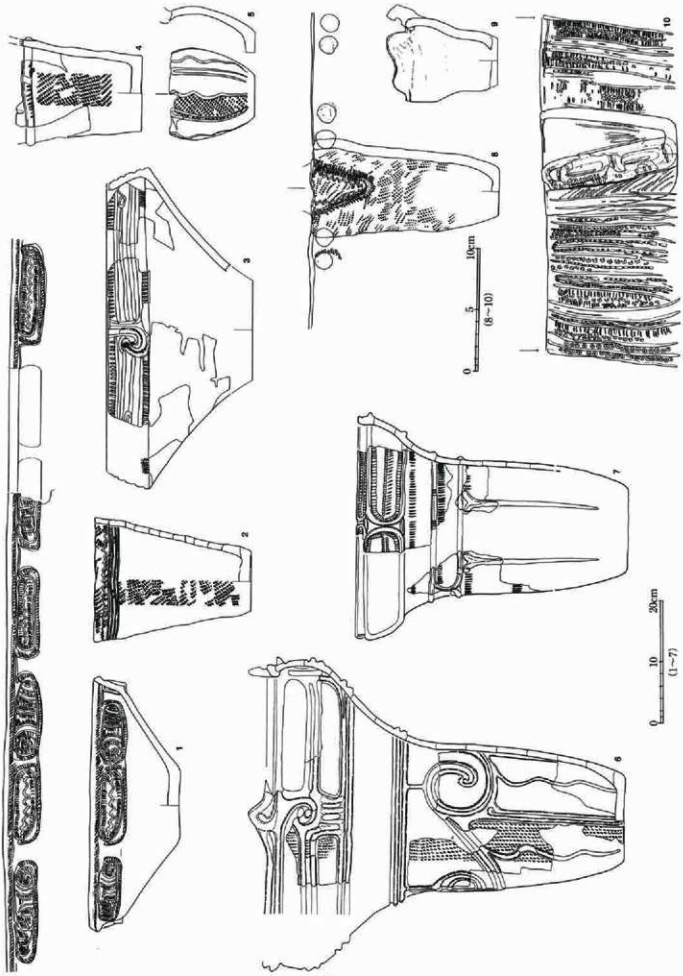
PJ－47
1　暗茶褐色土（赤色スコリアを少量含む）
2　明茶褐色土（ローム粒を多量に含む）
3　黄茶褐色土（茶褐色土を含む）
4　黄茶褐色土（赤色スコリアを含む）



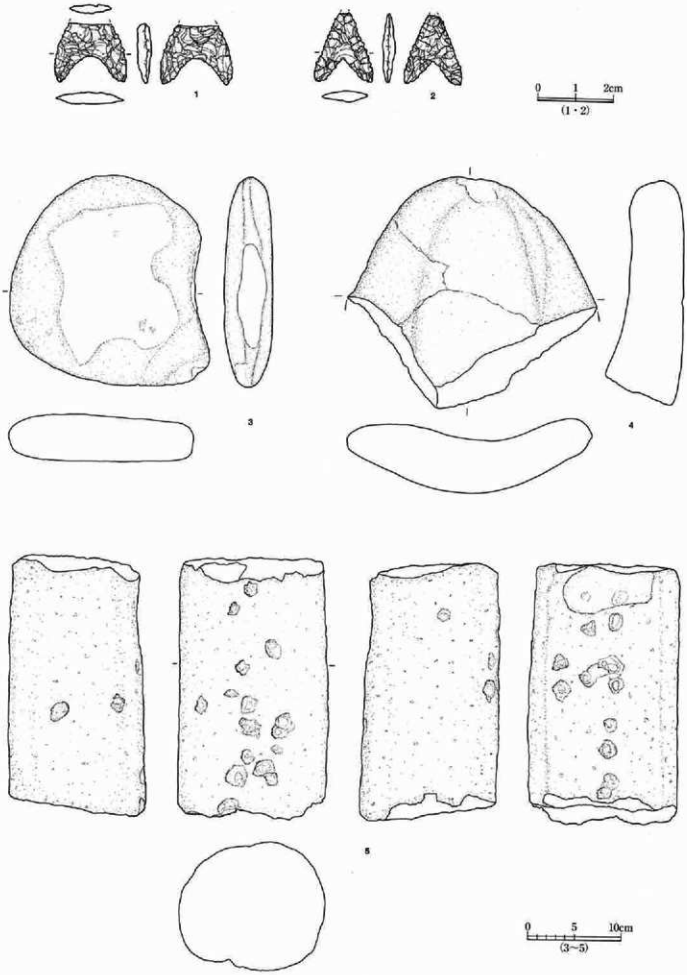
PJ－189
1　暗茶褐色土（硬質で密度の高い粗土である）
2　明茶褐色土（ローム粒を多量に含む）

0　50cm

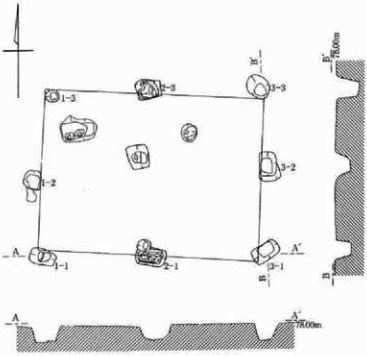
図面62　第140次調査　SK666J・670J・680J土坑・遺構外出土遺物



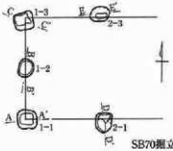
図面63　第140次調査　SS23集石・SK649J・678J土坑出土遺物



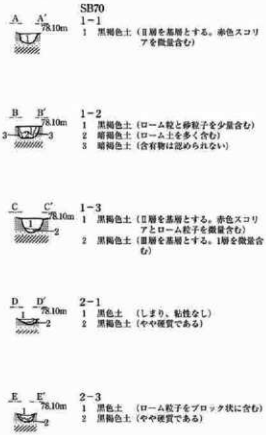
図面64　第140次調査　SB42・70掘立柱建物実測図



SB42掘立柱建物



SB70掘立柱建物



発掘風景スナップ

図　　版

図版1　第251次調査　先土器時代検出遺構・出土遺物

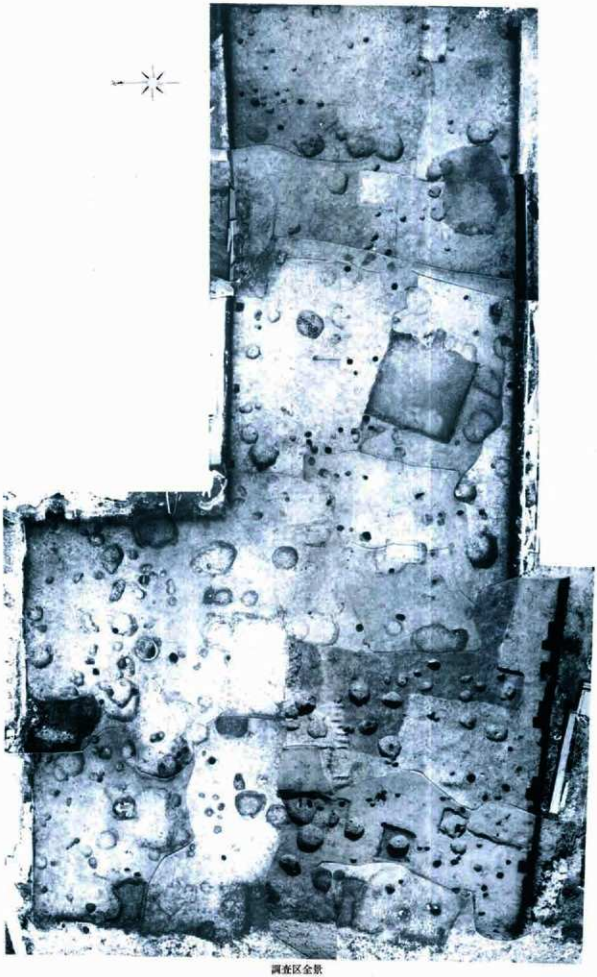
1. 調査区全景（北から）

2. 南壁土層断面（北から）

3. ナイフ形石器出土状況（東から）

4. ナイフ形石器

図版2　第251次調査　縄文時代検出遺構（1）



調査区全景

図版3　第251次調査　縄文時代検出遺構（2）

1．調査区遠景（大内ビル建築予定地より）（西から）

2．DK97・98区北壁土層断面（南から）

3．縄文時代遺構調査状況（SK975J）（南から）

4．発掘状況（西から）

図版4　第251次調査　縄文時代検出遺構（3）

1．SI362J　全景（北から）

2．SI362J　Pit掘り上げ後全景（東から）

3．SI362J　P－2上遺物出土状況（東から）

4．SI362J　炉部分（北から）

5．SI362J　埋甕炉（西から）

図版5　第251次調査　縄文時代検出遺構（4）

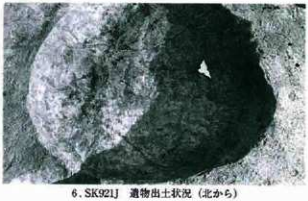
1. SK916J　東西土層断面（南から）

2. SK916J　遺物出土状況（東から）

3. SK917J　東西土層断面（北から）

4. SK919J　全景（北から）

5. SK920J・PJ－11・SK918J　全景（北から）



6. SK921J　遺物出土状況（北から）

7. SK922J・921J　全景（東から）

8. SK923J　全景（東から）

図版6　第251次調査　縄文時代検出遺構（5）

1. SK924J　南北土層断面（西から）

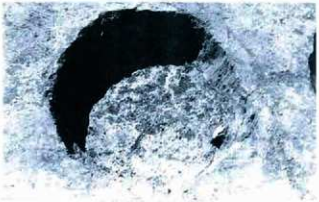
2. SK925J　東西土層断面（北から）

3. SK926J　南北土層断面（西から）

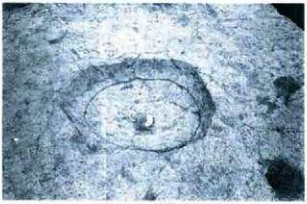
4. SK926J　遺物出土状況（北から）

5. SK927J　全景（東から）

6. SK928J　全景（南から）



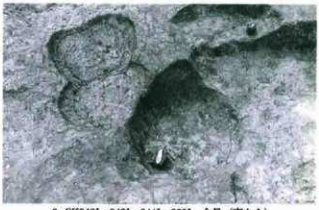
7. SK929J　全景（東から）



8. SK930J　全景（西から）

1．左上より　SK931J・932J・PJ－62・61　左下より　SK933J・941J　全景（東から）

2．SK931J　遺物出土状況（西から）



3．SK942J・943J・944J・938J　全景（東から）

4．SK939J・940J　全景（東から）

5．SK945J　全景（北から）

図版8　第251次調査　縄文時代検出遺構（7）

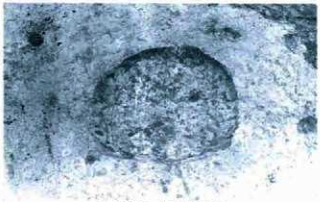
1．左上より　SK946J・947J
左下より　SK929J・980J・945J・948J・949J　全景（東から）

2．SK947J　全景（東から）

3．SK950J　全景（東から）

4．SK950J　東西土層断面（北から）

5．SK951J　遺物出土状況（北から）



6．SK962J　全景（北から）

7．下よりSK953J・954J・955J　全景（東から）

図版9　第251次調査　縄文時代検出遺構（8）

1．SK956J　全景（南から）

2．SK956J　東西土層断面（南から）

3．SK957J　全景（南から）

4．SK958J　全景（南から）

5．SK959J・960J　全景（東から）

6．SK961J　全景（東から）

7．SK962J・963J　全景（南から）

8．SK964J　全景（西から）

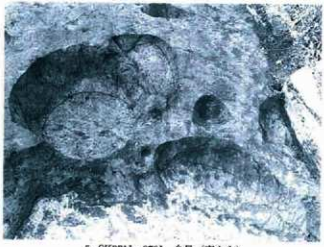
図版10　第251次調査　縄文時代検出遺構（9）

1. 円－148・SK965J　全景（南から）

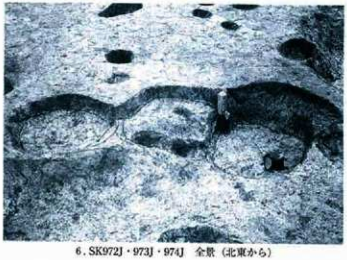
2. SK966J　全景（南から）

3. SK967J　全景（南から）

4. SK969J・968J・981J　全景（南から）



5. SK971J・970J　全景（東から）

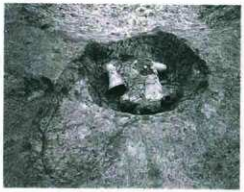


6. SK972J・973J・974J　全景（北東から）

図版11　第251次調査　縄文時代検出遺構（10）

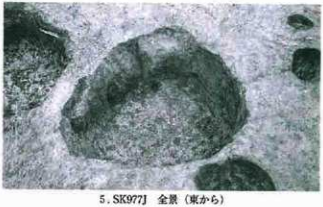
1．SK975J　遺物出土状況（東から）

2．SK975J　東西土層断面（北から）



3．SK975J　全景（北から）

4．SK976J　全景（南から）



5．SK977J　全景（東から）

6．SK979J・978J　全景（南から）

7．SK980J　全景（南から）

図版12　第251次調査　縄文時代出土遺物（1）

図面9－1
SI362J
JE07

図面9－2
SI362J
JE06

図面9－3
SI362J
JE09

図面9－4
SI362J
JE05

図面9－5
SI362J
JE08

図面9－6
SI362J
JF01

図面9－7
SI362J
JF02

図面9－8
SI362J
JF04

図面9－9
SK975J
JE13

図面9－10
SK916J
JE10

図面9－11
SK927J
JE04

図面9－12
SK931J
JE02

図面9－13
SK947J
JE11

図面9－14
SK975J
JE14

図面9－15
SK956J
JE12

図面10－1
SK975J
JE15

図面10－2
SK980J
JE03

図面10－3
PJ－149
JF05

図面10－4
Ⅲb層
JE01

図面10－5
Ⅲb層
JF03

図版13　第251次調査　縄文時代出土遺物（2）

図面10－6
SI362J
JF06

図面10－7
SK974J
JE17

図面10－8
Ⅲb層
JE22

図面10－9
Ⅲb層
JE21

図面10－10
Ⅲb層
JE23

図面11－1
SI362J
JE16

図面11－2
Ⅲb層
JE18

図面11－3
Ⅲb層
JE20

図面11－4
Ⅲb層
JE19

図面11－5
Ⅲb層
JG01

図面11－7
SI362J
DA01

図面11－8
SK939J
DB01

図面11－9
SI362J
DB02

図面11－6
Ⅲb層
JG02

図面11－10
SI362J
DE01

図面11－11
排土
DE03

図面11－12
表土
DE04

図面11－13
SI362J
AG01

図面11－14
SI362J
AG02

図面11－15
SI362J
AG03

図面11－16
SK929J
AS04

図面11－17
SK921J
AS02

図面11－18
SK962J
AS03

図版14　第251次調査　縄文時代出土遺物（3）

図面11－19
SK982J
AG04

図面11－20
SK919J
AG05

図面11－21
SK990J
AT01

図面11－22
SK930J
AG08

図面12－1
SK931J・933J
AS05

図面12－2
SK948J
AG10

図面12－3
SK933J
AG06

図面12－4
SK978J
AD01

図面12－5
SK939J
AG07

図面12－6
SK944J
AG09

図面12－7
SK968J
AG11

図面12－8
Ⅲb層
AC01

図面12－9
Ⅲb層
AG15

図面12－10
Ⅲb層
AG12

図面12－11
Ⅲc層
AG13

図面12－12
Ⅲb層
AG14

図面12－13
Ⅲb層
AG16

図面12－14
Ⅲb層
AG17

図面12－15
Ⅲb層
AG18

図面12－16
Ⅲb層
AG20

図面12－17
Ⅲb層
AG19

図面12－18
撥孔
AG21

図面12－19
砕土
AG22

図面12－20
撥孔
AB01

図版15　第251次調査　歴史時代検出遺構（1）

1. SK896・SB71・SK894　全景（南から）

2. SB71　1－1柱穴　土層断面（南から）

3. SB71　1－2柱穴　土層断面（南西から）

4. SB71　2－1柱穴　土層断面（南から）

5. SK894　全景（東から）

6. SK896　全景（南から）

図版16　第251次調査　歴史時代検出遺構（2）

1．SB89・SA11　全景（西から）

2．SB89　2－1柱穴　土層断面（南西から）

3．SB89　2－3柱穴　土層断面（東から）

4．SB89　3－3柱穴　土層断面（東から）

5．SB89・SA11　全景（北から）

図版17　第251次調査　歴史時代検出遺構（3）

1．SI131　全景（東から）

2．SI131　構築時全景（東から）

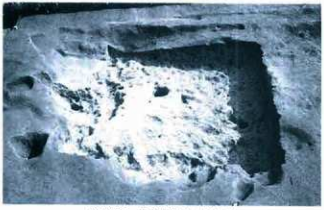
3．SI131　遺物出土状況（南から）

4．SI131　東西土層断面（南から）

5．SI131　カマド遺物出土状況（南から）

図版18　第251次調査　歴史時代検出遺構（4）

1．SI355　全景（北から）



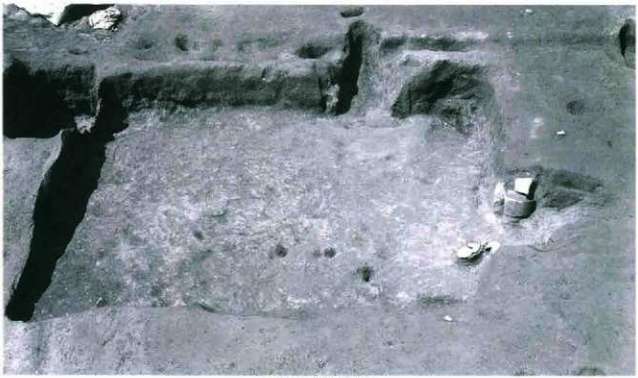
2．SI355　構築時全景（北から）

3．SI355　遺物出土状況（北から）

4．SI355　南北土層断面（東から）

5．SI355　カマド全景（西から）

図版19　第251次調査　歴史時代検出遺構（5）



1．SI356　全景（南から）

2．SI356　構築時全景（南から）

3．SI356　遺物出土状況（南から）

4．SI356　東カマド全景（西から）

5．SI356　北カマド全景（南から）

図版20　第251次調査　歴史時代出土遺物（1）

図版23－1
SI131
PH01

図版23－2
SI131
PH02
墨書「日」

図版23－4
SI131
PH04

図版23－5
SI131
PH05

図版23－7
SI131
PK01
墨書「南」

図版23－8
SI131
PK02

図版23－9
SI131
PK03

図版23－10
SI131
PK04

図版23－11
SI131
PK05

図版23－13
SI131
PK07

図版23－12
SI131
PK06

図版24－4
SI131
PK13

図版24－14
SI131
KA02

図版25－1
SI131
KC01

図版25－3
SI131
KD08
ヘラ書き「鬼」?

図版27－3
SI131
MM01

図版21　第251次調査　歴史時代出土遺物（2）

図面25－2
SI131
KD01

図面28－2
SI355
PH08

図面28－8
SI355
PK16

図面28－9
SI355
PK17

図面29－1
SI355
KC03

図版22　第251次調査　歴史時代出土遺物（3）

図面29－3
SI356
KD10

図面29－4
SI356
KH01

図面30－1
SI356
PH14

図面30－4
SI356
PK21

図面30－5
SI356
PK22

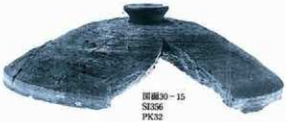
図面30－8
SI356
PK25

図面30－9
SI356
PK26

図面30－10
SI356
PK27
墨書「月」

図面30－11
SI356
PK28

図面30－12
SI356
PK29



図面30－15
SI356
PK32

図面30－16
SI356
PK33

図面30－17
SI356
PK34
墨書（不明）

図版23　第251次調査　歴史時代出土遺物（4）

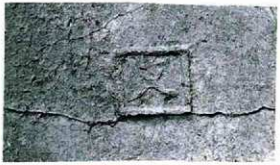
図版31－1
SI356
KC06

図版31－4
SI356
KD13
ヘラ書き（不明）

図版32－4
撹乱
PK35

図版32－3
SI356
MM02

図版32－7
表土
KC07
シダ類の圧痕



図版32－6
撹乱
KC06
押印「父」

図版32－8
撹乱
KB01

図版24　第252次調査　先土器時代検出遺構

1. 調査区全景（南から）

2. 東壁土層断面（西から）

3. SS40P　全景（東から）

図版25　第252次調査　縄文時代検出遺構（1）

1．調査区東半部全景（西から）

2．調査区東半部遺物出土状況（西から）

3．調査区西半部全景（東から）

4．調査区西半部遺物出土状況（北から）

5．調査区西半部延長区全景（北から）

6．SU5　遺物出土状況（北から）

7．SU5・6　遺物出土状況（北から）

8．SU5　東西土層断面（北から）

図版26　第252次調査　縄文時代検出遺構（2）

1．SK904J　東西土層断面（南から）

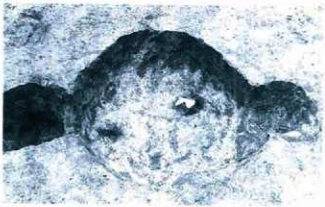
2．SK904J　遺物出土状況（東から）

3．SK904J　全景（南から）

4．SK905J　東西土層断面（北から）

5．SK906J　全景（東から）

6．SK907J　遺物出土状況（北から）



7．SK908J　遺物出土状況（東から）

8．SK909J　全景（東から）

図版27　第252次調査　縄文時代検出遺構（3）

1. SK910J　南北土層断面（北東から）

2. SK914J　東壁（西から）

3. SK911J　東西土層断面（南から）

4. SK913J・912J　全景（東から）

5. SK913J・912J　東西土層断面（南から）

6. SK913J　遺物出土状況（東から）

7. SK915J　南北土層断面（東から）

8. SK915J　遺物出土状況（東から）

図版28　第252次調査　縄文時代出土遺物（1）

図面36－1
SU5
JF01

図面36－2
SU6
JF04

図面36－3
SK907J
JE01

図面36－4
SK918J
JE03

図面36－5
PJ－69・70・71
JE02

図面36－6
Ⅱb層
JE05

図面36－7
Ⅲb層
JE06

図面36－8
Ⅲc層
JF02

図面36－9
Ⅲc層
JF03

図面36－10
表採
JE04

図面36－11
SK904J
JE07

図面36－12
SK904J
JE08

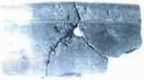
図面36－13
PJ－51
JF05

図面36－14
PJ－58
JE09

図面36－15
Ⅱb層
JC01

図面36－16
Ⅱb層
JF06

図面36－17
Ⅲb層
JG01



図面36－18
Ⅲc層
JE11

図面36－19
Ⅲc層
JB01

図面36－20
Ⅲc層
JC02

図面36－21
撹乱
JF07

図面36－22
表土
JG02

図面36－23
PJ－46
JE10

図面36－24
表土
JE12

図面36－25
表採
JE13

図版29　第252次調査　縄文時代出土遺物（2）

図面37－1
SK904J
AB01

図面37－2
SK904J
AB02

図面37－3
SK904J
AS01

図面37－4
SK904J
AS02

図面37－5
SK904J
AS03

図面37－6
SK904J
AS04

図面37－7
SK904J
AS05

図面37－8
SK904J
AS06

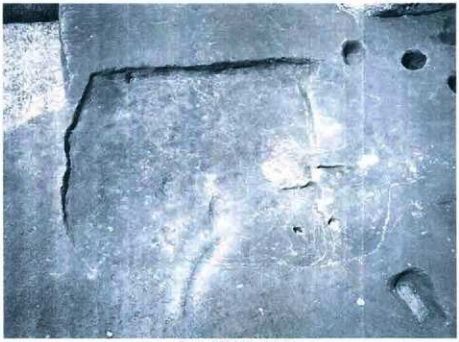
図面37－9
Ⅲb層
AA01

図面37－10
Ⅲb層
AG01

図面37－11
Ⅲb層
AG02

図面37－12
Ⅲb層
AG06

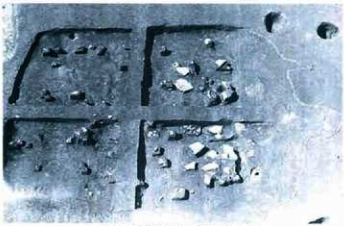
図版30　第252次調査　歴史時代検出遺構



1．SI357　B期全景（南から）

2．SI357　A期全景（南から）

3．SI357　構築時全景（南から）



4．SI357　B期遺物出土状況（南から）

5．SI357　B期カマド全景（西から）

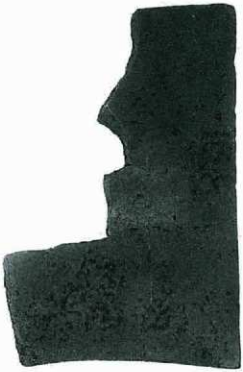
図版31　第252次調査　歴史時代出土遺物

図面40－4
SI357（A）
PK03

図面40－9
SI357（B）
PK06

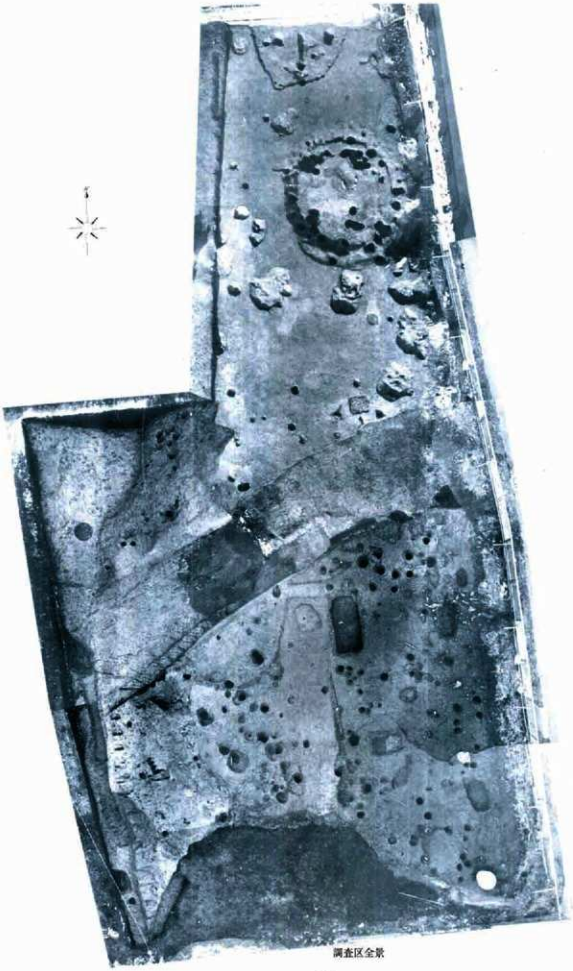
図面40－11
SI357（B）
PK08

図面41－1
SI357（B）
KC02



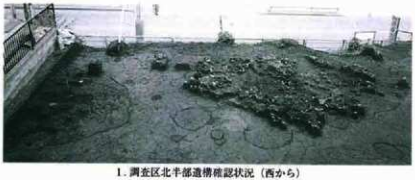
図面41－2
SI357（B）
KD01

図版32　第264次調査　縄文時代検出遺構（1）



調査区全景

図版33　第264次調査　先土器時代検出遺構・縄文時代検出遺構（2）



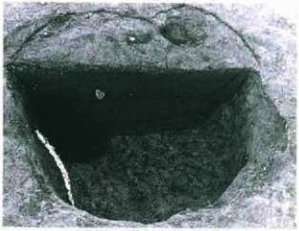
1. 調査区北半部遺構確認状況（西から）

2. 発掘状況（南東から）

3. 調査区北半部遺構検出状況（北から）

4. 先土器時代調査区発掘状況（北から）

5. SK990J・PJ－14　全景（北東から）



6. SK990J　東西土層断面（南西から）

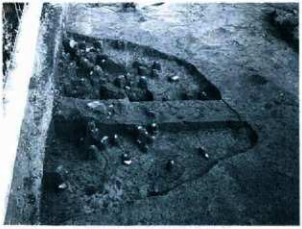
7. SK991J　全景（西から）

8. SK991J　南北土層断面（西から）

図版34　第264次調査　縄文時代検出遺構（3）

1．SI365J　全景（南から）

2．SI365J　Pit掘り上げ後全景（南から）



3．SI365J　遺物出土状況（西から）

4．SI365J　東西土層断面（南から）

5．SI365J　P－1　南北土層断面（東から）

図版35　第264次調査　縄文時代検出遺構（4）

1．SI366J・367J・370J　Pit掘り上げ前全景（西から）

2．SI366J・367J・370J　1期Pit掘り上げ後全景（西から）

3．SI366J・367J・370J　2期Pit掘り上げ後全景（西から）

4．SK988J・989J　南北土層断面（東から）

5．P－3　南北土層断面（東から）

6．P－18b・18c・21・22a　南北土層断面（北西から）

7．P－36～38　南北土層断面（東から）

8．P－8～11　南北土層断面（北西から）

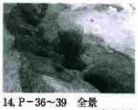
9．P－45・84～87　南北土層断面（東から）

10．P－9～15　全景（東から）

11．P－18a～18c・20～24　全景（北から）

12．P－2・43・44　全景（南から）

13．P－40・41・45　全景（東から）

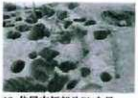


14．P－36～39　全景（南から）

15．P－95～98　東西土層断面（北から）

16．P－93～98　東西土層断面（南から）

17．住居南側部分Pit全景（北から）



18．住居南側部分Pit全景（西から）

図版36　第264次調査　縄文時代検出遺構（5）

1. SI366J・367J・370J　覆土上層遺物出土状況（北から）

4. DQ118区　遺物出土状況（東から）

2. SI366J・367J・370J　覆土中層遺物出土状況（北から）

5. DF01　出土状況（南から）

6. DF02　出土状況（東から）

3. SI366J・367J・370J　覆土下層遺物出土状況（北から）

7. DQ118区　連弧文土器出土状況（北東から）

8. DP117区　遺物出土状況（南東から）

9. JF18　出土状況（西から）

10. DP117・118区　覆土2層遺物出土状況（南から）

図版37　第264次調査　縄文時代検出遺構（6）

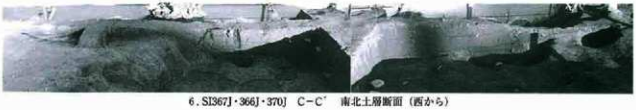
1．SI366J　炉全景（東から）

2．SI366J　石囲炉（埋甕）全景（北から）

3．SI366J　炉　東西土層断面（北から）

4．SI367J・366J　A－A′　東西土層断面（北から）

5．SI370J・366J　B－B′　南北土層断面（東から）

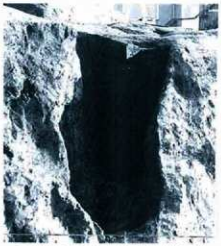


6．SI367J・366J・370J　C－C′　南北土層断面（西から）

図版38　第264次調査　縄文時代検出遺構（7）

1．SI371J　Pit掘り上げ前全景（東から）

2．SI371J　Pit掘り上げ後全景（北から）



3．SI371J　P－1東西土層断面（北から）

4．SI373J　全景（北から）

5．SI372J　Pit掘り上げ前全景（南から）

6．SI372J　Pit掘り上げ後全景（南から）

図版39　第264次調査　縄文時代出土遺物（1）

図面50－1
SI366J
JE01

図面50－2
SI366J
JE02

図面50－3
SI366J
JE03

図面50－4
SI366J
JE04

図面50－5
SI366J
JE05

図面50－6
SI366J
JE07

図面50－7
SI366J
JE06

図面50－8
SI366J
JE08

図面50－9
SI366J
JF01

図面50－10
SI366J
JF02

図面50－11
SI366J
JF03

図面50－12
SI366J
JF04

図面50－13
SI366J
JF06

図面50－14
SI366J
JF07

図面51－1
SI366J
JF05

図面51－2
SI366J
JF13

図版40　第264次調査　縄文時代出土遺物（2）

図面51－3
SI366J
JF08

図面51－4
SI366J
JF14

図面51－5
SI366J
JF09

図面51－6
SI366J
JF15

図面51－7
SI366J
JF10

図面51－8
SI366J
JF12

図面51－9
SI366J
JF16

図面51－10
SI366J
JF11

図面51－11
SI366J
JF17

図面52－1
SI366J
JF18

図面52－2
SI366J
JF24

図面52－3
SI366J
JF25

図面52－4
SI366J
JF26

図面52－5
SI366J
JF19

図面52－6
SI366J
JF27

図面52－7
SI366J
JF20

図版41　第264次調査　縄文時代出土遺物（3）

図面52－8
SI366J
JF28

図面52－9
SI366J
JF21

図面52－10
SI366J
JF29

図面52－11
SI366J
JF22

図面52－12
SI366J
JF30

図面52－13
SI366J
JF23

図面52－14
SI366J
JF31

図面53－1
SI366J
JF32

図面53－2
SI366J
JF33

図面53－3
SI366J
JF38

図面53－4
SI366J
JF34

図面53－5
SI366J
JF35

図面53－6
SI366J
JF37

図面53－8
SI366J
JF39

図面53－7
SI366J
JF36

図面53－9
SI366J
JF40

図面53－10
SI366J
JF41

図面53－11
SI366J
JF42

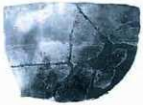
図版42　第264次調査　縄文時代出土遺物（4）

図面53－12
SI366J
JF44

図面53－13
SI366J
JF48

図面53－14
SI366J
JF43

図面53－15
SI366J
JF46



図面53－17
SI366J
JF45

図面54－1
SI366J
JF49

図面54－2
SI366J
JF51

図面54－3
SI366J
JF50

図面54－5
SI366J
JC01

図面54－4
SI366J
JE09

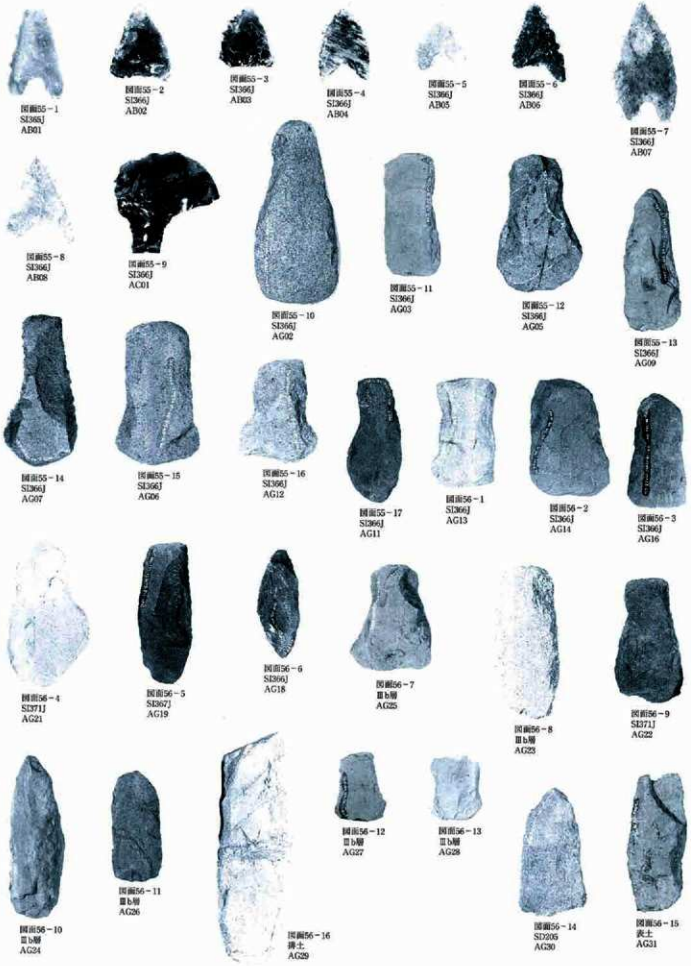
図版54－6
SI366J
DD01

図版54－7
SI366J
DF01

図版54－8
SI366J
DF02

図版54－9
SI366J
DF03

図版44　第264次調査　縄文時代出土遺物（6）



図版45　第264次調査　歴史時代検出遺構

1.SD205　南半部全景（北から）

2.SD205　北半部全景（南から）

3.SD205　全景（北から）

4.SD205　東西土層断面（南から）

5.P－1　全景（東から）

6.P－5～7　検出状況（北から）

7.P－5　検出状況（西から）

8.P－6　南北土層断面（東から）

図版46　第264次調査　歴史時代出土遺物

図面58－6
SD205
KC01

図面58－8
瓦土
PK03

図面58－7
SD205
MH01

図面58－11
新板瓦
KC01
横書「上」(逆字)

図版47　第140次調査　縄文時代検出遺構（1）

1．調査区全景（南から）

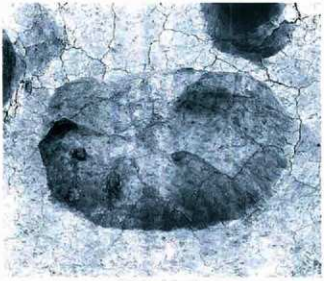
2．調査区全景（東から）

1．SS23　全景（東から）

2．SS23　東西土層断面（南から）

3．SS23　掘り方全景（東から）

4．SK646J　全景（西から）



5．SK649J　全景（南から）

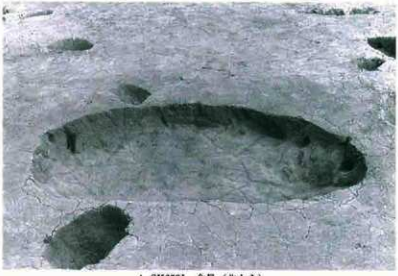
6．SK649J　東西土層断面（南東から）

図版49　第140次調査　縄文時代検出遺構（3）

1．SK650J　全景（北から）

2．SK651J　南北土層断面（東から）

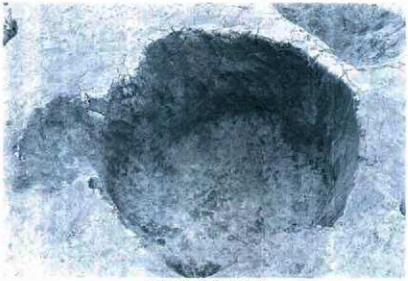
3．SK652J　全景（北西から）



4．SK653J　全景（北から）

5．SK654J　東西土層断面（北から）

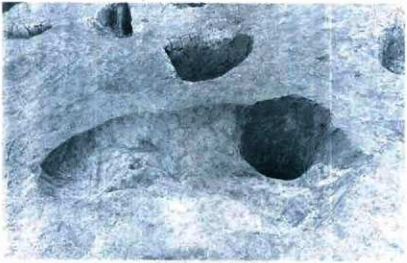
図版50　第140次調査　縄文時代検出遺構（4）



1．SK666J　全景（西から）

2．SK667J　南北土層断面（東から）

3．SK667J　一括土器　南北土層断面（東から）



4．SK668J　全景（西から）

図版51　第140次調査　縄文時代検出遺構（5）

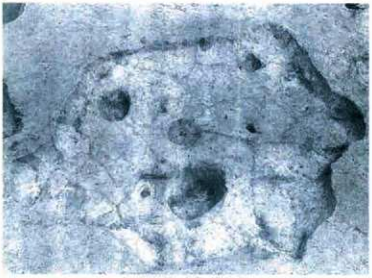
1．SK668J　南北土層断面（西から）

2．SK669J　全景（南東から）

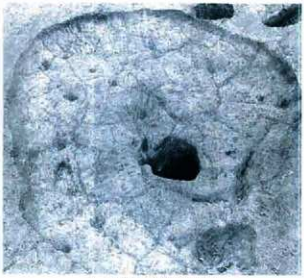
3．SK670J　全景（南から）

4．SK670J　遺物出土状況（北から）

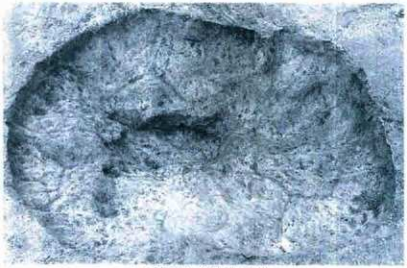
図版52　第140次調査　縄文時代検出遺構（6）



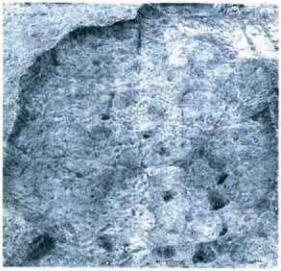
1．SK671J　全景（南から）



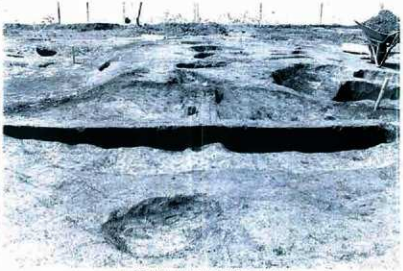
2．SK672J　全景（西から）



3．SK673J　全景（北から）



4．SK674J　全景（北から）



5．SK674J　南北土層断面（東から）

図版53　第140次調査　縄文時代検出遺構（7）

1．SK675」　全景（北から）

2．SK676」　全景（南から）

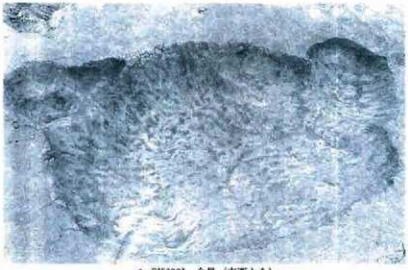
3．SK677」　全景（東から）

4．SK678」　全景（北東から）

5．SK680」　全景（東から）

6．SK680」　南北土層断面（東から）

図版54　第140次調査　縄文時代・歴史時代検出遺構（8）



1．SK682」 全景（南西から）

2．DN99区　埋甕出土状況　側面（南から）

3．DN99区　埋甕出土状況　真上（南から）

4．歴史時代　SB70　2－1柱穴全景（西から）

図版55　第140次調査　縄文時代出土遺物

縄文時代出土土器　集合写真

図面62－1

図面62－3

図面62－6

図面62－7

図面63－1

図面63－2

武蔵国分寺跡発掘調査概報 28

（多喜窪遺跡の調査）

発行日　平成15年３月31日
編著者　国分寺市遺跡調査団
　　Ⓒ（団長　　吉田　格）
発行所　国分寺市遺跡調査会
　　〒185－8501　国分寺市戸倉1－6－1
　　TEL　042－325－0111（代表）
　　東京都国分寺市教育委員会内
印刷所　統計印刷工業株式会社

令和４年（2022）３月９日　デジタル版作成
個人情報削除